

基地内文化財 6

平成18・19・20年度 普天間飛行場内試掘調査

平成26(2014)年3月
沖縄県立埋蔵文化財センター

基地内文化財 6

平成18・19・20年度 普天間飛行場内試掘調査

平成26(2014)年3月
沖縄県立埋蔵文化財センター



巻頭図版1 普天間飛行場（空中オルソ写真）



巻頭図版2 フテ 24-E5-ア 北壁



フテ 24-B10-ア 石積遺構



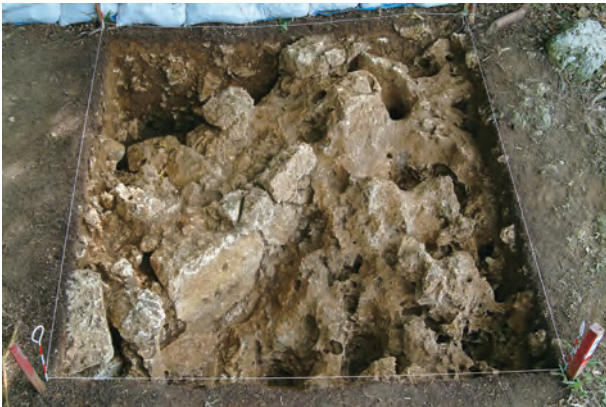
フテ 24-C6-サ ピット



フテ 24-D5-ア 廃棄土坑



フテ 24-D6-オ 石積遺構



フテ 24-F2-オ 石積遺構



フテ 24-G4-ア 墓室



フテ 25-C2-ア 石敷・溝状遺構



フテ 36-F7-オ ピット群



フテ 36-G7-ア ピット群



フテ 36-J9-ア 石列遺構・溝状遺構



フテ 37-H2-ア 石積遺構



フテ 47-G3-ナ ピット群・溝状遺構



フテ 47-H2-サ 土坑



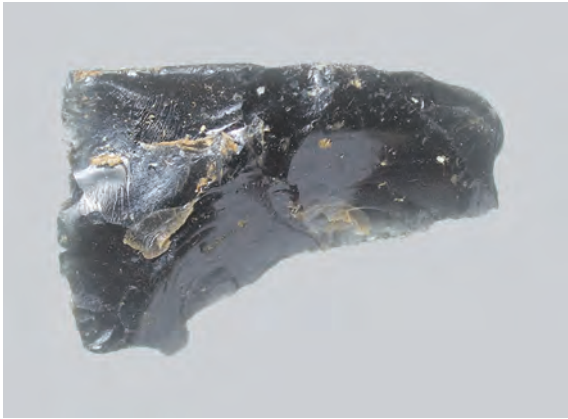
フテ 47-I3-シ ピット群



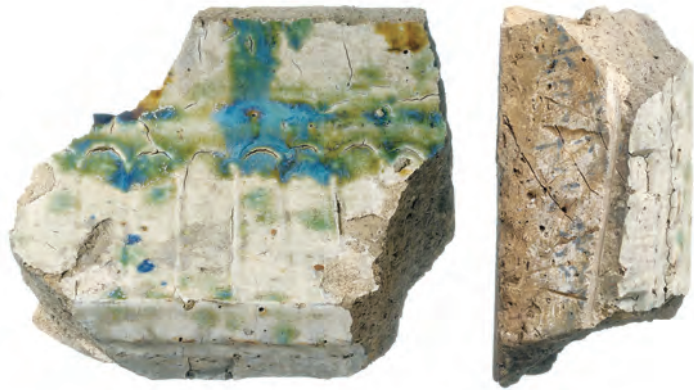
フテ 47-J4-ス ピット群



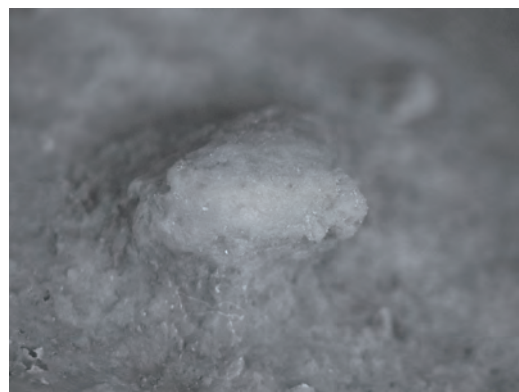
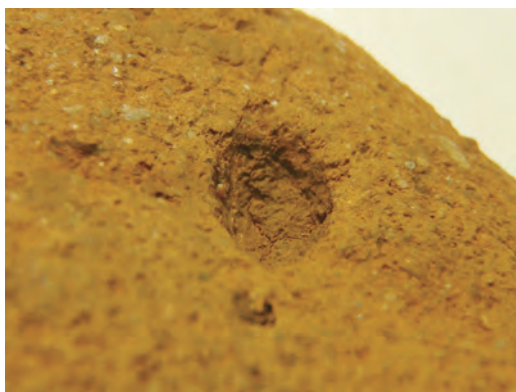
フテ 47-J9-ト ピット群



フテ 24-D6- ア 黒曜石製石鏃未成品



フテ 24-F2- オ 家形厨子屋根蓋



フテ 24-C6- サ 土器口縁部内面 種子圧痕？

序

本報告書は平成18年度から20年度にかけて実施した基地内埋蔵文化財分布調査の概要をまとめたものです。当該調査は、沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地内にある埋蔵文化財（遺跡）の分布状況を把握するために、平成9年度から文化庁の補助を受けて実施している継続事業であり、今年度で16年目となります。

事業開始年度である平成9年度には、普天間飛行場およびキャンプ瑞慶覧における遺跡の把握状況を整理する目的で過去の調査データを集約し、『基地内文化財Ⅰ』として刊行しました。

平成10年度には、キャンプ瑞慶覧において試掘調査を開始しました。これまでも基地内における文化財の調査は行われてきましたが、大部分は開発エリアに限定された緊急的な調査であり、基地内における遺跡の分布状況を把握する目的で実施された現地調査としては初めての事例となります。

平成11年度からはキャンプ瑞慶覧に加え、普天間飛行場においても試掘調査を実施し、平成12年度以降、普天間飛行場における調査を継続して実施しています。これらの調査成果については、『基地内文化財Ⅱ』（平成10～13年度に実施した試掘調査の概要）、『基地内文化財Ⅲ』（平成14・15年度に実施した試掘調査の概要）、『基地内文化財Ⅳ』（平成15・16年度に実施した試掘調査及び確認調査、古墓の分布調査の概要）、『基地内5』（平成17年度に実施した確認調査）として刊行してまいりました。そして平成20年度には現時点で調査可能なエリアにおける試掘調査はほぼ終了し、平成21年度からは本格的な確認調査へと移行しております。

今回報告される平成18・19・20年度の調査によって、新たに5つの遺跡が確認され、また2つの遺跡は遺跡範囲が拡大する可能性があることが分かりました。この調査では、主に古墓や道跡などの近世・近代ごろの遺構や、縄文時代の土器や石器などが発見されています。中でも喜友名前原第二遺跡で出土した黒曜石は遠く九州から搬入されており、当時の交流関係を物語る資料となります。また同遺跡では土器に種子とみられる圧痕が確認されました。今後の詳細な分析・研究が必要ですが、往時の環境を伺い知ることのできる有力な手がかりと云えます。これらをはじめとする今回の試掘調査の成果を踏まえ、今後の確認調査によって、さらに遺跡の範囲や性格について把握していく必要があります。

当該調査の成果が、地域のまちづくりに活用されることはもとより、歴史教育、生涯学習等の資料として生かされ、さらなる文化財の保存・活用につながれば幸いです。

最後になりましたが、本事業の実施に際し、ご指導・ご助言を賜りました文化庁をはじめ、調査手法の検討や情報の提供などのご協力をいただきました宜野湾市教育委員会、基地内への立入や現地調査の円滑な進行にご尽力いただいた在沖米海兵隊各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成26（2014）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長 下地英輝

例 言

- 1 本報告書は平成 18・19・20 年度に沖縄県宜野湾市に所在する普天間飛行場において実施した基地内埋蔵文化財分布調査の成果をまとめたものである。
- 2 本事業は、平成 9 年度から文化庁より国庫補助を受け、沖縄県教育委員会が実施している。
- 3 現地調査の実施にあたっては、宜野湾市教育委員会、在沖米海兵隊の協力を得た。
- 4 本報告書に掲載した航空写真は、株式会社パスコが撮影・加工したオルソ画像（2006 年 11 月 5 日撮影）を使用した。
- 5 本報告書で使用している座標は、国土座標軸（旧座標軸）第 X V 座標系に基づいた数値であり、標高は那覇港の平均海面を基準とした数値である。なお、方位は原則として座標北を用いているが、古墓の方位等については磁北を用いた。

- 6 体制は以下のとおりである。

平成 18（2006）年度 現地調査・資料整理

事業主体 沖縄県教育委員会 仲宗根用英（教育長）

事業主管 沖縄県教育庁文化課 千木良芳範（課長）、島袋洋（課長補佐）、盛本勲（記念物係長）、知念隆博・瀬戸哲也（専門員）

調査所管 沖縄県立埋蔵文化財センター 田場清志（所長）、瑞慶覧康博（副所長兼庶務課長）

庶務課 山田恵美子・玉寄秀人（主査）、城間奈津子（主任）

調査課 総括 岸本義彦（調査課長）

調査担当 中山晋（専門員）、仲村毅（臨時的任用専門員）

調査補助 伊藤圭・上原留美・喜多亮輔・金城友香・光嶋香・長濱健起・比嘉尚輝・矢舟章浩（史跡、埋蔵文化財調査嘱託員）

発掘調査作業員 上原信恒・大城孝仁・大嶺愛子・我那覇順章・我如古みどり・塩川卓・桃原隆信・渡嘉敷米子・仲里一宏・仲間勝也・比嘉賀商・廣田嘉照・前田和枝・松門孝・松本義光・宮森敬

資料整理嘱託員 新垣利津代・上原美穂子・大村由美子・荻堂さやか・久保田有美・崎原美智子・平良貴子・玉城恵美利・並里のりえ・比嘉孝子・比嘉登美子・譜久村泰子・真栄城和美・又吉純子

資料整理作業員 當間あきの・渡嘉敷敦子・中山まり・山川明子・與古田愛

業務委託 株式会社大洋土木コンサルタント（基地内埋蔵文化財分布調査に伴う支援業務委託（地形測量等））

平成 19（2007）年度 現地調査・資料整理

事業主体 沖縄県教育委員会 仲村守和（教育長）

事業主管 沖縄県教育庁文化課 千木良芳範（課長）、島袋洋（記念物班長）、知念隆博・瀬戸哲也（専門員）

調査所管 沖縄県立埋蔵文化財センター 名嘉政修（所長）、瑞慶覧康博（副所長兼庶務課長）

庶務課 山田恵美子・玉寄秀人（主査）、村吉由美子（主事）

調査課 総括 岸本義彦（調査課長）

調査担当 中山晋（専門員）、徳嶺里江（臨時的任用専門員）

調査補助 天久瑞香・伊波直樹・上原留美・大城歩・金城友香・光嶋香・小橋川剛・玉城照美・田丸尚絵・仲村毅・比嘉尚輝・比嘉優子・矢舟章浩・山田浩久（史跡、埋蔵文化財調査嘱託員）

発掘調査作業員 大城孝仁・翁長貴博・我那覇順章・我如古みどり・新里聡・桃原隆信・仲里一宏・仲間勝也・前田和枝・松本義光・宮森敬

資料整理嘱託員 新垣利津代・池原直美・上原園子・上原美穂子・大村由美子・荻堂さやか・我那覇悠子・久保田有美・崎原美智子・平良貴子・當山順子・仲宗根三枝子・並里のりえ・比嘉孝子

比嘉登美子・譜久村泰子・又吉純子・山下美也子・吉村綾子
資料整理作業員 伊禮武秀・上原沙香・翁長涼子・金城さより・中山まり・與古田愛

業務委託 株式会社沖土質コンサルタント：支援業務委託（地形測量）
株式会社大洋土木コンサルタント：地形図修正業務委託
パリノ・サーヴェイ株式会社：土壌分析業務委託
株式会社アーキジオ沖縄：実測図デジタルトレース業務委託

平成 20（2008）年度 現地調査・資料整理

事業主体 沖縄県教育委員会 仲村守和（教育長）
事業主管 沖縄県教育庁文化課 千木良芳範（課長）、島袋洋（記念物班長）、久高健（指導主事）、瀬戸哲也（主任）
調査所管 沖縄県立埋蔵文化財センター 名嘉政修（所長）
総務班 嘉手苺勤（総務班長）、知念百合子（再任用職員）、山田恵美子・村吉由美子（主査）、照屋文香・弓削典子（主査、臨時的任用職員）
調査班 総括 岸本義彦（調査班長）
調査担当 中山晋（主任）
調査補助 瑞慶覧長順・徳嶺里江・長嶺優（史跡、埋蔵文化財調査嘱託員）
埋蔵文化財資料整理嘱託員 石嶺敏子・伊集ゆきの・伊禮若菜・金城友香・崎原美智子・瑞慶覧尚美・高良三千代・玉城恵美利・玉寄智恵子・土田智恵美・友利映子・永玉榮美香・仲地明・野村和子・比嘉登美子・譜久村泰子・宮城あきの・與古田愛・吉村綾子

業務委託 株式会社アーキジオ沖縄（デジタルトレース業務委託）

平成 24（2012）年度 資料整理

事業主体 沖縄県教育委員会 大城浩（教育長）
事業主管 沖縄県教育庁文化財課 長堂嘉一郎（課長）、島袋洋（副参事）、盛本勲（記念物班長）、田場直樹（指導主事）
調査所管 沖縄県立埋蔵文化財センター 崎濱文秀（所長）
総務班 荻堂治邦（総務班長）、西島康二（主査）
調査班 総括 金城亀信（調査班長）
資料整理担当 中山晋（主任専門員）
埋蔵文化財資料整理嘱託員 赤嶺恵子・赤嶺雅子・新垣裕子・新垣利律代・石嶺敏子・伊佐えりな・石嶺敏子・伊藤恵美利・殷愈平・上田麻紀子・上原作美・上原園子・上原留美・荻堂さやか・翁長涼子・喜瀬リサ・喜屋武朋子・久貝祐子・國吉咲子・崎原美智子・城間千鶴子・瑞慶覧尚美・平良貴子・高橋弘治・高良三千代・田中章子・玉城実子・玉寄智恵子・津多恵・當山哲也・仲村朝美・比嘉登美子・比嘉なおみ・譜久村泰子・又吉純子・松堂恵美・宮良佐弥香・屋我尚子・矢舟章浩・山口こずえ・山城由紀子・吉村綾子
資料整理作業員 市川理恵・照元史諸里・安井美和

平成 25（2013）年度 資料整理

事業主体 沖縄県教育委員会 諸見里明（教育長）
事業主管 沖縄県教育庁文化財課 新垣悦男（課長）、盛本勲（記念物班長）、田場直樹（指導主事）
調査所管 沖縄県立埋蔵文化財センター 下地英輝（所長）
総務班 新垣勝弘（総務班長）、西島康二（主査）
調査班 総括 島袋洋（副参事）、金城亀信（調査班長）
資料整理担当 大堀皓平（主任）、宮城淳一（専門員）
資料整理補助 池原悠貴・高山厚子・又吉幸嗣・宮城瑠美子（文化財調査嘱託員）
埋蔵文化財資料整理嘱託員 赤嶺雅子・池原直美・石嶺敏子・伊集夏子・市川里恵・伊藤恵美利・上田麻紀子・上原留美・荻堂さやか・國吉咲子・瑞慶覧尚美・

仲村朝美・比嘉登美子・山城由紀子・新垣裕子・新垣利津代・
平良貴子・譜久村泰子・又吉純子・目島直美・喜屋武朋子・宮城初枝

資料整理作業員 宮城栄子

資料整理協力 新垣力・亀島慎吾・波木基真

業務委託 理化学分析 パリノサーベイ株式会社

平成 18～20 (2006～2008)・同 24・25 (2012・2013) 年度 調査指導・協力 (役職名等は当時)

坂井 秀弥	文化庁	文化財部	記念物課	主任文化財調査官 (平成 18・19 年度)
禰宜田佳男	文化庁	文化財部	記念物課	文化財調査官 (平成 18～20 年度)
城間 盛久	宜野湾市教育委員会	教育部	文化課長	(平成 18 年度)
和田 敬吾	宜野湾市教育委員会	教育部	文化課長	(平成 19・20 年度)
呉屋 義勝	宜野湾市教育委員会	教育部	文化課長	(平成 23～25 年度)
豊里 友哉	宜野湾市教育委員会	教育部	文化課	文化財保護係長 (平成 18・19 年度)
森田 直哉	宜野湾市教育委員会	教育部	文化課	文化財保護係長 (平成 24～25 年度)
仲 村 健	宜野湾市教育委員会	教育部	文化課	文化財保護係 主任主事 (平成 18・19 年度)
城 間 肇	宜野湾市教育委員会	教育部	文化課	文化財保護係 主事 (平成 18・19 年度)
Sean J Barron	在沖米軍海兵隊	施設技術部	環境保全課	エンジニア・サイエンスセクション 係長
與那覇政之	在沖米軍海兵隊	施設技術部	環境保全課	エンジニア・サイエンスセクション 文化財担当
Bob Peterson	在沖米軍海兵隊	施設技術部	環境保全課	エンジニア・サイエンスセクション 文化財担当
平敷 兼直	在沖米軍海兵隊	施設技術部	環境保全課	エンジニア・サイエンスセクション 赤土対策担当
杉山 巳次	在沖米軍海兵隊	施設技術部	環境保全課	エンジニア・サイエンスセクション 植生担当

業務委託

基地内埋蔵文化財分布調査に伴う支援業務委託 (地形測量等)

株式会社大洋土木コンサルタント

- 8 本報告書の執筆は第 2・6 章を宮城淳一、それ以外を大堀皓平が行っている。また試掘データ一覧表については、中山晋、仲村毅、徳嶺里江、瑞慶覧長順が作成したデータを基にした。また、第 7 章は、パリノサーベイ株式会社に玉稿を賜った。
- 9 出土遺物の観察・同定は以下の分担で行った。

土器・石器・石材	大堀皓平
陶磁器	宮城淳一
金属製品	池原悠貴
動物骨	波木基真
貝	又吉幸嗣
- 10 本報告書の編集は、上原留美、荻堂さやかほかの協力を得て大堀皓平・宮城淳一が行った。
- 11 本報告書で使用している遺構記号は次のとおりである。
SK (土坑)、SD (溝状遺構)、SP (ピット)、SX (不明遺構)
- 12 調査で得られた遺物、実測図、写真等の資料は、沖縄県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

序
巻頭図版
例 言
目 次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	8
第3章 調査の方法	10
第1節 基地内調査における諸制限	10
第2節 試掘調査の方法	10
第4章 フテ24・25グリット	12
第1節 概観	12
第2節 喜友名前原第二遺跡	12
第3節 神山黒数原第一遺跡	42
第4節 神山黒数原第二遺跡	44
第5節 神山黒数原古墓群	50
第6節 その他	69
第5章 フテ35・36・37グリット	73
第1節 概観	73
第2節 神山黒数原古墓群	73
第3節 大山加良当原第四遺跡	79
第4節 大山加良当原第四遺跡・大山東方丘陵古墓群	104
第5節 大山東方丘陵古墓群	113
第6章 フテ46・47グリット	116
第1節 概観	116
第2節 大山勢頭原第三遺跡	116
試掘一覧表	125
第7章 放射性炭素年代測定と黒曜石の産地同定	139
第8章 総括	144
第1節 時期と層位	144
第2節 各時代における遺構・遺物	144
第3節 小結	146
参考文献	146
報告書抄録	147

挿 図 目 次

第 1 図 沖縄本島の位置と調査地の所在地 …………… 5	第 48 図 フテ 36-G8- ア 壁面図 …………… 93
第 2 図 普天間飛行場地形図(平成 20 年 宜野湾市都市計画図に 加筆) …………… 6	第 49 図 フテ 36-H7- ア 壁面図 …………… 95
第 3 図 普天間飛行場地形図(大正 8 年 陸軍測量図に加筆) …… 6	第 50 図 フテ 36-H7- ア Pit 検出状況平面・断面図 …… 97
第 4 図 普天間飛行場地形図(昭和 20 年 測量図に加筆) …… 7	第 51 図 フテ 36-H9- ア 壁面図 …………… 99
第 5 図 沖縄本島中南部の地質図(県土のすがたより抜粋) …… 7	第 52 図 フテ 36-H9- ア 平面・Pit 断面図 …………… 101
第 6 図 普天間飛行場における予備調査の実績 …………… 8	第 53 図 フテ 36-I10- ア 壁面図 …………… 103
第 7 図 普天間飛行場内地区割(例:フテ 36-A1- ア) …… 11	第 54 図 フテ 36-I10- ア 平面・Pit 断面図 …………… 105
第 8 図 フテ 24・25 グリット試掘箇所 …………… 12	第 55 図 フテ 36-J9- ア 壁面図 …………… 108
第 9 図 フテ 24-B9- サ 壁面図 …………… 13	第 56 図 フテ 36-J9- ア 3・4 層 遺構平面・断面図 …… 110
第 10 図 フテ 24-B9- ア 壁面図 …………… 15	第 57 図 フテ 37-H2- ア 壁面図 …………… 112
第 11 図 フテ 24-B10- ア 3 層 遺構平面図、見通し断面図、掘 方断面図 …………… 17	第 58 図 フテ 37-H2- ア 3 層 遺構平面・断面図 …… 114
第 12 図 フテ 24-C6- サ 壁面図 …………… 19	第 59 図 フテ 46・47 グリットの遺跡と試掘箇所 …… 115
第 13 図 フテ 24-C6- サ 5 層 耕具痕平面・断面図 …… 21	第 60 図 フテ 46-C7- ア 断面略図 …………… 116
第 14 図 フテ 24-C6- サ 6 層 上面 遺構平面・断面図 …… 22	第 61 図 フテ 46-E8- オ 断面略図 …………… 117
第 15 図 フテ 24-C9- ア 壁面図 …………… 27	第 62 図 フテ 47-G1- ア 平面図 …………… 117
第 16 図 フテ 24-D5- ア 壁面図 …………… 30	第 63 図 フテ 47-G1- ア 壁面図 …………… 118
第 17 図 フテ 24-D5- ア 3 層 廃棄土坑平面・断面図 …… 31	第 64 図 フテ 47-G3- ナ 4 層 Pit 平面・断面略図 …… 119
第 18 図 フテ 24-D6- ア 壁面図 …………… 33	第 65 図 フテ 47-G3- ナ 土層断面略図 …………… 120
第 19 図 フテ 24-D6- オ 壁面図 …………… 37	第 66 図 フテ 47-H2- サ 3 層 遺構平面・土層断面略図 …… 120
第 20 図 フテ 24-D6- オ 石積遺構平面・断面図 …… 38	第 67 図 フテ 47-H2- サ 土層断面略図 …………… 121
第 21 図 フテ 24-E7- ア 壁面図 …………… 40	第 68 図 フテ 47-I3- ツ 4 層 遺構平面略図 …… 121
第 22 図 フテ 24-E7- ア 8 層 Pit1 平面・断面図 …… 41	第 69 図 フテ 47-I3- ツ 土層断面略図 …………… 122
第 23 図 フテ 24-G3- ア 壁面図 …………… 42	第 70 図 フテ 47-J4- ス 4 層 遺構平面・断面略図 …… 122
第 24 図 フテ 24-G3- ア 平面図 …………… 43	第 71 図 フテ 47-J4- ト 平面略図 …………… 123
第 25 図 フテ 24-H10- オ 壁面図 …………… 45	第 72 図 フテ 47-J4- ト 土層断面略図 …………… 124
第 26 図 フテ 24-H10- オ Pit 平面・断面図 …… 46	第 73 図 黒曜石の原産地 …………… 143
第 27 図 フテ 25-G1- ア 壁面図 …………… 48	第 74 図 縄文・グスク時代の遺構・遺物を検出した試掘坑 145
第 28 図 フテ 24-F2- オ 壁面図 …………… 50	
第 29 図 フテ 24-F2- オ 石積遺構平面・断面見通し図 …… 51	
第 30 図 フテ 24-G4- ア 壁面図 …………… 53	
第 31 図 フテ 24-G4- ア 墓室平面・断面見通し図 …… 54	
第 32 図 フテ 24-H3- ニ 壁面図 …………… 56	
第 33 図 フテ 25-C2- ア 壁面図 …………… 60	
第 34 図 フテ 25-C2- ア 3 層 石敷平面・断面図 …… 62	
第 35 図 フテ 25-C2- ネ 壁面図 …………… 67	
第 36 図 フテ 25-I1- ノ 壁面図 …………… 69	
第 37 図 フテ 25-I1- ノ 2～3 層間 土坑平面・断面図 …… 71	
第 38 図 フテ 35・36・37 グリットの試掘箇所と遺跡分布 …… 73	
第 39 図 フテ 36-B1- ア 壁面図 …………… 74	
第 40 図 フテ 36-F4- ア 壁面図 …………… 76	
第 41 図 フテ 36-F4- ア 2 層 集石遺構平面図 …… 78	
第 42 図 フテ 36-F7- ア 壁面図 …………… 79	
第 43 図 フテ 36-F7- ア 平面・Pit 断面図 …… 82	
第 44 図 フテ 36-F8- ア 壁面図 …………… 84	
第 45 図 フテ 36-F8- ノ 壁面図 …………… 88	
第 46 図 フテ 36-G7- ア 壁面図 …………… 90	
第 47 図 フテ 36-G7- ア 3 層 平面・Pit 断面図 …… 92	

図 版 目 次

図版 1 普天間飛行場内の遺跡情報図……………9	図版 45 フテ 24-E7- ア 北壁……………40
図版 2 フテ 24-B9- サ 北壁……………13	図版 46 フテ 24-E7- ア 西壁……………40
図版 3 フテ 24-B9- サ 東壁……………14	図版 47 フテ 24-E7- ア 8層 Pit 検出状況……………41
図版 4 フテ 24-B9- サ 4層出土土器……………14	図版 49 フテ 24-E7- ア 10層出土土器……………41
図版 5 フテ 24-B10- ア 西壁……………16	図版 48 フテ 24-E7- ア 8層 Pit 半裁断面……………41
図版 6 フテ 24-B10- ア 2層出土遺物……………16	図版 50 フテ 24-G3- ア 東壁……………42
図版 7 フテ 24-B10- ア 3層 掘方検出状況……………17	図版 51 フテ 24-G3- ア 遺物出土状況遠景……………43
図版 8 フテ 24-B10- ア 3層 石積遺構……………17	図版 52 フテ 24-G3- ア 土器出土状況……………43
図版 9 フテ 24-B10- ア 3層出土遺物……………18	図版 53 フテ 24-G3- ア 2層出土遺物……………44
図版 10 フテ 24-B10- ア 6層出土遺物……………18	図版 54 フテ 24-H10- オ 北壁……………45
図版 11 フテ 24-C6- サ 南壁……………20	図版 55 フテ 24-H10- オ 西壁……………46
図版 12 フテ 24-C6- サ 東壁……………20	図版 56 フテ 24-H10- オ 3層 Pit 検出状況(遠景)……………47
図版 13 フテ 24-C6- サ 5層 耕具痕検出状況……………21	図版 57 フテ 24-H10- オ 3層 Pit 検出状況(近景)……………47
図版 14 フテ 24-C6- サ 5層 Pit4 半裁断面……………22	図版 58 フテ 24-H10- オ 3層 Pit 半裁断面……………47
図版 15 フテ 24-C6- サ 5層 Pit6 半裁断面……………22	図版 59 フテ 24-H10- オ 2層出土遺物……………47
図版 16 フテ 24-C6- サ 6層上面 遺構検出状況……………23	図版 60 フテ 25-G1- ア 北壁……………48
図版 17 6層上面 Pit1 半裁断面……………23	図版 61 フテ 25-G1- ア 東壁……………49
図版 18 6層 Pit1 遺物出土状況……………23	図版 62 フテ 25-G1- ア 7層出土遺物……………51
図版 19 6層 Pit2 半裁断面……………23	図版 63 フテ 24-F2- オ 北壁……………51
図版 20 6層 Pit2 遺物出土状況……………23	図版 64 フテ 25-F2- オ 東壁……………49
図版 21 フテ 24-C6- サ 6層出土土器……………24	図版 65 フテ 24-F2- オ 石積検出状況……………52
図版 22 フテ 24-C6- サ 6層出土石器・石材 1……………24	図版 66 フテ 24-F2- オ 2～4層出土遺物……………52
図版 23 フテ 24-C6- サ 6層出土石器・石材 2……………25	図版 67 フテ 24-G4- ア 墓室検出状況……………54
図版 24 フテ 24-C6- サ 7層出土土器 1……………25	図版 68 フテ 24-G4- ア 墓室床面検出状況……………55
図版 25 フテ 24-C6- サ 7層出土土器 2……………26	図版 69 フテ 24-G4- ア 墓口(内部から)……………55
図版 26 フテ 24-C9- ア 北壁……………28	図版 70 フテ 24-G4- ア 客土内出土遺物……………55
図版 27 フテ 24-C9- ア 東壁……………28	図版 71 フテ 24-H3- ニ 北壁……………57
図版 28 フテ 24-C9- ア 2層出土遺物……………29	図版 72 フテ 24-H3- ニ 東壁……………57
図版 29 フテ 24-C9- ア 9層出土遺物……………29	図版 73 フテ 24-H3- ニ 4層 礫敷遺構検出状況……………58
図版 30 フテ 24-D5- ア 北壁……………30	図版 74 フテ 24-H3- ニ 2・3層出土遺物……………58
図版 31 フテ 24-D5- ア 東壁……………31	図版 75 フテ 24-H3- ニ 4～6層出土遺物……………58
図版 32 フテ 24-D5- ア 3層 廃棄土坑完掘状況……………32	図版 76 フテ 24-H3- ニ 4層 遺物出土状況……………58
図版 33 フテ 24-D5- ア 5層出土土器……………32	図版 77 フテ 24-H3- ニ 7層 遺構?検出状況……………59
図版 34 フテ 24-D6- ア 北壁……………33	図版 78 フテ 25-C2- ア 調査前……………60
図版 35 フテ 24-D6- ア 東壁……………34	図版 79 フテ 25-C2- ア 北壁……………60
図版 36 フテ 24-D6- ア 5層 耕具痕検出状況……………34	図版 80 フテ 25-C2- ア 東壁……………61
図版 37 フテ 24-D6- ア 5～8層出土石器・石材……………35	図版 81 フテ 25-C2- ア 南壁……………61
図版 38 フテ 24-D6- ア 黒曜石出土状況……………35	図版 82 フテ 25-C2- ア 西壁……………62
図版 39 フテ 24-D6- ア 完掘状況……………36	図版 83 フテ 25-C2- ア 2層 石敷遺構……………63
図版 40 フテ 24-D6- オ 北壁……………37	図版 84 フテ 25-C2- ア 2層 石敷遺構断面……………63
図版 41 フテ 24-D6- オ 南壁……………38	図版 85 フテ 25-C2- ア 1層出土遺物……………64
図版 42 フテ 24-D6- オ 5層 石積遺構検出状況……………39	図版 86 フテ 25-C2- ア 2～5層出土遺物 1……………64
図版 43 フテ 24-D6- オ 5層 石積遺構断面……………39	図版 87 フテ 25-C2- ア 2～5層出土遺物 2……………64
図版 44 フテ 24-D6- オ 5層 礫敷断面……………39	図版 88 フテ 25-C2- ア 3・4層出土遺物……………65

図版 89	フテ 25-C2-ネ	南壁	67	図版 135	フテ 36-H7-ア	1層出土遺物	95
図版 90	フテ 25-C2-ネ	東壁	68	図版 136	フテ 36-H7-ア	南壁	96
図版 91	フテ 25-C2-ネ	4層直上 耕具痕検出状況	68	図版 137	フテ 36-H7-ア	西壁	96
図版 92	フテ 25-C2-ネ	出土遺物	69	図版 138	フテ 36-H7-ア	3層 遺構検出状況	98
図版 93	フテ 25-I1-ノ	調査前	69	図版 139	フテ 36-H7-ア	3層 Pit1 半裁断面	98
図版 94	フテ 25-I1-ノ	完掘状況	69	図版 140	フテ 36-H7-ア	3層 Pit2 半裁断面	98
図版 95	フテ 25-I1-ノ	南壁	70	図版 141	フテ 36-H9-ア	北壁	100
図版 96	フテ 25-I1-ノ	西壁	70	図版 142	フテ 36-H9-ア	東壁	100
図版 97	フテ 25-I1-ノ	土坑検出状況	71	図版 143	フテ 36-H9-ア	6層 Pit 検出状況	102
図版 98	フテ 25-I1-ノ	土坑断面	71	図版 144	フテ 36-H9-ア	6層 Pit1 半裁断面	102
図版 99	フテ 25-I1-ノ	土坑完掘状況	72	図版 145	フテ 36-H9-ア	6層 Pit2 及び土器出土状況	102
図版 100	フテ 36-B1-ア	北壁	74	図版 146	フテ 36-H9-ア	4層出土遺物	102
図版 101	フテ 36-B1-ア	東壁	74	図版 147	フテ 36-H9-ア	5層出土遺物	102
図版 102	フテ 36-B1-ア	東壁側石灰岩壁	75	図版 148	フテ 36-H9-ア	6層出土遺物	102
図版 103	フテ 36-B1-ア	天井石ノミ痕	75	図版 149	フテ 36-I10-ア	北壁	104
図版 104	フテ 36-B1-ア	完掘状況	75	図版 150	フテ 36-I10-ア	東壁	104
図版 105	フテ 36-F4-ア	1層出土遺物	76	図版 151	フテ 36-I10-ア	4・5層 遺構検出状況	106
図版 106	フテ 36-F4-ア	2層出土遺物	76	図版 152	フテ 36-I10-ア	5層 Pit 半裁断面	106
図版 107	フテ 36-F4-ア	北壁	77	図版 153	フテ 36-I10-ア	2層出土遺物	106
図版 108	フテ 36-F4-ア	東壁	77	図版 154	フテ 36-J9-ア	調査前	107
図版 109	フテ 36-F4-ア	2層 集石遺構遠景	78	図版 155	フテ 36-J9-ア	完掘状況	107
図版 110	フテ 36-F4-ア	2層 集石遺構近景	78	図版 156	フテ 36-J9-ア	北壁	108
図版 111	フテ 36-F7-ア	2層出土遺物	79	図版 157	フテ 36-J9-ア	東壁	109
図版 112	フテ 36-F7-ア	北壁	80	図版 158	フテ 36-J9-ア	西壁	109
図版 113	フテ 36-F7-ア	東壁	80	図版 159	フテ 36-J9-ア	3層上面 集石遺構 (遠景)	110
図版 114	フテ 36-F7-ア	南壁	81	図版 160	フテ 36-J9-ア	3層上面 集石遺構 (近景)	110
図版 115	フテ 36-F7-ア	完掘状況	81	図版 161	フテ 36-J9-ア	4層 石列遺構検出状況	111
図版 116	フテ 36-F7-ア	4層 遺構検出状況	83	図版 162	フテ 36-J9-ア	4層 石列下敷石検出状況	111
図版 117	フテ 36-F7-ア	4層 Pit1 半裁断面	83	図版 163	フテ 36-J9-ア	4層 石列遺構断面	111
図版 118	フテ 36-F7-ア	4層 Pit6 半裁断面	83	図版 164	フテ 36-J9-ア	5層直上 遺物出土状況	111
図版 119	フテ 36-F8-ア	北壁	85	図版 165	フテ 36-J9-ア	3層出土遺物	111
図版 120	フテ 36-F8-ア	東壁	85	図版 166	フテ 36-J9-ア	5層出土遺物	111
図版 121	フテ 36-F8-ア	南壁	86	図版 167	フテ 37-H2-ア	北壁	113
図版 122	フテ 36-F8-ア	西壁	86	図版 168	フテ 37-H2-ア	東壁	113
図版 123	フテ 36-F8-ア	1層出土遺物	87	図版 169	フテ 37-H2-ア	3層 石積遺構検出状況 1	114
図版 124	フテ 36-F8-ア	2層出土遺物	87	図版 170	フテ 37-H2-ア	3層 石積遺構検出状況 2	114
図版 125	フテ 36-F8-ノ	南壁	88	図版 171	フテ 46-C7-ア	壁面	116
図版 126	フテ 36-F8-ノ	西壁	89	図版 172	フテ 46-E8-オ	溝状遺構検出状況	116
図版 127	フテ 36-F8-ノ	4層出土遺物	89	図版 173	フテ 46-E8-オ	壁面 (左:北壁 右:西壁)	117
図版 128	フテ 36-G7-ア	北壁	90	図版 174	フテ 46-E8-オ	3層出土遺物	117
図版 129	フテ 36-G7-ア	東壁	91	図版 175	フテ 47-G1-ア	耕具痕検出状況	117
図版 130	フテ 36-G7-ア	3層 遺構検出状況	91	図版 176	フテ 47-G1-ア	壁面 (左:北壁 右:東壁)	118
図版 131	フテ 36-G7-ア	2層出土遺物	93	図版 177	フテ 47-G1-ア	2層出土遺物	118
図版 132	フテ 36-G8-ア	3層出土遺物	93				
図版 133	フテ 36-G8-ア	北壁	94				
図版 134	フテ 36-G8-ア	東壁	94				

図版 178	フテ 47-G3- ナ 4 層 遺構検出状況	118	図版 184	フテ 47-I3- ツ 壁面 (左:北壁 右:東壁)	122
図版 179	フテ 47-G3- ナ 4 層 Pit 半裁状況 (左: Pit1 右: Pit2 下: Pit3)	119	図版 185	フテ 47-J4- ス 4 層 遺構検出状況	122
図版 180	フテ 47-G3- ナ 壁面 (左:南壁 右:東壁)	120	図版 186	フテ 47-J4- ス 4 層 Pit 半裁断面 (左: Pit1 右: Pit2、3 下: Pit4)	123
図版 181	フテ 47-H2- サ 3 層 遺構検出状況及び SK 断面	120	図版 187	フテ 47-J4- ト 遺構検出状況	123
図版 182	フテ 47-H2- サ 壁面 (左:南壁 右:東壁)	121	図版 188	フテ 47-J4- ト 壁面	124
図版 183	フテ 47-I3- ツ 4 層 遺構検出状況	121	図版 189	フテ 47-J4- ト 8 層出土遺物	124
			図版 190	黒曜石試料	142

表 目 次

表 1	フテ 24-B9- サ 遺物集計表	14	表 22	フテ 36-F8- ア 遺物集計表	87
表 2	フテ 24-B10- ア 遺物集計表	18	表 23	フテ 36-F8- ノ 遺物集計表	89
表 3	フテ 24-C6- サ 遺物集計表	26	表 24	フテ 36-G7- ア 遺物集計表	93
表 4	フテ 24-C9- ア 遺物集計表	29	表 25	フテ 36-G8- ア 遺物集計表	95
表 5	フテ 24-D5- ア 遺物集計表	32	表 26	フテ 36-H7- ア 遺物集計表	98
表 6	フテ 24-D6- ア 遺物集計表	36	表 27	フテ 36-H9- ア 遺物集計表	103
表 7	フテ 24-D6- オ 遺物集計表	36	表 28	フテ 36-I10- ア 遺物集計表	107
表 8	フテ 24-E7- ア 遺物集計表	40	表 29	フテ 36-J9- ア 遺物集計表	112
表 9	フテ 24-G3- ア 遺物集計表	44	表 30	フテ 37-H2- ア 遺物集計表	114
表 10	フテ 24-H10- オ 遺物集計表	47	表 31	フテ 46-E8- オ 遺物集計表	117
表 11	フテ 25-G1- ア 遺物集計表	50	表 32	フテ 47-G1- ア 遺物集計表	118
表 12	フテ 24-F2- オ 遺物集計表	53	表 33	フテ 47-G3- ナ 遺物集計表	119
表 13	フテ 24-G4- ア 遺物集計表	55	表 34	フテ 47-H2- サ 遺物集計表	120
表 14	フテ 24-H3- ニ 遺物集計表	59	表 35	フテ 47-J4- ト 遺物集計表	124
表 15	フテ 25-C2- ア 脊椎動物遺存体出土状況	65	表 36	試料一覧	139
表 16	フテ 25-C2- ア 貝類遺存体出土状況 (巻貝)	66	表 37	放射性炭素年代測定結果	141
表 17	フテ 25-C2- ア 貝類遺存体出土状況 (二枚貝)	66	表 38	暦年較正結果	141
表 18	フテ 25-C2- ア 遺物集計表	66	表 39	黒曜石試料の元素比分析結果	141
表 19	フテ 25-C2- ネ 遺物集計表	69	表 40	黒曜石試料の産地分析結果	142
表 20	フテ 36-F4- ア 遺物集計表	76			
表 21	フテ 36-F7- ア 遺物集計表	84			

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

沖縄県は、第二次世界大戦末期に起きた沖縄戦において、住民を巻き込む地上戦が繰り広げられ、その後米軍施政下に置かれた。昭和47（1972）年に本土復帰を果たしたものの、広大な土地を米軍が占有し続けるという状況であった。

平成7（1995）年11月、日本国政府及び米国政府は、沖縄県民の負担を軽減し、日米同盟関係を強化することを目的として沖縄に関する特別行動委員会（SACO）を設置し、沖縄県における米軍の施設及び区域を整理・統合・縮小し、また沖縄県における米軍の運用の方法を調整する方策について検討を始めることとなった。その直後の平成8（1996）年1月、勝連町（現うるま市）に所在するホワイトビーチ地区において、事前協議の行われないまま気象観測用レーダー建設工事が進められ、建設地にあった平敷屋原遺跡が破壊されるという痛ましい事件が起きた。これを受け、県教育長は同年6月、在沖米軍総領事及び那覇防衛施設局長（現沖縄防衛局長）に対して、基地内にある文化財の適切な保存・活用が円滑に実施できるよう要請し、これ以降基地内における文化財に対してより一層の注目が集まることとなった。

平成8（1996）年12月、日米安全保障協議委員会（SCC）において、普天間飛行場を含む11施設・区域の返還が盛り込まれたSACO最終報告が承認された。これを契機に、基地内における跡地利用と文化財保護の円滑な推進を図るための具体的協議が本格的に行われることとなった。そのような状況の中、沖縄県教育委員会は平成9（1997）年より文化庁の補助を受け、基地内埋蔵文化財分布調査事業に着手した。本事業は、沖縄県内に所在する米軍基地及び自衛隊基地内における埋蔵文化財の適切な保護を図ることを目的としている。返還後の跡地利用計画作成に際して、遺跡の有無、範囲、内容等を明らかにすることで埋蔵文化財の保護・活用に関する情報が必要であるが、普天間飛行場は約481haと広大な面積をもつことから急務と捉え、平成11（1999）年度以降は普天間飛行場を中心に調査を行うこととなった。しかし稼働中の基地であるため、調査が可能な範囲は総面積の約3割程度である。平成18（2006）年5月の「再編実施のための日米のロードマップ」の時点では、普天間飛行場の代替施設完成が平成26（2014）年とされていた。しかし平成25（2013）年4月の「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」において、普天間飛行場の返還は平成34（2022）年又はその後と示された。現在は、それまでに調査可能な範囲において、普天間飛行場を中心に調査を継続している。これまでの調査成果については『基地内文化財』Ⅰ～Ⅴにおいて報告しており、今次報告書では2006（平成18）年度及び2008（平成20）年度に実施した試掘調査及び表面踏査の成果を掲載する。

第2節 調査経過

平成18（2006）年度は10月～3月の5ヶ月間、平成19（2007）年度は8月～12月の5ヶ月間にわたり、普天間飛行場内で人力による試掘調査を実施し、平成20（2008）年度から平成21（2009）年度にかけて資料整理及び報告書作成を行った。

また、平成20（2008）年度からは、県及び宜野湾市が実施した調査成果の整合性を図り、共通認識の上で普天間飛行場内に所在する遺跡の評価を行うため、これまでに実施した調査によって得られた基礎資料の再整理に着手し、宜野湾市教育委員会と連携をとりながら基礎作業を進めている。

なお、各年度の調査経過は次のとおりである。

平成18（2006）年度

平成18（2006）年度は、フテ24のエリアを中心に、76箇所の試掘調査を計画した。当該エリアは緑地であり、旧地形がよく残る地域であることから、バックホウを使用せず、人力による調査を実施することとした。

調査に先立ち、普天間飛行場への立入許可申請を行い（平成18年5月6日付教文第227号、キャンプS.D. バトラー海兵隊基地G-5次長あて、沖縄県教育長名）、5月15日に受理された。約1ヶ月後の6月16

日付けの文書にて、キャンプ S.D. バトラー海兵隊基地 G-5 次長より許可が下り、発掘調査作業員の募集、現場事務所の設置等の準備に着手した。

当センター職員をはじめ、文化財調査嘱託員、発掘調査作業員、現場事務所設置業者等の立入者リストを取りまとめた上で、在沖米軍海兵隊環境保全課の與那覇政之氏を通じて入域パスの発行手続きを行い、現地調査は10月2日から3月30日までの間行われた。

調査はA班とB班に分担して実施した。10月2日から6日までの間はフテ24エリア東側一帯の除草を行うとともに、試掘箇所への杭の確認を行った。

10月10日より本格的に調査を開始。米軍より要求される即日現状復旧の原則という規制から、試掘坑は掘削と記録を繰り返し、岩盤を確認したところまで調査した。埋め戻しは調査の済んだ試掘坑より随時行った。

10・11月は遺構の検出が多く、石造遺構やピット・耕具痕が各試掘坑より検出されているが、半裁の結果、遺構ではなかった場合もみられた。また11月にはフテ24-G4-アで墓室とみられる空洞を検出し、半裁・記録を経て現地保存の上での埋め戻しに達するまで、12月28日までの期間を要した。その間の12月には、フテ24-C6-サの4層でピットとその付近から土器と黒曜石が出土している。1・2月も石敷遺構やピットを数箇所で見出し、3月にはフテ36エリアの試掘を開始するに至った。フテ36-B1-アでは墓を検出し、記録の上で埋め戻している。なお雨天時には遺物洗いや写真・図面整理、器材の整備などを行った。

3月27日で予定していた試掘坑76箇所全ての埋め戻しが終了、28から30日で撤収作業を行い、平成18年度の調査を完了した。

平成19(2007)年度

平成19(2007)年度は、フテ36のエリアを中心に、56箇所の試掘調査を計画した。

6月4日に立入許可申請がG5に受理され、約1ヶ月半後の7月23日付の文章により許可が下り、平成18年度と同様の調整で入域パスの発行手続きを行った。その他調査の準備を進め、8月より現地調査を開始した。

まず8月1日から15日までは調査箇所の伐採を行った。

同16日からは、2班体制でフテ36-H9アと同J9アから人力掘削による調査を開始した。その後8月21日からは班を解体して調査を行った。遺構はピット群は集礫・石列などが検出され、検出状況・半裁・図化記録を経ながら下に掘り進め、最終的に岩盤を検出するまで掘削を行った。ただし一部の試掘坑では約2mまで掘削しても岩盤検出に至らない箇所もあった。

11月5日には、フテ36-E3アより古墓の露出を確認した。その後D2-ア、H4～10でも相次いで確認されたため、古墓の位置を座標に落とすとともに写真記録を行った。

12月21日には全56箇所の試掘調査が終了。その後撤収作業や残る古墓の計測を行うなどして12月28日に平成19年度の調査を終了した。

平成20(2008)年度

平成20(2008)年度は、フテ46のエリアを中心に、49箇所の試掘調査を計画した。

平成20年度は、4月16日に立入許可申請がG5に受理され、約1ヶ月後の5月22日付の文章により許可が下り、前年・前々年度と同様に調査の準備に着手した。

8月1日から6日までは伐採を行い、7日にフテ46-A2・3から重機掘削により試掘調査を開始した。記録は写真・略図に加えて文化財サービスにオルソ化を委託した。また46エリアは即日埋め戻しが必要なことから、1日で掘削から記録・埋め戻しを行った。

なお、この年は不発弾の発見が相次いでいる。8月25日には米軍の造成土中からトンプソン機関銃の実弾が入ったマガジンが出土し、MPによる事情聴取とEOD(爆弾処理班)による回収作業が行われた。このとき、約半日間は調査の中断を余儀なくされた。また9月3日にも47-G2アの深度1.0mで磁気探査により異常点を確認し、MPによる事情聴取とEODによる確認作業が終了するまでの約半日間は調査を中断している。

遺構も各試掘坑で検出されたが、今年度は調査期間が1日に限定されることもあり、多くの遺構は破壊せずに現地保存するようにした。調査中の8月29日には文化庁坂井主任文化財調査官により、現地指導を受けている。

9月9日には予定されている全49箇所の試掘を終了したが、翌10日から10月3日には平成18・19年度の試掘箇所が沈下し、壁面が露出していることを確認したため、埋め戻し・養生を行った。それと平行して9月12日より平成19年度にフテ24E 1～H5で発見した古墓群の分布調査もあわせて実施した。

さらに10月8日からはフテ36G 6ウ～オにトレンチを設定し調査開始、11月4日からはF6エ・オ～F7アにもトレンチを設定して調査、2箇所のトレンチで確認調査を行った。なお確認調査は平成25年度の時点まで継続しており、この成果については次号において報告する。

経過一覧

○平成18（2006）年度

- 5/15: 立入許可申請書(平成18年5月6日付教文第227号、キャンプS.D. バトラー海兵隊基地G-5次長あて、沖縄県教育長名)を提出、受理。
- 6/16: 同日付でキャンプS.D. バトラー海兵隊基地G-5次長より立入許可が下りる。
- 10/2: 現地調査を開始。
- 10/17: 24-f2- オで石積検出。試掘坑の半分を掘削して半裁と岩盤検出。H4オの深度0.2mでピット?検出。
- 10/23: 24-F2- オの岩盤にピット?を検出、半裁 → 10/24で半裁完了、遺構でないことが判明。
- 11/8: 24-H3- ニで礫群を検出、サブトレを入れて確認。サブトレを利用して岩盤を確認。その後集礫は除去。
- 11/16: 24-G4- アで墓室とみられる空洞を確認。→ 床面まで半裁して検出。 → 11/28に墓室入り口の石積みを確認 → 12/27に記録終了、翌日12/28に保存して埋め戻し。
- 11/17: 24-H3- ニで礫群を検出。掘削により自然の落ち込みであることが分かる。
- 11/27: 24-D5- アで土坑?検出。
- 11/30: 24-C6- サの4層(黒褐色粘土層)で耕具痕を検出、半裁。
- 12/5: 24-C6- サの土器出土面(5層:黒茶褐色粘土層)でピット?2口を検出、半裁。12/6の半裁中、ピット1付近で黒曜石が出土。
- 12/7: 24-D6- アで褐色土面で遺構検出。
- 12/22: 24-D6- オで礫群検出。 → 1/5に石積であることを確認。
- 1/26: 25-C2- アで石敷検出。
- 2/5: 24-E10- アでピット?検出。
- 2/13: 24-E7- アの7層(赤褐色土面)でピット検出 → 半裁。
- 3/6: 24-H10- オでピット?検出 → 半裁。
- 3/12: フテ36の試掘をA1- アから開始。
- 3/20: 36-B1- アで墓を検出 → 記録後保存して埋め戻し。

○平成19（2007）年度

- 6/4: 立入許可申請書を提出、受理。
- 7/23: 同日付でキャンプS.D. バトラー海兵隊基地G-5次長より立入許可が下りる。
- 8/1: 現地調査を開始。
- 8/16: 36-J9- アⅡ層で集石遺構検出。半裁と岩盤確認のためのサブトレンチを設定して掘削。9/13まで要した。
- 8/20: 36-H9- アⅥ層でピット2口検出。半裁のみでピットを保存し、遺構のない箇所で岩盤を確認。
- 8/23: 36-H7- アⅢ層でピット3口検出。うち2口は半裁。
- 9/3: 36-G7- ア3層でピット?7口検出。ピット3口の半裁と地山を確認するためのサブトレンチを設定して掘削。
- 9/6: 36-G5- ア3層で工具痕検出。
- 9/20: 36-F4- ア2層で集石遺構検出。

9/25 : 36-F7- ア 4 層でピット 8 口を検出。うち壁面際の 3 口を半裁。ピットを保存し、遺構のかからない箇所のみ掘削。

11/5 : 36-E3- ア北側で露出した古墓を発見。また C2 ア北側でも露出する不明遺構を発見。それぞれ清掃。

11/6 : 36-D2- ア南側で露出した古墓を発見。清掃。

11/2 : 36-H3・4 の古墓 2 基の露出を確認、清掃・写真・座標記録。

11/19 : 36-H4 ～ 10 の古墓の露出を確認、清掃・写真。

12/10 : 37 - H2- アで石列を検出。記録後、遺構を保存して遺構のかからないところにサブトレンチを入れて岩盤検出まで掘削。

12/11 : 36-I10- ア 3 層で溝？とピット？を検出。溝はサブトレンチ、ピットは半裁して性格を確認。

12/21 : 全 56 箇所の試掘調査が終了。

12/28 : 今年度調査が終了。

○平成 20 (2008) 年度

4/16 : 立入許可申請書を提出、受理。

5/22 : 同日付でキャンプ S. D. バトラー海兵隊基地 G-5 次長より立入許可が下りる。

8/1 : 現地調査を開始。

8/13 : 46-B5- アで鍾乳洞とみられる空洞がコーラルで埋められている状況を確認したが、鍾乳石が確認できなかったため、鍾乳洞かどうかの判断はできなかった。

8/20 : 46-C7- アの 11 層 (耕作土もしくは谷の堆積土) で暗渠を確認。

8/22 : 46-C8- カの 6 層 (近世? の耕作土、深度 4 m) 炉跡? を検出。遺物なく年代不明。

8/25 : 米軍の造成土中からトンプソン機関銃の実弾が入ったマガジンが出土し、MP による事情聴取と EOD (爆弾処理班) による回収作業が行われた約半日間は調査を中断。

 : 46-E8- オ深度 3.0 m で溝状遺構、土留め石積み検出。

8/27 : 47-G1- ア深度 1.5 m (4・5 層直上) で耕具痕を確認。

8/29 : 文化庁坂井主任文化財調査官による現地指導。

9/3 : 47-G2- アの深度 1.0 m で磁気探査で異常点を確認。海兵隊環境保全課担当官に連絡。MP による事情聴取と EOD による確認作業が終了するまでの約半日間は調査中断。

 : 47-G3- ナ 4 層で溝状遺構、5 層で柱穴・植栽痕を検出。遺構が全面に及ぶためこの深度で掘削終了。

9/4 : 47-H2- サで 3 層より溝状遺構・石列、4 層土坑。写真記録を行いながらの掘削作業で時間がかかり、4 層以下は掘削せず終了。

9/5 : 47-J4- スで 4 層よりピット・耕具痕が全面に検出。この深度で掘削を終了。I3- シでも 4 層で植栽痕を検出し、遺構を保存して攪乱を受けている一部のみを掘削。

9/9 : 47-J4- トで 7 層から植栽痕。

9/9 : 全 49 箇所の試掘を終了。

9/10 ～ 10/3 : H18・19 の試掘箇所は沈下し、壁面が露出していることを確認。埋め戻し・養生を行う。

9/12 ～ : 平成 19 年度に 24-E1 ～ H5 で発見した古墓群の分布調査。

10/8 ～ : 36-G6- ウ～オにトレンチを設定し調査開始

11/4 ～ : 36-F6- エ・オ～ F7- アにもトレンチを設定して調査、2 箇所のトレンチで確認調査を行う。なお確認調査は平成 25 年度の時点まで継続しており、この成果については次号において報告する。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

普天間飛行場の所在する宜野湾市は、沖縄本島中部の東シナ海に面した西海岸に位置している。宜野湾市の面積は約19,37k㎡で、略東西6.1km、略南北5.2kmの略長方形をなしており、北は北谷町、南は浦添市、南東は西原町、東は中城村、北東は北中城村と隣接している。このうち全体の25%にあたる約481haを普天間飛行場が占める。

宜野湾市の地形は海岸に面して4つの平坦面を有する雛壇状段丘である。第一面は標高3m～30mの低位段丘下位面、第二面は標高30m～40mの低位段丘上面、第三面は標高50m～90mの中位段丘下位面、第四面は標高90m以上の中位段丘上位面となっている。これらの基盤層は第一面が泥岩を主体とする島尻層群で、第二面より上位はこの島尻層群の上に琉球石灰岩と島尻マージが分布している。島尻層群と琉球石灰岩との境目は不整合面となっており、この間を多くの水が通ることによって多くの洞穴や湧水が点在している。

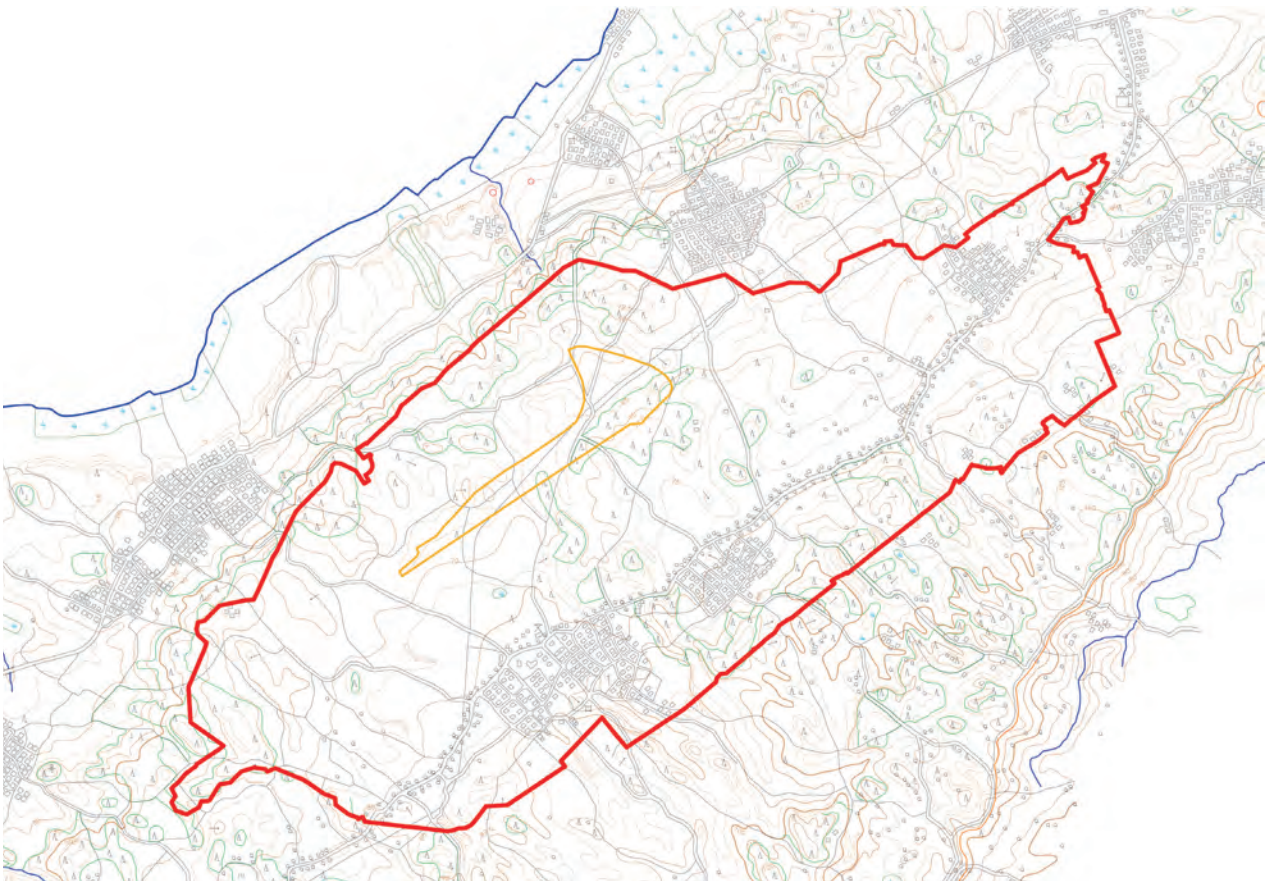
普天間飛行場は第三面に位置しており比較的平坦な地形を利用しているが、過去に行われた分布調査で洞穴や迫地（軽微な谷）も確認されている。（宜野湾市1984・2006）



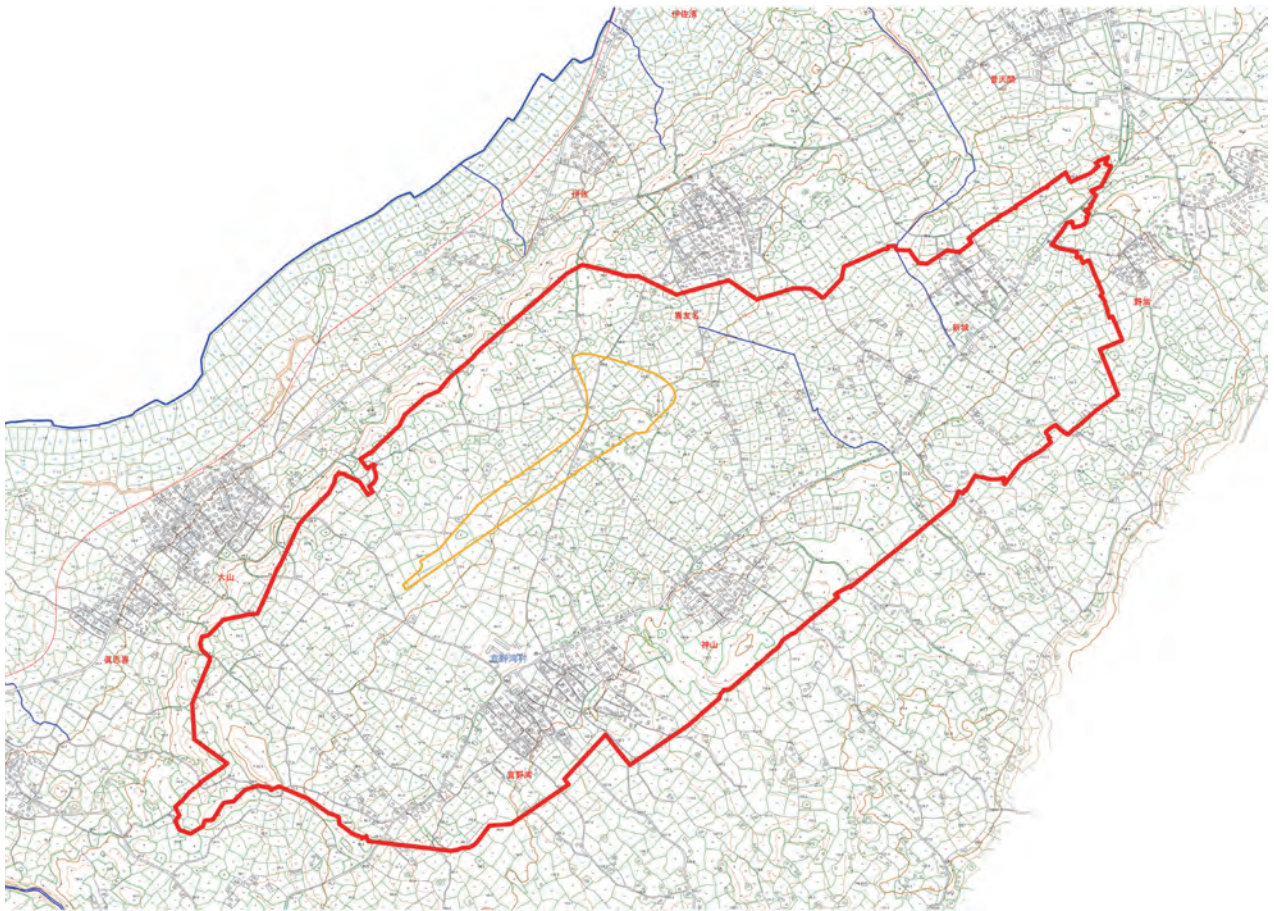
第1図 沖縄本島の位置と調査地の所在地



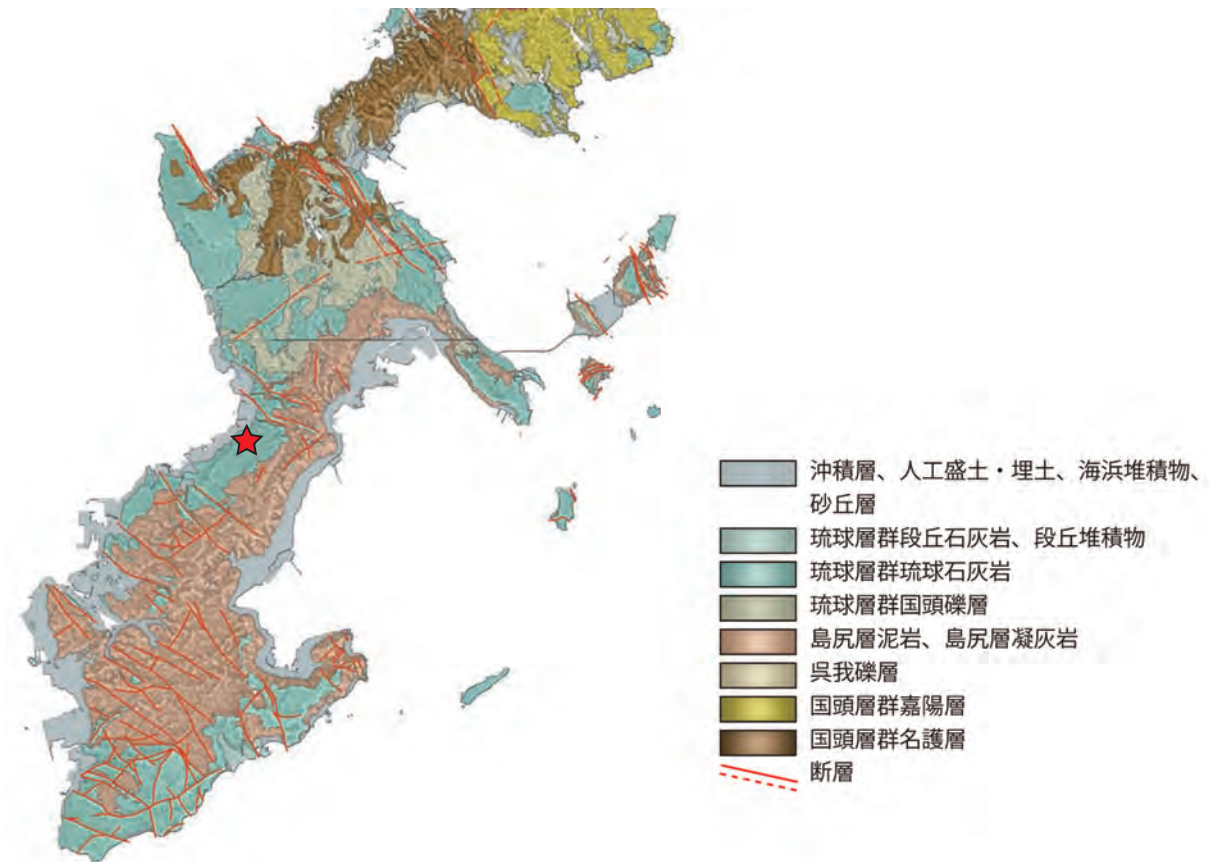
第2図 普天間飛行場地形図（平成20年 宜野湾市都市計画図に加筆）※オレンジ枠が調査範囲



第3図 普天間飛行場地形図（大正8年 陸軍測量図に加筆）※オレンジ枠が調査範囲



第4図 普天間飛行場地形図（昭和20年測量図に加筆）※オレンジ枠が調査範囲



第5図 沖縄本島中南部の地質図（県土のすがたより抜粋）★：今次調査箇所

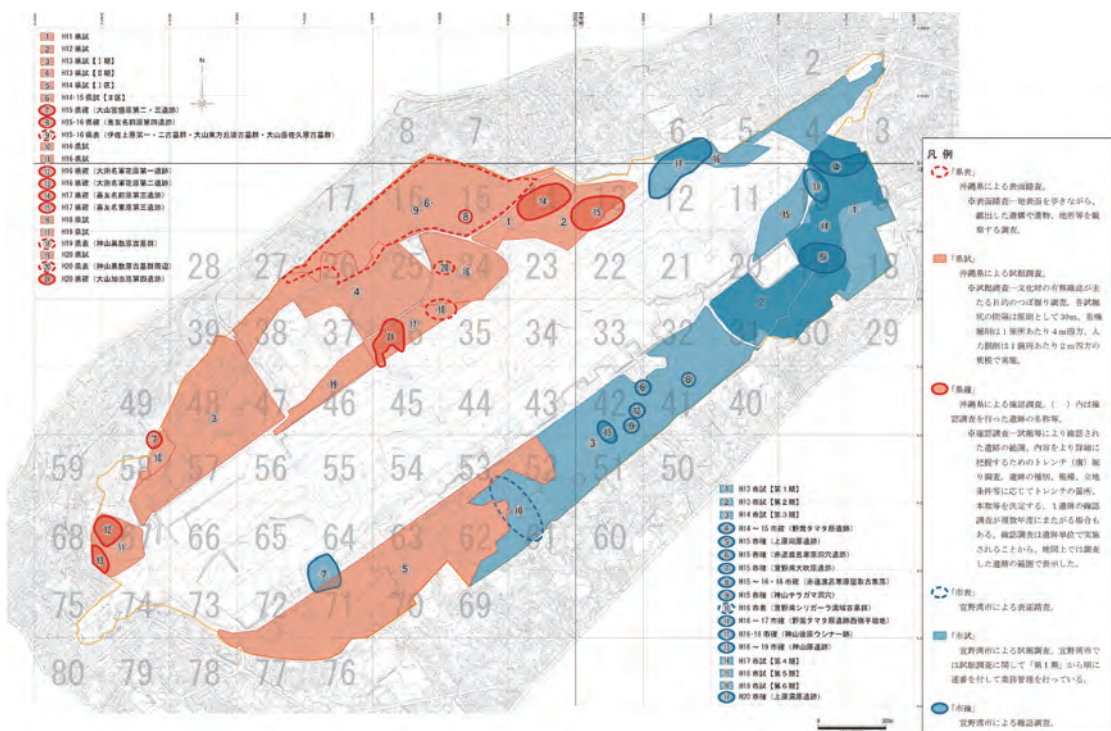
第2節 歴史的環境

普天間飛行場に分布する埋蔵文化財は現在 102 遺跡確認されている（沖縄県教育委員会・宜野湾市教育委員会 2010）。このうち今回調査の対象となった喜友名・神山・大山にかけての地域には、縄文時代から近代の時期に該当する 47 の遺跡が確認されている。

縄文時代の遺跡には集落跡が確認されている。喜友名前原第二遺跡や大山富盛原第二遺跡では縄文時代後期～晩期の竪穴遺構が確認されており、特に後者の遺跡は 100 m 南方に国指定史跡である大山貝塚が所在することから、周辺に縄文時代後期～晩期の遺跡が広がっている可能性が指摘されている（沖縄県立埋蔵文化財センター 2006）。また喜友名前原第三遺跡においては調査トレンチのほぼ全域で縄文時代後期～晩期の旧表土が確認され、遺跡の北方 100 m に所在する喜友名ヌバタキ遺跡との関係が指摘されている（沖縄県立埋蔵文化財センター 2011）。喜友名東原第三遺跡では迫地に流れ込んだ自然堆積層が確認されており、上原濡原遺跡の堆積と類似した環境であることが確認されている（沖縄県立埋蔵文化財センター 2011）。

グスク時代の遺跡は集落跡や農耕に関わる遺跡が確認されている。喜友名前原第二遺跡では、12～13 世紀の建物群とピットの覆土より多くのイネを中心とした炭化種子が確認されている。このうち建物群は 6 本柱建物跡と中柱を有する建物跡が確認されており、これらは読谷村タシーモー北方遺跡や吹出原遺跡のように母屋と思われる大型の建物と倉庫とされる小型の建物とのセット関係が想定されている（沖縄県立埋蔵文化財センター 2006）。喜友名前原第三遺跡と喜友名東原第三遺跡では焼土が多く集中する部分や列状ピット群と考えられる小ピットが部分的に確認されており、耕作地として利用されたと想定されている（沖縄県立埋蔵文化財センター 2011）。

近世・近代の遺跡は戦前までの集落跡や古墓群などが確認されている。神山古集落では溝状遺構や畝間状遺構が確認されており、この集落が地割性集落であることが確認されている（沖縄県立埋蔵文化財センター 2005）。また神山原遺跡では鉄滓が集中する遺構が確認されており、野鍛冶が行われていた可能性が指摘されている（宜野湾市教育委員会 2008）。大山東方丘陵古墓群では近世から近代にかけての古墓が丘陵と丘陵の狭間やの斜面に多く所在している。基地範囲外の古墓は調査も行われており、これらの古墓からは厨子甕の中に康熙三十四年（1695 年）「けらい（洗骨の古語）申」のミガチが記されている厨子甕や、康熙三十八年（1699 年）に「墓取付」と刻銘された石碑が墓室内で確認された大山上江家古墓が所在している（宜野湾市教育委員会 1989・2011）。普天間飛行場内にはこのような近世・近代集落跡や古墓群などの埋蔵文化財多く点在しており、宜野湾市における戦前の様子や習俗を知るうえで欠かすことのできない地域となっている。



第6図 普天間飛行場における予備調査の実績（沖縄県教育委員会・宜野湾市教育委員会 2010）



※オレンジ枠が調査範囲

図版 1 普天間飛行場内の遺跡情報図 (遺跡番号については、沖縄県教育委員会・宜野湾市教育委員会 2010 を参照)

第3章 調査の方法

第1節 基地内調査における諸制限

治外法権の基地内は基地機能の維持が優先となるため、調査許可の得られない箇所や施設等の障害物がある箇所もある。また原則として即日復旧が条件となるため、試掘坑は基本的にその日のうちに埋め戻す必要がある。そのため、1日あたりの試掘調査は重機を用いてもおよそ3箇所であった（人力掘削の場合はこの限りではないため、埋め戻しまで数日間をかけて調査を行った箇所もある）。

第2節 試掘調査の方法

区画設定 平成11年度に沖縄県は普天間飛行場全体に座標値 $X = 31,000$ 、 $Y = 26,500$ （日本測地系）を起点とする30m間隔の方眼を組み、その格子点に4m四方の試掘坑を設定して調査を開始した。平成13年度からは宜野湾市教育委員会も調査に参加することとなり、共通認識の形成と調査データの共有化を図る目的で事前調整を行い、その中で調査区の区割り方法及び名称を決定した。また、それまでの調査との整合性を図るために、方眼の間隔、起点の座標値、試掘坑の規模は県のもの踏襲することとした。

まず、300m間隔の方眼を第Ⅰ区画（1～80）とし、その中を30m間隔の方眼で分割して第Ⅱ区画（A1～J10）、さらにその中を6m間隔の方眼で分割し第Ⅲ区画（ア～ノ）とする三段階で普天間飛行場全体を区分けし、県市ともに共通の区割りをを用いて予備調査にあたることとした。

試掘坑の名称は、第Ⅰ区画名称、第Ⅱ区画名称、第Ⅲ区画名称を用いて表示される（例「フテ 36-A1-ア」。なお、「フテ」は普天間飛行場を示す。第1図参照）。

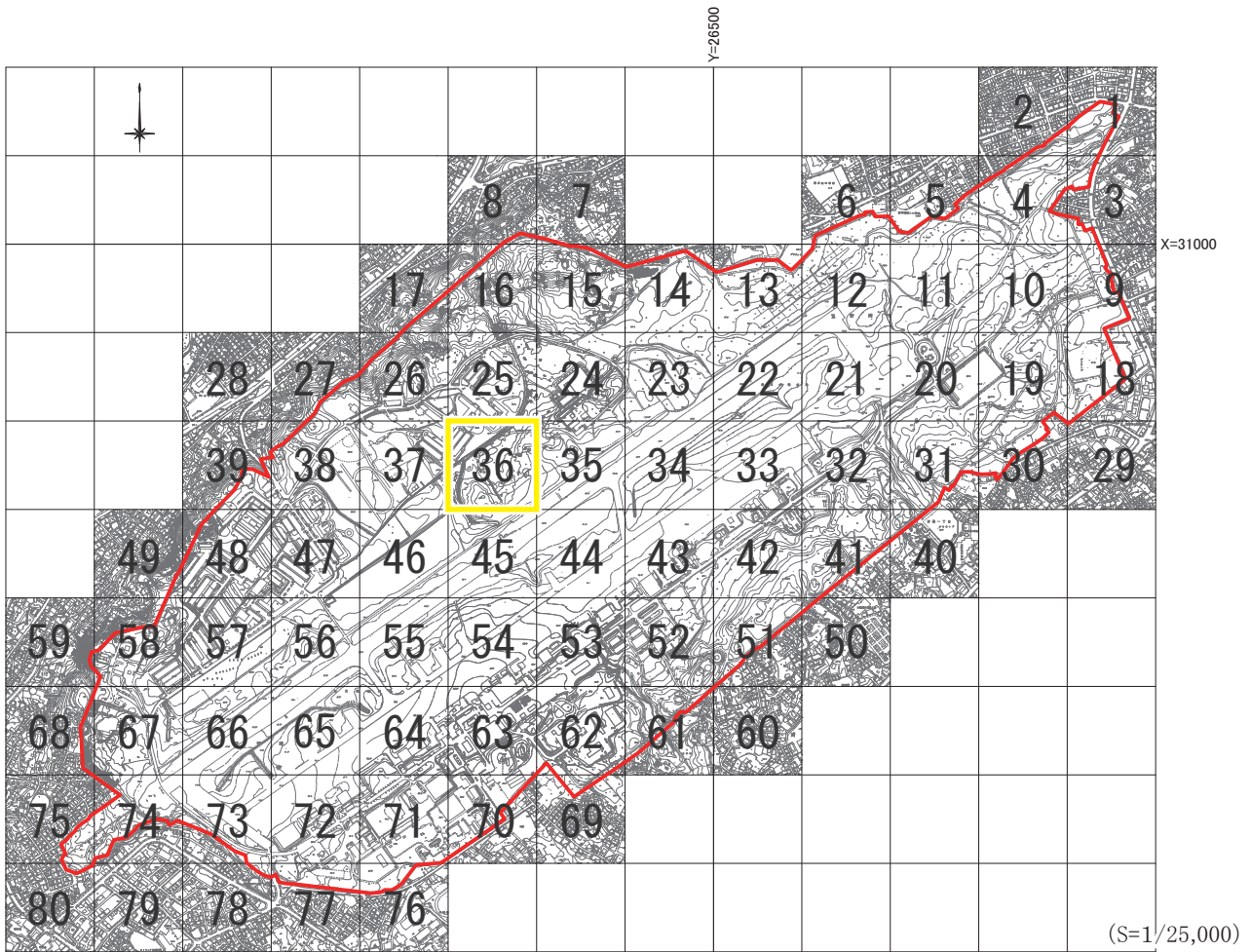
普天間飛行場における予備調査について 埋蔵文化財（遺跡）の分布調査は、通常現地を踏査して文化財の有無や遺物の散布状況や地形などを確認して大まかな分布域を把握する表面踏査、表面踏査による遺跡の分布域において部分的に発掘して遺跡の有無などを確認する試掘調査、試掘踏査によって確認された遺跡の範囲や内容などを確認するために行う確認調査の3段階に大きく分けられる。

しかし普天間飛行場は、その建設に際して丘陵の削平や谷地の造成など大規模な地形改変が行われていることから、表面踏査には限界があると想定される。そのため、試掘調査と確認調査の2段階による予備調査を計画し、実施している。なお、古墓群のように地域や遺跡の種別によっては表面踏査が有効な場合もあるため、試掘調査の実施中にも部分的な表面踏査と測量調査も含めた。

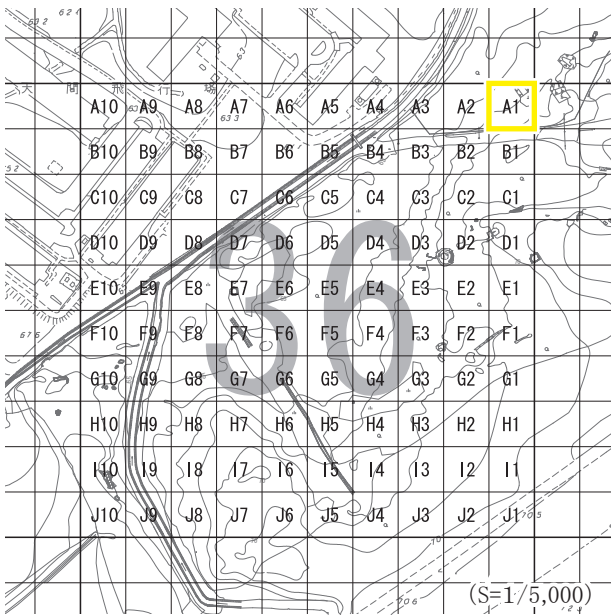
試掘調査の方法 試掘は第Ⅱ区画のグリッド交点に4m四方の試掘坑を設定して行うことを原則とした。しかし、当該箇所に構造物や立木などの障害物等がある場合は、第Ⅲ区画のグリッド交点を利用して試掘坑を設定した。この際も可能な限り第Ⅱ区画のラインに接するようにし、普天間飛行場全体で土層堆積状況が把握できるよう努めた。

試掘坑は、原則的にバックホウによって掘削したが、バックホウの使用が難しい場所や、埋蔵文化財包含層が多く検出される可能性のある場所については、2m四方の試掘坑を設定して人力により掘削した。また掘削に際しては事前に不発弾や埋設物等を確認するために磁気探査を実施し、掘削中も深度1m毎に磁気探査（経層探査）を実施した。なお「第1章3節 調査経過」で述べたように、平成20年度には不発弾が1件不時発見されたほか、近年では特に米軍基地内の発掘調査現場において、事前の磁気探査も及ばず掘削中に磁気反応がなかった箇所から不発弾が発見される事例が増加していた。そのため、平成21年度からは表層（地表面から深度1mの範囲）については掘削深度50cm毎に磁気探査を実施する事で対応するようにしているが、磁気探査の方法については今後とも検討の余地が残る。

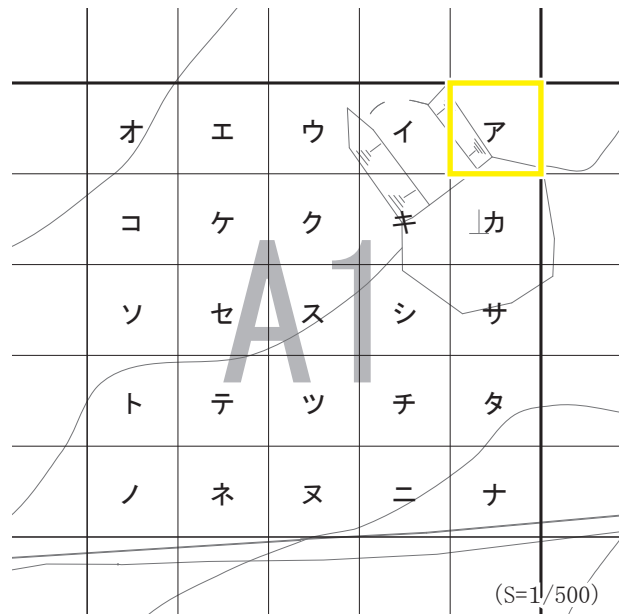
掘削は原則的に岩盤を検出するまで行ったが、途中で遺構などが検出された場合は一時掘削を中断し、清掃・観察・記録等の作業を行い、部分的に保存して下に掘り進めた。掘削完了後は、平面・壁面を清掃・観察の上で図面・写真等の記録をとり、最後に埋戻し・養生を行い一つの試掘坑の調査が完了とした。



第 I 区画 (300m グリッド)



第 II 区画 (30m グリッド)



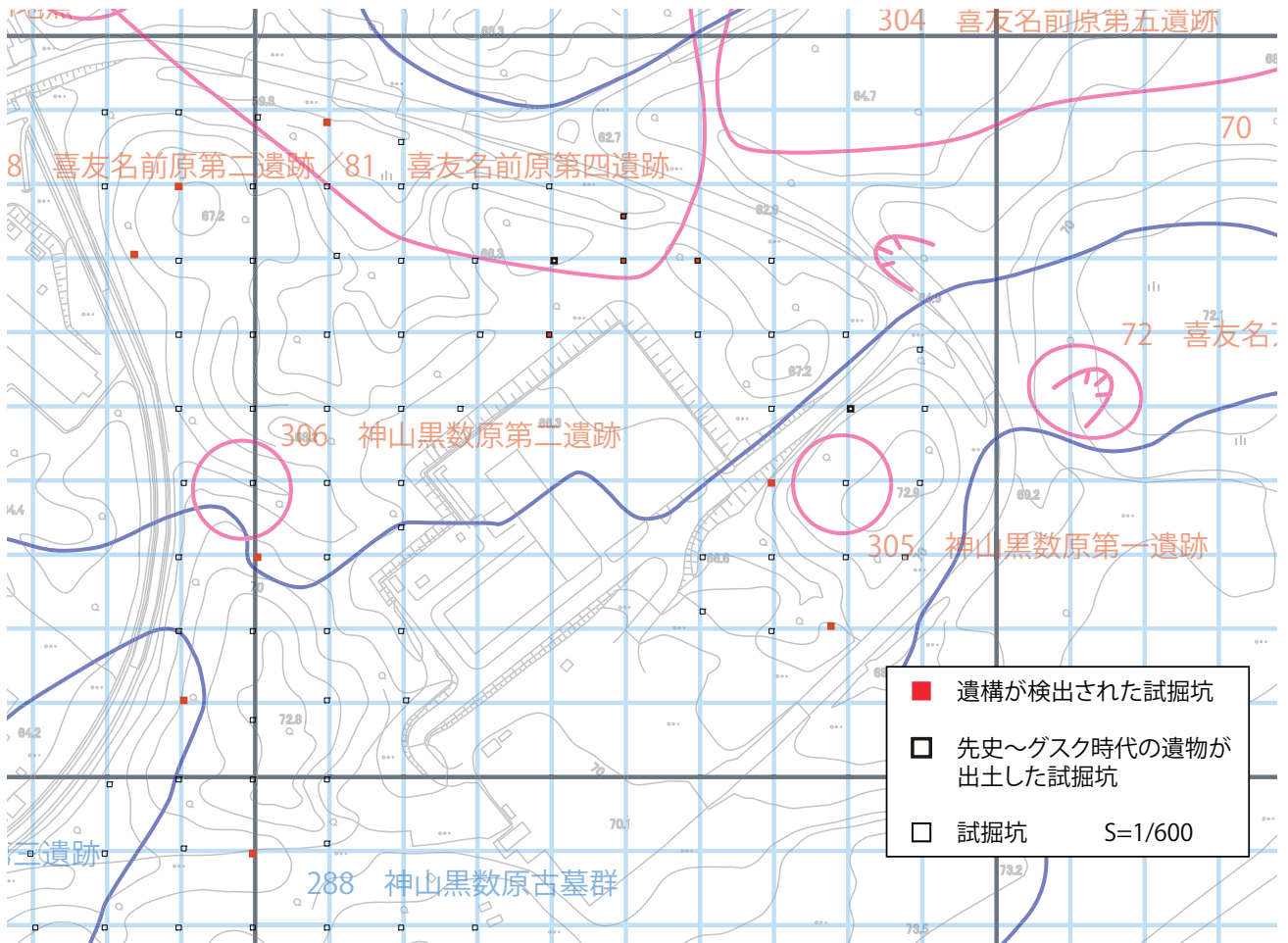
第 III 区画 (6m グリッド)

第 7 図 普天間飛行場内地区割 (例 : フテ 36-A1- ア)

第4章 フテ24・25グリット

第1節 概観

フテ24グリットは全44箇所、25グリットは20箇所を試掘した。その結果、先史からグスク時代の遺跡に喜友名前原第二遺跡、神山黒数原第一・第二遺跡、また近世・近代の神山黒数原古墓群に関連する遺構や包含層が確認された。以下確認された4つの遺跡を中心に、試掘成果について報告する。



第8図 フテ24・25グリット試掘箇所

第2節 喜友名前原第二遺跡

層序 おおむね戦後の造成層、近世近代の耕作層、グスク時代の耕作層、縄文時代晩期の包含層の4期の文化層が確認されている。

遺構 近世近代ではフテ24-B10-アで石積遺構と堀切のような溝状遺構が検出されている。またフテ24-C6-サではグスク時代あるいは近世の耕具痕も検出されている。縄文時代の遺構はフテ24-C6-サのピットのみであるが、覆土中から黒曜石片が出土している点が注目される。

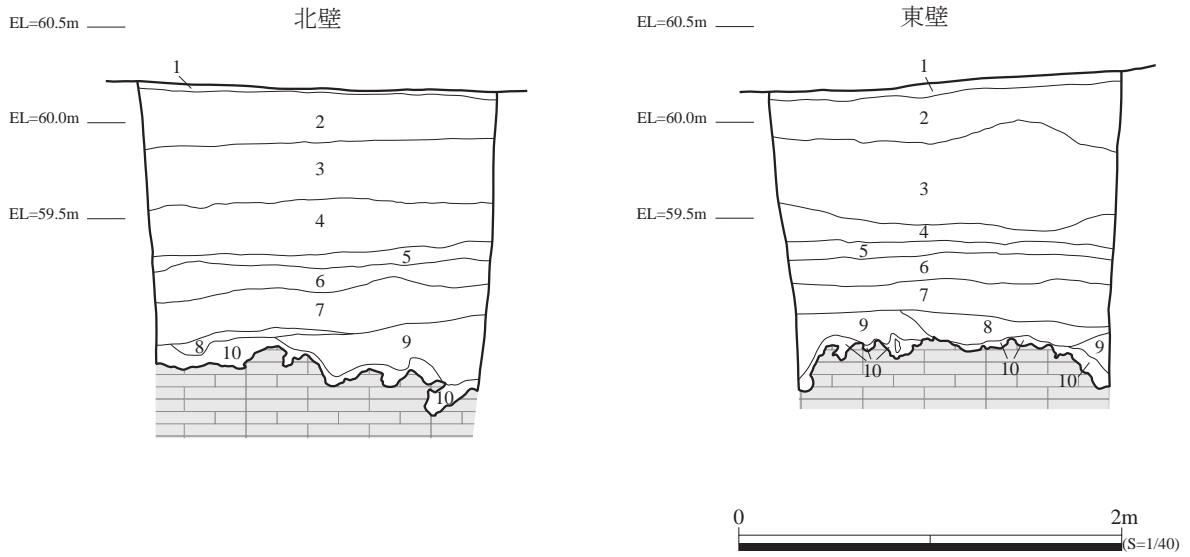
遺物 近世近代の沖縄産陶器や縄文時代晩期頃の縄文土器・石器が出土しており、その中には黒曜石も含まれることが特筆される。またグスク時代の遺物が少ないことも特徴に挙げられる。

①フテ24-B9-サ

1～2層 戦後の造成層と現在の表土層となっている。

3層 近世・近代の耕作土層とみられる。

- 4～6層 近世の耕作層とみられるが、遺物中には縄文時代晩期頃の土器もみられる。従って本来は存在していた縄文時代晩期の包含層を耕作によって攪拌したと考えられる。
- 7～8層 グスク時代の耕作層とみられ、焼土塊が多量に包含している。
- 9～11層 地山とみられ、赤土（マージ）層とその下に岩盤が確認された。



第9図 フテ 24-B9- サ 壁面図



図版2 フテ 24-B9- サ 北壁



図版3 フテ 24-B9- サ 東壁



図版4 フテ 24-B9- サ 4層出土土器

種類 \ 層序	土器	合計
	器種不明 胴部	
4層	5	5
合計	5	5

表1 フテ 24-B9- サ 遺物集計表

②フテ 24-B10- ア

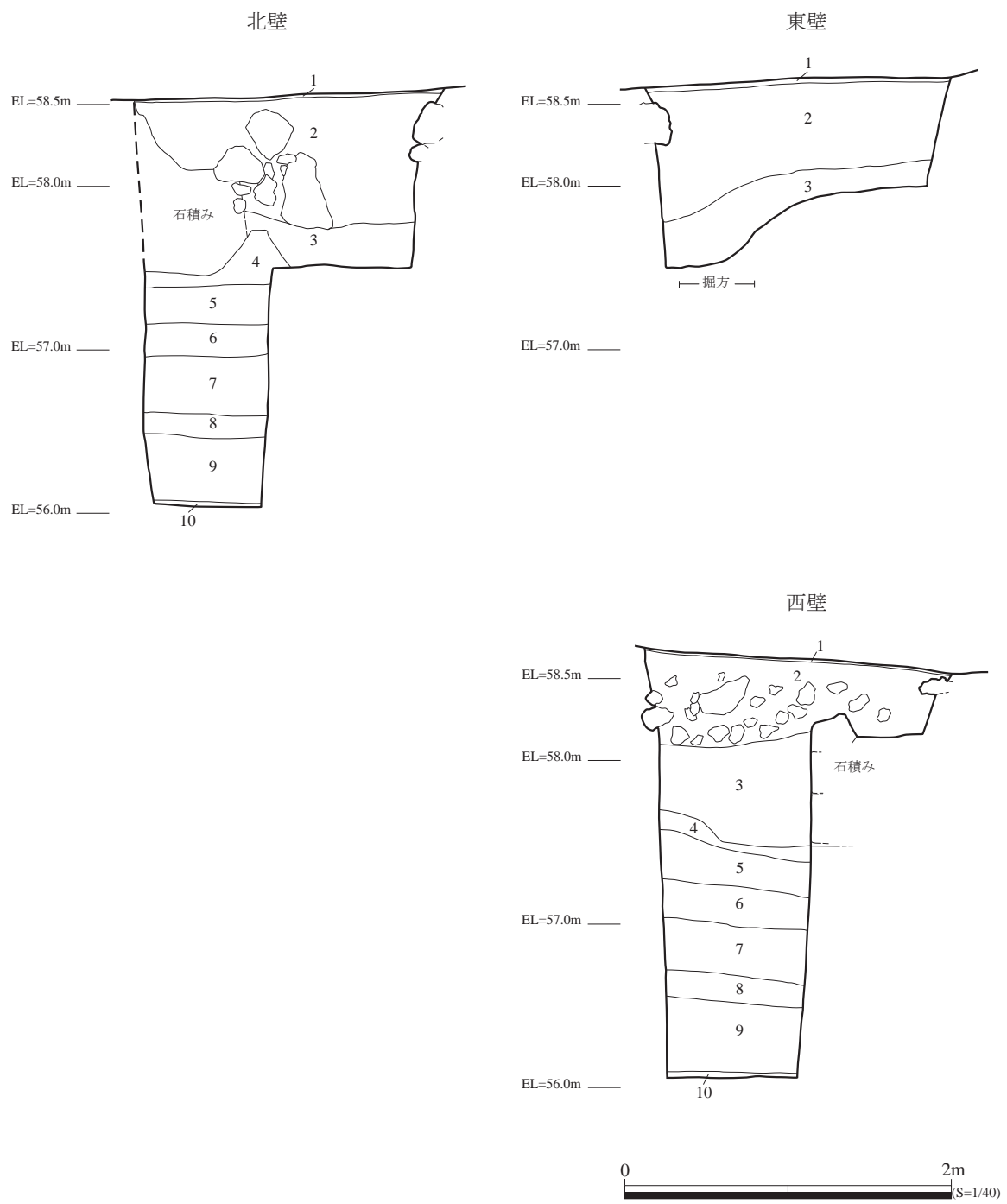
概要 近世・近代の旧表土と石積遺構及びそれに伴う堀方が検出される。その下からも近世頃の耕作層が確認されている。

1～2層 現在の表土層と戦後の造成層となっている。遺物には近現代を中心に、一部縄文時代晩期頃とみられる土器も含まれる。

3層 近世・近代の耕作土層とみられる。石積遺構とそれに伴うとみられる堀方が検出される。堀方は石積遺構を一部埋めることから石積築造に伴うものと考えられるが詳細は不明である。遺物には沖縄産陶器や陶質土器などが出土している。

4～9層 近世以降の耕作土層で、黒色及び黒褐色を呈し焼土粒が含まれる。6層から陶質土器片1点が出土するのみで遺物はほぼ含まれない。

10層 赤土（マーヅ）層。遺物の出土もなく地山と考えられる。



第 10 図 フテ 24-B10-ア 壁面図

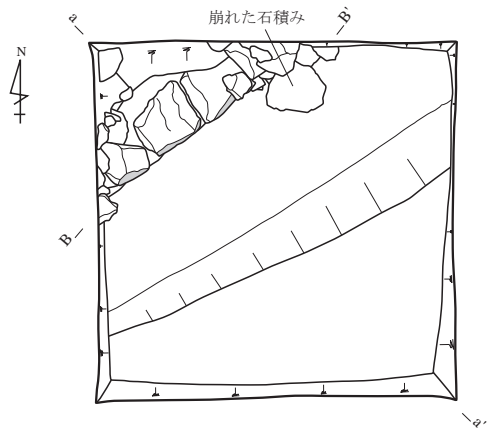


図版5 フテ 24-B10- ア 西壁

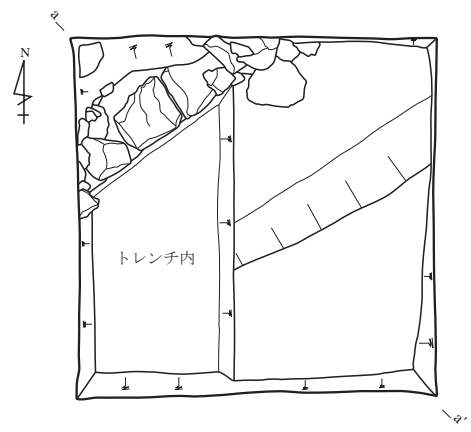


図版6 フテ 24-B10- ア 2層出土遺物

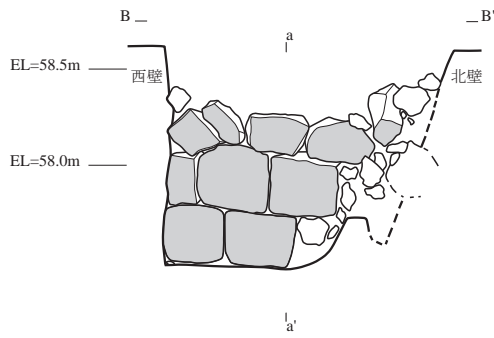
石積遺構平面図



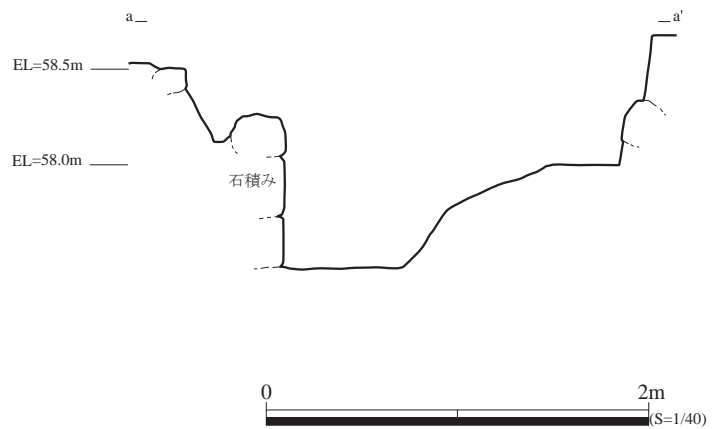
平面図



石積遺構見通し断面図(B-B')



石積遺構及び掘方断面図(a-a')



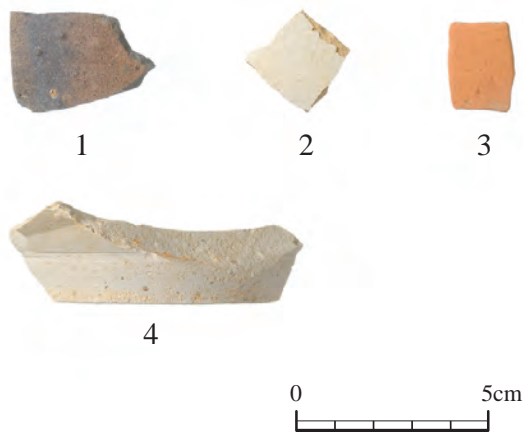
第11図 フテ 24-B10- ア3層 遺構平面図、見通し断面図、掘方断面図



図版7 フテ 24-B10- ア3層 掘方検出状況



図版8 フテ 24-B10- ア3層 石積遺構



図版9 フテ 24-B10- ア 3層出土遺物



図版10 フテ 24-B10- ア 6層出土遺物

種類 層序	土器	陶質土器	瓦質土器	近代	沖縄産 施釉陶器		沖縄産 無釉陶器	瓦	金属製品		合計
	器種不明	器種不明	器種不明	本土産染付	碗	鉢	壺	明朝系	鉄製品		
	胴部			小碗				平瓦	釘	器種不明 (重量(g))	
2層	1	1	3	1	4	1	5	1	1	(50)	18(50)
3層		1					1				4
6層		1									1
合計	1	3	3	1	6	1	6	1	1	(50)	23(50)

表2 フテ 24-B10- ア 遺物集計表

③フテ 24-C6- サ

概要 近世・近代の耕作層、縄文時代後晩期を巻き込んだグスク時代もしくは近世の層、縄文時代後晩期の包含層が確認されている。また地山の島尻マーヅ層が暗褐色から明褐色へ変化していく様相も確認されたが、岩盤を確認するには至っていない。

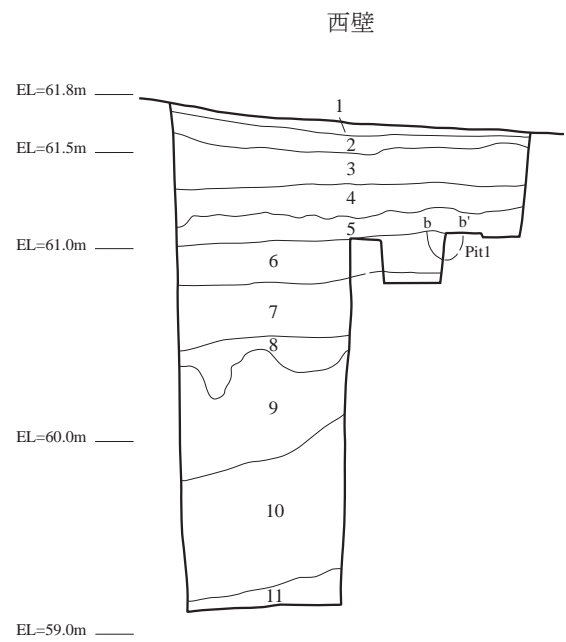
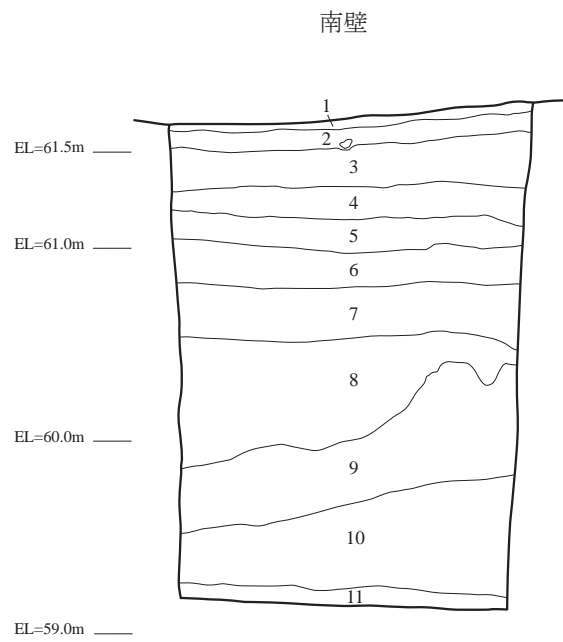
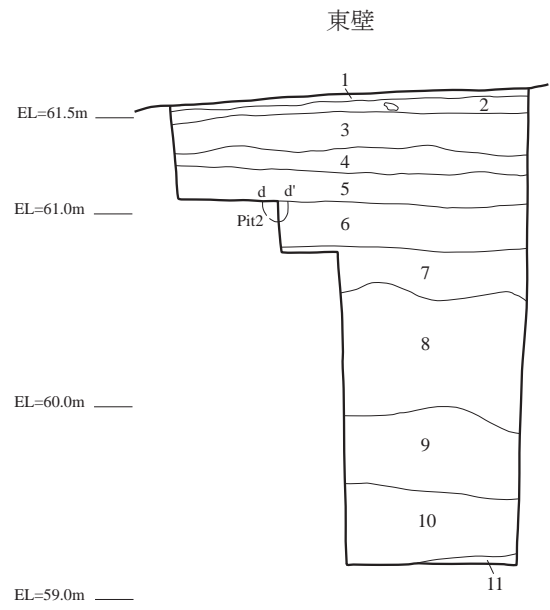
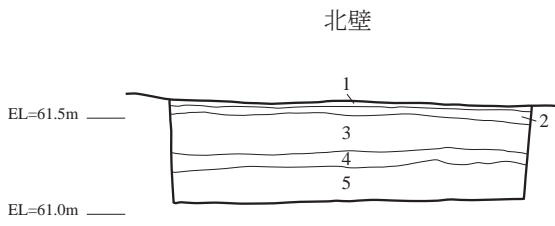
1・2層 黒褐色砂質シルトから褐色粘質砂質土で、前者が表土、後者は米軍の造成土層とみられる。遺物には沖縄産陶器のほか、被熱した砂岩片が得られている。

3～5層 黄褐色の砂質シルト層で、5層は土色が黒褐色に変化する。遺構には、5層上面から耕具痕が検出される。

6層 極暗褐色の砂質シルト層で、上面よりピットが2口検出される。遺物には仲原式やグスク土器とみられる破片を含む多くの土器片をはじめ、石器や腰岳産黒曜石・チャート・緑色千枚岩などの遠隔地石材が出土している。これら土質と出土遺物の傾向から、6層がグスク時代もしくは近世において攪拌された層と目される。なお仲原式の口縁部(図版 21 - 1)に圧痕の可能性のある痕跡が残されていた。今後専門家による検証が望まれる。

7層 暗黒褐色粘質シルト層で、縄文時代後晩期ごろとみられる土器や砂岩片が出土している。縄文時代後晩期以外の時代のものと目される遺物がないことから、当該期の包含層と考えられる。

8～11層 無包含層。暗黒褐色粘質シルト層で土質は7層と同様だが、本層より無包含層となることから8層以下の赤土層(マーヅ)が変色した層とみられる。また9からは赤土層となり、明黄褐色粘質シルト、明褐色粘質シルト、黄褐色砂質シルトと変化していく。



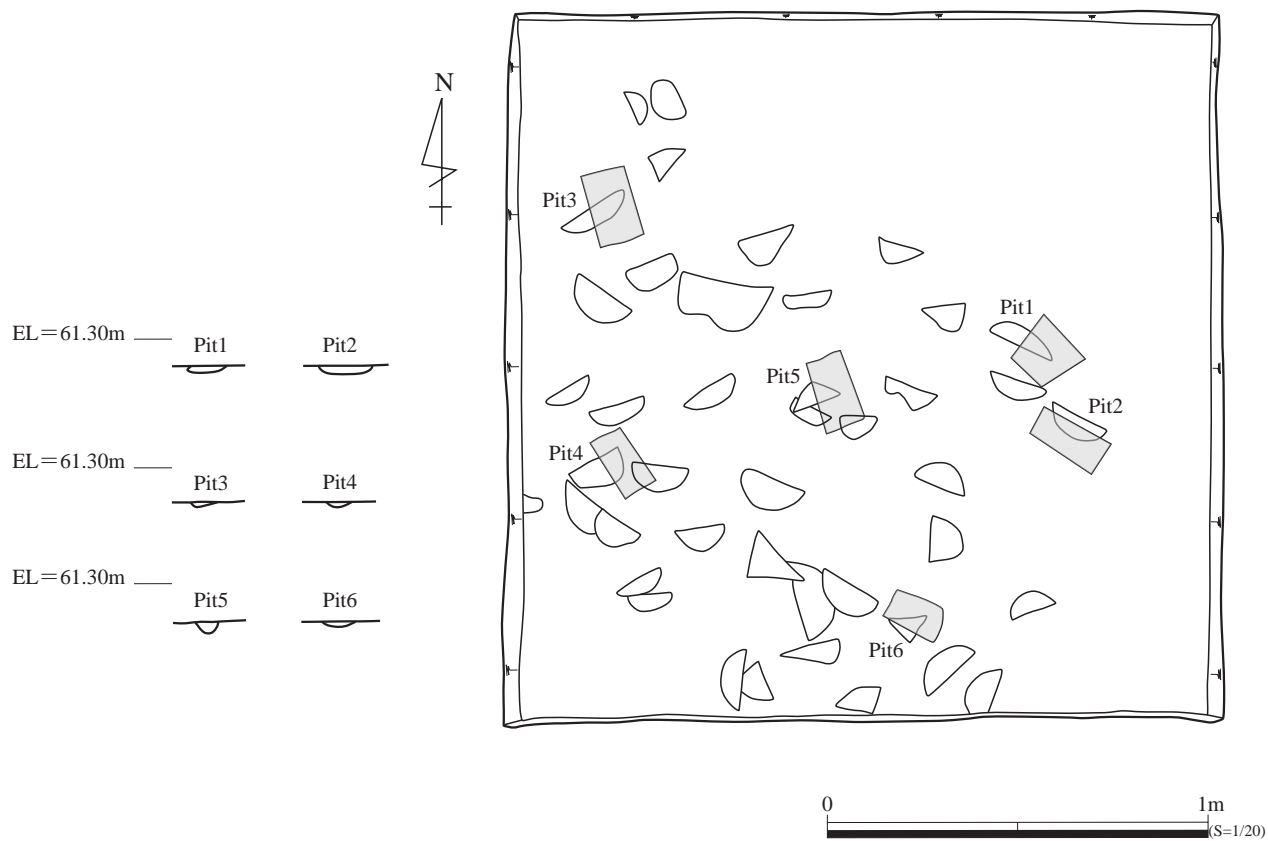
第 12 図 フテ 24-C6- サ 壁面図



図版 11 フテ 24-C6- サ 南壁



図版 12 フテ 24-C6- サ 東壁



第 13 図 フテ 24-C6- サ 5 層 耕具痕平面・断面図



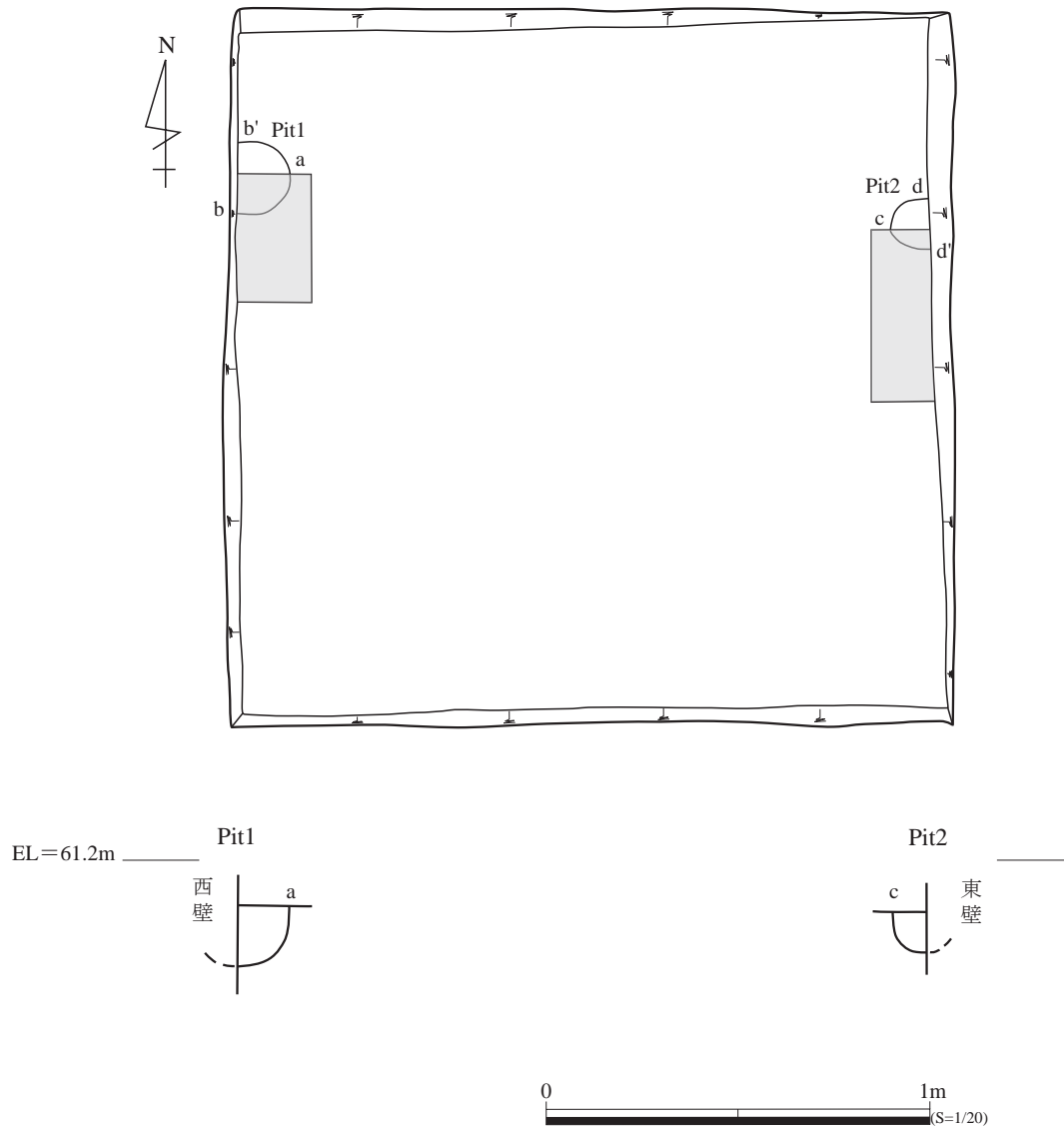
図版 13 フテ 24-C6- サ 5 層 耕具痕検出状況



図版 14 フテ 24-C6- サ 5 層 Pit4 半裁断面



図版 15 フテ 24-C6- サ 5 層 Pit6 半裁断面



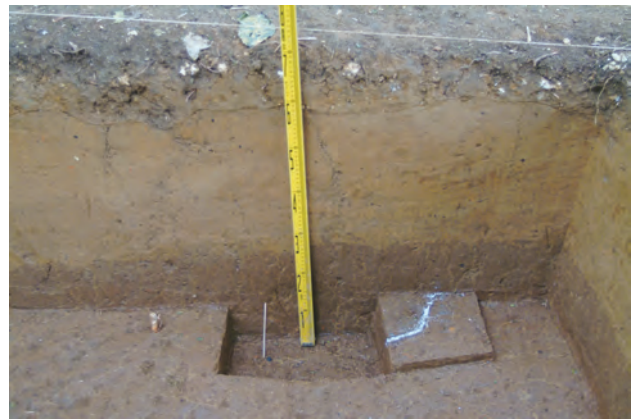
第 14 図 フテ 24-C6- サ 6 層上面 遺構平面・断面図



図版 16 フテ 24-C6- サ 6 層上面 遺構検出状況



図版 17 6 層上面 Pit1 半裁断面



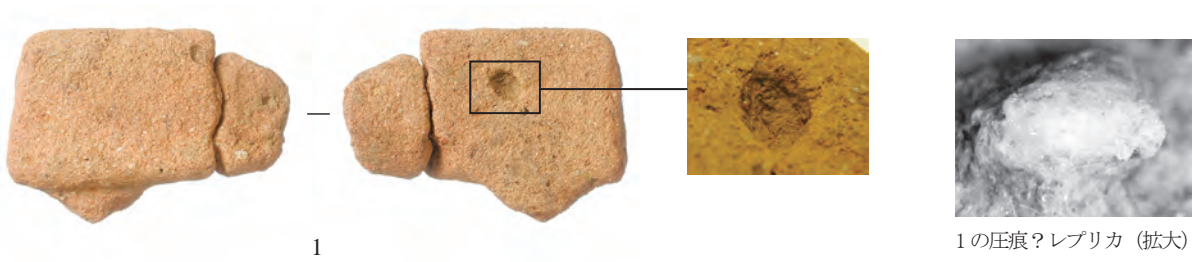
図版 18 6 層 Pit1 遺物出土状況



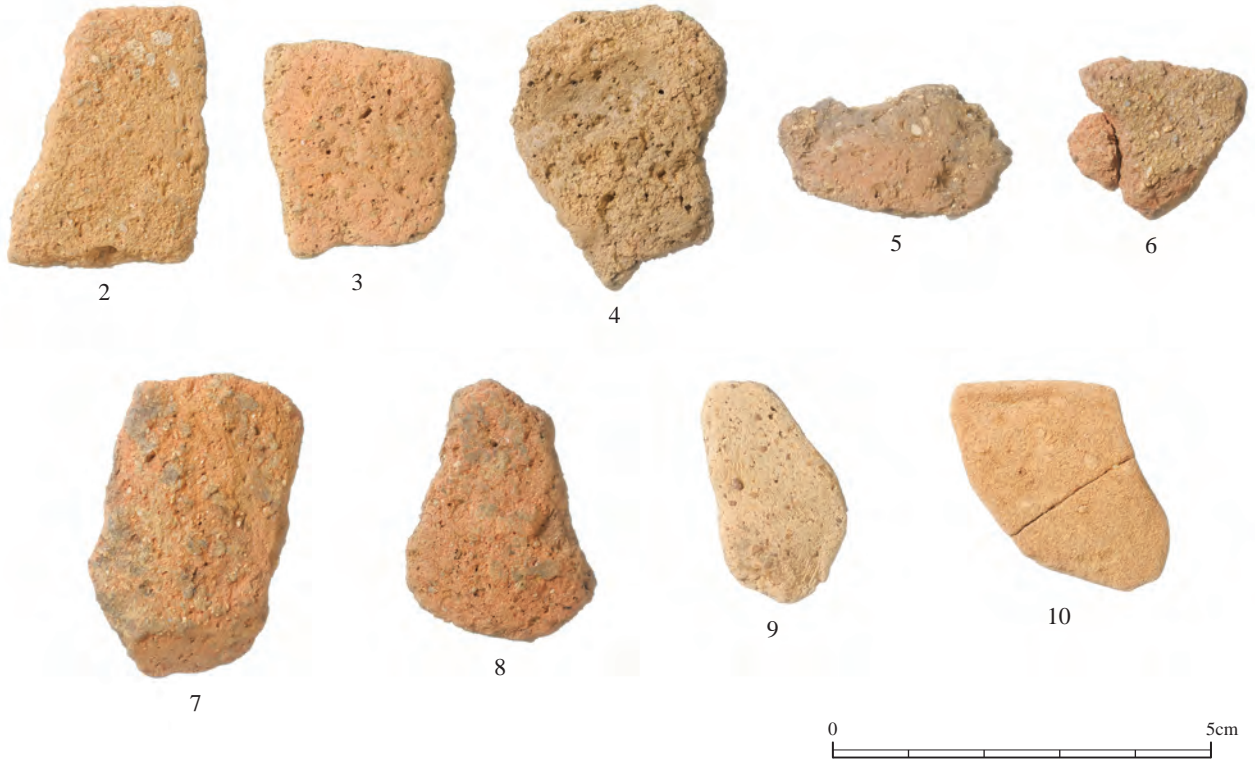
図版 19 6 層 Pit2 半裁断面



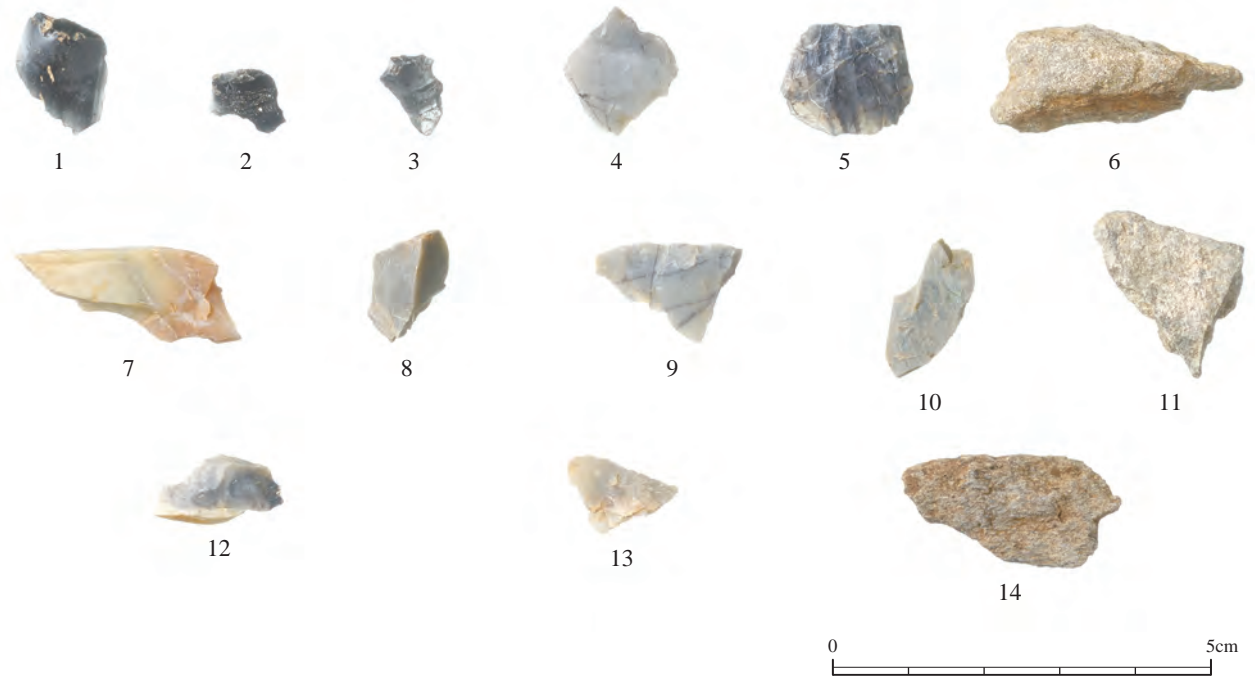
図版 20 6 層 Pit2 遺物出土状況



1の圧痕?レプリカ(拡大)



図版 21 フテ 24-C6- サ 6層出土土器



図版 22 フテ 24-C6- サ 6層出土石器・石材 1



1

2

3



4



5



図版 23 フテ 24-C6-サ 6層出土石器・石材 2



1



2



3



4



5



6



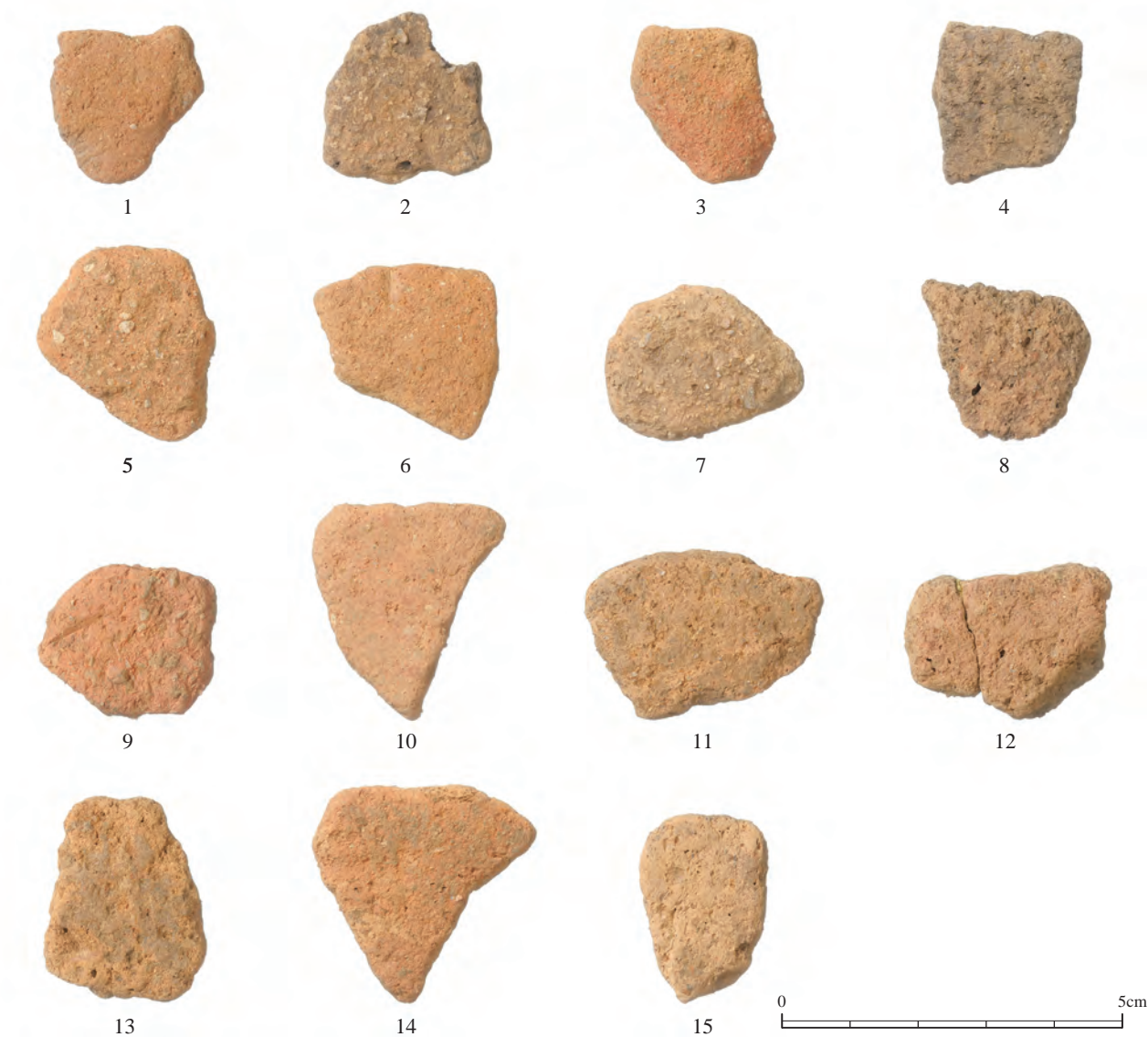
7



8



図版 24 フテ 24-C6-サ 7層出土土器 1



図版 25 フテ 24-C6- サ 7層出土土器 2

層序	種類		土器			石材					
	器種不明		グスク土器	陶質土器	石器	黒曜石	チャート	砂岩	被熱砂岩?	緑色片岩	千枚岩
	口縁部	胴部	器種不明	器種不明							
1層									2		
2層											
6層	1	31	1	3	4	2	6	11		1	2
7層		159						1			
合計	1	190	1	3	4	2	6	12	2	1	2

層序	種類		沖縄産施釉陶器				沖縄産無釉陶器		炭化木片	焼土	合計
	凝灰岩	輝緑岩	碗	火炉	器種不明	器種不明					
1層				1	1					4	
2層			4				1			5	
6層	1	1						7	56	127	
7層									17	177	
合計	1	1	4	1	1	1	1	7	73	313	

表 3 フテ 24-C6- サ 遺物集計表

④フテ 24-C9- ア

概要 グスク時代から近世・近代までの可能性のある耕作土層と、縄文時代後晩期ごろの遺物包含層とみられる層が確認される。またその下には地山とみられる赤土層があるが、岩盤は確認されなかった。

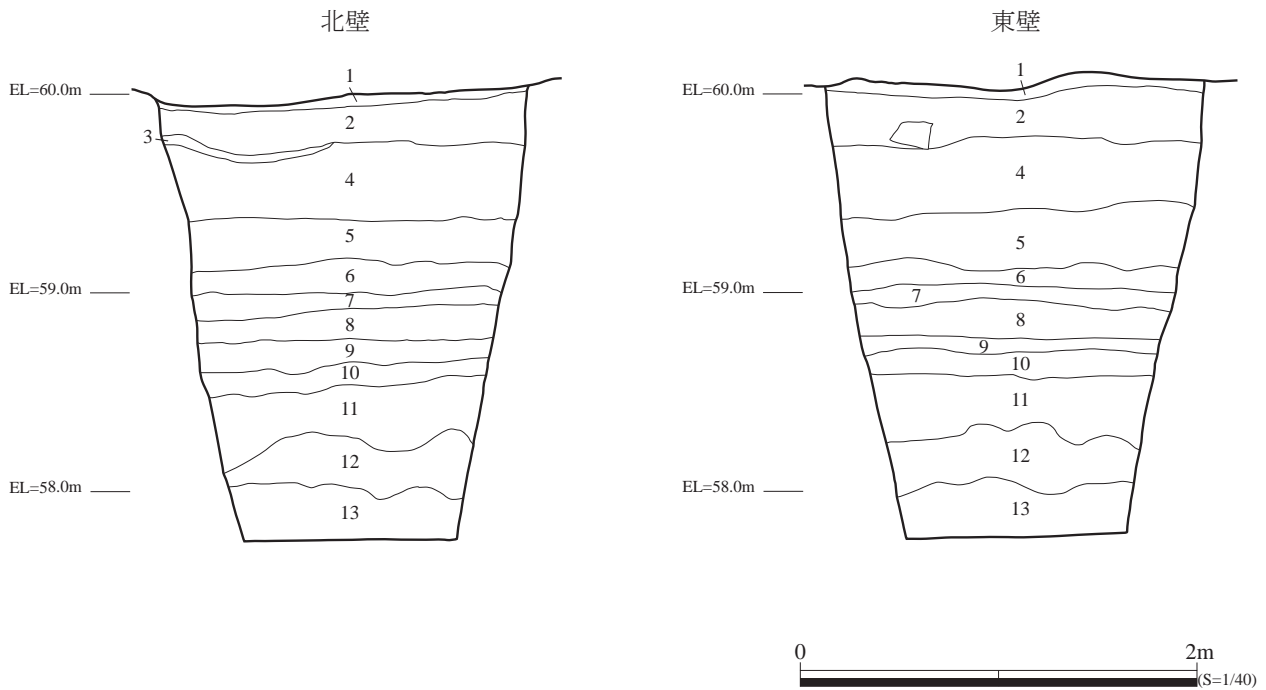
1層 表土層。暗褐色で泥質。

2・3層 米軍の造成土層。暗褐色砂質（2層）から褐色砂質（3層）へ変化する。遺物には沖縄産陶器に加えて中国産の青磁や本土産の青磁・白磁もみられるため、グスク時代まで遡る可能性がある。

4～8層 グスク・近世・近代の耕作土層。砂質の層で、褐色（4層）から暗褐色（5～7層）、黒褐色（8層）と深くなるにつれて次第に黒色化していく。

9・10層 縄文時代後晩期の包含層？。褐色・砂質で焼土片が混じる層で、9層からは縄文時代後晩期ごろとみられる土器や、石器石材が出土する。

11～13層 地山の赤土（マージ層）。黄褐色で粘質（11層）から褐色で粘質（12・13層）の土質に変化する。



第15図 フテ 24-C9-ア 壁面図



図版 26 フテ 24-C9- ア 北壁



図版 27 フテ 24-C9- ア 東壁



図版 28 フテ 24-C9-ア 2層出土遺物



図版 29 フテ 24-C9-ア 9層出土遺物

種類 層序	土器		陶質土器	石材	石	中国産 青磁	本土産陶磁器		沖縄産 施釉陶器		沖縄産 無釉陶器	焼土	合計
	器種不明		器種不明	砂岩		器種不明	青磁 皿	白磁 器種不明	袋物	器種不明	すり鉢		
	口縁部	胴部											
2層			2		1	1	1	1	1	2	1		10
8層		4										2	6
9層	1	3		1									5
不明		9										1	10
合計	1	16	2	1	1	1	1	1	1	2	1	3	31

表 4 フテ 24-C9-ア 遺物集計表

⑤フテ 24-D5-ア

概要 遺構を含む近世・近代の耕作土層と、時期不明の層を挟んで縄文時代晩期頃の包含層が確認される。また地山の島尻マージ層が暗褐色から明褐色へ変化していく様相や岩盤が確認できないなど、フテ 24-C6-サと類似した堆積状況となっている。

1層 表土及び腐植土層。黒褐色で粘質。

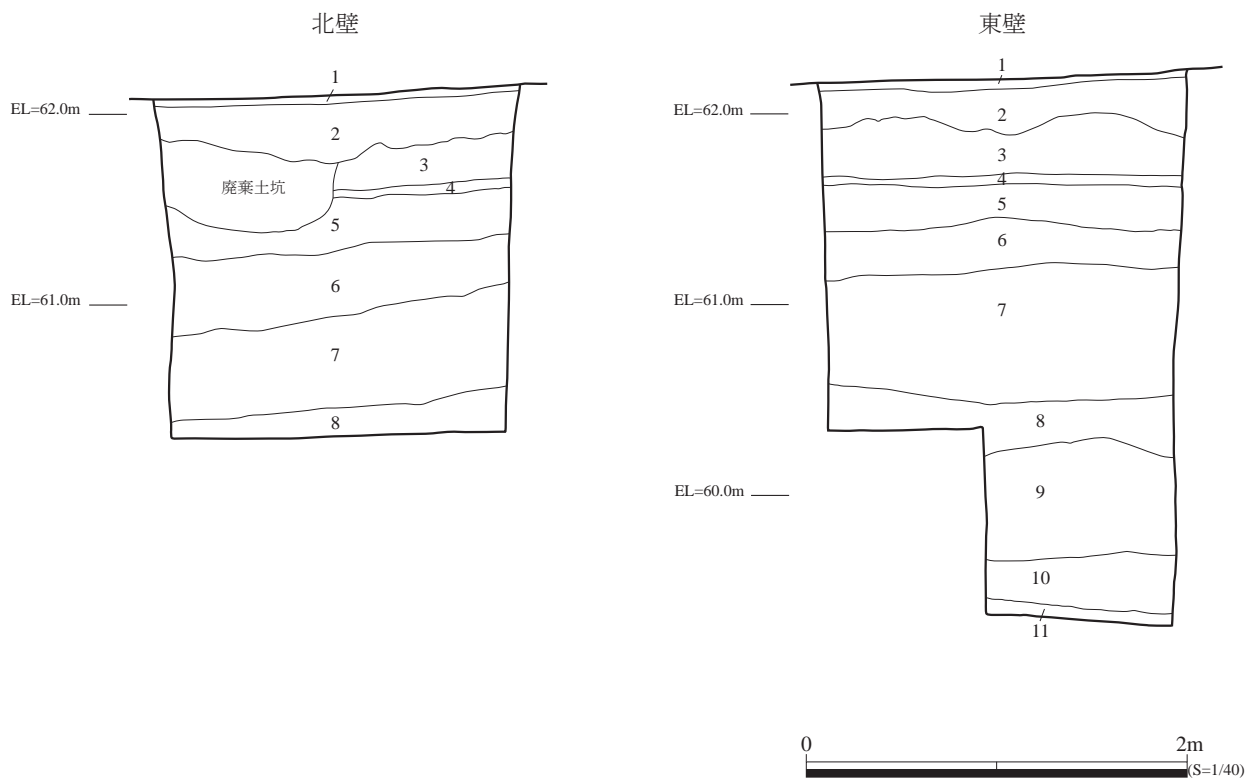
2・3層 盛土・黄褐色の砂質シルト層で、3層が耕作、2層は耕作に関連する盛土とみられる。3層上面からは廃棄土坑が検出された。遺物は2層より本土産白磁湯呑や沖縄産陶器が出土している。

4層 黒褐色粘質シルト層で多量の焼土片を含む。遺構・遺物とも確認されず、年代は不明である。

5層 褐色の粘質シルト層で、縄文時代晩期ごろとみられる土器片が出土していることから当該期の包含層と目される。

6層 暗褐色粘質シルト層で、遺物は確認されないが焼土片が含まれることから人為的な影響を受けた層の可能性を残す。

7～11層 地山の赤土層。7層は6層と類似する暗褐色粘質シルト層だが、遺物や焼土片等を含まないことから人為的影響の及んでいない赤土の変質層とみられる。8層からは赤土層となり、褐色粘質シルト、黄褐色砂質シルト、黄褐色砂質シルト、明黄褐色砂質シルトと変化していく。



第 16 図 フテ 24-D5- ア 壁面図

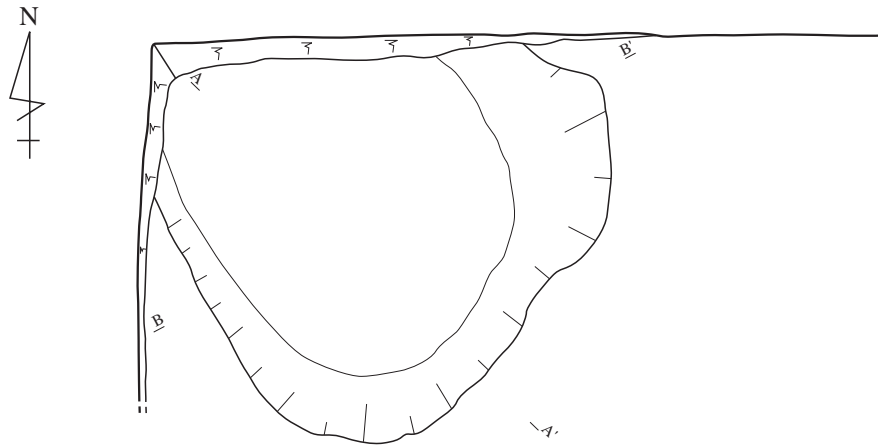


図版 30 フテ 24-D5- ア 北壁



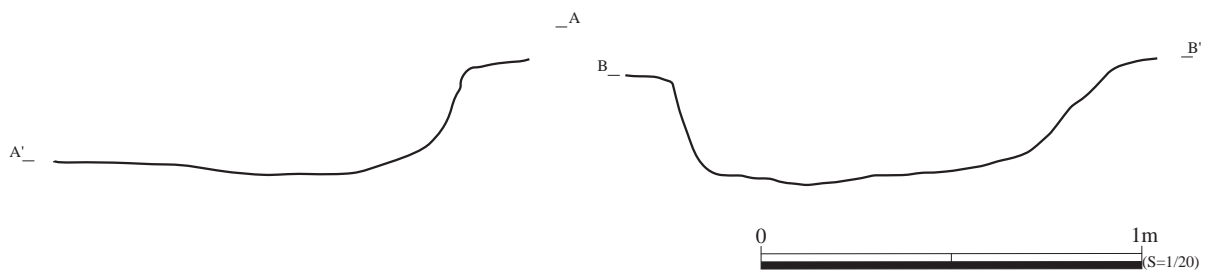
図版 31 フテ 24-D5- ア 東壁

平面図



EL=62.0m

断面図



第 17 図 フテ 24-D5- ア 3 層 廃棄土坑平面・断面図



図版 32 フテ 24-D5- ア 3層 廃棄土坑完掘状況



層序	種類				合計
	土器	本土産陶磁器	沖縄産無釉陶器	器種不明	
	器種不明 胴部	白磁 湯呑み			
2層			1	1	2
5層	8				8
合計	8		1	1	10

表 5 フテ 24-D5- ア 遺物集計表

図版 33 フテ 24-D5- ア 5層出土土器

⑥フテ 24-D6- ア

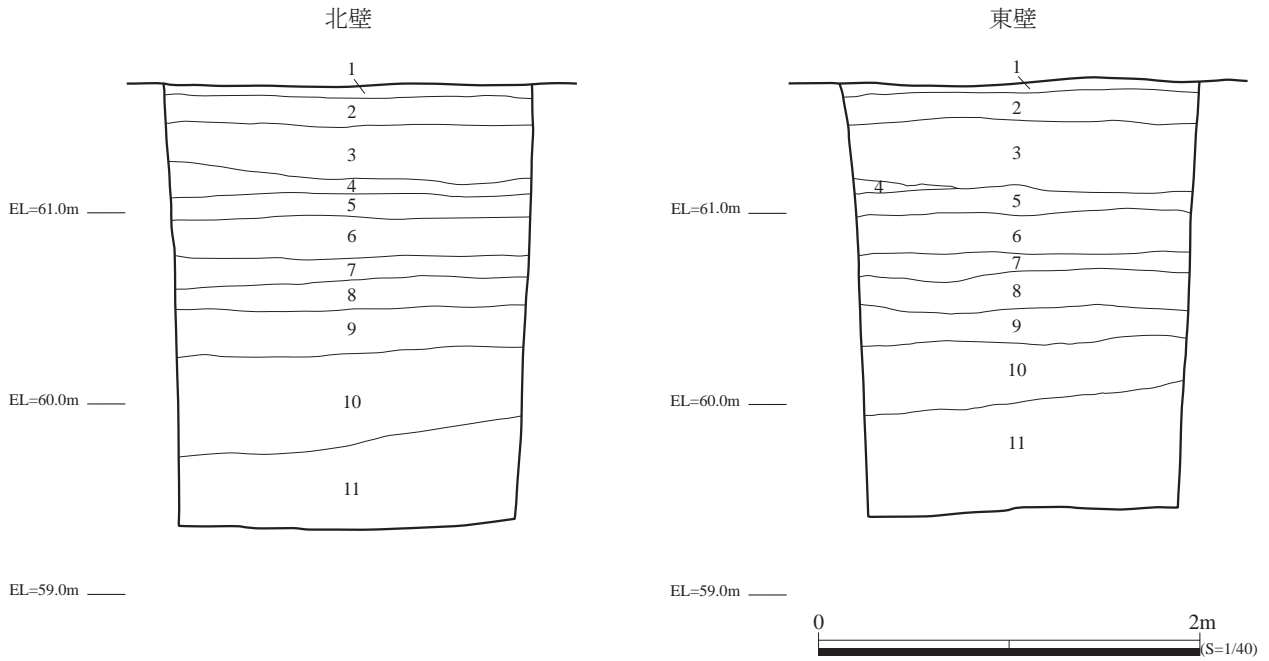
概要 近世・近代の耕作土層が1 m以上堆積する。途中の5層で耕具痕が検出されたことから、複数の旧表土が存在していたとみられる。遺物は沖縄産陶器と縄文時代晩期頃の土器、腰岳産黒曜石製打製石鏃未成品を含む石器が混在しており、近世・近代にかけて縄文時代晩期頃の包含層を攪拌したようである。9層からはフテ 24-C6- サなどと同様の堆積が確認される。

1層 表土層。褐色の砂質シルト層。

2～8層 近世・近代の耕作土層。2から4層にかけて黄褐色砂質シルト、黄褐色シルト、にぶい黄褐色砂質シルトと比較的類似した層が堆積する。遺物には中国産青花の小碗や沖縄産陶器、軽石製砥石などが得られているが、これに混じって土器片も1点出土している。また土色が変化する5層のオレンジ褐色粘質シルトでは、上面から耕具痕が検出されており、ある時期の旧表土と考えられる。この層からも土器が1点出土している。さらに6層以下に黒褐色粘質シルト、褐色の粘質シルト、暗褐色粘質シルトが堆積するが、褐釉陶

器や沖縄産陶器に縄文土器が混じる遺物出土傾向は8層まで変化しない。

9～11層 地山の赤土（マージ）層。9・10層は暗褐色粘質シルトだが遺物が確認されないなど人為的痕跡が認められない。さらに11層からは赤土層の明黄褐色粘質シルトが堆積している。



第18図 フテ 24-D6-ア 壁面図



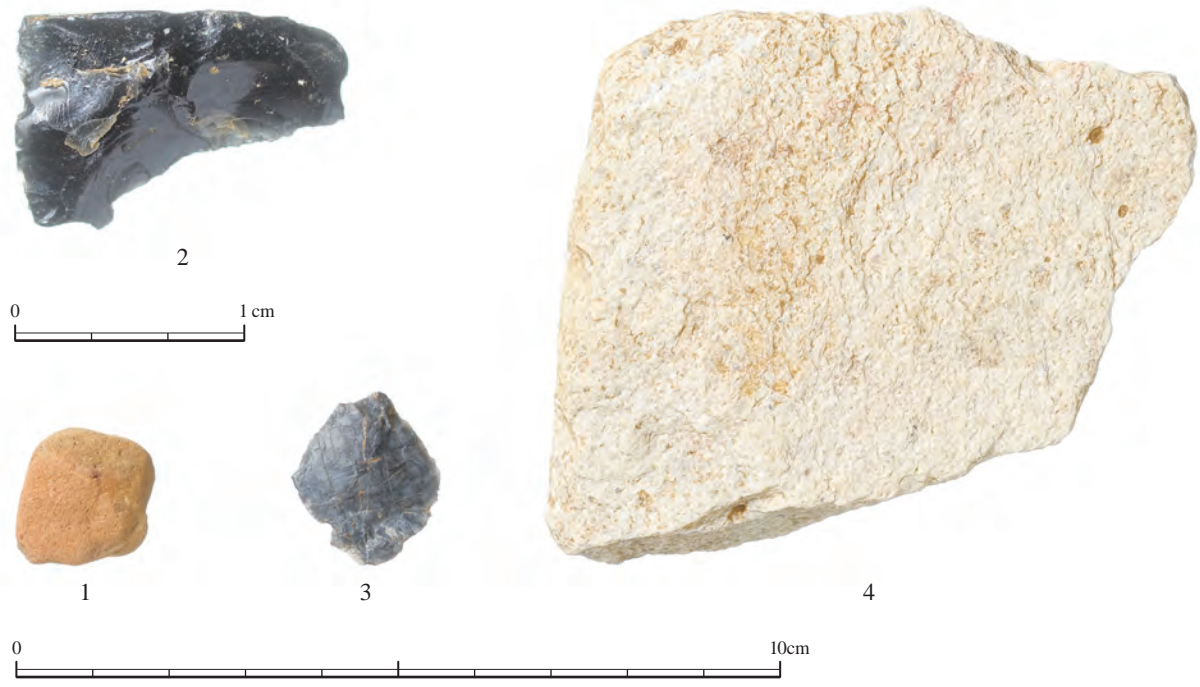
図版 34 フテ 24-D6-ア 北壁



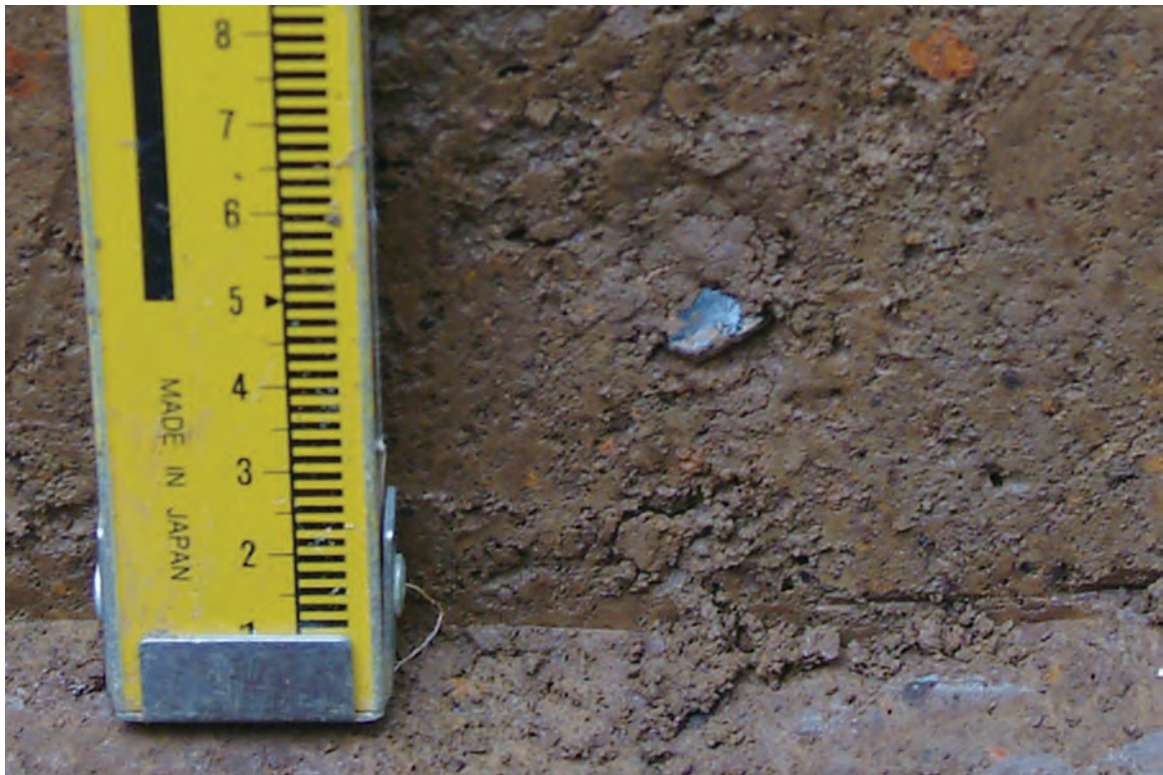
図版 35 フテ 24-D6- ア 東壁



図版 36 フテ 24-D6- ア 5層 耕具痕検出状況



図版 37 フテ 24-D6-ア 5～8層出土石器・石材



図版 38 フテ 24-D6-ア 黒曜石出土状況

種類 層序	土器		石材	中国産 染付	褐釉陶器	沖縄産 施釉陶器	沖縄産無釉陶器				炭化 物	焼土	合計				
	器種不明 胴部	石器					砂岩	小碗	器種不明	碗				壺	鉢	火炉	器種 不明
2層	1			1		1	1	1	1	1	1		9				
5層	1	1										2	4				
6層		1										4	5				
7層	3	1			1					1		11	17				
8層			1										1				
合計	5	3	1	1	1	1	1	1	1	2	1	17	36				

表6 フテ 24-D6- ア 遺物集計表



図版 39 フテ 24-D6- ア 完掘状況

⑦フテ 24-D6- オ

概要 赤土（マージ）層に礫敷と石積遺構が構築される。出土遺物から近世・近代頃の遺構とみられる。またこの試掘坑では地表下約1mから岩盤が検出されており、旧地形上でも比較的高地であったとみられる。

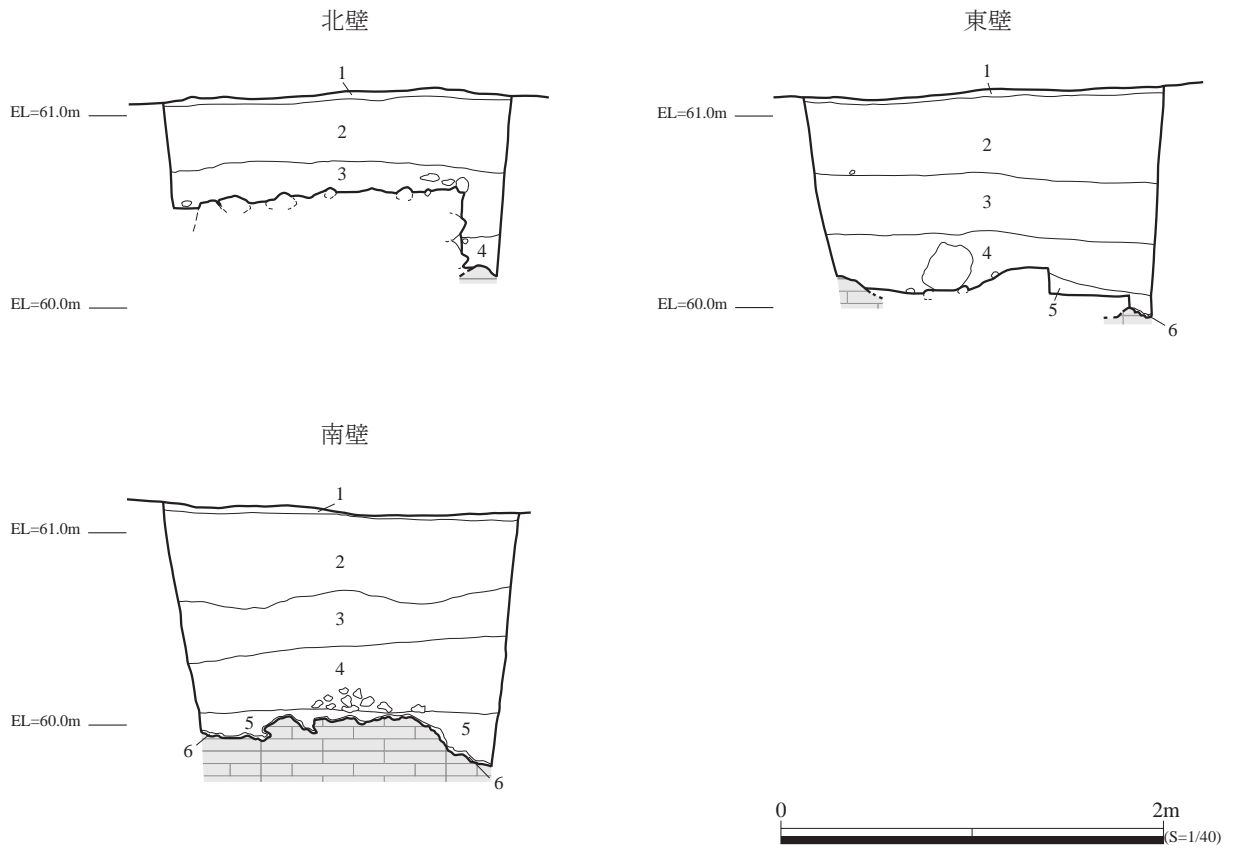
1～4層 表土の黒褐色砂質シルト層と造成の黄褐色粘質シルト層。3・4層も土質は2層とほぼ変わらず、石積遺構を埋める状況から2層同様に戦後の層と思われる。遺物に沖縄産陶器や鉄釘などの金属製品が出土している。

5・6層 赤土（マージ）層で、5層が明褐色粘質シルト、また5層と岩盤の間に薄く6層の褐色粘質シルトが堆積する。5層上面には近世・近代頃とみられる石積遺構が構築されているほか、礫敷される様子も伺える。

7層 岩盤の琉球石灰岩。

種類 層序	沖縄産施釉陶器			沖縄産無釉陶器			金属製品		炭化物	合計
	碗	小碗	鉢	挿り鉢	鉢	鉄製品				
						釘	器種不明 (重量(g))			
2層	1				1					2
2層or3層						1	(350)			1(350)
3層	1	1	1	1					1	5
合計	2	1	1	1	1	1	(350)		1	8(350)

表7 フテ 24-D6- オ 遺物集計表



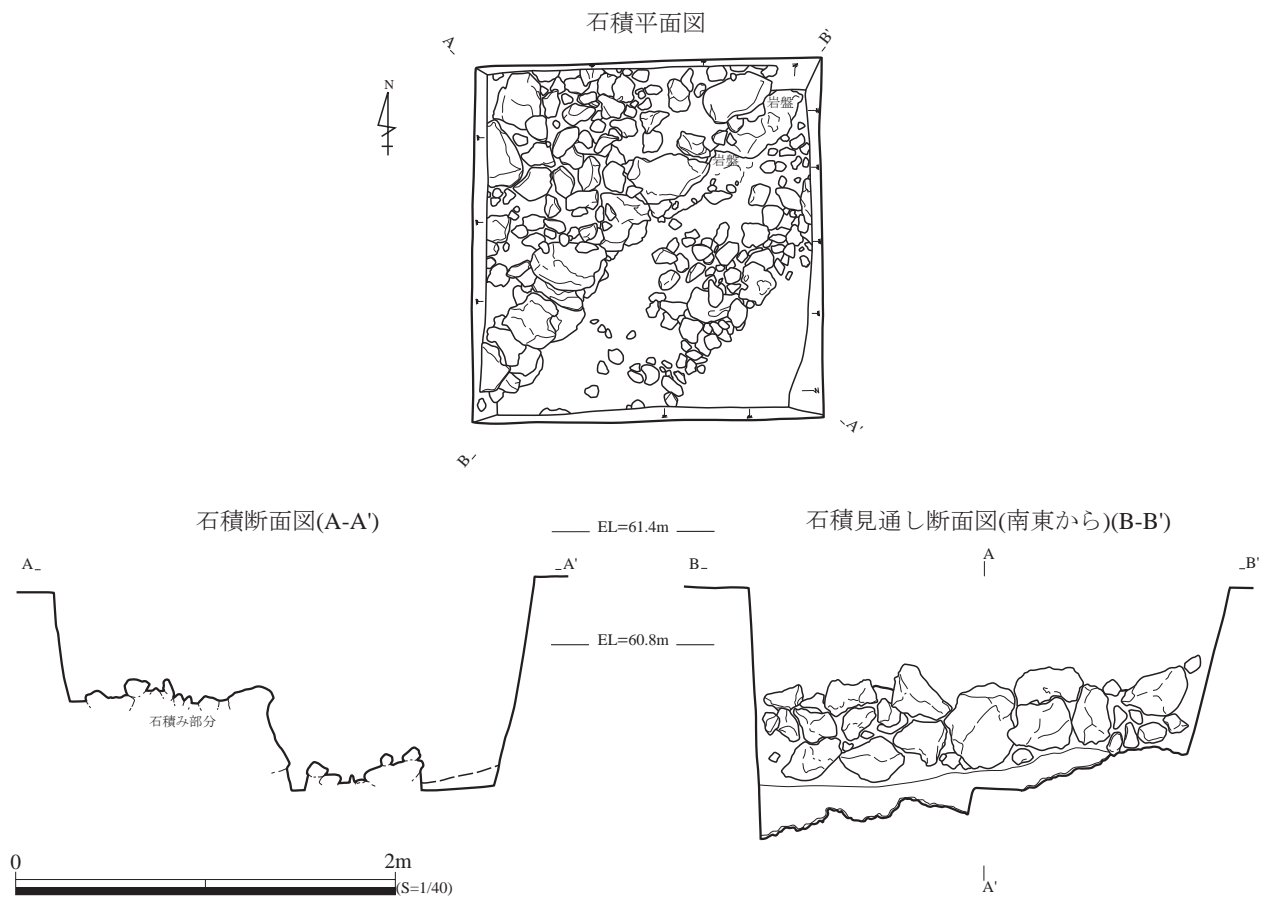
第 19 図 フテ 24-D6- オ 壁面図



図版 40 フテ 24-D6- オ 北壁



図版 41 フテ 24-D6-オ 南壁



第 20 図 フテ 24-D6-オ 石積遺構平面・断面図



図版 42 フテ 24-D6- オ5層 石積遺構検出状況



図版 43 フテ 24-D6- オ5層 石積遺構断面



図版 44 フテ 24-D6- オ5層 礎敷断面

⑧フテ 24-E7- ア

概要 近世・近代以降の耕作層と、グスク時代以降の包含層が確認される。また両者の間には時期不明の層が堆積しているが、全層を通じて人為的痕跡が希薄である。深度 2 m 以上で岩盤が確認されない地点における、地山が暗褐色から黄褐色へ変化していく様相は他の同じ性格の試掘坑と同様である。

1・2層 現表土の暗褐色腐植土、褐色の造成土層。本土産染付碗などが出土している。

3・4層 近世・近代以降の耕作土層で、うち3層は旧表土と目される。褐色の砂質シルト層。

5～8層 5層暗褐色砂質シルト、6層黒褐色粘質シルト、7層褐色・粘質、8層褐色粘質シルトと、深度が深くなるにつれて砂質から粘質、また暗褐色から褐色へと変化していく。遺物が1点も確認されなかったため、年代は不明。8層からはピットが1口検出されている。

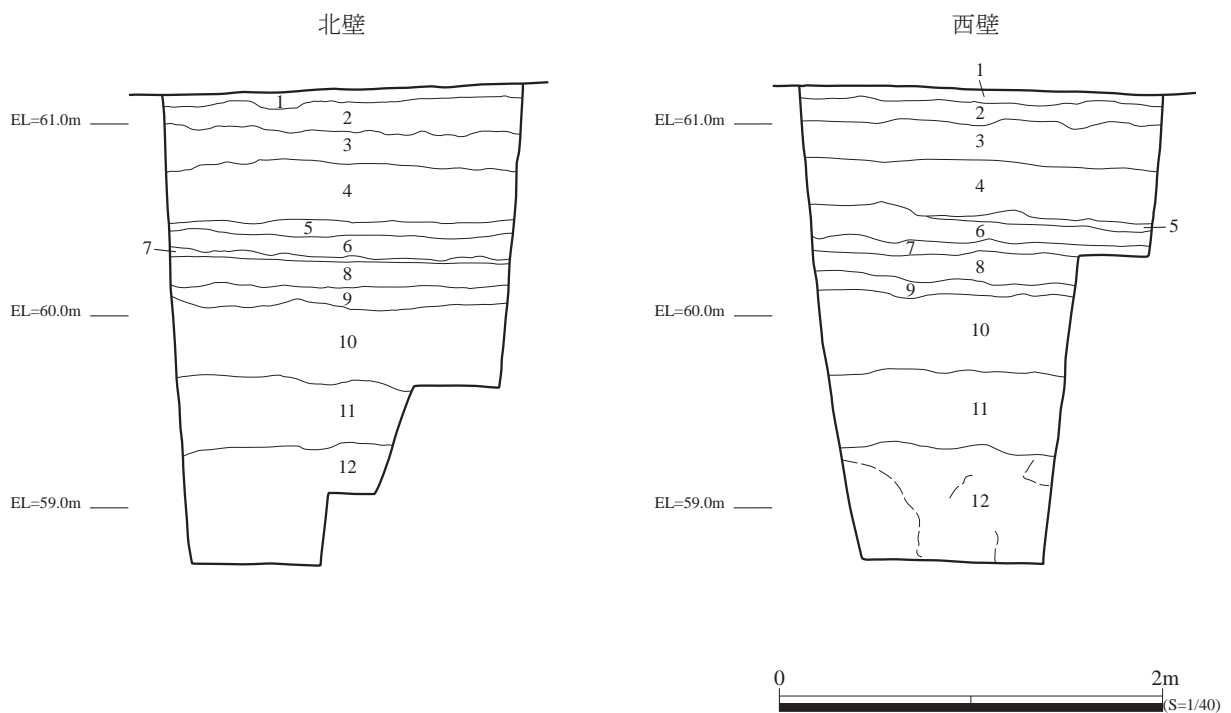
9層 黒褐色の粘質シルト層だが遺物の出土はなく年代不明。ただし10層で人為的な痕跡が確認されることから地山ではないようである。

10層 暗褐色の砂質シルト層。縄文時代晩期頃の土器2点と鉄滓が出土していることから、縄文時代晩期の包含層を攪拌したグスク時代以降の層と考えられる。

11・12層 地山の赤土（マーヅ層）。暗褐色粘質シルトから深度が下るにつれ黄褐色粘質シルトに変化していく。

種類 層序	土器	陶質土器	瓦質土器	近代	鍛冶関連	合計
	器種不明	器種不明	器種不明	本土産染付 碗	鉄滓	
	胴部					
2層		1	1	1		3
10層	2				1	3
合計	2	1	1	1	1	6

表8 フテ 24-E7-ア 遺物集計表



第21図 フテ 24-E7-ア 壁面図

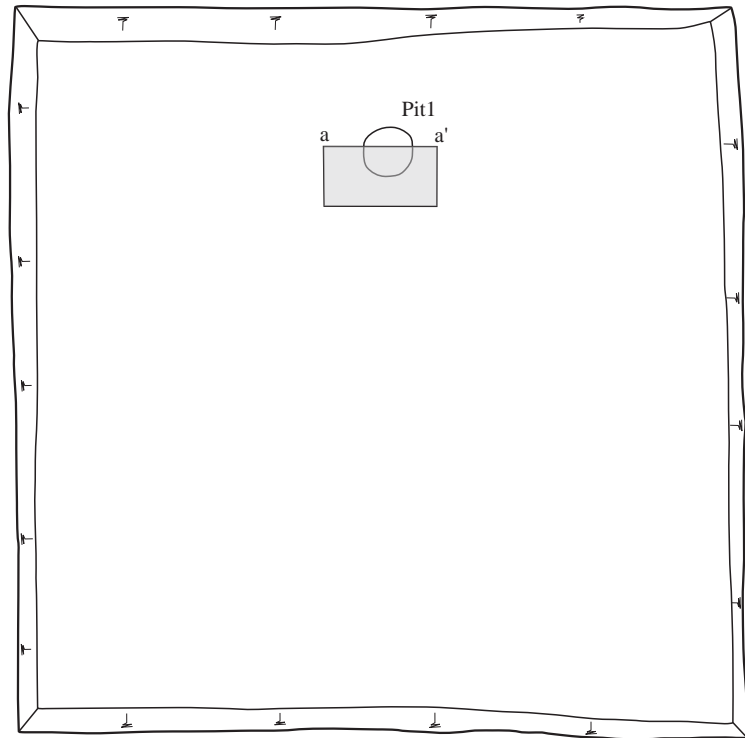


図版45 フテ 24-E7-ア 北壁

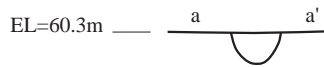


図版46 フテ 24-E7-ア 西壁

Pit平面図



Pit1断面図



第22図 フテ 24-E7-ア 8層 Pit1 平面・断面図



図版 47 フテ 24-E7-ア 8層 Pit 検出状況



図版 48 フテ 24-E7-ア 8層 Pit 半裁断面



図版 49 フテ 24-E7-ア 10層出土土器

第3節 神山黒数原第一遺跡

層序 縄文時代後晩期の遺物が含まれる層が確認されている。

遺構 なし。

遺物 主に縄文時代後晩期の土器、石器・石器石材など。

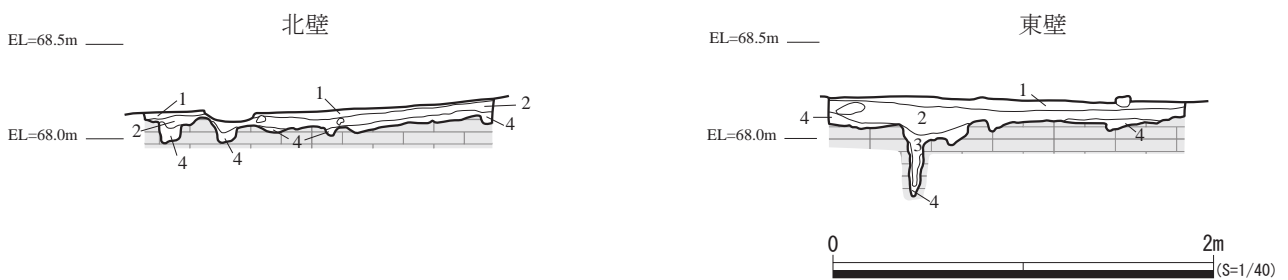
①フテ 24-G3- ア

概要 2層から縄文時代後晩期ごろの土器・石器が出土しているが、現地調査では異所からの流れ込みと想定されており、今後の確認調査において検証が必要である。

1層 黒褐色層で現表土。

2層 褐色層で縄文時代後晩期頃の土器とチャート片、磨面をもつ石片が出土。縄文時代後晩期頃の遺物包含層。

3・4層 暗褐色マージ層、その下には琉球石灰岩岩盤が確認される。岩盤は南東から北西方向へのフィッシャーが確認される。

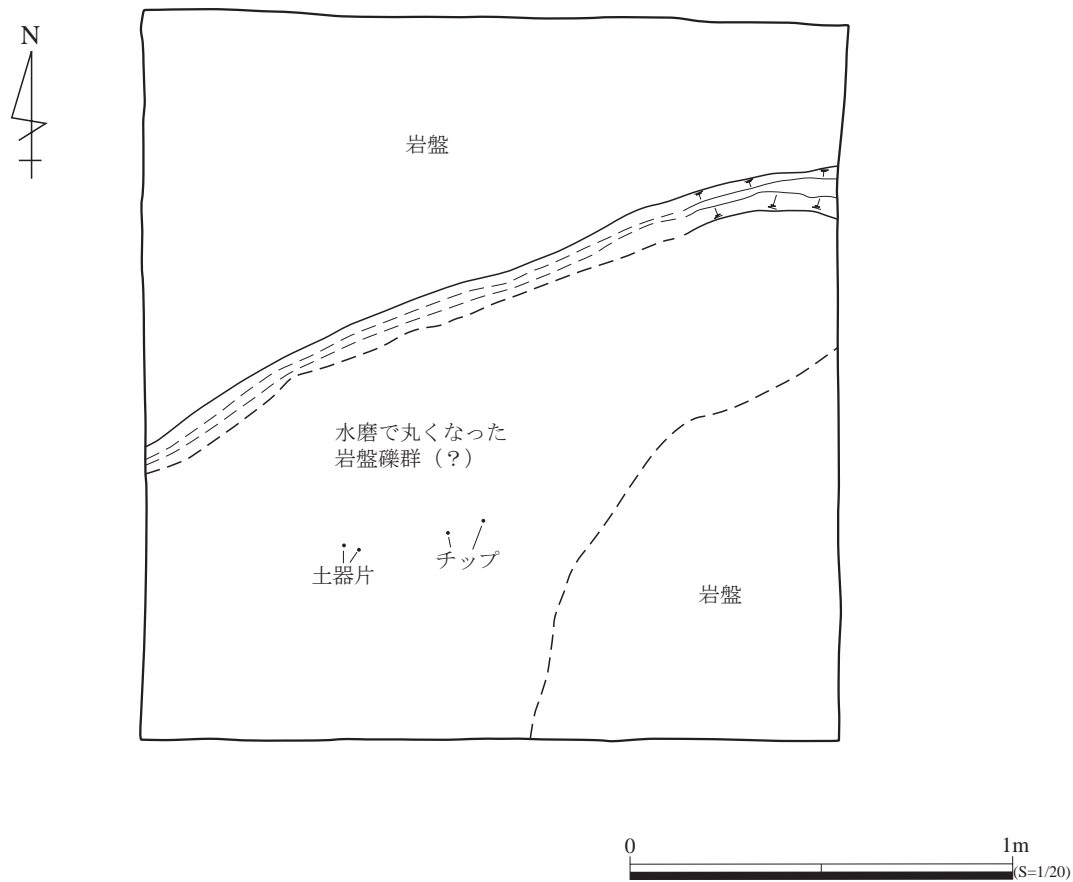


第23図 フテ 24-G3- ア 壁面図



図版 50 フテ 24-G3- ア 東壁

平面図



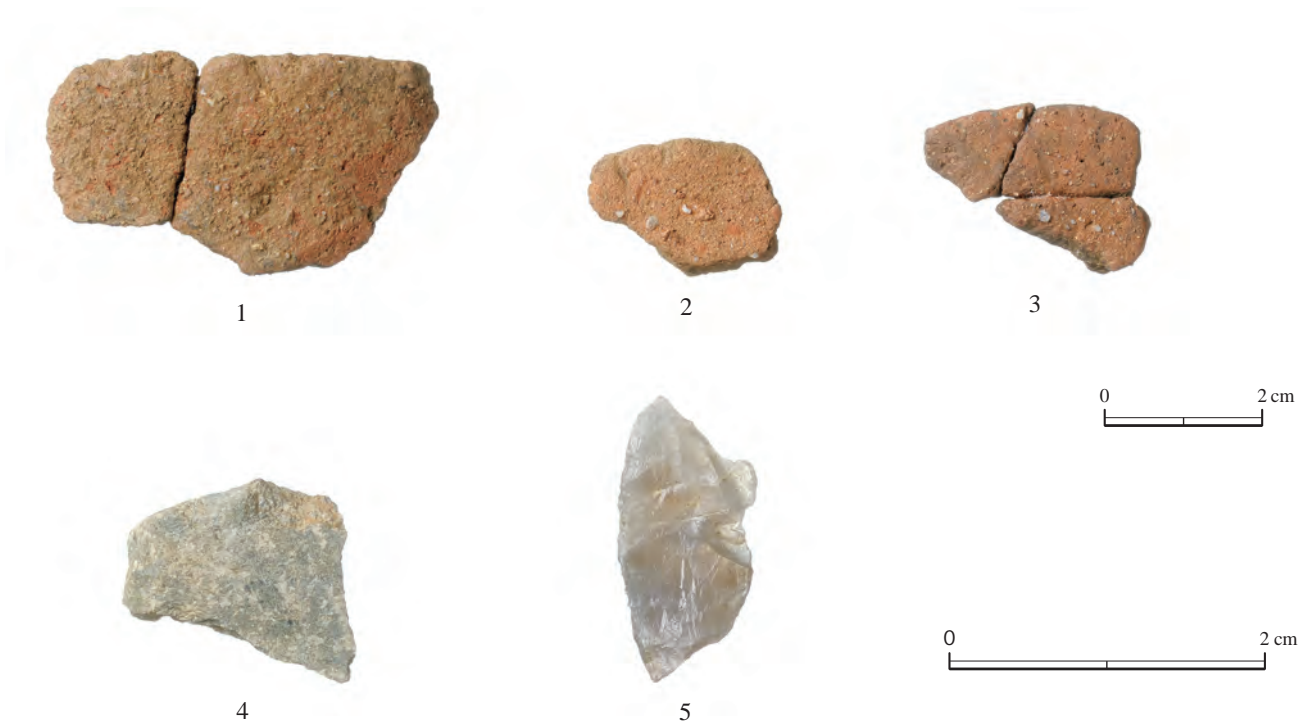
第 24 図 フテ 24-G3-ア 平面図



図版 51 フテ 24-G3-ア 遺物出土状況遠景



図版 52 フテ 24-G3-ア 土器出土状況



図版 53 フテ 24-G3- ア 2層出土遺物

層序	種類		沖縄産施釉陶器	沖縄産無釉陶器	合計
	土器	石器	器種不明	壺	
	器種不明 胴部				
1層			1	1	2
2層	9	2			11
合計	9	2	1	1	13

表 9 フテ 24-G3- ア 遺物集計表

第 4 節 神山黒数原第二遺跡

層序 近世・近代の耕作土層、時期不明の遺構を含む赤土層、縄文時代後晩期の遺物包含層である暗褐色粘質層が確認される。また遺物包含層下には赤土層と岩盤が確認される。

遺構 フテ 24-H10- オで年代不明のピット 1 口が確認されている。

遺物 フテ 24-H10- オの近世・近代層で沖縄産陶器など、フテ 25-G1- アの縄文時代後晩期の包含層からは縄文時代後晩期ごろの土器が出土している。

①フテ 24-H10- オ

概要 近世・近代の耕作土層と、時期不明のピット 1 口が検出されている。また赤土層下からは地表下約 1 m 付近で岩盤が確認され、旧地形上では比較的高所であったと考えられる。

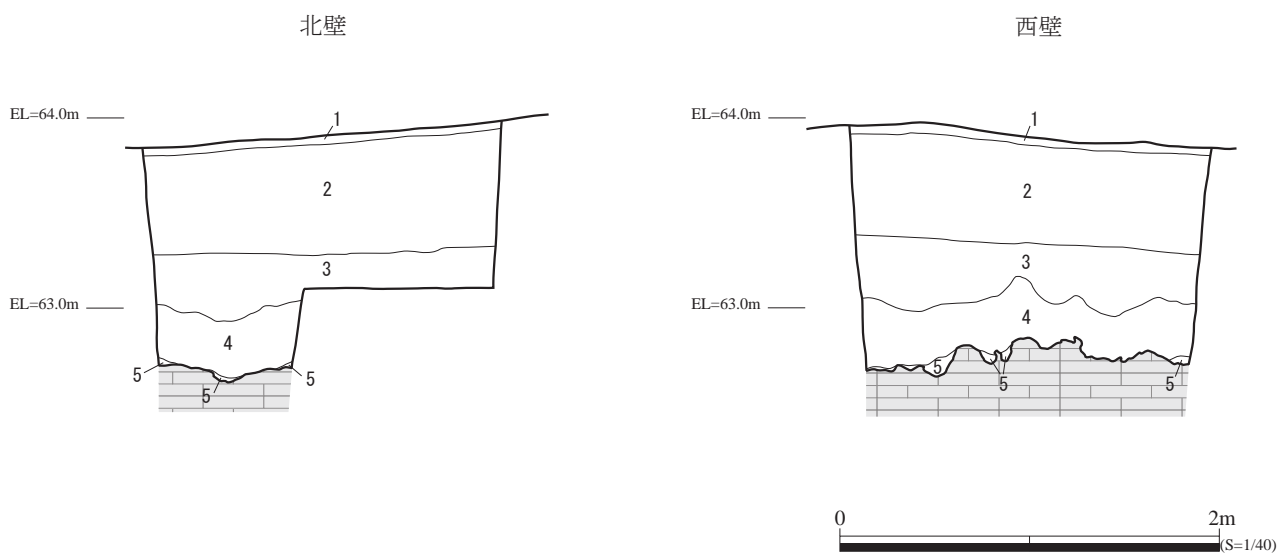
1層 表土の腐植土で黒褐色。

2層 近世・近代の耕作土層。灰黄褐色の砂質シルトで、沖縄産陶器や陶質土器が出土している。

3層 黄褐色粘質シルト（3層）の赤土層だが、ピット 1 口が検出されている。遺物がなく性格・年代とも不明である。

4・5層 地山とみられる赤土（マージ）層で、黄褐色砂質シルト（4層）、褐色粘質シルト（5層）と変化していく。

6層 琉球石灰岩の岩盤。



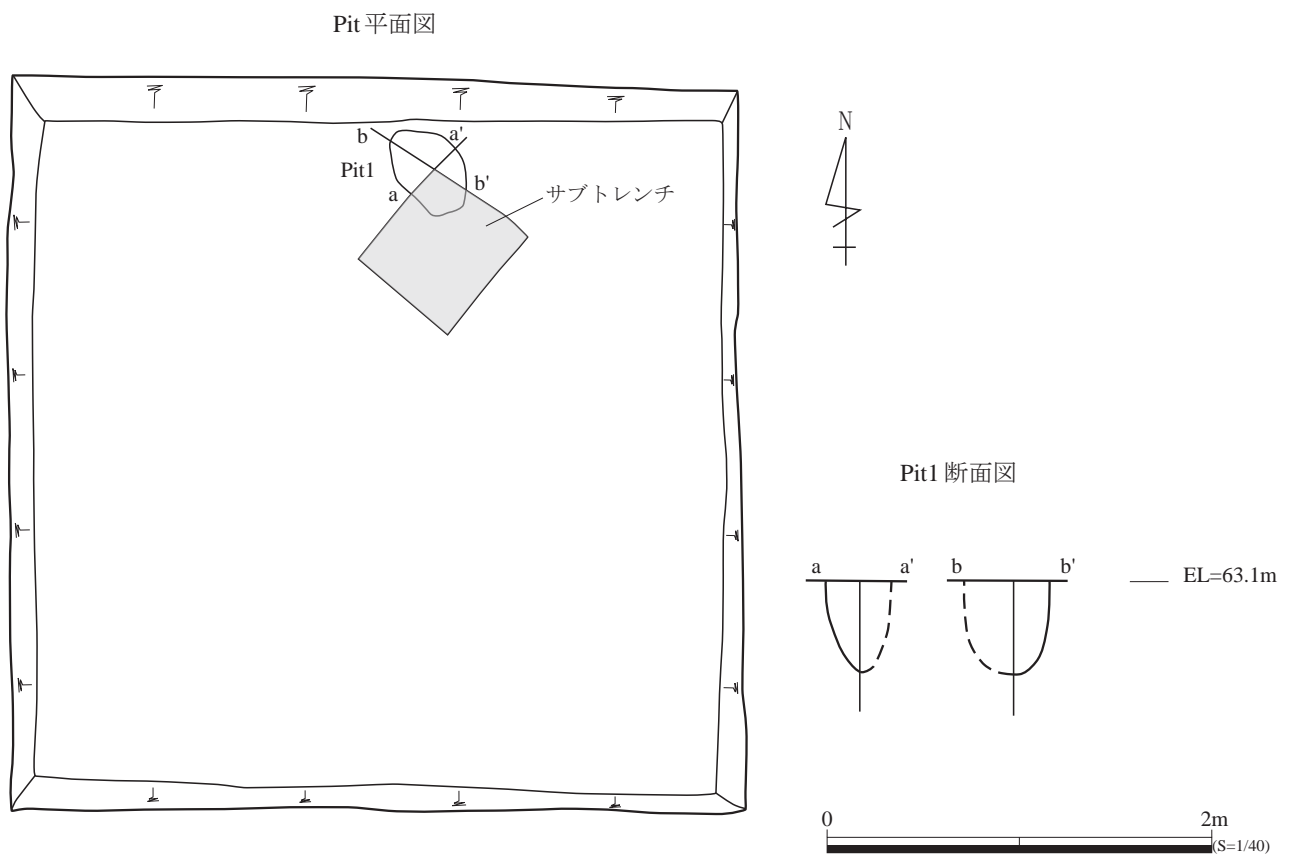
第 25 図 フテ 24-H10- オ 壁面図



図版 54 フテ 24-H10- オ 北壁



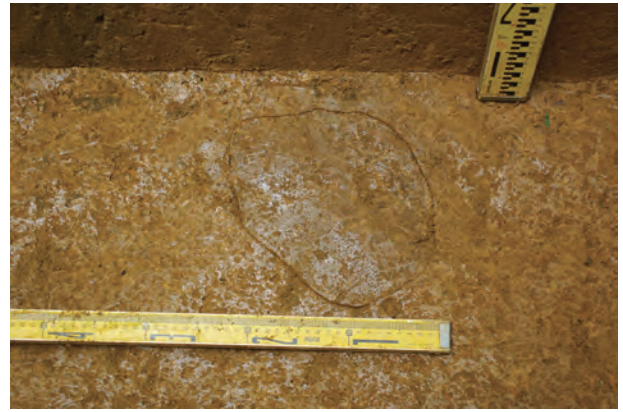
図版 55 フテ 24-H10- オ 西壁



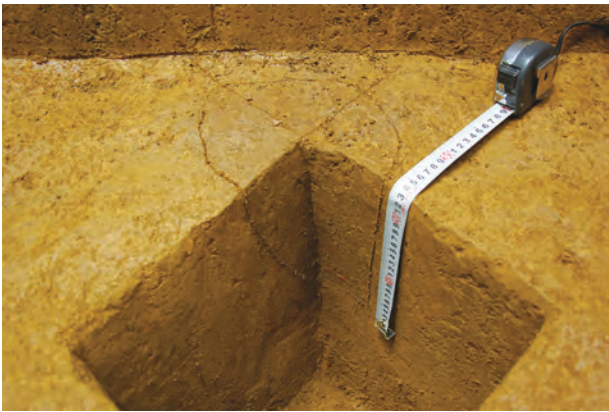
第 26 図 フテ 24-H10- オ Pit 平面・断面図



図版 56 フテ 24-H10- オ 3層 Pit 検出状況 (遠景)



図版 57 フテ 24-H10- オ 3層 Pit 検出状況 (近景)



図版 58 フテ 24-H10- オ 3層 Pit 半裁断面



図版 59 フテ 24-H10- オ 2層出土遺物

種類 層序	陶質土器	沖縄産施釉陶器	沖縄産無釉陶器	合計
	器種不明	碗	すり鉢	
2層	1	4	1	6
合計	1	4	1	6

表 10 フテ 24-H10- オ 遺物集計表

②フテ 25-G1- ア

概要 年代不明の耕作層と、縄文時代後晩期頃の遺物包含層が確認されている。また赤土層下からは一部のみだが岩盤も確認されている。

1層 黒褐色の砂質シルトで表土・腐植土層。

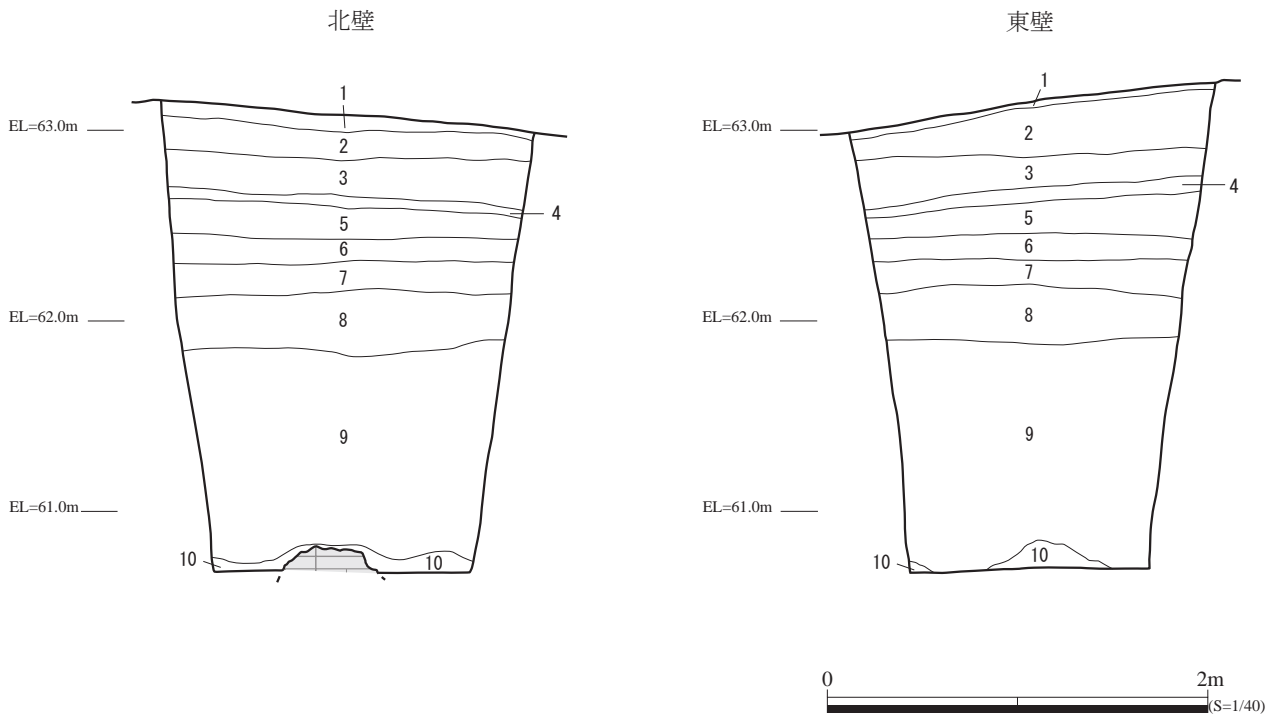
2～6層 耕作土だが、遺物がなく年代は不明。黄褐色砂質シルト（2層）、黄褐色砂質シルト（3層）、黒褐色砂質シルト（4層）、にぶい黄褐色粘質シルト（5層）、黒褐色粘質シルト（6層）と黄褐色と黒褐色が互層となる。また5層より砂質から粘質に変化する。

7層 暗褐色の粘質シルト層。カヤウチバンタ式の口縁部片（図版 62-1）を含む、縄文時代後晩期頃のものと思われる土器が出土しており、当該期の遺物包含層と考えられる。

8層 暗褐色粘質シルト層。7層と土質に大きな違いはみられないが遺物が含まれなくなるため、9層以下の層が変質した地山の可能性がある。

9・10層 地山の赤土（マーヅ）層。黄褐色砂質粘質シルト（9層）、褐色粘質シルト（10層）と変化する。

11層 琉球石灰岩の岩盤。



第 27 図 フテ 25-G1-ア 壁面図



図版 60 フテ 25-G1-ア 北壁



図版 61 フテ 25-G1-ア 東壁



図版 62 フテ 25-G1-ア 7層出土遺物

種類 層序	土器			焼土 (重量(g))	合計
	器種不明				
	口縁部	胴部	底部		
7層	3	18	1	(10.8)	22(10.8)
合計	3	18	1	(10.8)	22(10.8)

表 11 フテ 25-G1-ア 遺物集計表

第 5 節 神山黒数原古墓群

遺構 G4-アでは米軍造成土下から近世・近代墓の墓室が検出された。F2-オにも近世・近代墓に関連するとみられる石積遺構が検出されている。また H3-ニや C2-アでは同時期の道跡とみられる礫敷遺構、C2-ネからは耕具痕も検出されている。

遺物 家型厨子の屋根蓋など古墓に伴う遺物が出土している。また沖縄産陶器や瓦、本土産磁器などに加えて、フテ 25-C2-アではカットマークや被熱した獣骨、円盤状製品などの生活に伴う遺物も得られている。

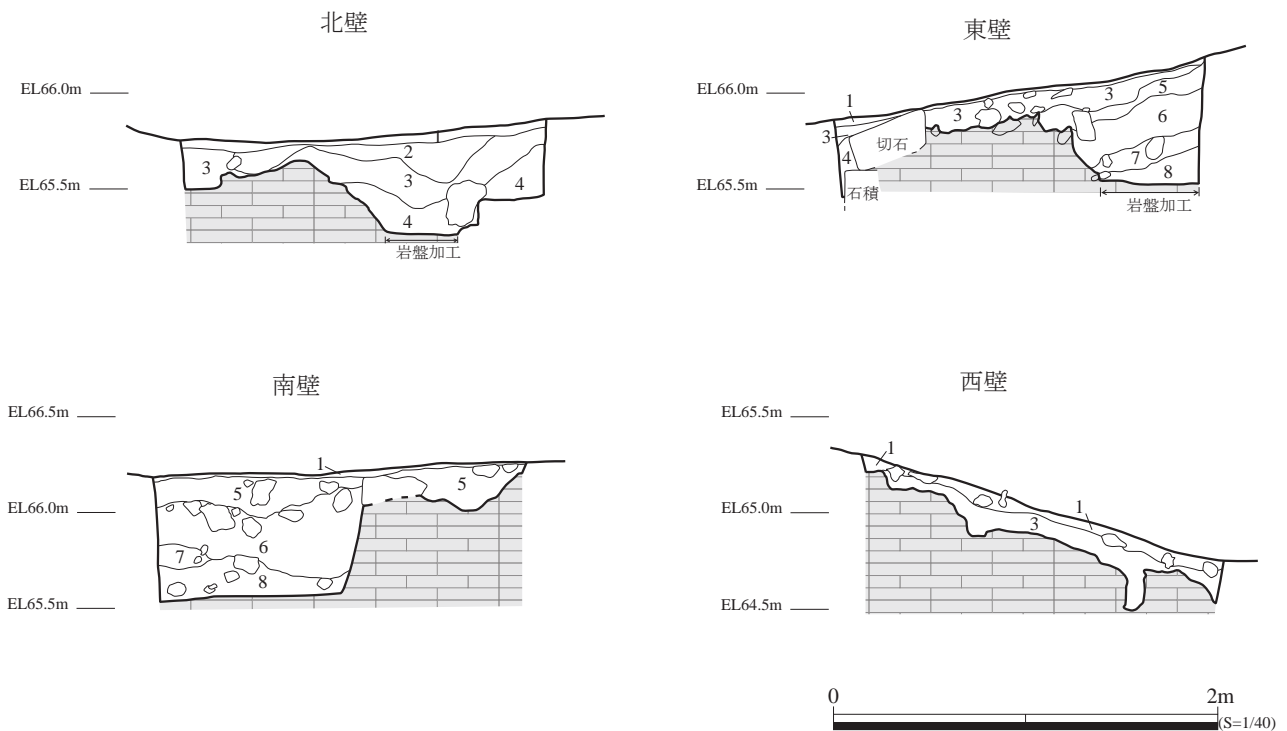
①フテ 24-F2-オ

概要 岩盤直上に石積遺構が検出。出土遺物から墓との関連性が窺える。

1層 表土及び腐植土で褐色層。家形厨子の破片が表採されている。

2～8層 米軍による造成土層。沖縄産陶器や金属製品などが出土しているが、その中には土器や家形厨子の屋根蓋(図版 66-1)が含まれる。後者には銘書も残されるが解読できず、その内容については今後の課題である。

岩盤 琉球石灰岩の岩盤が確認されている。岩盤直上には切石の石積遺構が確認されている。



第 28 図 フテ 24-F2-オ 壁面図

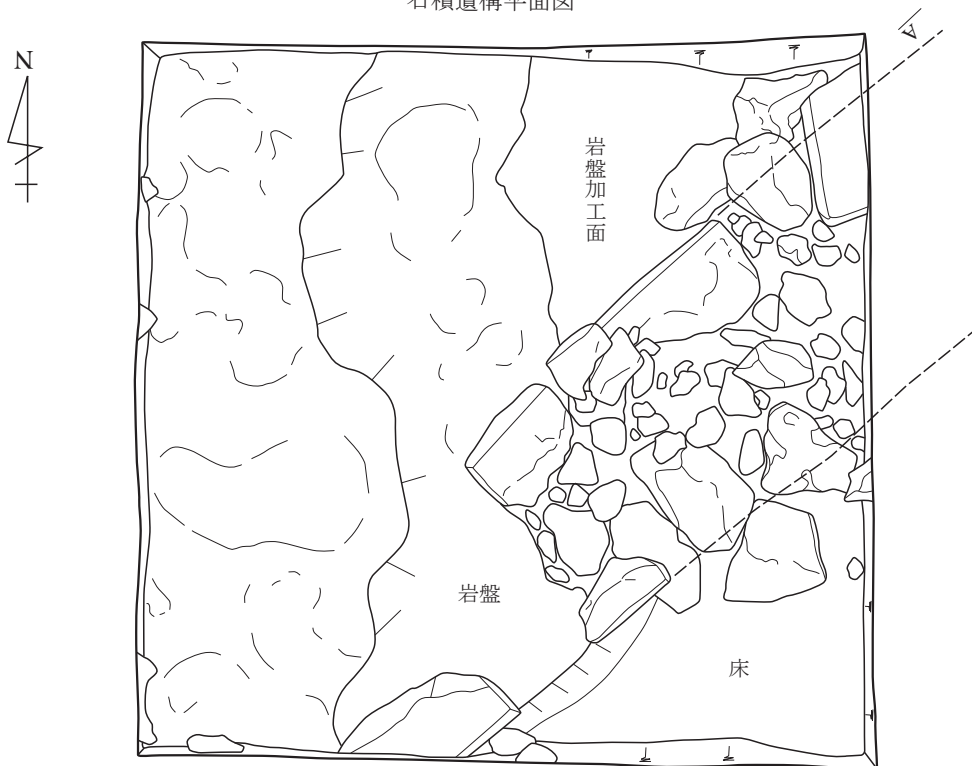


図版63 フテ24-F2-オ 北壁



図版64 フテ24-F2-オ 東壁

石積遺構平面図



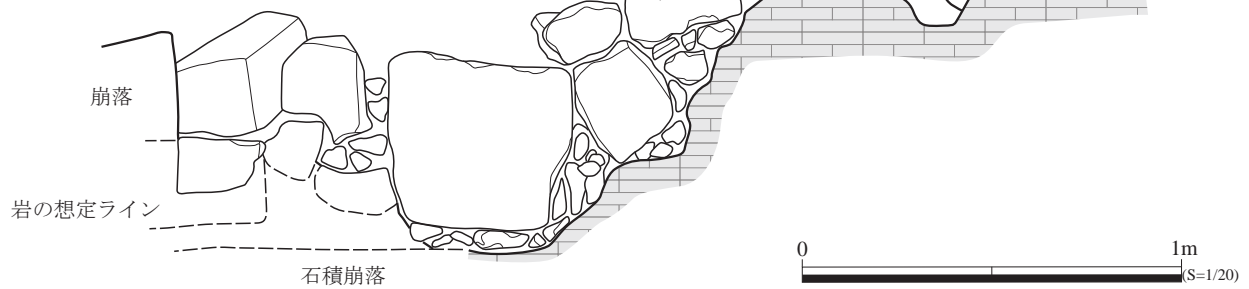
EL=66.5m

A

石積遺構断面見通し図

A'

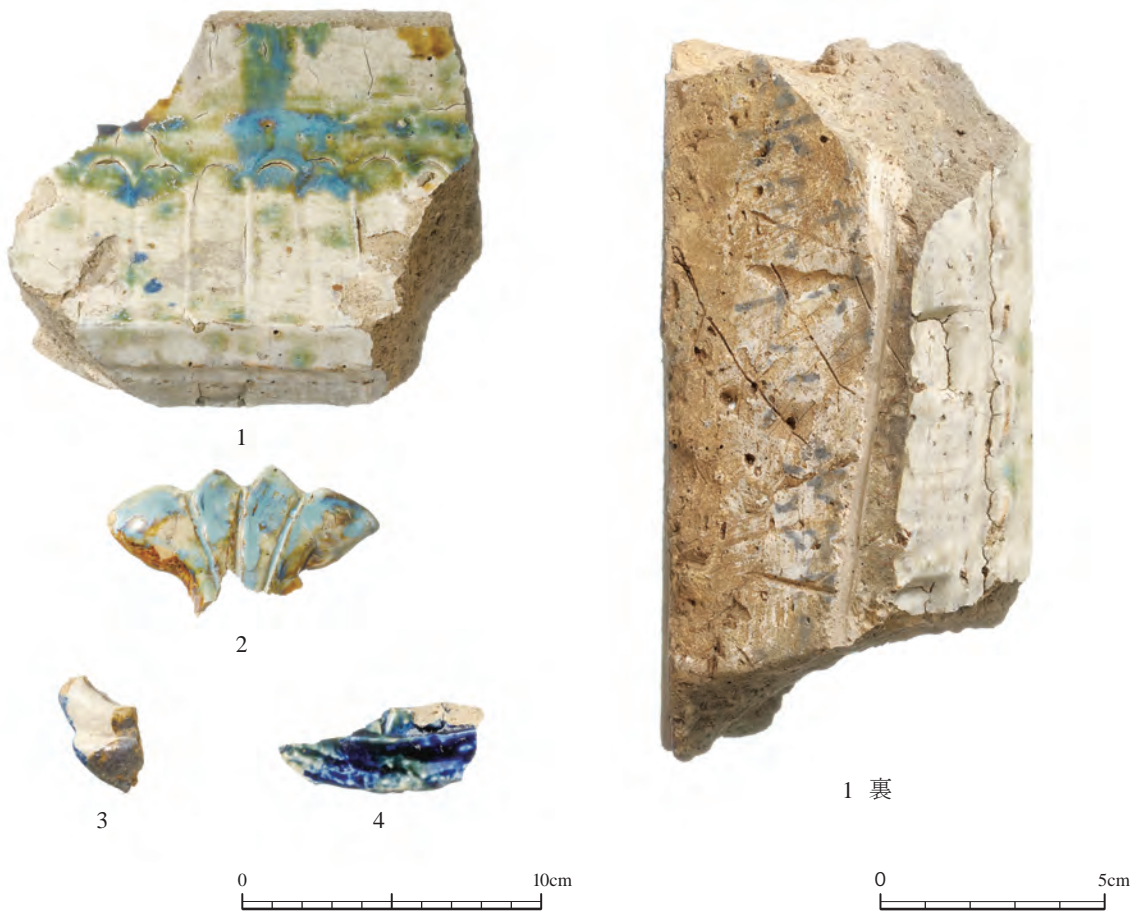
EL=66.0m



第29図 フテ 24-F2-オ 石積遺構平面・断面見通し図



図版 65 フテ 24-F2- オ 石積検出状況



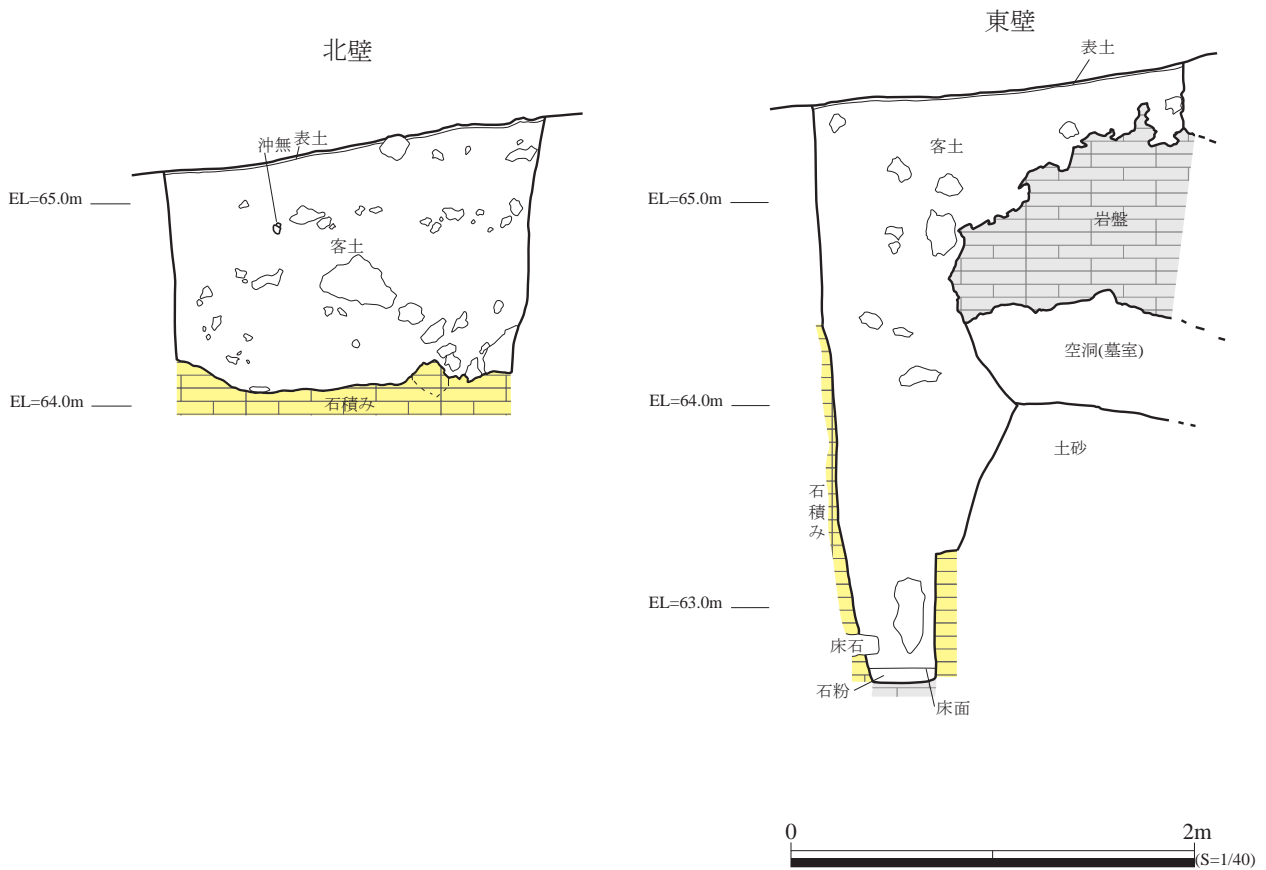
図版 66 フテ 24-F2- オ 2～4層出土遺物

種類 層序	土器		石	沖縄産 施釉陶器		沖縄産 無釉陶器		金属製品		炭化物	合計
	器種不明	胴部		家形厨子	鉢	器種不明	鉄製品				
			器種不明 (重量(g))								
2～8層	1		3	24	2	4	1(11.4)		1	36(11.4)	
表採				1						1	
合計	1		3	25	2	4	1(11.4)		1	37(11.4)	

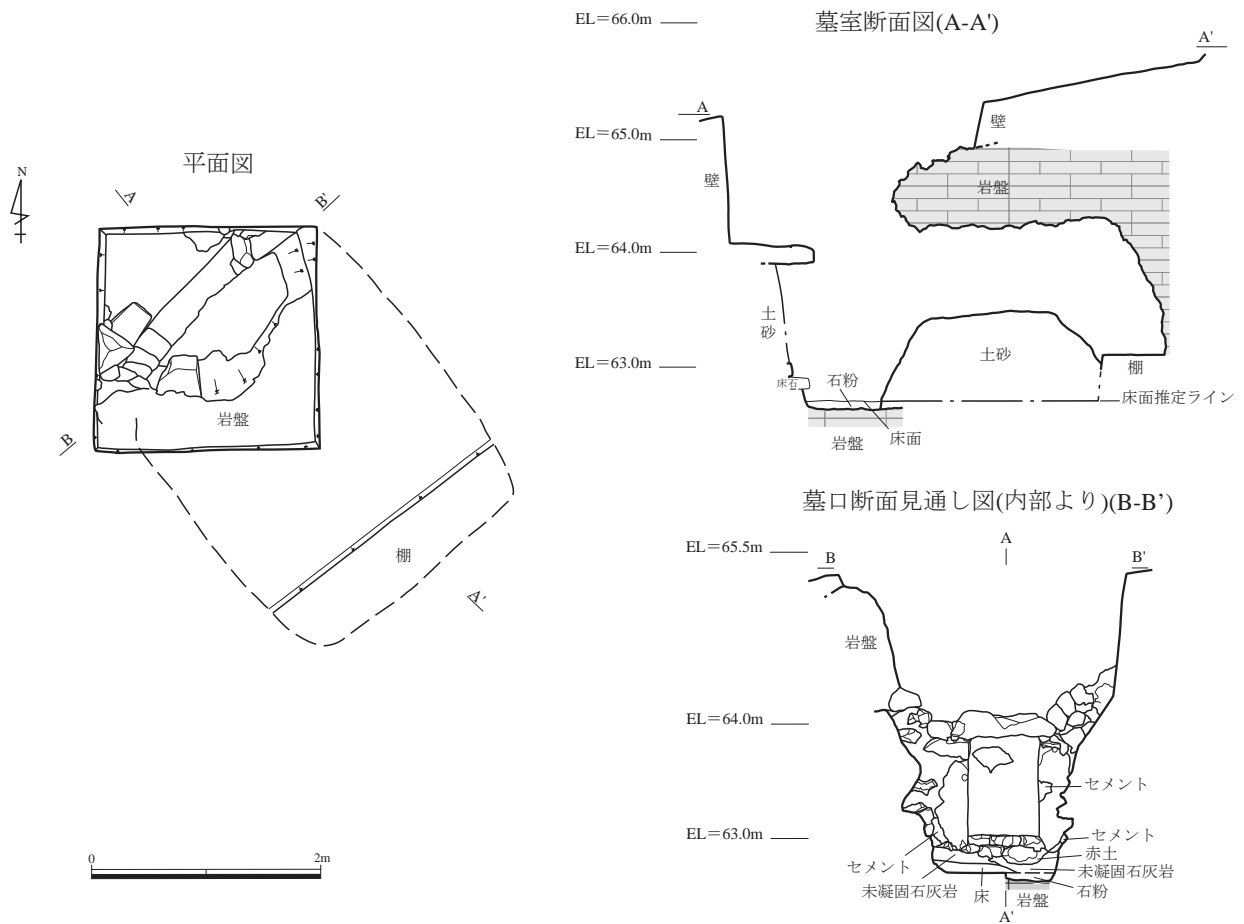
表 12 フテ 24-F2- オ 遺物集計表

②フテ 24-G4- ア

概要 近世・近代ごろとみられる古墓の墓室が包蔵される。戦後の基地建設に伴う造成によって埋められたとみられるが、その客土は深い所では2 m以上にも及んでいる。遺物は近代の本土産青磁・白磁、沖縄産陶器、明朝系赤瓦、鎖などの金属製品、ガラス、タイルなど多岐に及ぶが、いずれも客土中からの出土物である。



第 30 図 フテ 24-G4- ア 壁面図



第 31 図 フテ 24-G4- ア 墓室平面・断面見通し図



図版 67 フテ 24-G4- ア 墓室検出状況



図版 68 フテ 24-G4- ア 墓室床面検出状況



図版 69 フテ 24-G4- ア 墓口 (内部から)



図版 70 フテ 24-G4- ア 客土内出土遺物

種類 層序	石	近代		沖縄産無釉陶器		瓦			埴?	金属製品		鍛冶関連	ガラス製品		焼土	現代遺物	合計
		本土産 青磁 皿	本土産 白磁 器種不明	壺or甕	植木鉢	明朝系				青銅製品 鎖	鉄製品 器種不明	鉄滓	瓶	器種不明		タイル	
						平瓦	丸瓦	破片									
表土						1											1
客土	2	1	1	1	1	7	2	14	1	1	2	1	1	1	2	3	41
合計	2	1	1	1	1	8	2	14	1	1	2	1	1	1	2	3	42

表 13 フテ 24-G4- ア 遺物集計表

③フテ 24-H3- ニ

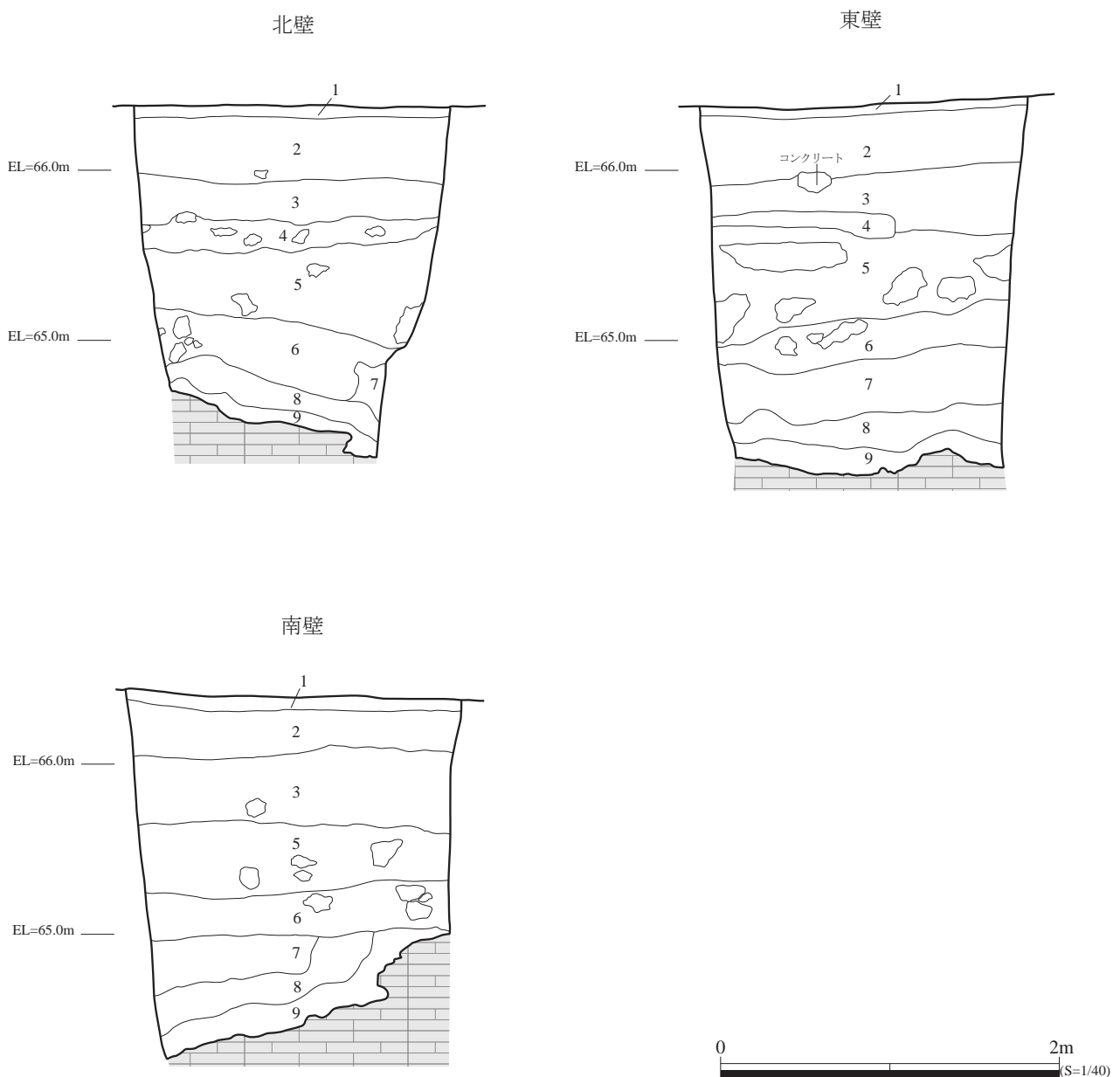
概要 4層に近代頃の道跡とみられる礫敷遺構と造成が確認される。

1～3層 黒褐色の現表土（1層）と、米軍造成土のにぶい赤褐色土（2層）及び粘質の褐色土層（3層）。遺物には中国産染付碗や沖縄産陶器、円盤状製品、ネジ等金属製品などが得られている。

4～6層 戦前から戦後直後頃にかけての層とみられ、コーラルの敷かれた礫敷遺構（4層）が検出され、往時の道跡の可能性が挙げられる。コーラル下には粘質の褐色土層（5層）が堆積し、遺物には本土産染付や本土産陶器、沖縄産陶器、針金等金属製品が出土している。またその下の褐色土層（6層）は、地山の7層の土がブロック状に混入するなど、地山を改変した層である様相が窺える。

7～10層 地山の赤土（マージ）層とみられる。粘質の明褐色シルト層（7層）上面には遺構の可能性のある土坑が確認される。その下は明褐色シルト層（8層）、黄褐色の砂質シルト層（9層）、岩盤直上には極めて薄い黄褐色の粘質シルト層が堆積する。

11層 琉球石灰岩の岩盤。



第 32 図 フテ 24-H3- ニ 壁面図 ※ 10層は薄いため図に掲載できず。



図版 71 フテ 24-H3- ニ 北壁



図版 72 フテ 24-H3- ニ 東壁



図版 73 フテ 24-H3- ニ 4 層 礎敷遺構検出状況



図版 74 フテ 24-H3- ニ 2・3 層出土遺物



図版 75 フテ 24-H3- ニ 4～6 層出土遺物



図版 76 フテ 24-H3- ニ 4 層 遺物出土状況



図版 77 フテ 24-H3- ニ 7 層 遺構? 検出状況

層序	種類		中国産 染付 碗	本土産 陶器 器種不明	近代 本土産染付 碗	沖縄産施 釉陶器 碗	沖縄産 無釉陶器		瓦				
	陶質土器 器種不明	石					蓋	器種不明	明朝系		不明		
									平瓦	平瓦	丸瓦	破片	
2層						1							
3層	1		1			2		1				1	1
4~6層	1	2		1	1		1	1	2	2			
合計	2	2	1	1	1	3	1	2	2	2		1	1

層序	種類	円盤状製品	金属製品					漆喰	ガラス 製品	焼土	合計
			鉄製品								
			本土産陶器	ネジ	針金	釘?	ナット				
2層		1						1	2	5	
3層			1			1				10(5)	
4~6層				3	1					21	
合計		1	1	3	1	1		4(5)	1	2	36(5)

表 14 フテ 24-H3- ニ 遺物集計表

④フテ 25-C2- ア

概要 3・4層に道跡の可能性ある石敷遺構が検出されている。またこの試掘坑からは近世・近代ごろとみられる時期の遺物が多量に出土している。これらには生活用具とみられる陶磁器類に加えて、カットマークや被熱の痕跡の残る獣骨や貝類なども含まれている。

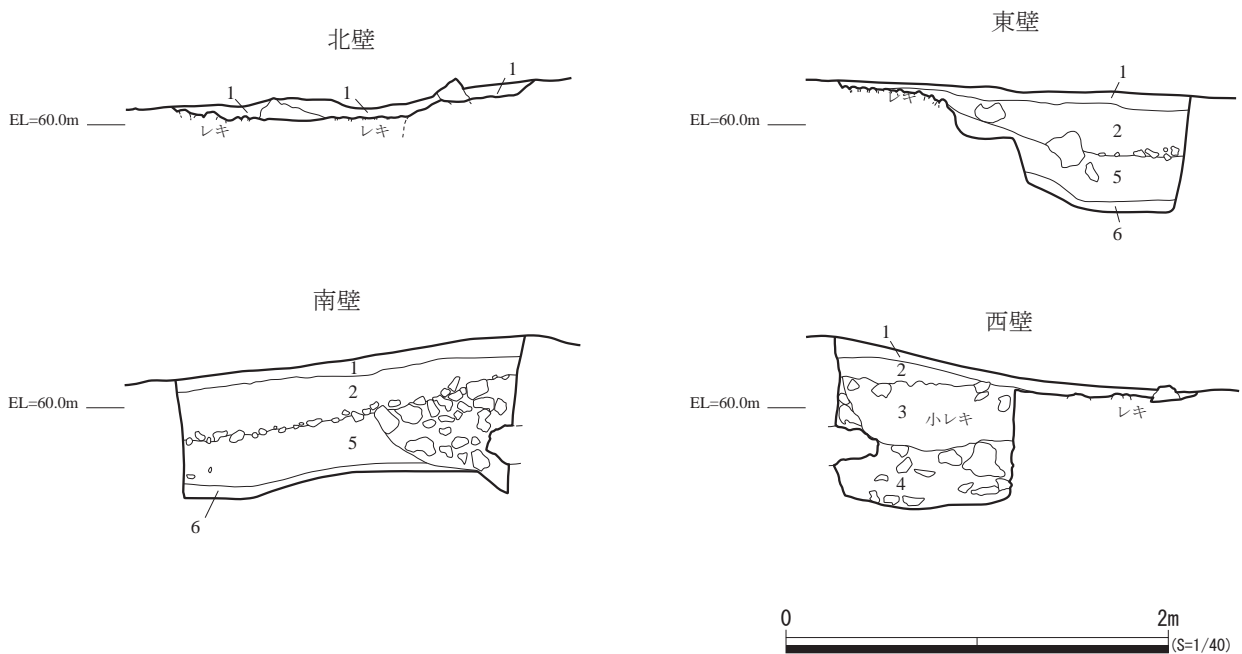
1層 暗褐色土の表土及び腐植土層。出土遺物には沖縄産陶器や陶質土器、瓦などに混じり中国産染付の小碗も確認される。

2層 暗褐色土層。米軍の造成土か。出土遺物は沖縄産陶器や陶質土器、円盤状製品（図版 87-14）、骨・貝類などが得られている。

3・4層 石敷遺構及びその関連層。3層は石敷遺構で、小礫と覆土の暗褐色土で構成される。石敷遺構は溝状掘込を礫で充填するような構造となっている。本土産白磁や沖縄産陶器などの出土遺物から近世・近代頃の年代が推定される。4層は拳大程度の石灰岩礫が混じり、3層に比べて粘性の強くしまりがある。沖縄産陶器などが出土しているため3層と大きな時期差はないとみられるが、本時調査では少ないウシ・ブタ骨や貝類が出土している。骨はほとんどが被熱しているほか、1点にはカットマークも認められる。

5層 褐色土でしまりが強い。骨・貝などが出土しているが年代を示す遺物は得られていない。

6層 地山の赤土（島尻マーヅ）層。褐色シルト。



第 33 図 フテ 25-C2- ア 壁面図



図版 78 フテ 25-C2- ア 調査前



図版 79 フテ 25-C2- ア 北壁



図版 80 フテ 25-C2-ア 東壁

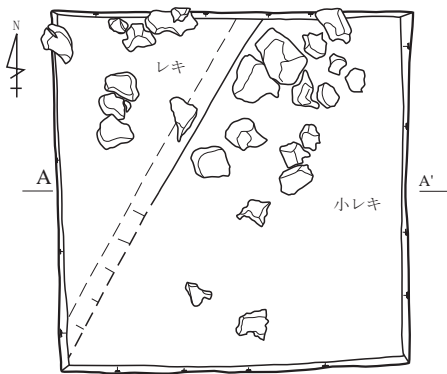


図版 81 フテ 25-C2-ア 南壁

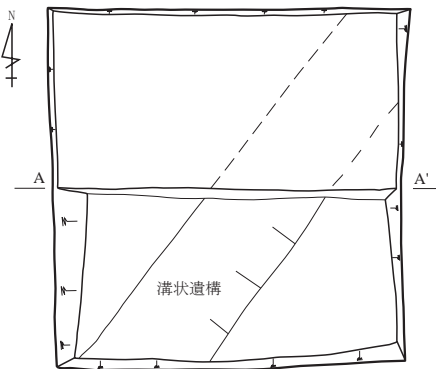


図版 82 フテ 25-C2- ア 西壁

石敷道？平面

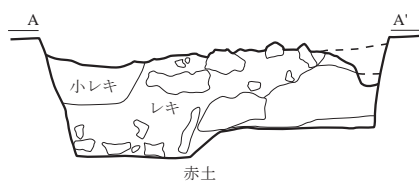


石敷下溝状遺構



石敷断面

EL60.500m



0 2m (S=1/40)

第 34 図 フテ 25-C2- ア 3 層 石敷平面・断面図



図版 83 フテ 25-C2- ア 2 層 石敷遺構



図版 84 フテ 25-C2- ア 2 層 石敷遺構断面



図版 85 フテ 25-C2-ア 1層出土遺物



1



2



図版 86 フテ 25-C2-ア 2～5層出土遺物 1



図版 87 フテ 25-C2-ア 2～5層出土遺物 2



図版 88 フテ 25-C2- ア 3・4層出土遺物

分類	ブタ?		ウシ		ウシ?	哺乳類		合計
	尺骨 右 近位端	脛骨 左 近位部	寛骨 右 腸骨片	寛骨 左 恥骨片	椎骨 骨片	四肢骨 骨幹片	不明 骨片	
2層			1				16	17
3・4層		1		1	1	3	11	17
5層	1							1
合計	1	1	1	1	1	3	27	35

表 15 フテ 25-C2- ア 脊椎動物遺存体出土状況

出土地				1層			2層			3層・4層			4層			合計			個体数	
番号	科名	種名	生息地	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片		
1	ニシキウズガイ科	ニシキウズ	I-2-a							1		1				1		1	1	
2		ギンタカハマ	I-4-a									1					1		1	
3		サラサバテイラ	I-4-a					1					1						2	2
4	オニノツノガイ科	オニノツノガイ	I-2-c					1	1			2						3	1	3
5	スイショウガイ科	マガキガイ	I-2-c							4		1				4			1	4
6		クモガイ	I-2-c						1				1						2	1
7	タカラガイ科	ヤクシマダカラ(幼)	I-2-c									1						1		1
8	イトマキボラ科	イトマキボラ	I-2-a	1										1		1	1	1		2
9	イモガイ科	不明										1	1					1	1	1
小計				1				2	2	5	6	4			1	6	9	6	16	

表 16 フテ 25-C2-ア 貝類遺存体出土状況(巻貝)

出土地				2層			3層・4層					合計					個体数	
番号	科名	種名	生息地	完形		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片		
				L	R		L	R	L	R		L	R	L	R			
1	フネガイ科	リュウキュウサルボオ	II-2-c		1							1		1			1	1
2	ウミギク科	メンガイの一種	I-2-a									1					1	1
3	ザルガイ科	カワラガイ	II-2-c	1	1								1	1				1
4	シャコガイ科	シラナミ類	I-2-a						1						1			1
5	ニッコウガイ科	リュウキュウシラトリ	II-1-c								1						1	1
6	シオサザナミ科	リュウキュウマスオ	II-1-c								1						1	1
7	マルスダレガイ科	ヌノメガイ	II-1-c	1	1								1	1				1
小計				2	3					1	2	2	2	3	1	2	2	7

表 17 フテ 25-C2-ア 貝類遺存体出土状況(二枚貝)

種類	陶質土器				石材		中国産染付	本土産磁器	沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器	
	鍋	火炉	急須	器種不明	石英	緑色片岩	小碗	白磁 小碗	碗	器種不明	播り鉢	器種不明
1層				2			2		2		1	3
2層	1		1	6		1			2		2	2
2層(3・4層直上)	1		2	31	1				6		4	3
3層				1								
3・4層	1	1	1	20				2	5	4	3	6
4層				2								
合計	3	1	4	62	1	1	2	2	15	4	10	14

種類	瓦		円盤状製品	金属製品	合計
	明朝系		沖縄産 無釉陶器	鉄製品 器種不明	
	平瓦	丸瓦			
1層	1	1	1	1	14
2層					15
2層(3・4層直上)			1		49
3層					1
3・4層					43
4層					2
合計	1	1	2	1	124

表 18 フテ 25-C2-ア 遺物集計表

⑤フテ 25-C2- ネ

概要 耕作土層と地山面直上に耕具痕が検出されることから、近代の耕地とみられる。

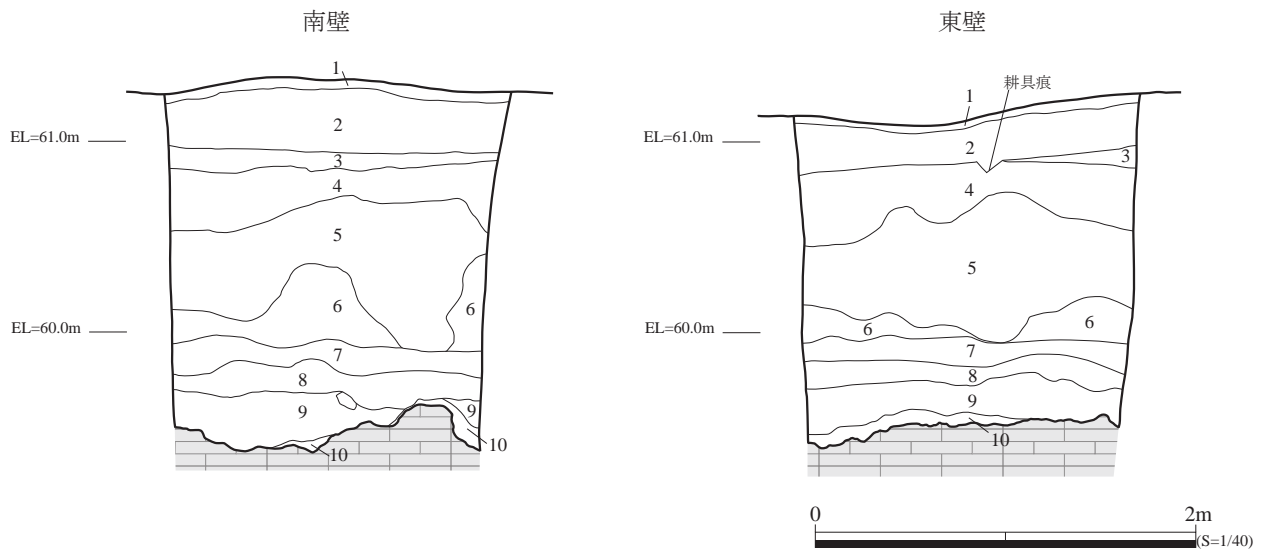
1層 表土層。黒褐色の腐植土。陶質土器の火炉 1 点が得られている。

2層 米軍の造成土。粘性が強く礫が多く混じる褐色土。

3層 耕作土。褐色の砂質シルト。遺物は出土していないが、1・2層からの出土遺物から近代と推定される。

4～10層 地山の赤土層。褐色砂質シルト(4層)、黄褐色砂質粘質シルト(5・6層)、褐色砂質シルト(7・8層)、黄褐色砂質シルト(9層)、岩盤付近の褐色粘質シルト(10層)と変化している。4層上面には耕具痕が検出されている。

11層 琉球石灰岩の岩盤。



第 35 図 フテ 25-C2- ネ 壁面図



図版 89 フテ 25-C2- ネ 南壁



図版 90 フテ 25-C2- ネ 東壁



図版 91 フテ 25-C2- ネ 4 層直上 耕具痕検出状況



図版 92 フテ 25-C2-ネ 出土遺物

種類 層序	陶質土器	クロム青磁	合計
	火炉	器種不明	
1層	1		1
2層		1	1
合計	1	1	2

表 19 フテ 25-C2-ネ 遺物集計表

第 6 節 その他

①フテ 25-11-ノ

概要 地山を掘り込んだ土坑が検出されている。近世・近代ごろの年代と想定されるが性格は不明。

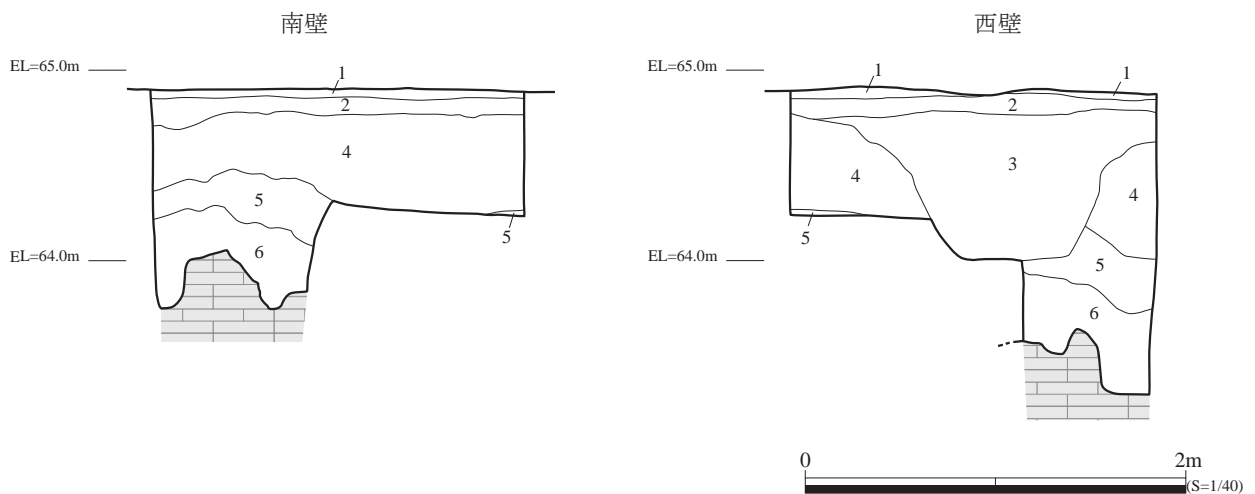
1層 表土。黒褐色砂質シルトの腐植土。

2層 旧表土もしくは耕作土層。にぶい黄褐色の砂質シルト。

3層 土坑覆土。黄褐色の砂質粘質シルトで地山の赤土とみられる 4・5層を掘り込んで形成される。層中からは沖縄産陶器 1 点が出土しているため、近世・近代と想定される。

4～6層 地山の赤土（マージ）層。黄褐色粘質シルト（4層）、明黄褐色砂質シルト（5層）、褐色粘質シルト（6層）と変化している。

7層 琉球石灰岩の岩盤。



第 36 図 フテ 25-11-ノ 壁面図



図版 93 フテ 25-11-ノ 調査前



図版 94 フテ 25-11-ノ 完掘状況

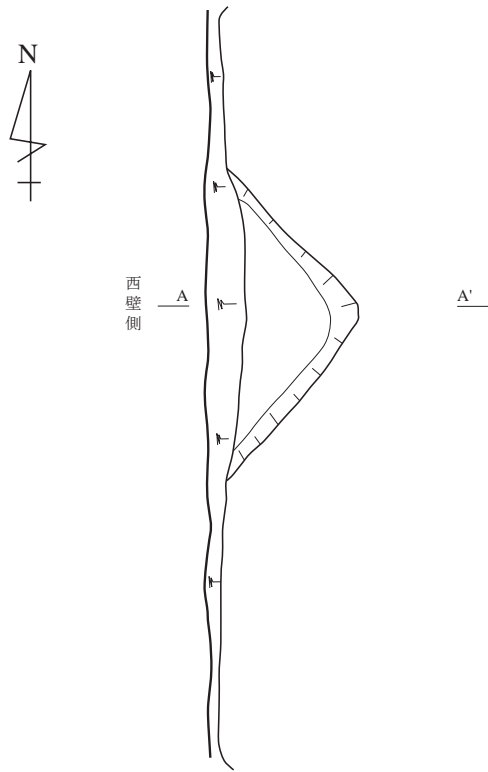


図版 95 フテ 25-11-ノ 南壁

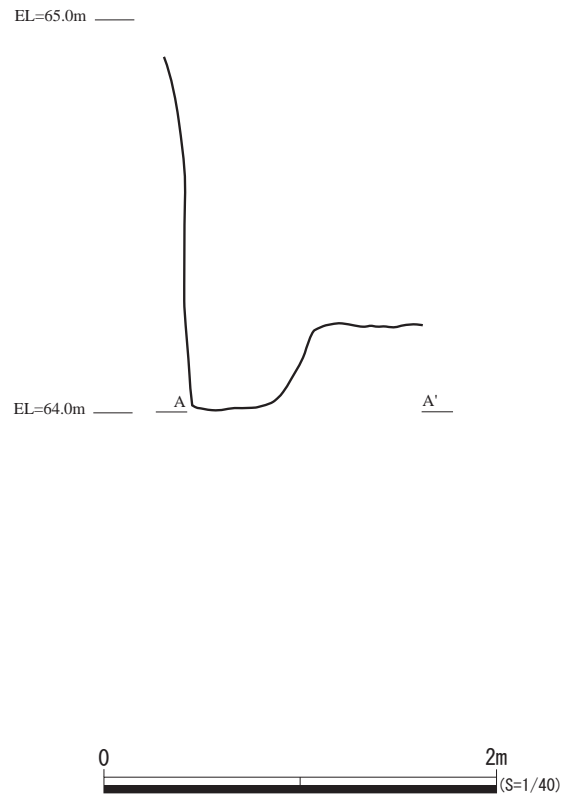


図版 96 フテ 25-11-ノ 西壁

平面図



断面図



第 37 図 フテ 25-11-ノ 2～3 層間 土坑平面・断面図



図版 97 フテ 25-11-ノ 土坑検出状況



図版 98 フテ 25-11-ノ 土坑断面

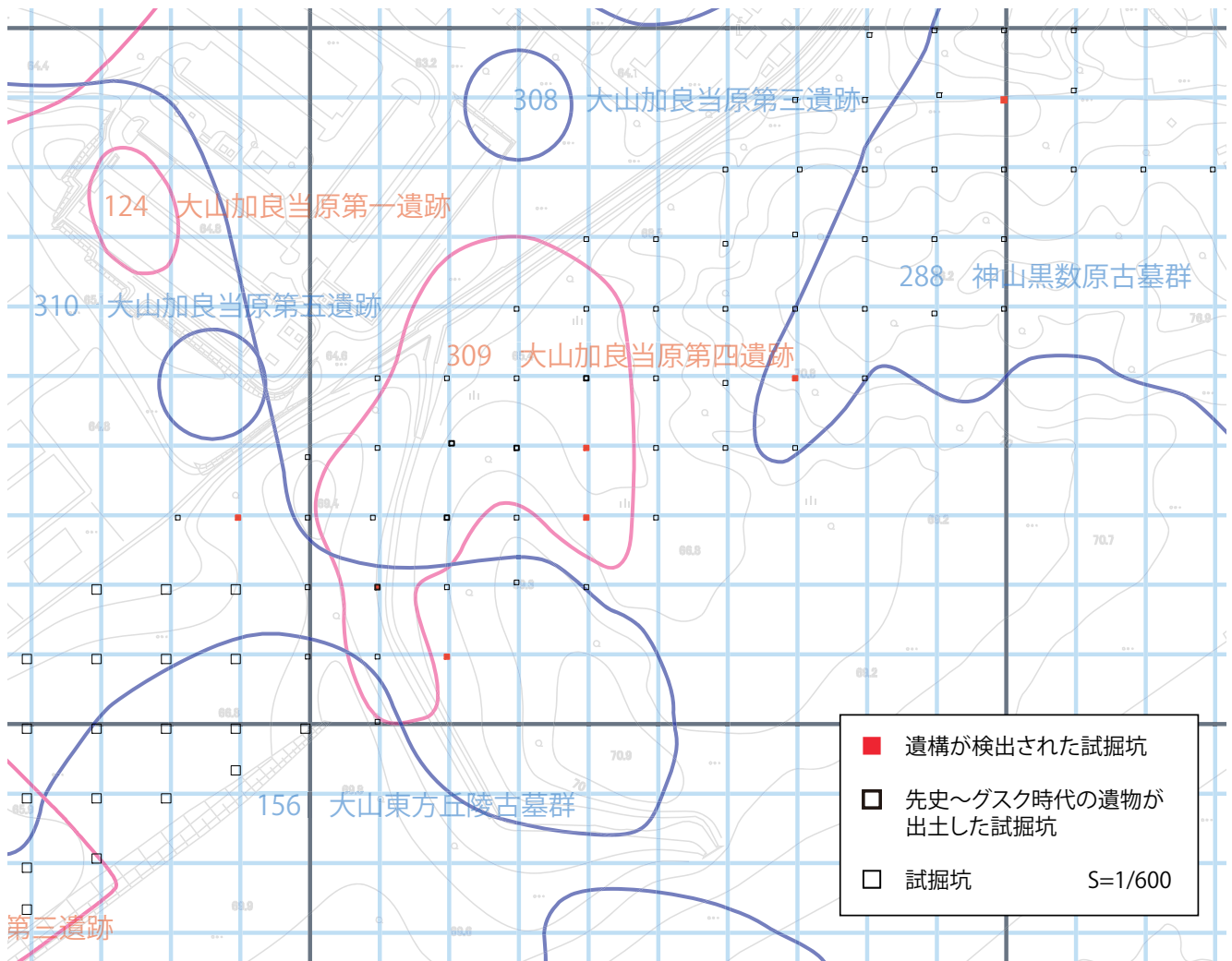


図版 99 フテ 25-11-ノ 土坑完掘状況

第5章 フテ 35・36・37 グリッド

第1節 概観

この地区は縄文時代の遺跡である大山加良当原第四遺跡、近世・近代の遺跡に神山黒数原古墓群と大山東方丘陵古墓群が含まれる。



第2節 神山黒数原古墓群

層位 表土及び米軍造成土層下には、耕作土層もしくは地山の赤土と琉球石灰岩岩盤が検出される。クラックの生じた暗褐色シルト層は検出されないため、比較的高地の地層とみられる。

遺構 F4-アからは集石遺構及び地山の赤土層を掘り込む耕具痕が検出されている。またB1-アからは古墓1基が検出されている。

遺物 中国産染付などが僅かに出土するが、大半は沖縄産陶器である。年代的にグスク以前に遡る遺物は確認されていない。

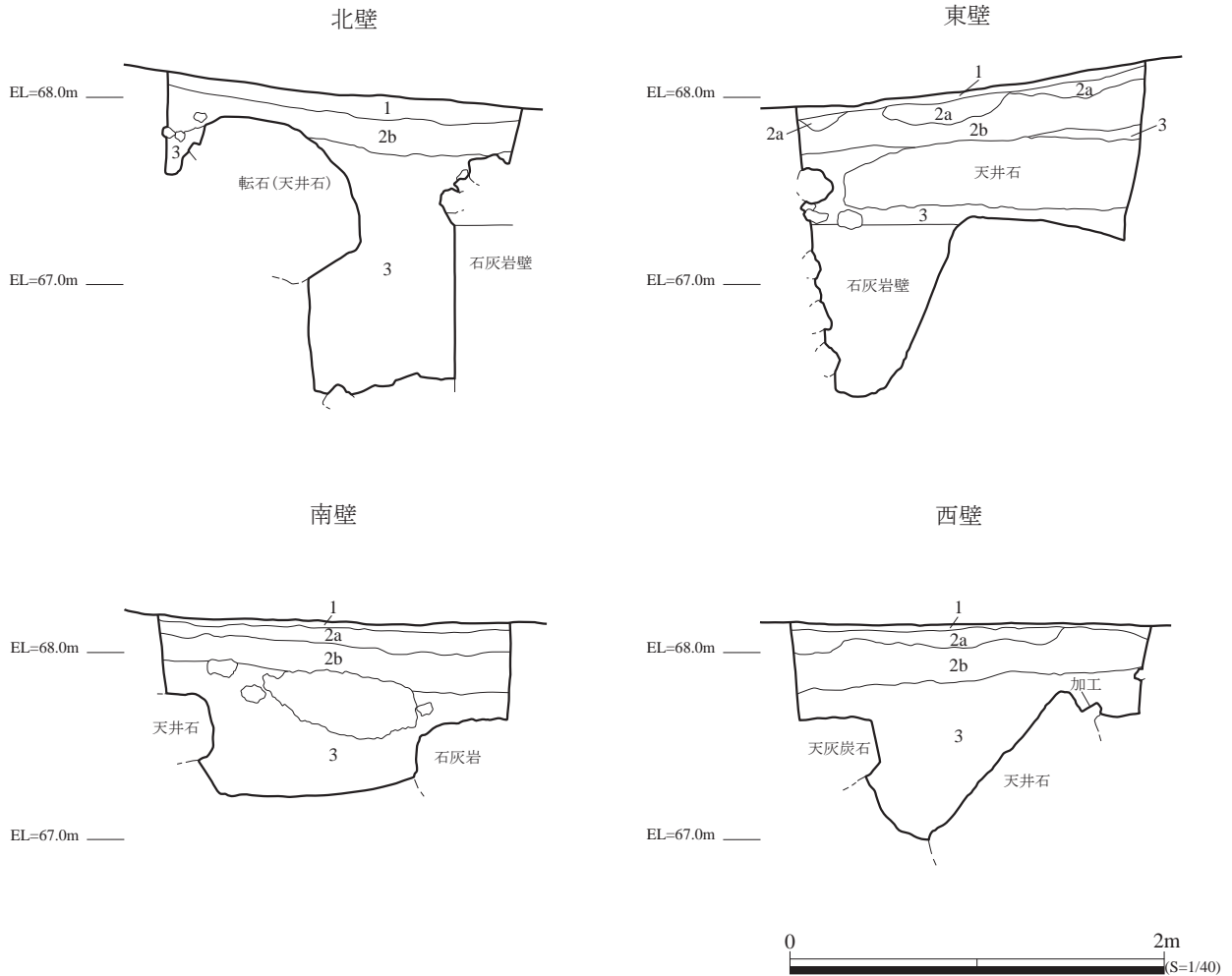
①フテ 36 - B1-ア

概要 攪乱及び米軍造成土下に天井石が壊れた状態の古墓が埋没している。試掘坑全体に古墓の天井石が散乱していたために床まで検出できず、詳細は不明である。

1層 褐灰色の表土。

2層 米軍の造成土層。灰白色土 (2a層) と褐色土 (2b層) で成る。

3層 攪乱層。にぶい黄褐色土。古墓の天井石を埋めることから、戦後の層と推定される。一方、古墓は崩れた天井石と石灰岩壁が確認されたが、試掘坑全体に天井石片があり、遺構全体の検出に至らなかったため詳細は不明である。また関連する遺物も確認されていない。



第 39 図 フテ 36-B1-ア 壁面図



図版 100 フテ 36-B1-ア 北壁



図版 101 フテ 36-B1-ア 東壁



図版 102 フテ 36-B1-ア 東壁側石灰岩壁



図版 103 フテ 36-B1-ア 天井石ノミ痕

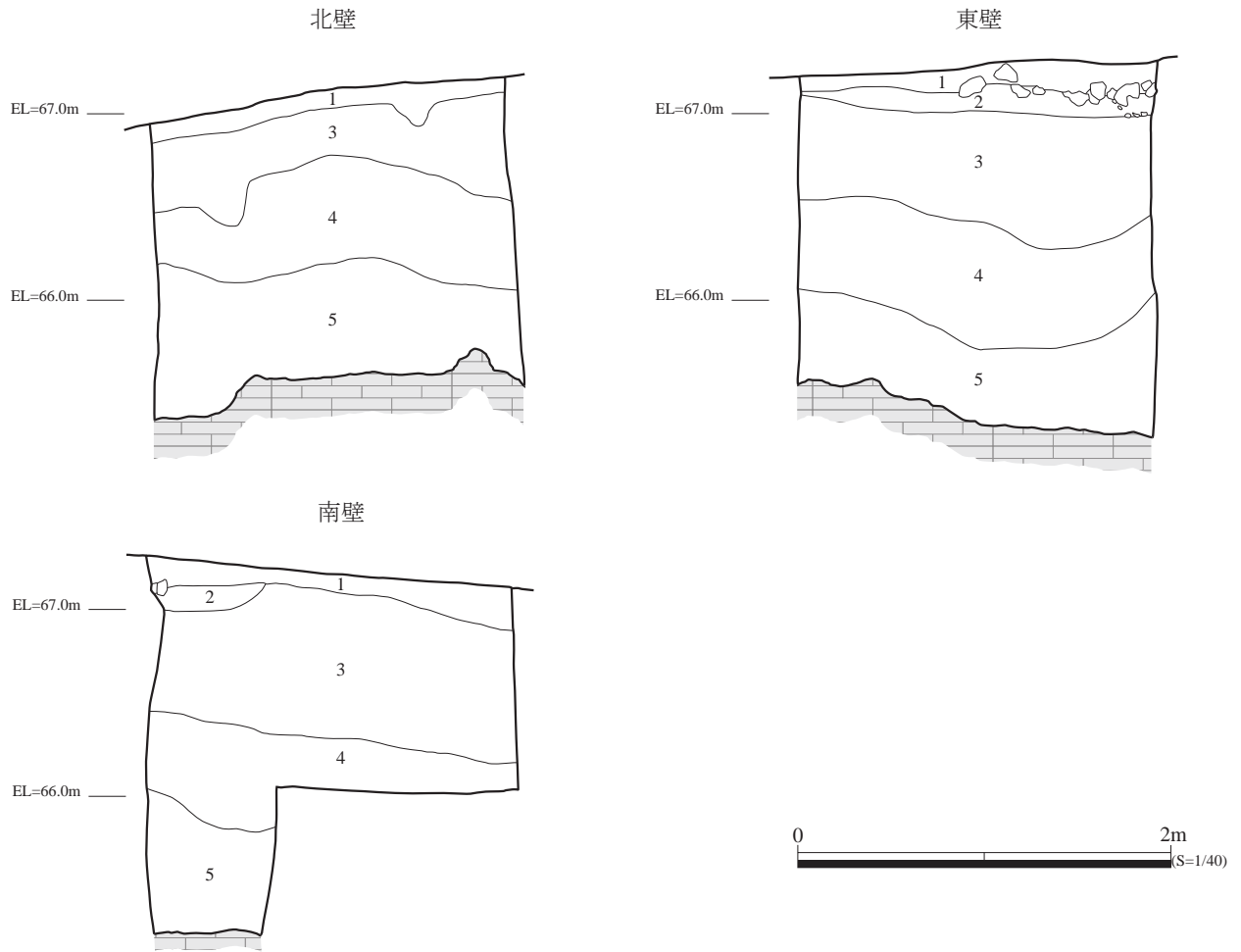


図版 104 フテ 36-B1-ア 完掘状況

②フテ 36 - F4 - ア

概要 2層上面に集石遺構、3層の赤土地山上面に耕具痕が検出されている。検出層位は異なるがレベル差はほとんどないため、ともに近世・近代の耕作等に関連する遺構とみられる。

- 1層 表土層。播鉢などの沖縄産陶器や角釘などが出土している。
- 2層 近世・近代の耕作土層。上面には集石遺構が検出される。沖縄産陶器が確認される。
- 3～5層 地山の赤土層。3層上面には耕具痕が検出される。
- 6層 琉球石灰岩の岩盤。



第40図 フテ 36-F4-ア 壁面図



図版 105 フテ 36-F4-ア 1層出土遺物

図版 106 フテ 36-F4-ア 2層出土遺物

層序	種類 器種不明	陶質土器	石	沖縄産施釉陶器			沖縄産無釉陶器			金属製品		合計
				碗	蓋	器種不明	壺	挿り鉢	器種不明	鉄製品		
										釘	器種不明	
1層		1	1		1	4	1	3	2	2	1	16
2層				1						2		3
合計		1	1	1	1	4	1	3	4	2	1	19

表 20 フテ 36-F4-ア 遺物集計表

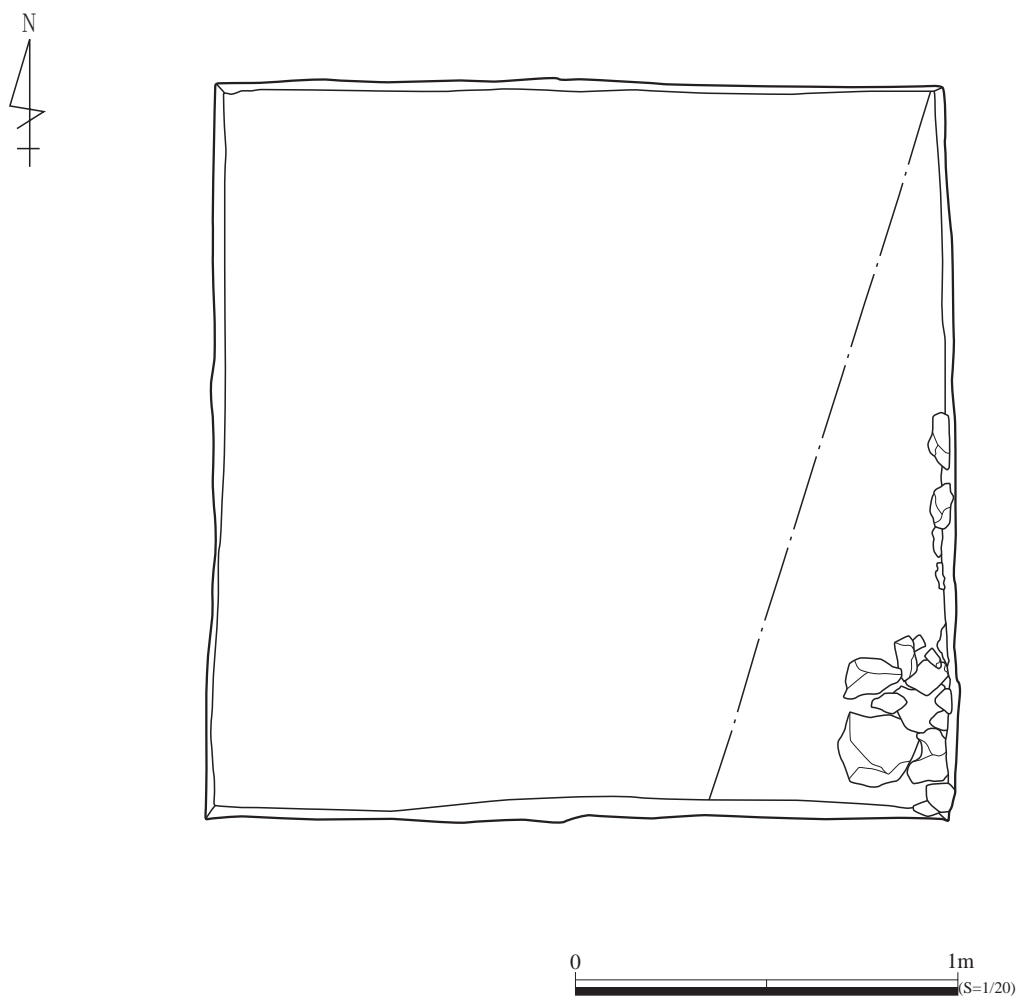


図版 107 フテ 36-F4- ア 北壁



図版 108 フテ 36-F4- ア 東壁

集積遺構平面図



第 41 図 フテ 36-F4- ア 2 層 集石遺構平面図



図版 109 フテ 36-F4- ア 2 層 集石遺構遠景



図版 110 フテ 36-F4- ア 2 層 集石遺構近景

第3節 大山加良当原第四遺跡

この遺跡は平成19年度の本事業による試掘調査によって、新たに確認された遺跡である。大きく近世・近代の耕作土層、グスク時代とみられる耕作土層、そして縄文時代後晩期頃の遺物包含層が確認される。特に縄文時代後晩期の層は、上原濡原遺跡の同時期層に土質が酷似しており、関連する可能性が挙げられる。

①フテ 36-F7-ア

概要 近世・近代の耕作層の下に、ピット群や溝状遺構が検出される。

1層 表土層

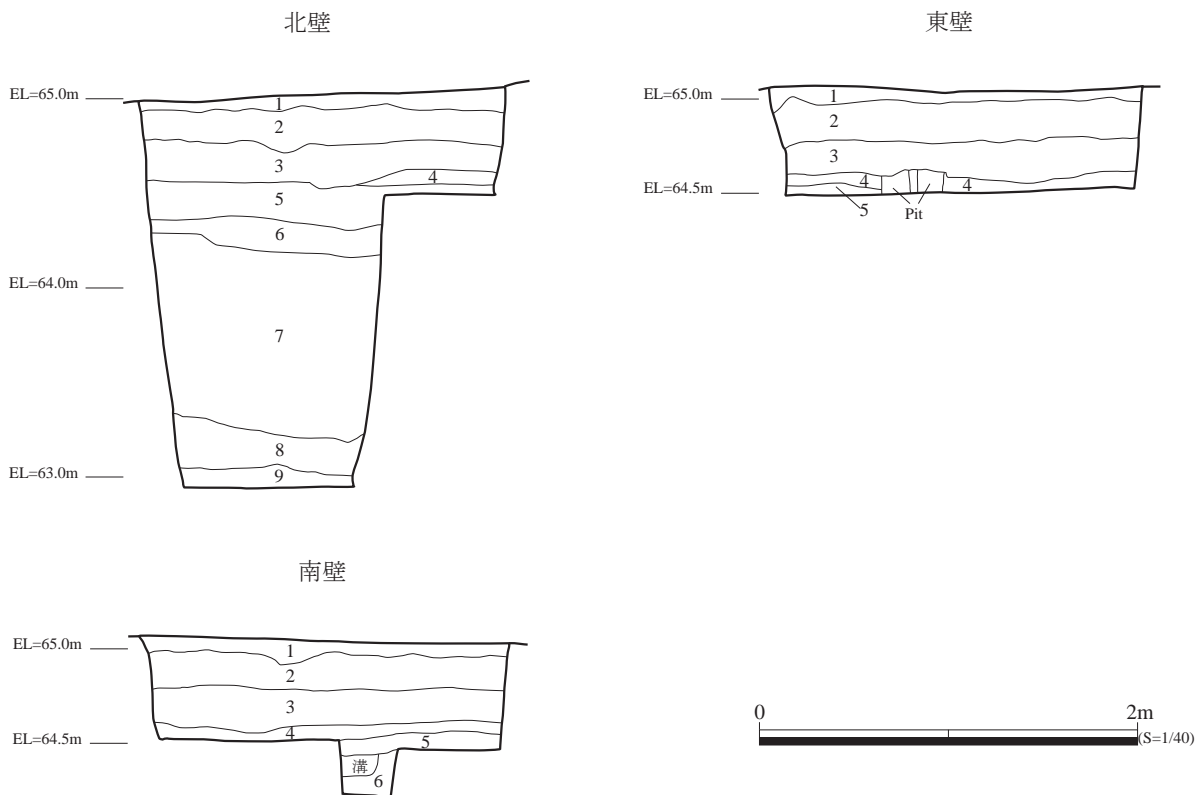
2・3層 近世・近代頃の耕作土層。2層より近世・近代頃の中国産青磁や本土産白磁、沖縄産陶器などが出土している。

4～6層 黄褐色シルト層で、遺物の出土がなく年代は判然としない。5層からピット群、6層から溝状遺構が検出されている。

7～9層 赤土（マージ）が厚く堆積し、地表下2mでも岩盤に達しない。



図版 111 フテ 36-F7-ア
2層出土遺物



第42図 フテ 36-F7-ア 壁面図



図版 112 フテ 36-F7- ア 北壁



図版 113 フテ 36-F7- ア 東壁

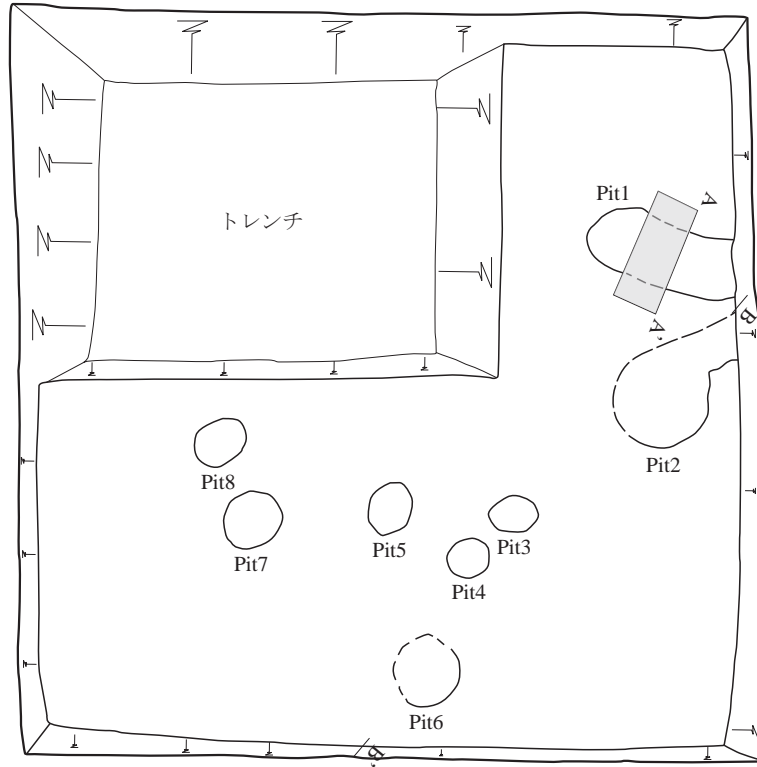


図版 114 フテ 36-F7-ア 南壁

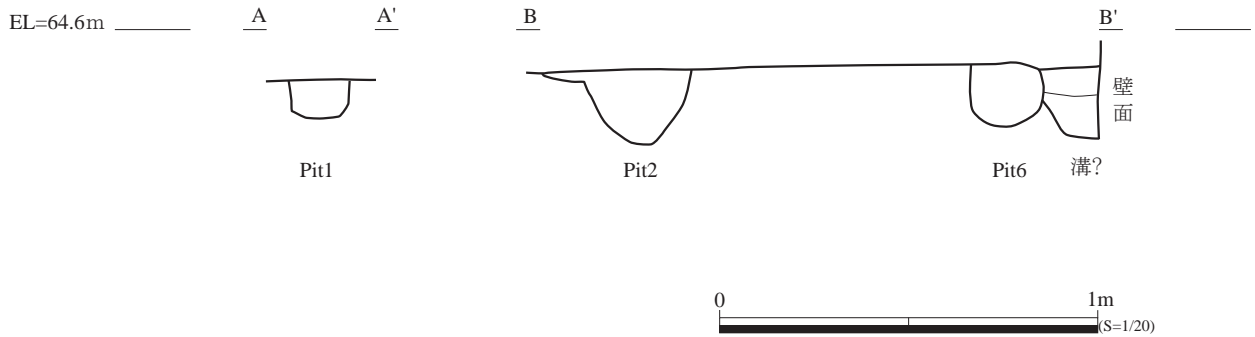


図版 115 フテ 36-F7-ア 完掘状況

平面図



Pit 断面図



第 43 図 フテ 36-F7-ア 平面・Pit 断面図



図版 116 フテ 36-F7- ア 4 層 遺構検出状況



図版 117 フテ 36-F7- ア 4 層 Pit1 半裁断面



図版 118 フテ 36-F7- ア 4 層 Pit6 半裁断面

種類 層序	陶質土器	中国産 青磁	本土産 磁器	沖縄産施釉陶器			沖縄産無釉陶器		焼土	合計
	器種不明	器種不明	白磁	小碗	急須	器種不明	播り鉢	器種不明		
			杯							
2層	3	1	1	3	1	4	1	1	4	19
合計	3	1	1	3	1	4	1	1	4	19

表 21 フテ 36-F7-ア 遺物集計表

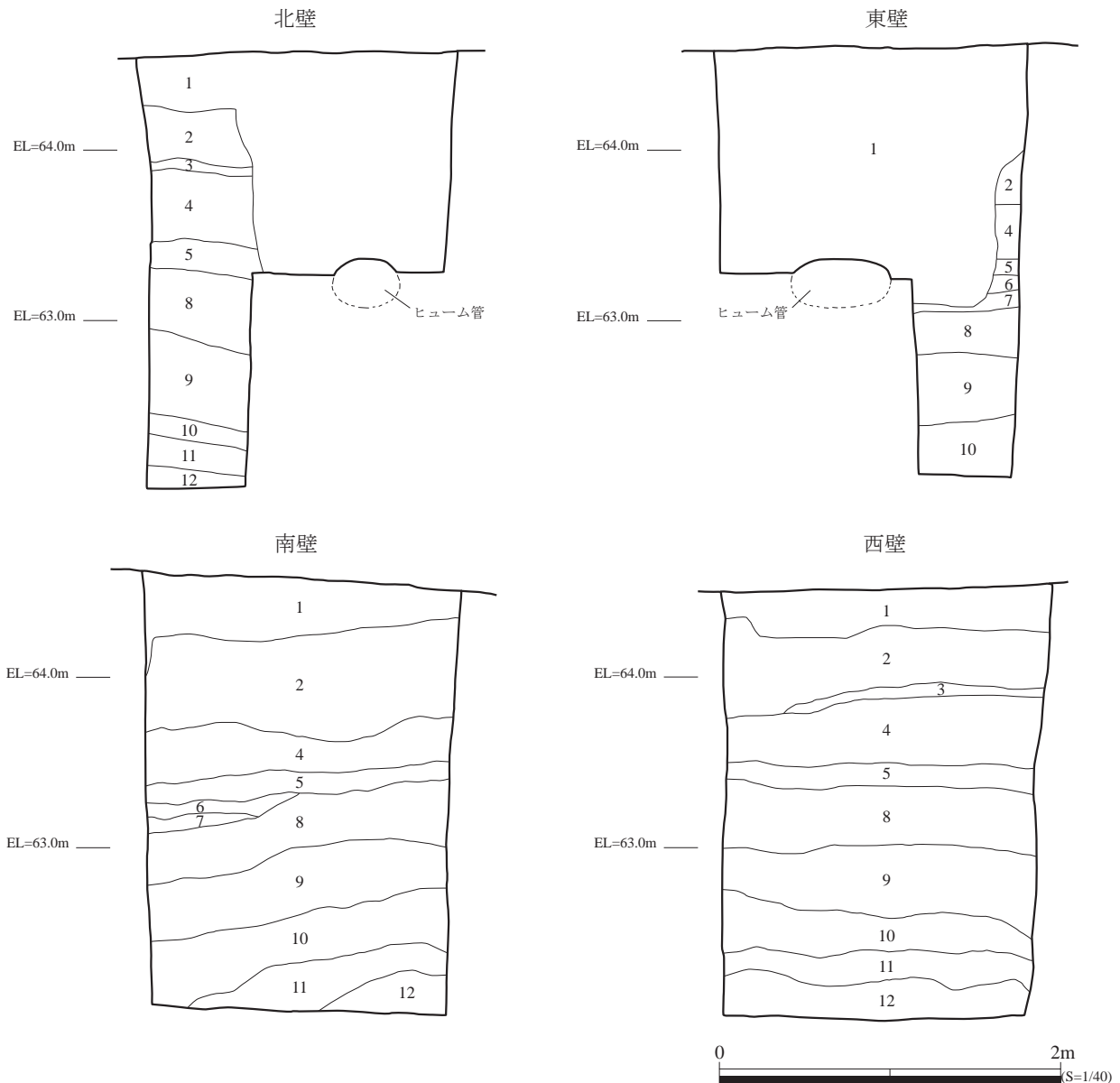
②フテ 36-F8-ア

概要 近世・近代の耕作土層下に、上原濡原遺跡と同質の層が確認されている。

1層 表土及び米軍の造成・攪乱土。

2・3層 近世・近代の旧耕作土層。オリーブ褐色砂質シルト（2層）及びオリーブ褐色粘質シルト（3層）。

4～12層 オリーブ褐色シルト層。粘質シルト（4層）、砂質シルト（5・6層）、細砂（7層）、砂質シルト（8層）、砂質シルト（9層）、砂質シルト（10層）、灰褐色粘質シルト（11層）、褐色細砂（12層）とシルト層と細砂層のセットが互層をなして堆積していることから、複数回の水成堆積により形成されたと推定される。この層は上原濡原遺跡で畝間状遺構が検出された層と同様の土質だが、今次の試掘では遺物は確認されなかった。



第 44 図 フテ 36-F8-ア 壁面図



図版 119 フテ 36-F8- ア 北壁



図版 120 フテ 36-F8- ア 東壁



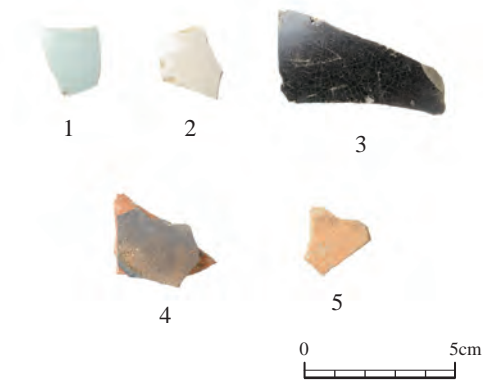
図版 121 フテ 36-F8- ア 南壁



図版 122 フテ 36-F8- ア 西壁



図版 123 フテ 36-F8- ア 1層出土遺物



図版 124 フテ 36-F8- ア 2層出土遺物

種類 層序	陶質土器	本土産陶磁器		沖縄産施釉陶器			沖縄産無釉陶器	ガラス製品	炭化物	現代遺物	合計
	器種不明	青磁	陶器	碗	小碗	器種不明	器種不明	瓶		プラスチック	
		器種不明	小碗								
1層	1		1	1				1	3		7
2層	1	1			1	3	1			1	8
10層									1		1
合計	2	1	1	1	1	3	1	1	4	1	16

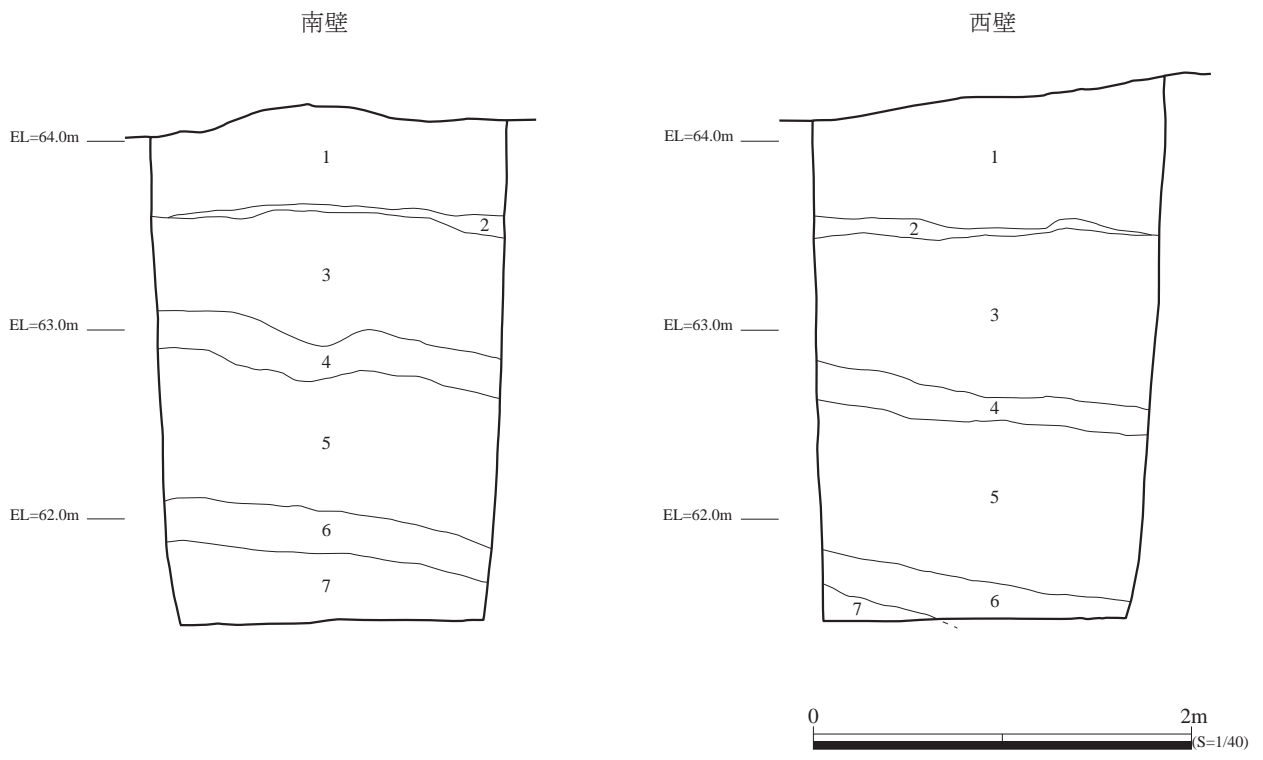
表 22 フテ 36-F8- ア 遺物集計表

③フテ 36-F8- ノ

概要 3～7層に上原濡原遺跡と同様のオリーブ褐色シルト層が縄文時代後晩期ごろの土器を伴って確認されたが、遺構は検出されなかった。

1・2層 表土及び米軍による攪乱層。1層は褐色～明黄褐色土で縄文時代後晩期ごろの土器1点が出土している。2層は暗灰黄色の粘土層でこれも米軍の造成土層か。

3～7層 シルト層。オリーブ褐色粘質シルト（3層）、褐色粘質シルト（4層）、黄褐色粘質シルト（5層）、黄褐色砂質シルト（6層）、黄褐色砂質シルト（7層）に漸移的に変化する。フテ 36-F8- ア 4～12層と同質の層で、4層からは縄文時代後晩期ごろのものとみられる土器が得られている。



第 45 図 フテ 36-F8-ノ 壁面図



図版 125 フテ 36-F8-ノ 南壁



図版 126 フテ 36-F8-ノ 西壁



図版 127 フテ 36-F8-ノ 4層出土遺物

種類 \ 層序	土器	焼土	合計
	器種不明 胴部		
1層		6	6
4層	3		3
合計	3	6	9

表 23 フテ 36-F8-ノ 遺物集計表

④フテ 36 - G7 - ア

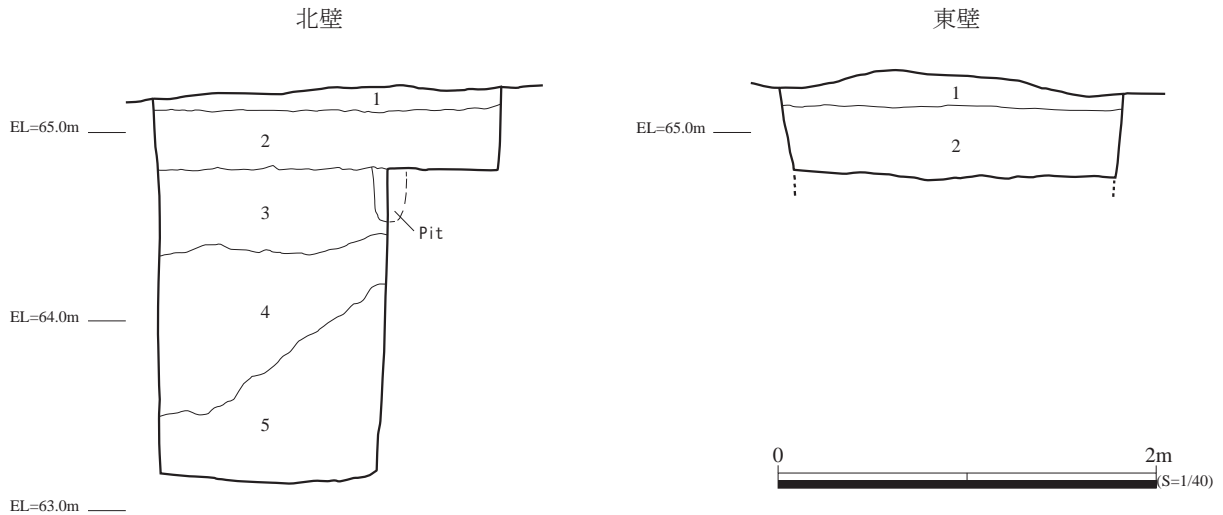
概要 耕作土層下にピット群が検出されている。

1層 表土・腐植土と造成土・灰黄褐色～橙色・砂質シルト

2層 耕作土・にぶい黄褐色砂質シルト。沖縄産陶器などが出土しており、近世・近代と推定される。

3層 赤土（マージ）層。明赤褐色粘質シルト。上面よりピット7口が検出されている。遺構・遺物なく年代不明。

4・5層 地山の赤土（マージ）層・。黄褐色砂質粘質シルト（4層）と明黄褐色粘質シルト（5層）が堆積する。



第 46 図 フテ 36-G7-ア 壁面図



図版 128 フテ 36-G7-ア 北壁

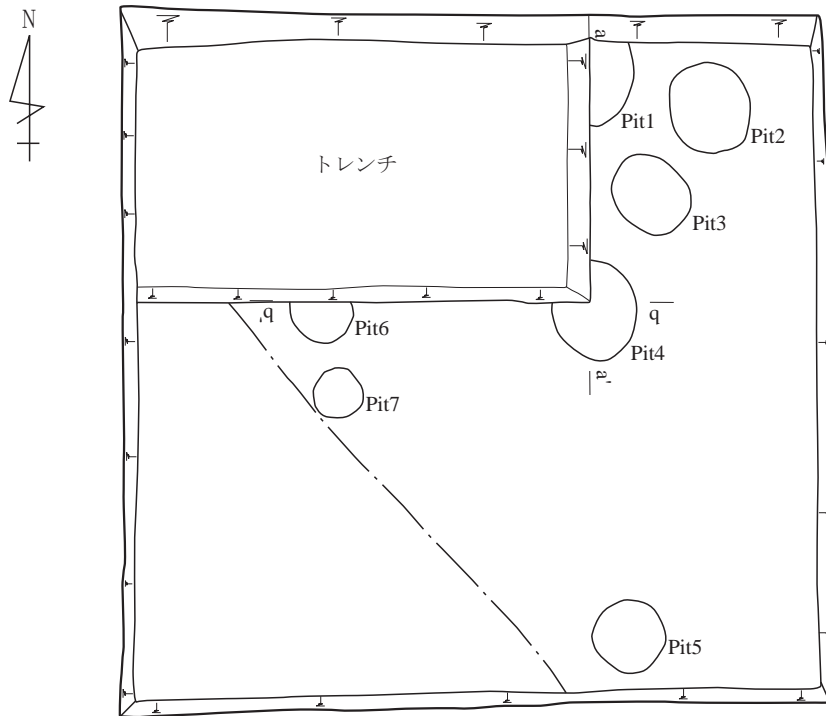


図版 129 フテ 36-G7- ア 東壁

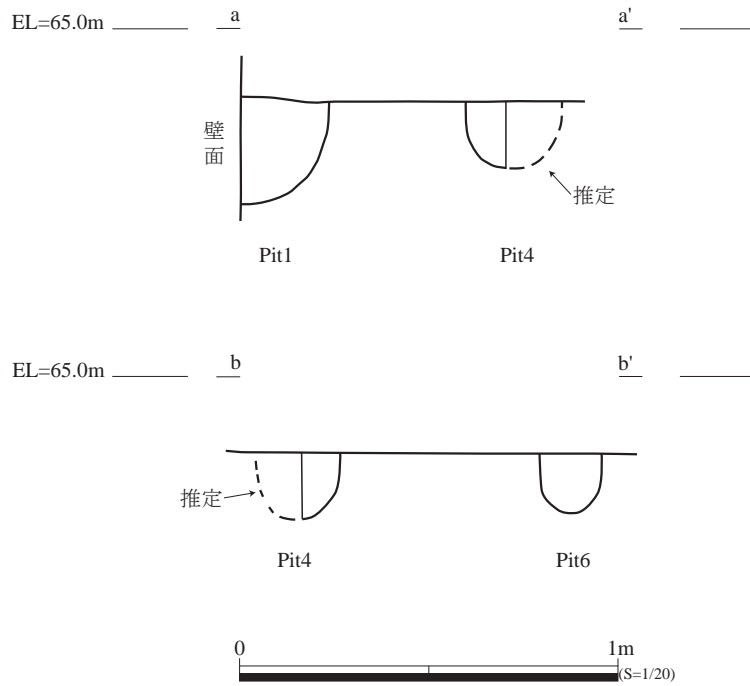


図版 130 フテ 36-G7- ア 3層 遺構検出状況

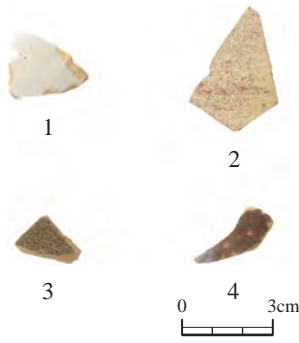
平面図



断面図



第 47 図 フテ 36-G7-ア 3 層 平面・Pit 断面図



図版 131 フテ 36-G7-ア
2層出土遺物

種類 層序	陶質土器	沖縄産施釉陶器	沖縄産無釉陶器		合計
	器種不明	器種不明	播り鉢	器種不明	
1層			1		1
2層	3	3		1	7
合計	3	3	1	1	8

表 24 フテ 36-G7-ア 遺物集計表

⑤フテ 36-G8-ア

概要 3層から縄文土器が出土するが、遺構はなく遺物も少ないため各層の性格は判然としない。

1層 攪乱層。にぶい黄褐色の砂質土。沖縄産陶器や瓦が出土している。

2～4層 時期・性格不明の層。黄褐色砂質シルト(2層)、褐色砂質シルト(3層)、黄褐色粘質シルト(4層)の順に堆積。また3層からは土器が1点出土している。

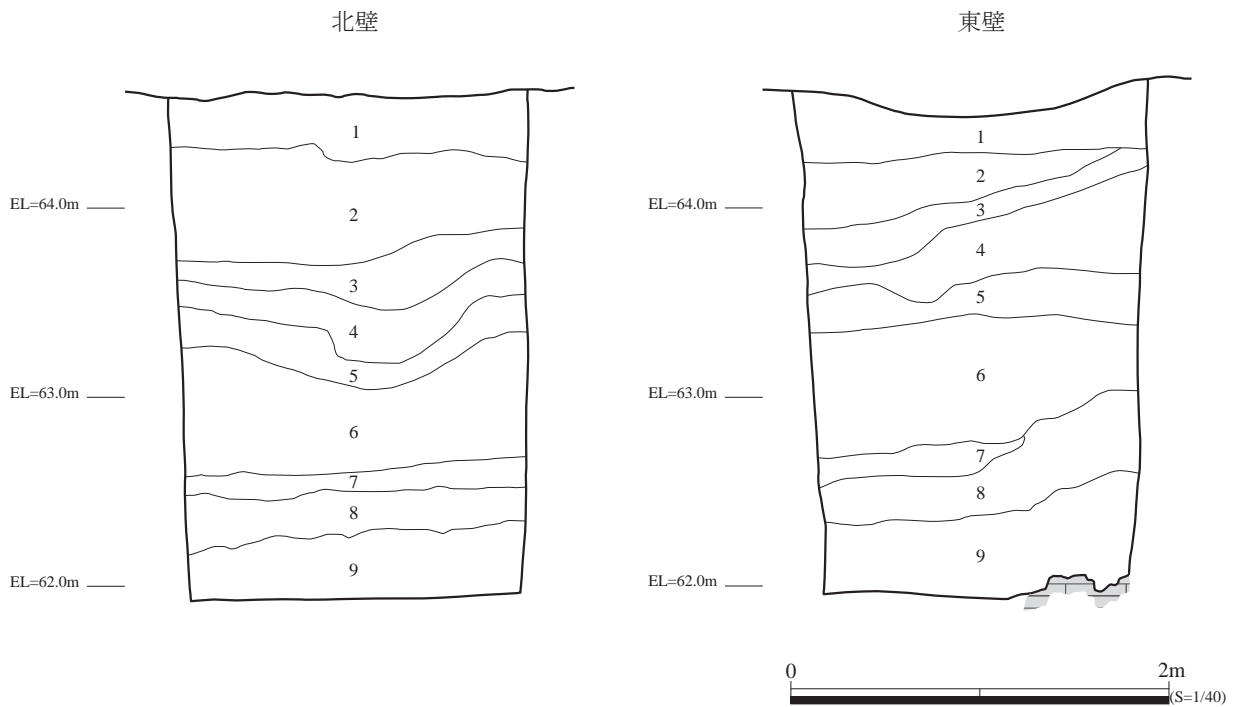
5・6層 時期・性格不明の層で、暗褐色砂質シルト(5層)と黄褐色粘質シルト(6層)が堆積。なお、5層はフテ 24 の試掘坑の一部でも確認されており、縄文時代後晩期の土器などがしばしば出土している。6層は上原濡原遺跡の縄文時代後晩期層と同様の土質である。

7～9層 地山の赤土(マージ)層。明黄褐色砂質シルト(7層)、明褐色粘質シルト(8・9層)の順に堆積。

10層 琉球石灰岩の岩盤。



図版 132 フテ 36-G8-ア
3層出土遺物



第 48 図 フテ 36-G8-ア 壁面図



図版 133 フテ 36-G8-ア 北壁



図版 134 フテ 36-G8-ア 東壁

種類 層序	土器		沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器	瓦	合計
	器種不明 胴部	碗	器種不明	器種不明	明朝系 丸瓦?		
1層			1		1	1	3
3層	1						1
不明		1					1
合計	1	1	1		1	1	5

表 25 フテ 36-G8- ア 遺物集計表

⑥フテ 36 - H7 - ア

概要 表土下にピット3口が検出されている。また地表下約0.7 mから岩盤が確認され、旧地形では高地であったと想定される。

1層 表土・造成土・褐色粘質

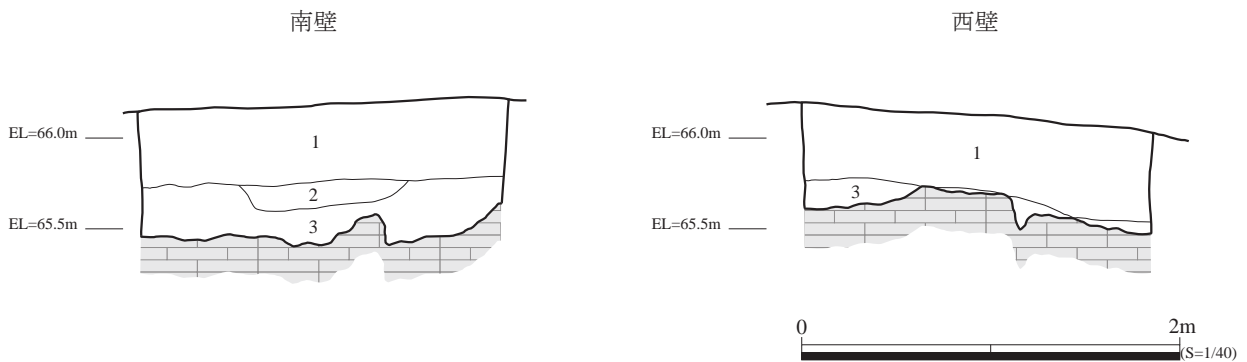
2層 マージ層・黄褐色粘質

3層 マージ層・褐色粘質土。上面よりピット3口が検出されるが、遺物の出土なく年代不明。

4層 石灰岩岩盤



図版 135 フテ 36-H7- ア
1層出土遺物



第 49 図 フテ 36-H7- ア 壁面図

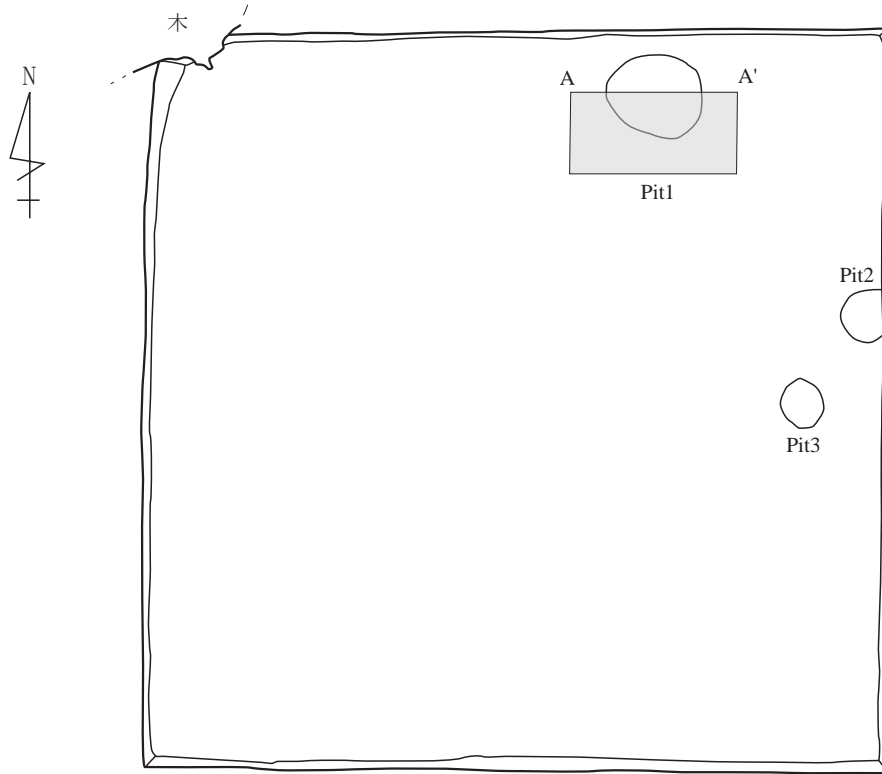


図版 136 フテ 36-H7-ア 南壁

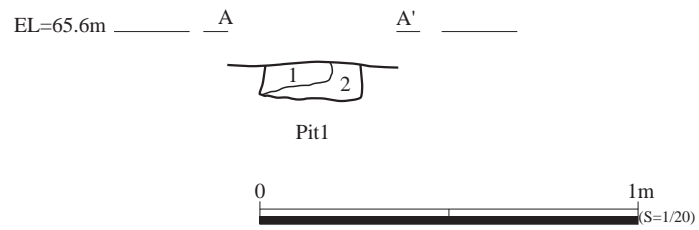


図版 137 フテ 36-H7-ア 西壁

平面図



断面図



第 50 図 フテ 36-H7-ア Pit 検出状況平面・断面図



図版 138 フテ 36-H7- ア 3層 遺構検出状況



図版 139 フテ 36-H7- ア 3層 Pit1 半裁断面



図版 140 フテ 36-H7- ア 3層 Pit2 半裁断面

種類 層序	陶質土器		沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器		瓦	金属製品	焼土	合計
	火炉	器種不明	小碗	器種不明	播り鉢	器種不明	明朝系 破片	鉄製品 薬莖		
1層	1	3	1	1	1	1	2	1	4	15
合計	1	3	1	1	1	1	2	1	4	15

表 26 フテ 36-H7- ア 遺物集計表

⑦フテ 36-H9- ア

概要 近世・近代の旧耕作土層とその下には縄文時代後晩期頃とみられるピット2基も検出されている。

1層 表土・腐植土・暗褐色

2・3層 褐色砂質。米軍の造成土か。

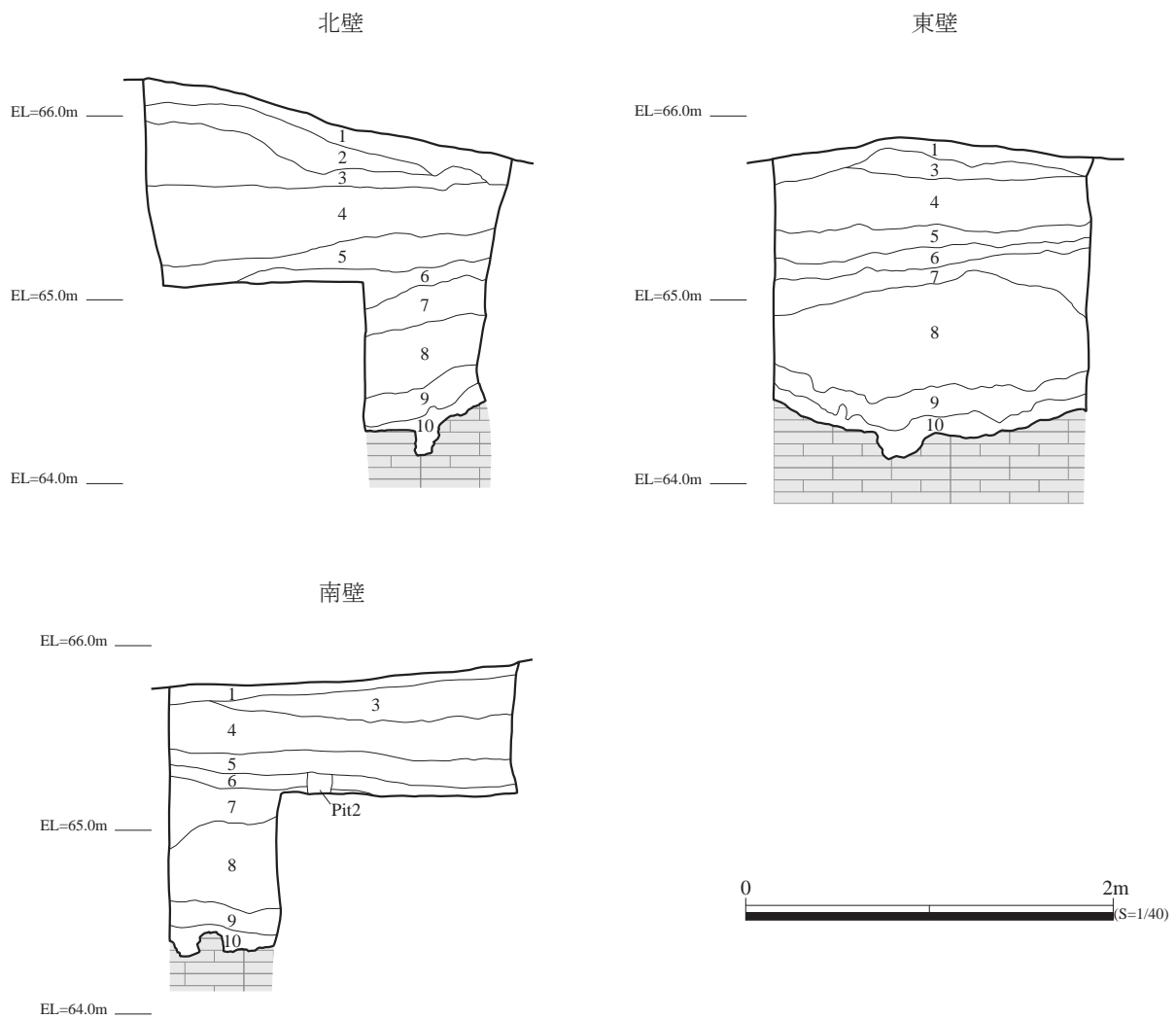
4層 褐色砂質の層。沖縄産陶器が出土することから、近世・近代の耕作土層と想定される。

5層 暗褐色で粘質の層。遺物には土器が得られており、中にはグスク土器も含まれる。

6層 褐色で粘質の層。ピット2口を検出したほか、縄文時代後晩期とみられる土器も出土している。

7～10層 地山の赤土層。明褐色砂質（7層）、黄褐色粘質（8層）、黄褐色粘質（9層）黄褐色粘質（10層）の順に推移。

11層 琉球石灰岩の岩盤



第51図 フテ 36-H9- ア 壁面図

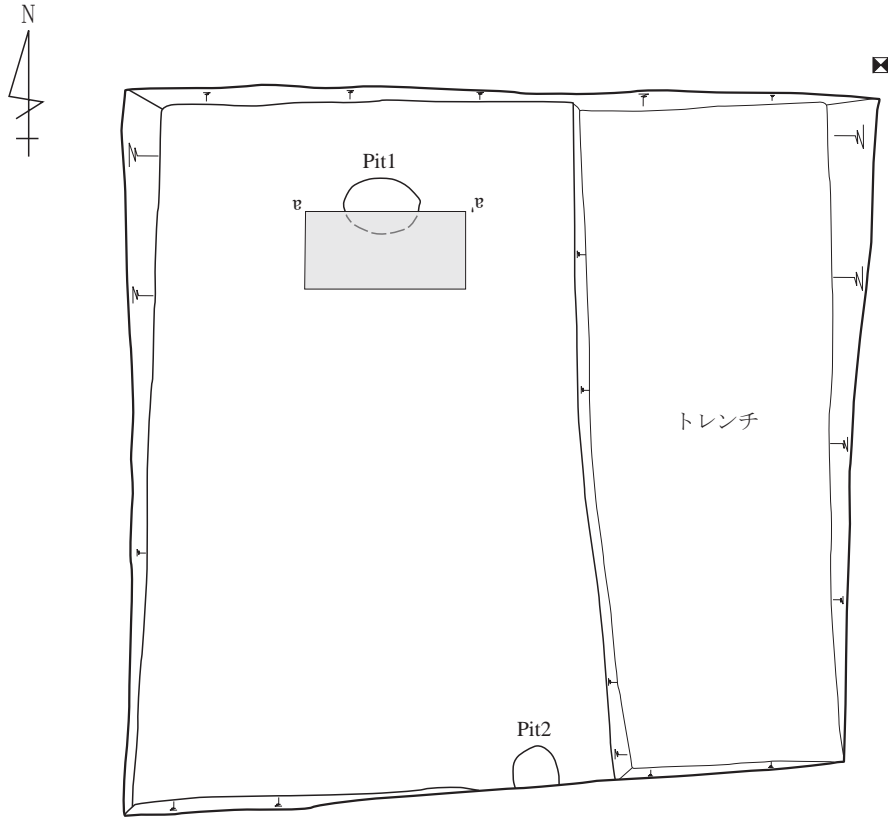


図版 141 フテ 36-H9- ア 北壁

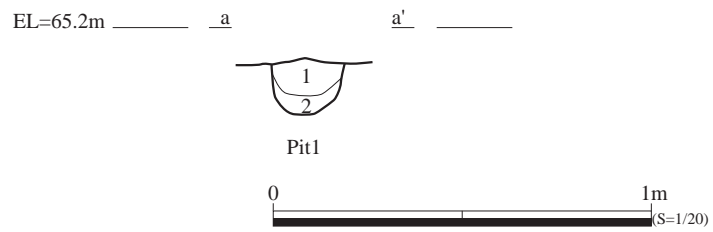


図版 142 フテ 36-H9- ア 東壁

平面図



断面図



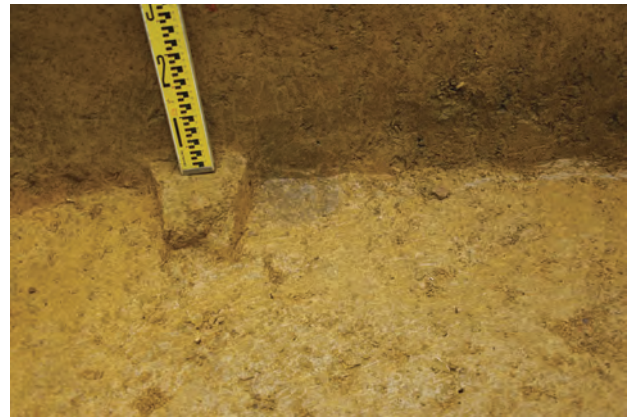
第 52 図 フテ 36-H9- ア 平面・Pit 断面図



図版 143 フテ 36-H9- ア 6 層 Pit 検出状況



図版 144 フテ 36-H9- ア 6 層 Pit1 半裁断面



図版 145 フテ 36-H9- ア 6 層 Pit2 及び土器出土状況



図版 146 フテ 36-H9- ア 4 層出土遺物



図版 147 フテ 36-H9- ア 5 層出土遺物



図版 148 フテ 36-H9- ア 6 層出土遺物

種類 層序	土器	グスク土器	陶質土器	沖縄産施釉陶器			沖縄産無釉陶器		金属製品	焼土	合計
	器種不明	甕	器種不明	碗	小碗?	器種不明	甕	器種不明	鉄製品		
		胴部							葉莖		
1層									1	2	3
2層							2				2
3層			1							1	2
4層				1			1	1			3
5層	1	1			2					1	5
6層		1									1
合計	1	2	1	1	2	2	1	1	1	4	16

表 27 フテ 36-H9- ア 遺物集計表

第 4 節 大山加良当原第四遺跡・大山東方丘陵古墓群

本節では、前節の大山加良当原第四遺跡と、次節の大山東方丘陵古墓群の両遺跡の範囲と目される試掘箇所について述べる。

①フテ 36-I10- ア

概要 グスク時代もしくは近世・近代の溝状遺構 1 条が検出されるほか、層不明中からは先史と目される土器も出土している。

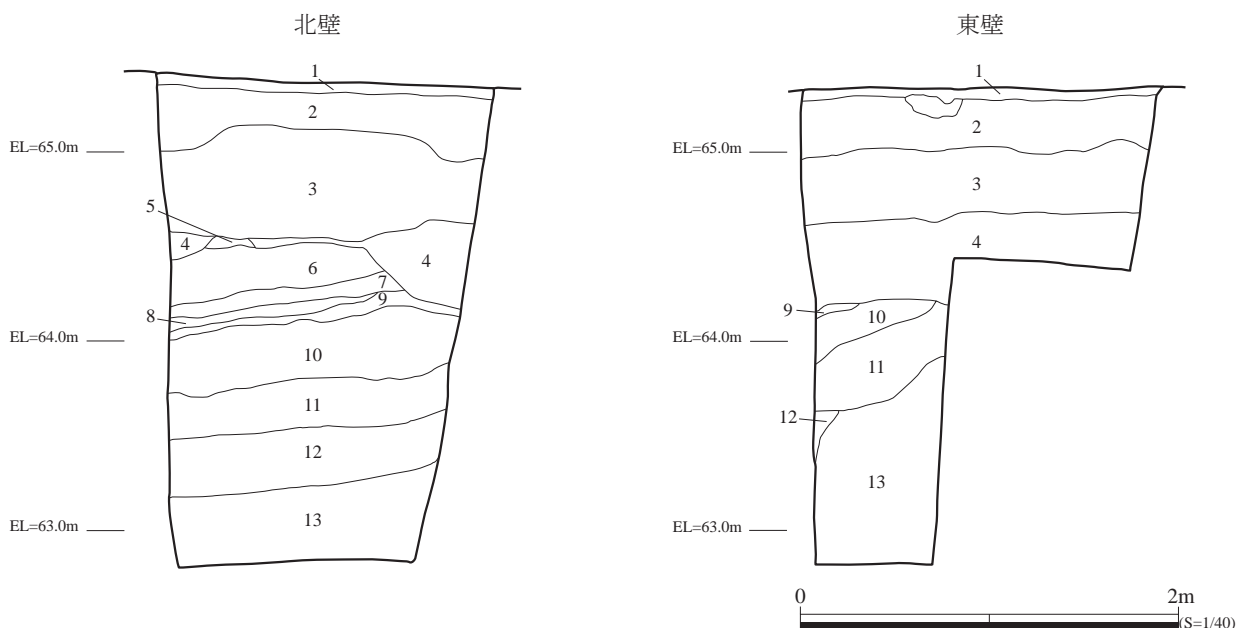
1～3層 1層は表土で暗褐色砂質シルト層。2・3層は米軍の造成土層で、2層は褐色砂質シルト、3層は黄褐色砂質シルトが堆積している。また遺物には沖縄産陶器や陶質土器、丸釘など近世・近代の遺物が出土している。

4層 黄褐色砂質シルト層で焼土を多量に含む。溝状遺構が 1 条検出されるほか、遺物にはグスク土器が出土している。

5層 暗褐色砂質シルト層。Pit1 が検出される。遺物の出土がなく年代不明。

6～9層 3次堆積により砂質化したシルト層。褐色砂質シルト（6層）、オリーブ褐色砂質シルト（7層）、黄褐色砂質シルト（8層）、オリーブ褐色砂質シルト（9層）の順に堆積する。また4層の溝状遺構に切られる。

10～13層 2次堆積層で、赤土（マージ）が2次堆積の過程で変色・変質した層とみられる。黄褐色粘質シルト（10層）、オリーブ褐色砂質シルト（11層）、オリーブ褐色砂質シルト（12層）、黄褐色砂質シルト（13層）の順に堆積する。



第 53 図 フテ 36-I10- ア 壁面図

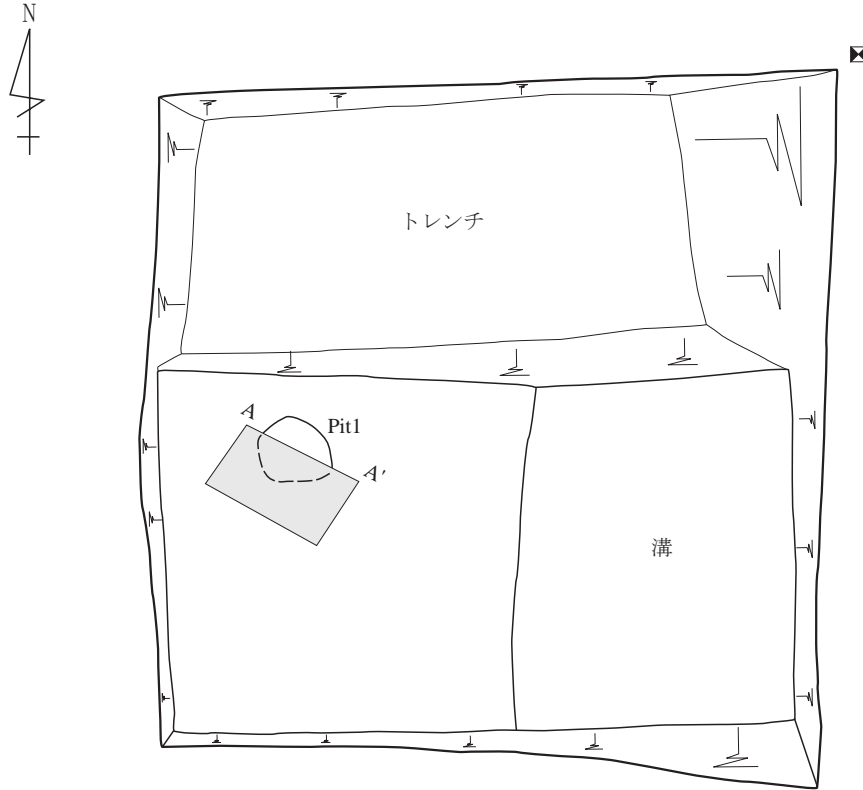


図版 149 フテ 36-110- ア 北壁



図版 150 フテ 36-110- ア 東壁

平面図



断面図

EL=64.6m A A' _____

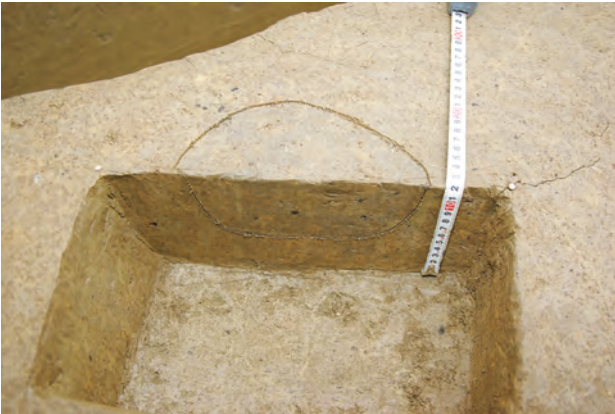


0 1m
_____ (S=1/20)

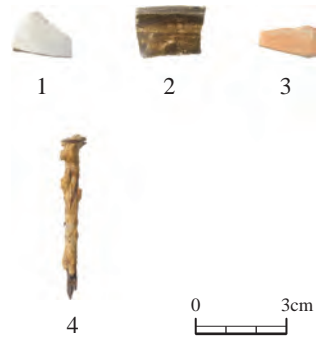
第 54 図 フテ 36-I10-ア 平面・Pit 断面図



図版 151 フテ 36-I10- ア 4・5層 遺構検出状況



図版 152 フテ 36-I10- ア 5層 Pit 半裁断面



図版 153 フテ 36-I10- ア 2層出土遺物

種類 層序	土器	グスク土器	陶質土器		本土産陶器?	沖縄産施釉陶器			沖縄産無釉陶器
	器種不明	鍋	急須	器種不明	小碗	碗	小碗	器種不明	器種不明
	胴部	口縁部+把手							
2層				2		1	1		
3層			1	4					2
4層		1							
不明	1			1	1	1	1	1	2
合計	1	1	1	7	1	2	2	1	4

種類 層序	金属製品			焼土 (重量(g))	合計
	鉄製品				
	釘	葉莢	器種不明		
2層	1	1	1		7
3層					7
4層				(20.2)	1(20.2)
不明					8
合計	1	1	1	(20.2)	23(20.2)

表 28 フテ 36-110-ア 遺物集計表

②フテ 36-J9-ア

概要 3層上面に集石遺構が検出されるほか、4層では地山を溝状に掘り込んで構築された石積遺構も検出されている。出土遺物から近世・近代ごろと推定される。

1・2層 1層は表土の黒褐色土、2層は攪乱層の黄褐色粘質シルト層。本土産白磁の小碗や沖縄産陶器、陶質土器などが出土している。

3層 オリーブ褐色の粘質シルト層。集石遺構が検出されている。沖縄産陶器などが出土しているため、近世・近代の層と推定される。

4・5層 地山の赤土（マージ）層。4層の黄褐色粘質シルトは溝状に掘り込まれて石列遺構が構築されている。また5層も同様の土質だが、直上及び上面より沖縄産陶器などが出土している。3層との層位関係と出土遺物から、近世ごろの層であったことが窺える。

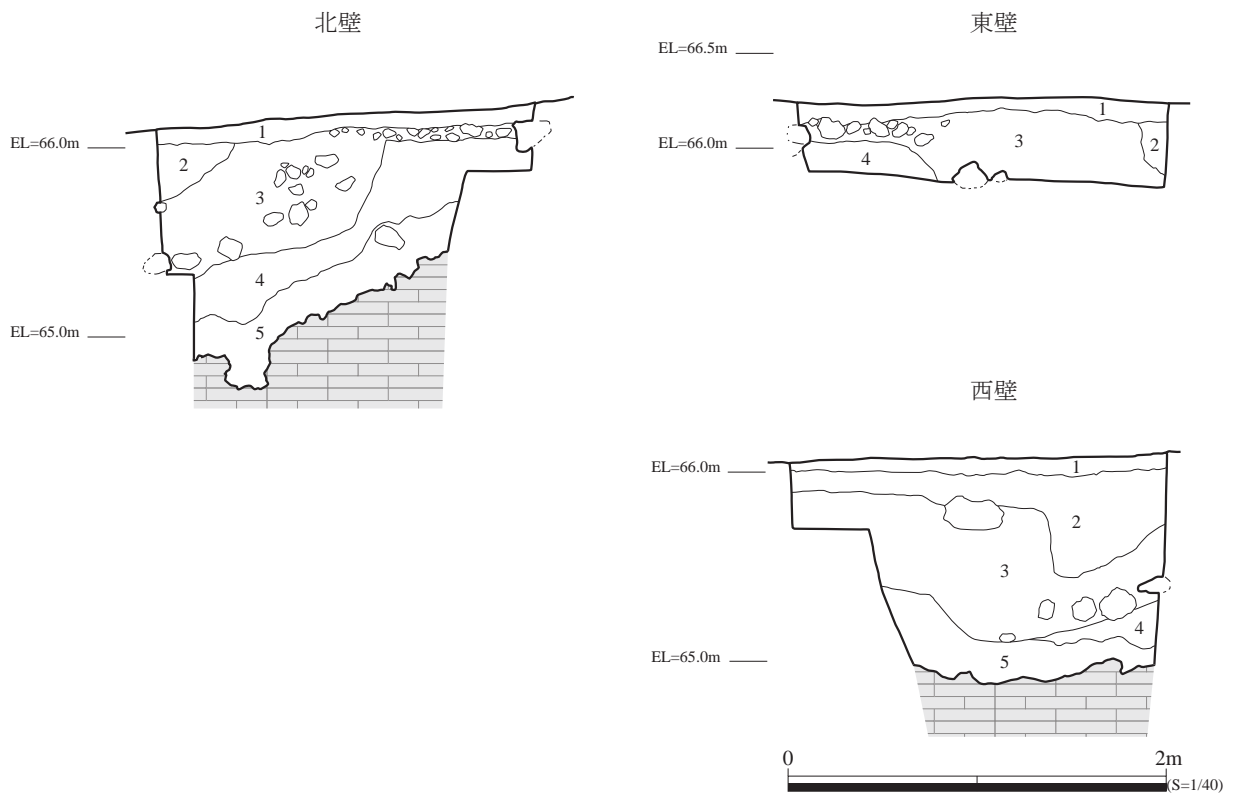
6層 琉球石灰岩の岩盤。



図版 154 フテ 36-J9-ア 調査前



図版 155 フテ 36-J9-ア 完掘状況



第55図 フテ 36-J9-ア 壁面図



図版 156 フテ 36-J9-ア 北壁

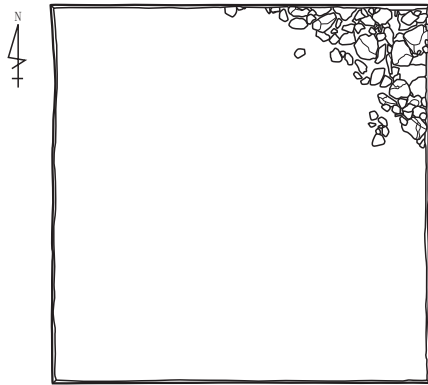


図版 157 フテ 36-J9-ア 東壁

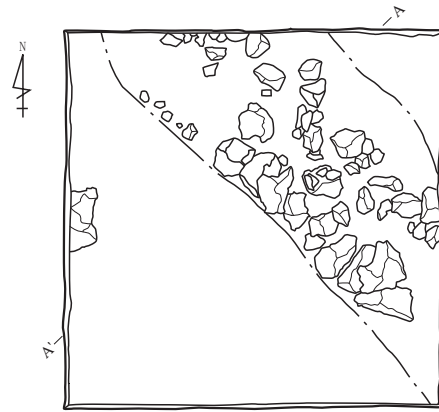


図版 158 フテ 36-J9-ア 西壁

集石遺構 平面図



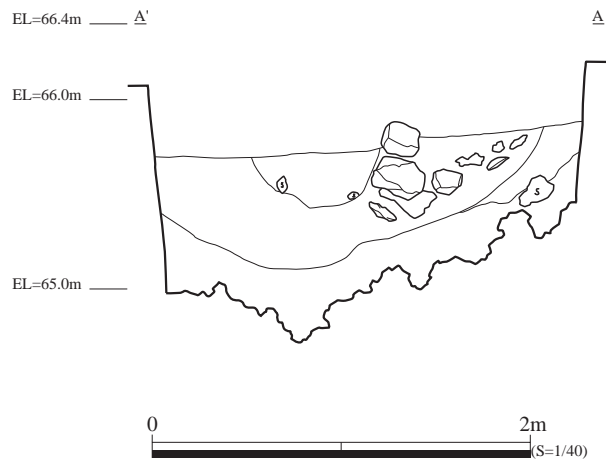
石列遺構 平面図



石列遺構半裁 敷石平面図



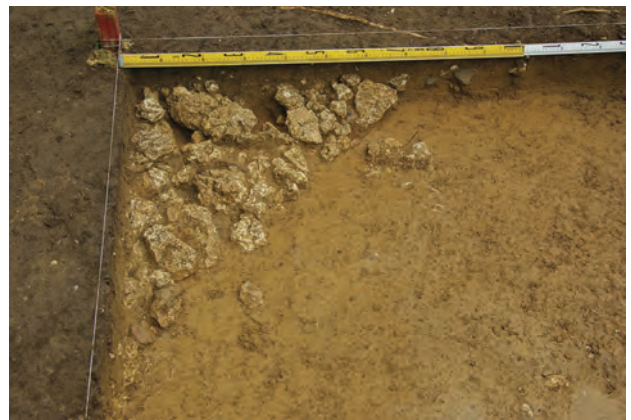
石列断面見通し図



第 56 図 フテ 36-J9- ア 3・4 層 遺構平面・断面図



図版 159 フテ 36-J9- ア 3 層上面 集石遺構 (遠景)



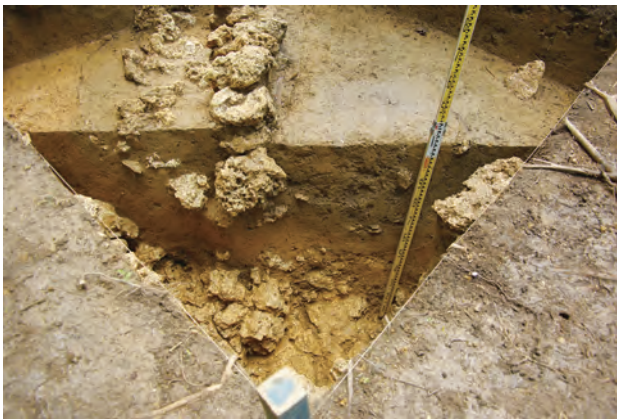
図版 160 フテ 36-J9- ア 3 層上面 集石遺構 (近景)



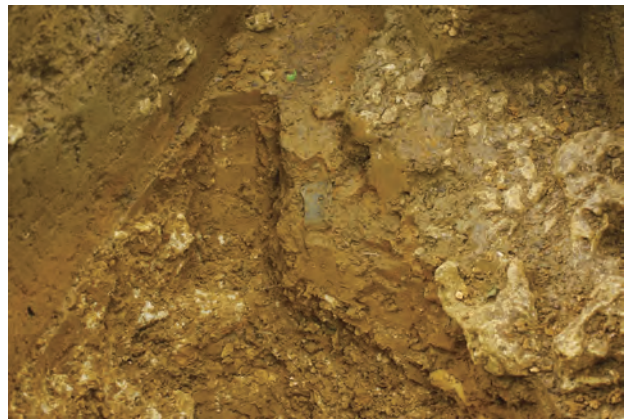
図版 161 フテ 36-J9- ア 4 層 石列遺構検出状況



図版 162 フテ 36-J9- ア 4 層 石列下敷石検出状況



図版 163 フテ 36-J9- ア 4 層 石列遺構断面



図版 164 フテ 36-J9- ア 5 層直上 遺物出土状況



図版 165 フテ 36-J9- ア 3 層出土遺物



図版 166 フテ 36-J9- ア 5 層出土遺物

種類 層序	陶質土器				本土産磁器		近代	沖縄産施釉陶器			沖縄産無釉陶器				
	鍋	火炉	急須	器種不明	白磁		本土産染付	碗	鍋	器種不明	鉢	播り鉢	壺	甕?	器種不明
					蓋	小碗	小碗?								
1層				1		1	1	1		1					3
2層		1				1				2		1		1	
3層	1	1	1	1				2	1	1			1		2
3層上面				1				1		2	1				
1層+3層+3層上面									1						
5層上面														1	
5層直上				1				2		3					
合計	1	2	1	4	1	1	1	6	2	9	1	1	1	2	5

種類 層序	焼土	合計
1層		8
2層		6
3層	1	12
3層上面		5
1層+3層+3層上面		1
5層上面		1
5層直上		6
合計	1	39

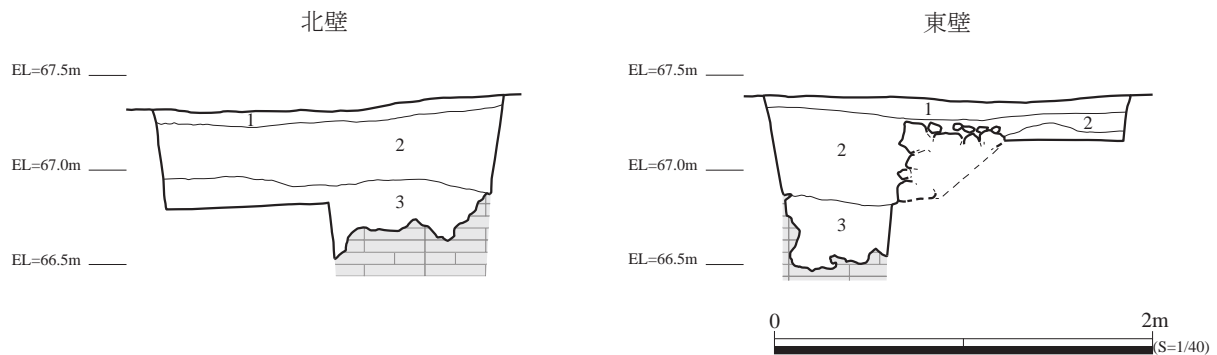
表 29 フテ 36-J9- ア 遺物集計表

第 5 節 大山東方丘陵古墓群

①フテ 37-H2- ア

概要 地山直上に石積遺構が構築されている。出土遺物から近世・近代ごろの遺構と目される。

- 1層 表土。暗褐色の砂質シルト。沖縄産陶器などが出土している。
- 2層 褐色砂質シルト層。石積遺構を埋める。遺物は中国産染付や沖縄産陶器など。
- 3層 地山の赤土（マージ）層。褐色粘質シルト。直上に石積遺構が構築される。
- 4層 琉球石灰岩の岩盤。



第 57 図 フテ 37-H2- ア 壁面図

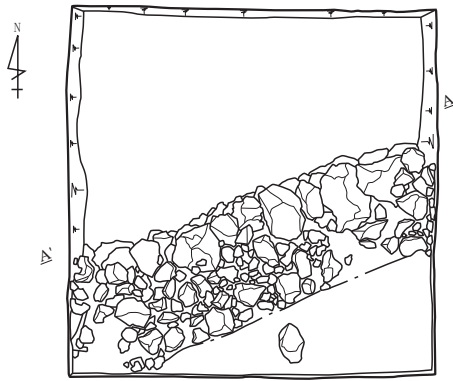


図版 167 フテ 37-H2- ア 北壁

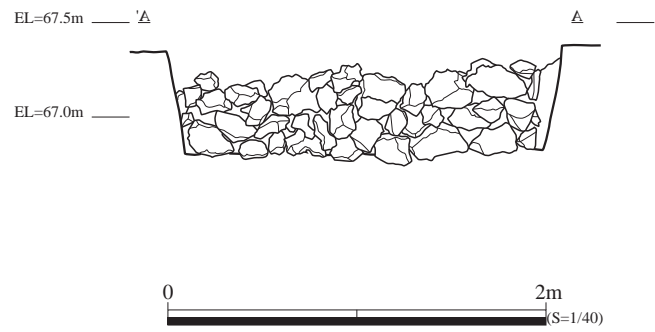


図版 168 フテ 37-H2- ア 東壁

石積平面図



見通し断面 (A-A')



第 58 図 フテ 37-H2- ア 3 層 遺構平面・断面図



図版 169 フテ 37-H2- ア 3 層 石積遺構検出状況 1



図版 170 フテ 37-H2- ア 3 層 石積遺構検出状況 2

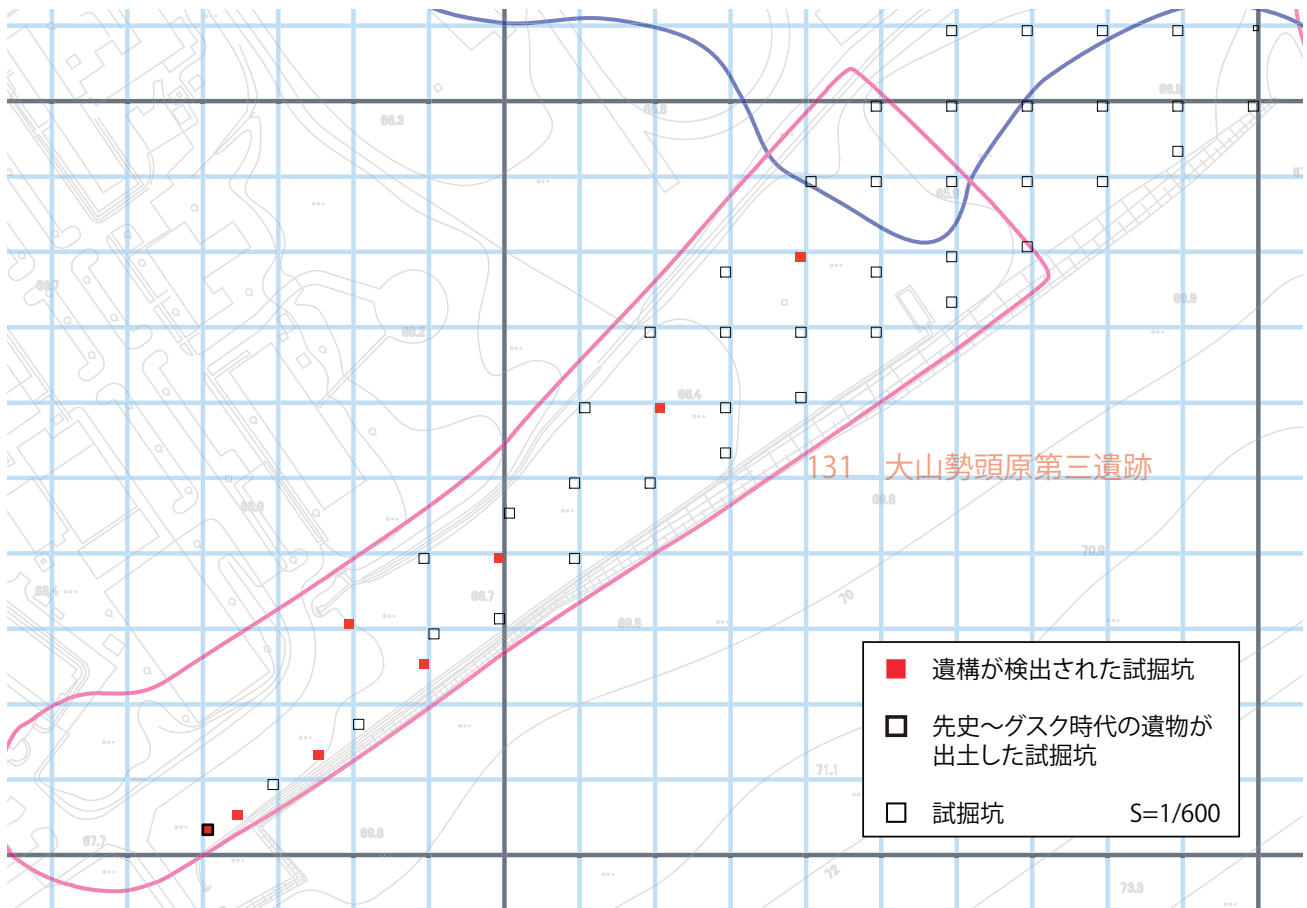
種類 層序	陶質土器			中国産染付		沖縄産施釉陶器				沖縄産無釉陶器		瓦	円盤状製品	合計
	鍋	火炉	器種不明	小碗	器種不明	碗	小碗	鍋?	器種不明	播り鉢	器種不明	明朝系破片	沖縄産無釉陶器	
1層			2		2				6		2	1		13
2層	1	2	6	1		2	1	1	5	1	3		2	25
合計	1	2	8	1	2	2	1	1	11	1	5	1	2	38

表 30 フテ 37-H2- ア 遺物集計表

第6章 フテ46・47グリット

第1節 概観

フテ46・47グリットは全49箇所を試掘し、その結果、先史から近世・近代期の遺跡である大山勢頭原第三遺跡が確認できた。以下確認された遺跡を中心に、試掘成果について報告する。



第59図 フテ46・47グリットの遺跡と試掘箇所

第2節 大山勢頭原第三遺跡

この遺跡はグスク期の柱穴または植栽痕と考えられる Pit や近世・近代の耕作土層、石積遺構、溝状遺構、暗渠と考えられる石敷き遺構を確認した。縄文時代の遺構は確認できなかったが、土器片が出土している。

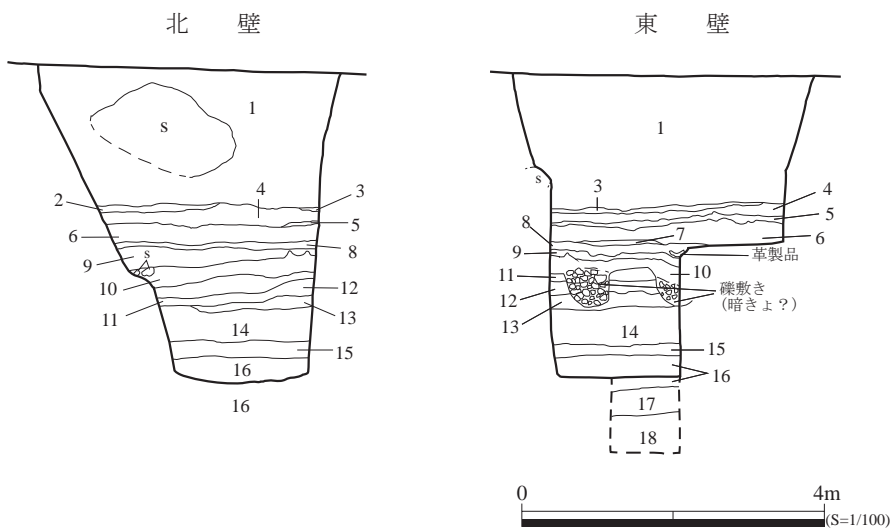
①フテ46-C7-ア

1層 戦後の造成層と現在の表土層となっている。

2～10層 近世・近代の耕作土層とみられる。グライ化の影響を受けており、層ごとに色調が変化している。また8層の下面より革製品が出土している。

11～15層 近世の耕作層とみられ、焼土粒やマンガン粒を包含している。11層の面より暗渠と考えられる石敷き遺構を検出した。

16層 グスク時代の包含層とみられる。炭・焼土・赤色粒・マンガンを包含しており、耕作土の可能性はあるが遺構は検出しなかった。この層を掘り下げ地表下4mとなったがマーヅ及び岩盤を検出できず調査を終えたため、詳細については確認調査の結果に委ねられる。



第60図 フテ46-C7-ア 断面略図



北壁



東壁

図版171 フテ46-C7-ア 壁面

②フテ46-E8-オ

1層 戦後の造成層と現在の表土層となっている。

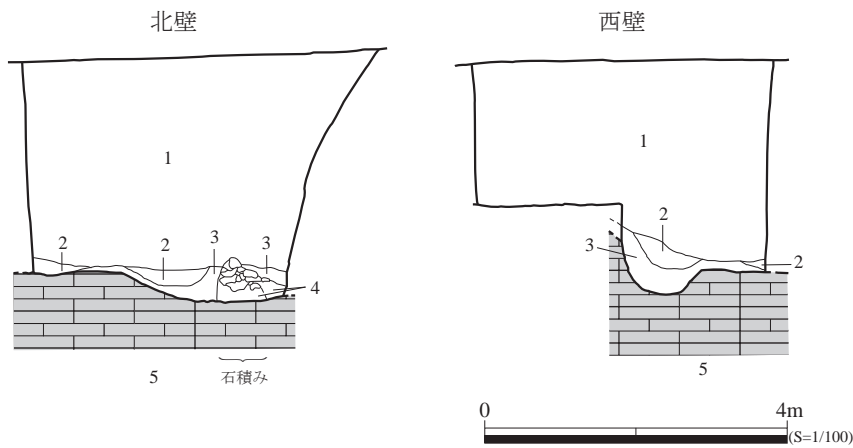
2・3層 近代までの耕作土層とみられる。この層より下に石積みを伴う溝状遺構を検出した。また遺物は沖縄産陶器（図版173）がより出土した。碗の底部の破片で、釉薬は鉄釉が施釉されて内底面に蛇目釉剥ぎされている。内底面と畳付けにはアルミナが塗布されている。

4層 基盤の石灰岩層。石灰岩はコーラル状で崩れやすくなっている。

溝状遺構 3層と4層を掘り込んで構築されている。この遺構に伴う石積みは西側の立ち上がり部分に構築されており、こぶし大の石灰岩を粗雑に積み上げている。遺物は出土していないが、3層と類似することから同時期の遺構と推定される。

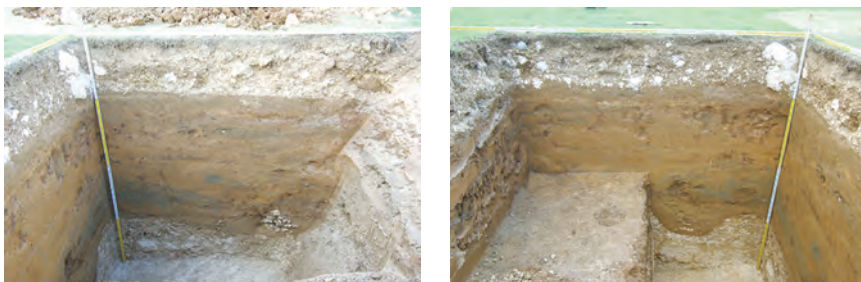


図版172 フテ46-E8-オ 溝状遺構検出状況



図版 174 フテ 46-E8-オ
3層出土遺物

第 61 図 フテ 46-E8-オ 断面略図



種類	沖縄産施釉陶器	合計
	碗	
3層	1	1
合計	1	1

表 31 フテ 46-E8-オ 遺物集計表

図版 173 フテ 46-E8-オ 壁面 (左:北壁 右:西壁)

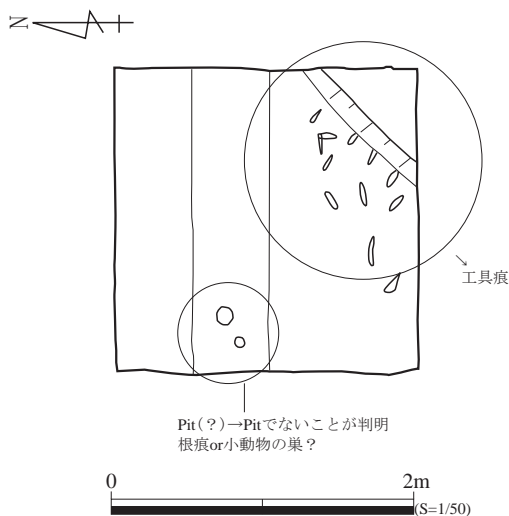
③フテ 47-G1-ア

1層 戦後の造成度層と現在の表土層となっている。

2・3層 近代までの耕作土層とみられる。この層を掘削後5層上で耕作に伴うと考えられる工具痕と畑の区画と考えられるSDを検出した。工具痕は方向がバラバラで、SDの関係は確認できなかった。またこの層より沖縄産陶器(図版 177)が出土している。小破片であるため器種は不明である。

4層 グスク時代の耕作土層とみられる。炭・焼土・石灰岩礫を包含し、団粒構造が発達している。この層は北壁の一部のみで確認できており、これより南の部分は近世期以降の耕作により消滅したとみられる。

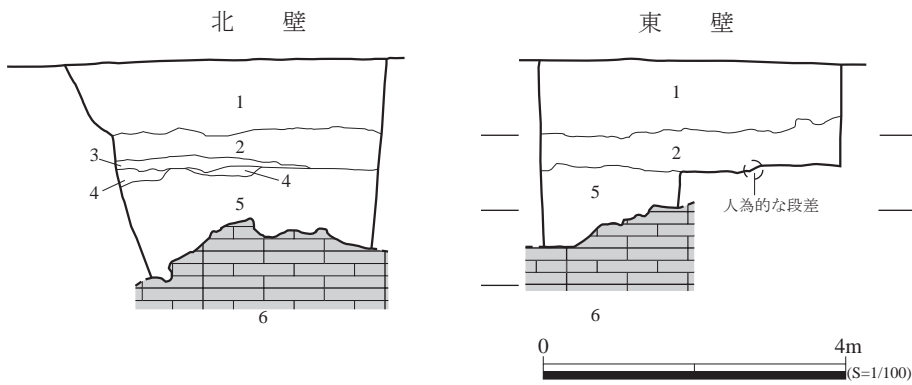
5・6層 自然堆積の層とみられ、赤土(マージ)層とその下に岩盤(6層)が確認できた。



第 62 図 フテ 47-G1-ア 平面図



図版 175 フテ 47-G1-ア 耕具痕検出状況



第 63 図 フテ 47-G1-ア 壁面図



図版 177 フテ 47-G1-ア
2層出土遺物



種類 層序	沖縄産無釉陶器	合計
	器種不明	
2層	1	1
合計	1	1

表 32 フテ 47-G1-ア 遺物集計表

図版 176 フテ 47-G1-ア 壁面 (左: 北壁 右: 東壁)

④フテ 47-G3-ナ

1層 戦後の造成度層と現在の表土層となっている。

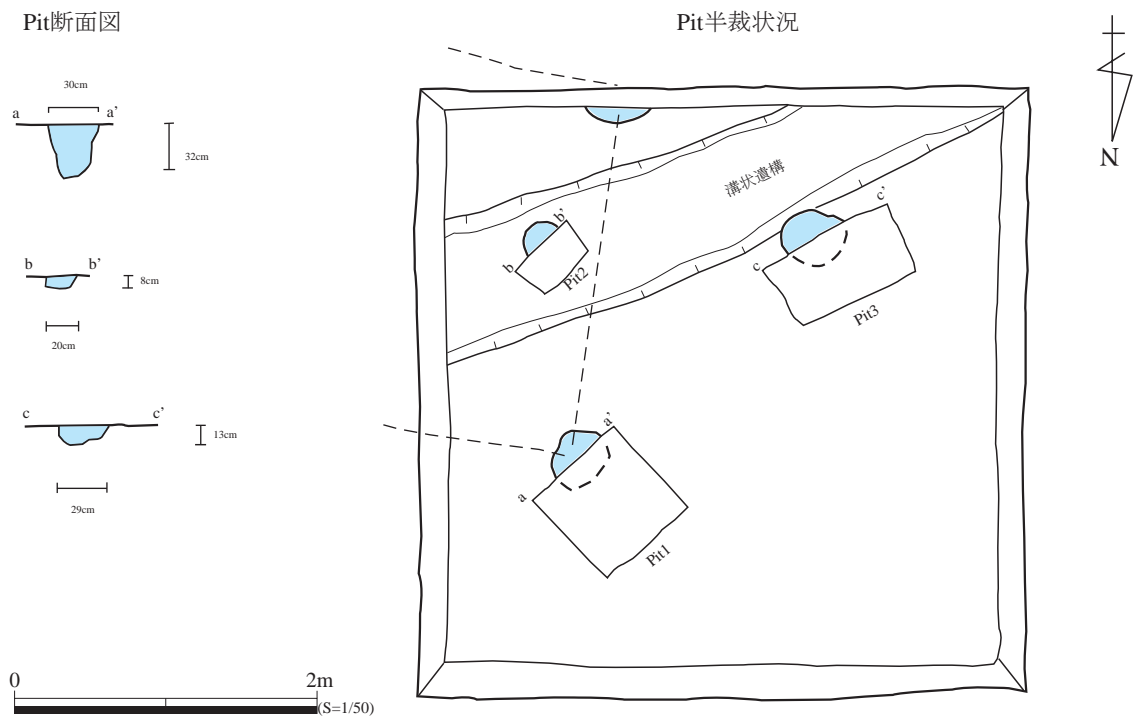
2・3層 近代までの耕作土層とみられる。この層の下面より溝状遺構を検出した。

4層 グスク時代の包含層とみられる。この層の下面より Pit を検出した。Pit より遺物は出土せず、また建物プランも確認できなかった。第一遺構検出面。

5層 自然堆積の層とみられ、赤土(マージ)層が確認できた。これより下層については遺構が全面で出土したため調査を終えており、詳細については確認調査の結果に委ねられる。第二遺構検出面。



図版 178 フテ 47-G3-ナ 4層 遺構検出状況



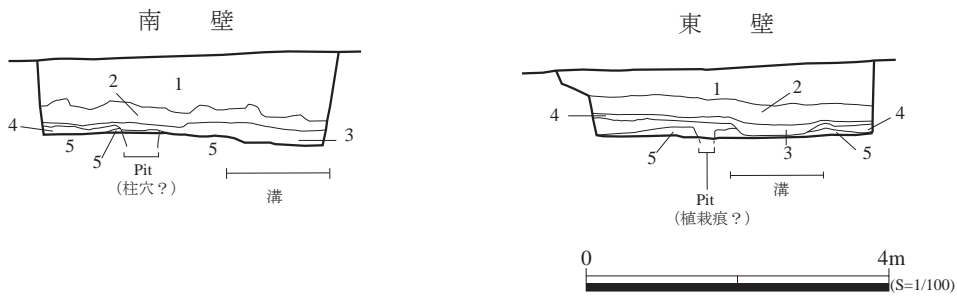
第64図 フテ47-G3-ナ4層 Pit平面・断面略図



図版179 フテ47-G3-ナ 4層Pit半裁状況
(左: Pit1 右: Pit2 下: Pit3)

層序	種類	本土産染付	沖縄産無釉陶器	円盤状製品	合計
		器種不明	器種不明	沖縄産無釉陶器	
2層				1	1
3層		1	1		2
合計		1	1	1	3

表33 フテ47-G3-ナ 遺物集計表



第 65 図 フテ 47-G3- ナ 土層断面略図



図版 180 フテ 47-G3- ナ 壁面 (左: 南壁 右: 東壁)

⑤フテ 47-H2- サ

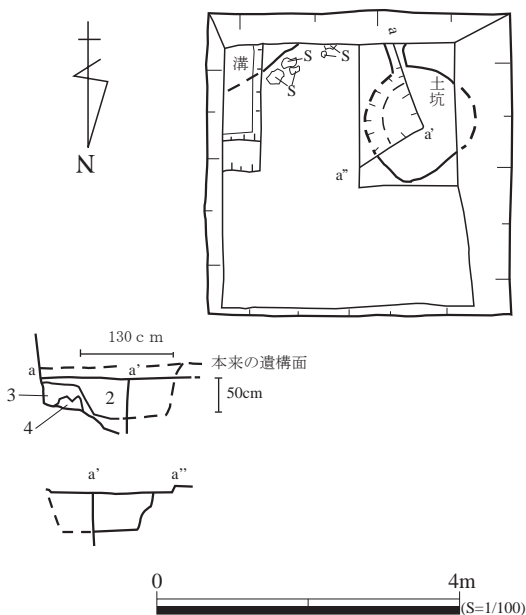
1層 戦後の造成層と現在の表土となっている。

2層 近世・近代期の耕作層とみられる。

3・4層 自然堆積の層とみられ、赤土（マージ）層が確認できた。4層を掘り下げ地表下 1.5 m となったが岩盤を検出できず調査を終えたため、詳細については確認調査の結果に委ねられる。この面より SK を 1 基、SD とこれに伴う石列を検出した。

種類 層序	鍛冶関連	合計
	鉄滓	
2層	1	1
合計	1	1

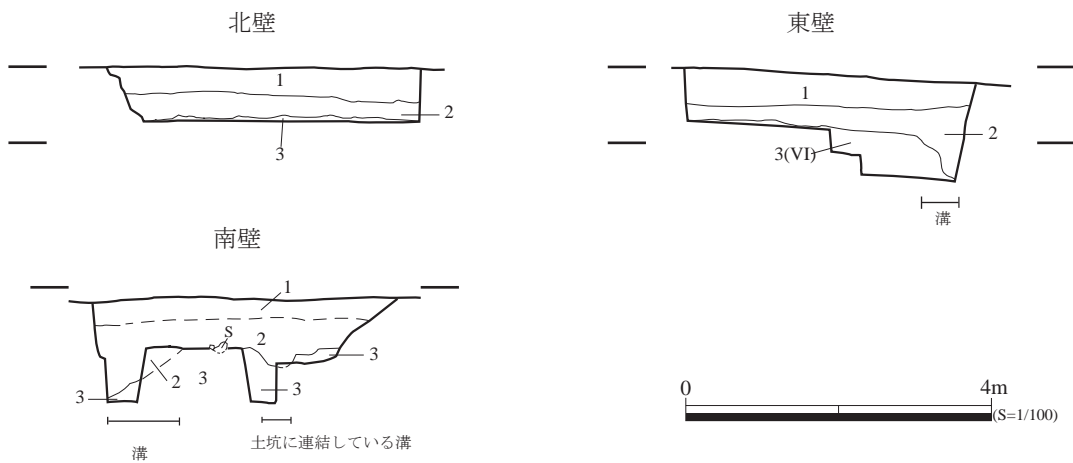
表 34 フテ 47-H2- サ 遺物集計表



第 66 図 フテ 47-H2- サ3層
遺構平面・土層断面略図



図版 181 フテ 47-H2- サ3層
遺構検出状況及び SK 断面



第 67 図 フテ 47-H2- サ 土層断面略図



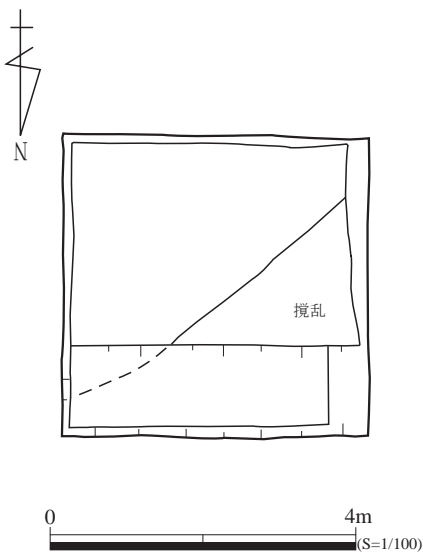
図版 182 フテ 47-H2- サ 壁面 (左 : 南壁 右 : 東壁)

⑥フテ 47-13- ツ

1層 戦後の造成土層と現在の表土層となっている。

2・3層 近世・近代の耕作土層とみられる。

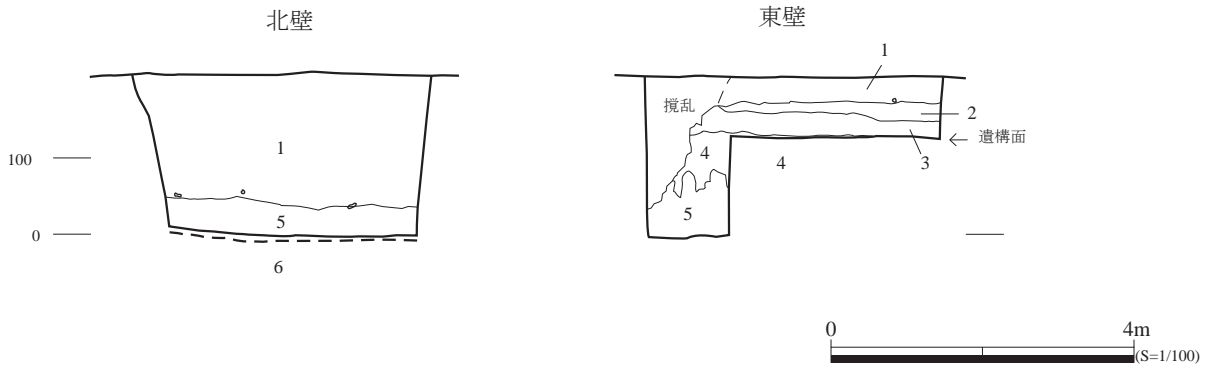
4・5層 自然堆積の層とみられ、赤土層（マージ）を検出した。4層上面より植栽痕と考えられる Pit を検出した。5層を掘り下げ地表下 2 m となったが岩盤が検出できず調査を終えたため、詳細については確認調査の結果に委ねられる。



第 68 図 フテ 47-13- ツ 4層 遺構平面略図



図版 183 フテ 47-13- ツ 4層 遺構検出状況



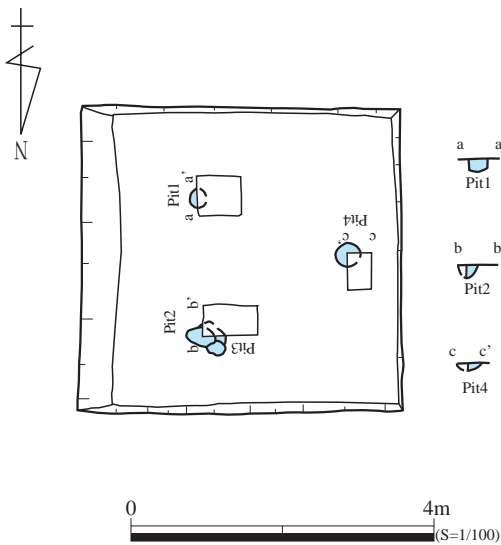
第 69 図 フテ 47-13- ツ 土層断面略図



図版 184 フテ 47-13- ツ 壁面 (左 : 北壁 右 : 東壁)

⑦フテ 47-J4- ス

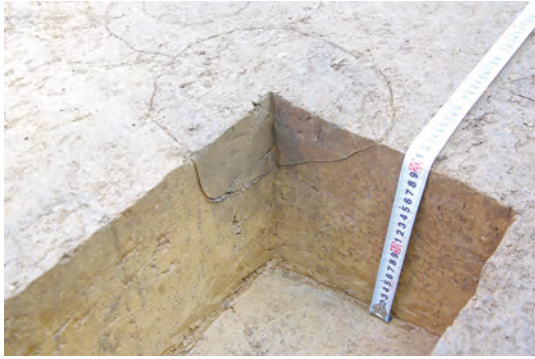
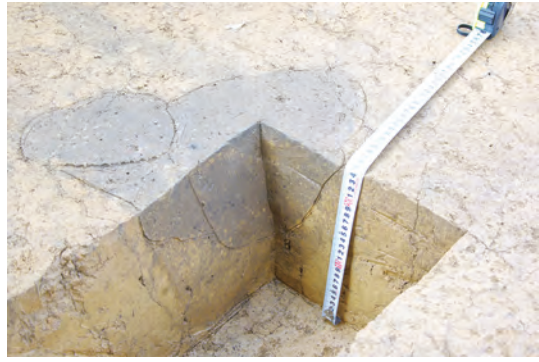
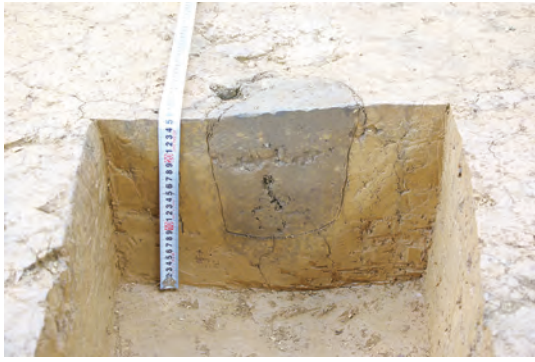
- 1層 戦後の造成土層と現在の表土層となっている。
- 2層 近世・近代の耕作土層とみられる。
- 3層 グスク時代の包含層とみられる。この層の下面より Pit を検出した。Pit より遺物は出土せず、また建物プランも確認できなかった。
- 4層 自然堆積の層とみられ、赤土（マージ）層が確認できた。これより下層については遺構が全面で出土したことにより調査を終えたため、詳細については確認調査の結果に委ねられる。



第 70 図 フテ 47-J4- ス 4層 遺構平面・断面略図



図版 185 フテ 47-J4- ス 4層 遺構検出状況



図版 186 フテ 47-J4- ス 4 層 Pit 半裁断面
(左: Pit1 右: Pit2、3 下: Pit4)

⑧フテ 47-J4- ト

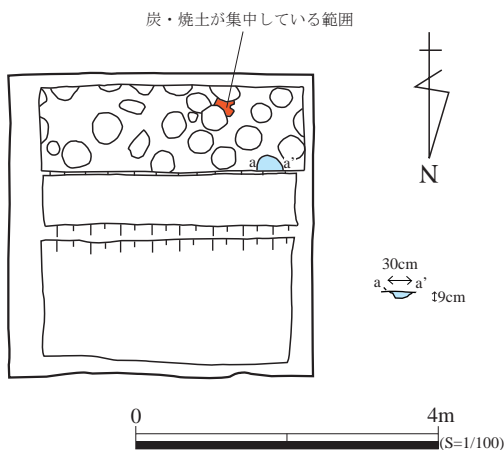
1層 戦後の造成土層と現在の表土層となっている。

2層 近世・近代の耕作土層とみられる。

3～6層 グスク時代の包含層とみられる。3層から5層にかけてしまりが強くなる傾向がある。遺物は出土しなかった。

7・8層 グスク時代より以前の堆積層とみられる。この層より植栽痕とみられる Pit を検出した。Pit より遺物は出土しなかった。また8層からは土器(図版 189-1、2)が出土した。これらの土器は小片であるため器種は不明で、文様は施されない。1は口縁部で、胎土は赤色で焼成は悪く脆い。混入物が多く白色粒が主体で、この他に黒色粒がみられる。外面は指ナデが行われているが、内面には行われず指頭圧痕が見られる。2は胴部で、胎土は赤色で焼成は悪く脆い。混入物は少なく、白色粒が主体でこの他に赤色粒が見られる。

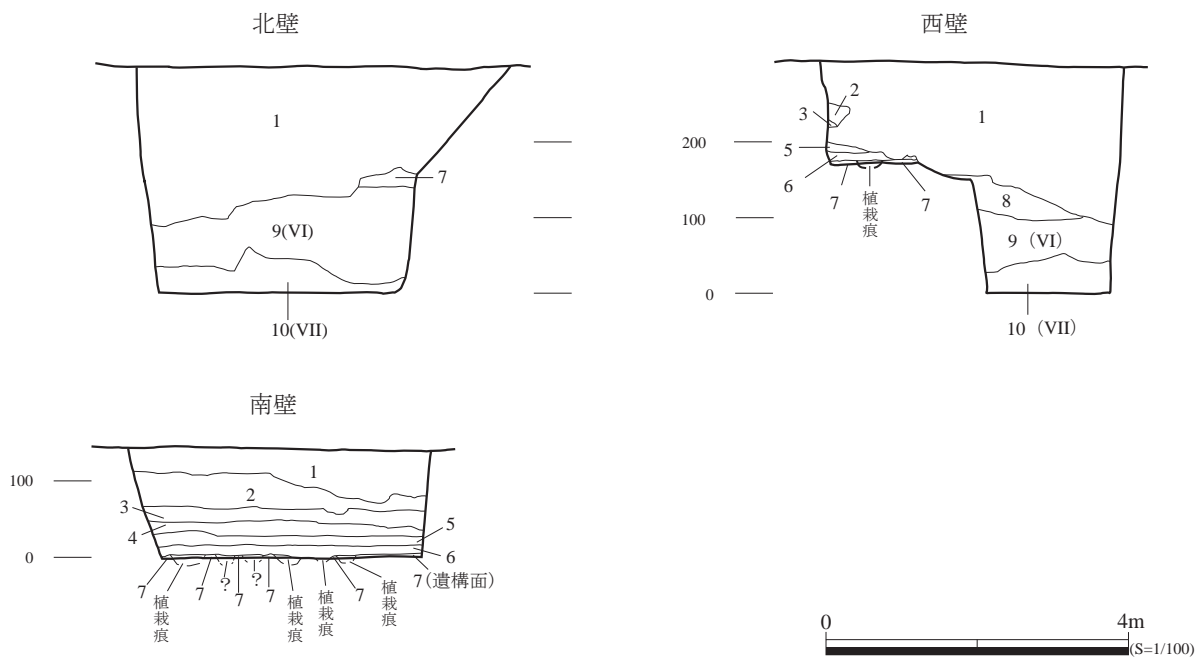
9・10層 自然堆積の層とみられるマージ層を検出した。これらの層はマンガンの濃縮が著しく、周辺の赤土よりも黒く変色している。10層を掘り下げ地表下3mとなったが岩盤が検出できずに調査を終えたため、詳細については確認調査の結果に委ねられる。



第 71 図 フテ 47-J4- ト 平面略図



図版 187 フテ 47-J4- ト 遺構検出状況



第 72 図 フテ 47-J4-ト 土層断面略図



北 壁



西 壁



南 壁

図版 188 フテ 47-J4-ト 壁面



図版 189 フテ 47-J4-ト 8層出土遺物

種類 \ 層序	土器	合計
	器種不明 胴部	
8層	2	2
合計	2	2

表 35 フテ 47-J4-ト 遺物集計表

試掘調査一覧表

(平成 18 年度)

遺跡名	グリッド名	現積 (m)		座標 (m)		基準 杭高 (Z)	方位	深度 (m)	層及び層厚 (cm)	検出基盤		遺構	遺物	備考
		4	2	X	Y					石灰 岩	泥岩			
喜友名前原 第二遺跡	7724 - B9 - ㊦	○	30658.000	25960.000	60.494	北・東	1.7	1層: 腐植土・表土 (2~6) 2層: 寒單造成土 (16~32) 3層: 褐色砂質シルトの耕作土層 (30~56) 4層: 褐色砂質シルト (5~29) 5層: オリーブ褐色砂質シルト (2~10) 6層: にぶい黄褐色砂質シルト (6~15) 7層: 暗褐色砂質シルトの耕作土層? (12~24) 8層: 暗褐色砂質シルトの耕作土層? (0~14) 9層: 黄褐色粘質シルト・マーヅ層 (0~32) 10層: 褐色粘質シルト・マーヅ層 (0~10) 11層: 琉球石灰岩岩盤	○		4層: 土器	耕作土: 3層 (近世以降) 不明: 5~7層 (焼土片検出)		
			30658.000	25958.000										
			30656.000	25958.000										
			30656.000	25960.000										
喜友名前原 第二遺跡	7724 - B10 - 7	○	30666.000	25930.000	58.927	北・東・西	2.6	1・2層: 表土・造成土 (8~81) 3層: 褐色砂質 (10~64) 4-9層: 耕作土層。黒褐色・褐色シルト (136~160) 10層: 明褐色赤土層 (2~4)	未検出		石積み	2層: 沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、土器、陶質土器、瓦質土器、釘、瓦、近・現代染付 3層: 沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、陶質土器 6層: 陶質土器	耕作土?: 4~8層 (近世以降) *3層 (近世以降)	
			30666.000	25928.000										
			30664.000	25928.000										
			30664.000	25930.000										
喜友名前原 第二遺跡	7724 - B10 - ㊦	○	30668.000	25902.000	60.135	北・東	0.6	1層: 腐植土・表層 (2~5) 2層: 褐色 (10~28) 3層: 褐色・マーヅ層 (2~26) 4層: 褐色・マーヅ層 (1~4) 5層: 石灰岩岩盤	○	×	2層: 沖繩産施軸陶器、土器、陶質土器、ガラスビン、釘、石	×		
			30668.000	25900.000										
			30666.000	25900.000										
			30666.000	25902.000										
喜友名前原 第二遺跡	7724 - C6 - ㊦	○	30628.000	26050.000	61.943	北・南・東・西	2.6	1層: 表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (2~6) 2層: 造成土?・褐色粘質砂質土 (3~13) 3層: 耕作土・黄褐色砂質シルト (16~28) 4層: 耕作土・黄褐色砂質シルト (4~20) 5層: 耕作土・黒褐色砂質シルト (4~21) 6層: 暗褐色粘質シルト (22) 7層: 暗黒褐色粘質シルト (3~34) 8層: 暗黒褐色粘質シルト (6~72) 9層: 明黄褐色粘質シルト (36~58) 10層: 明褐色粘質シルト (28~78) 11層: 黄褐色砂質シルト (2~18)	未検出	耕具痕 (5層上面) T+I2基 (6層上面)	1層: 沖繩産施軸陶器、被熱砂岩? 2層: 沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器 6層: 土器、ガラス土器、陶質土器、石器、輝綠岩、輝綠片岩、凝灰岩、砂岩、千枚岩、黒曜石、チャート、焼土、炭化木片 7層: 土器、砂岩、焼土	耕作土: 3~5層 (近世~近代以降)		
			30628.000	26048.000										
			30626.000	26048.000										
			30626.000	26050.000										
喜友名前原 第二遺跡	7724 - C7 - 7	○	30640.000	26020.000	61.298	北・東	1.5	1層: 表土・暗褐色・やや粘質 (2~6) 2層: 旧表土・褐色・粘質 (4~13) 3層: マーヅ層・明褐色・粘質 (13~56) 4層: マーヅ層・黄褐色・やや砂質 (0~46) 5層: マーヅ層・褐色・砂質 (11~58) 6層: マーヅ層・褐色・砂質 (10~40) 7層: マーヅ層・褐色・粘質 (0~28) 8層: 岩盤	○	×	×	×		
			30640.000	26018.000										
			30638.000	26018.000										
			30638.000	26020.000										
喜友名前原 第二遺跡	7724 - C8 - 7	○	30640.000	25990.000	60.409	北・東	2.4	1層: 腐植土・暗褐色 (2~5) 2層: 耕作土・褐色 (26~42) 3層: 耕作土・暗褐色 (0~48) 4層: 地山・明黄褐色砂質シルト (30~54) 5層: 地山・明褐色粘質シルト (14~50) 6層: 地山・明黄褐色砂質シルト (4~38) 7層: 地山・明黄褐色砂質シルト (12~52) 8層: 地山・暗褐色粘質シルト (3~22) 9層: 岩盤	○	×	1層: 本土産青磁、沖繩産施軸陶器、近・現代本土産染付	耕作土: 2層 (近代以降) 3層 (近世以降)		
			30640.000	25988.000										
			30638.000	25988.000										
			30638.000	25990.000										
喜友名前原 第二遺跡	7724 - C9 - 7	○	30640.000	25960.000	60.358	北・東	2.3	1層: 表土・暗褐色・泥質 (2~8) 2層: 造成土・暗褐色・砂質 (12~28) 3層: 造成土・褐色・砂質 (0~6) 4層: 褐色・砂質 (28~40) 5層: 耕作土?・暗褐色・砂質 (18~34) 6層: 耕作土?・暗褐色・砂質 (6~18) 7層: 耕作土?・暗褐色・砂質 (7~14) 8層: 耕作土?・黒褐色・砂質 (10~20) 9層: 褐色・砂質 (5~17) 10層: 褐色・砂質 (8~14) 11層: マーヅ層・黄褐色・粘質 (20~38) 12層: マーヅ層・褐色・粘質 (8~36) 13層: マーヅ層・褐色・粘質 (20~30)	未検出	×	2層: 中国産青磁、本土産青磁、本土産白磁、沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、陶質土器、石 8層: 土器、焼土 9層: 土器、砂岩 不明: 土器、焼土	耕作土: 4~7層 (中世~近代) *不明: 9・10層 (焼土含む)		
			30640.000	25958.000										
			30638.000	25958.000										
			30638.000	25960.000										
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7724 - C9 - ㊦	○	30612.000	25934.000	60.608	北・東	1.2	1層: 表土・腐植土・暗褐色 (7~12) 2層: 耕作土・褐色 (38~58) 3層: 耕作土・暗褐色砂質シルト (0~20) 4層: マーヅ層・黄褐色 (5~32) 5層: マーヅ層・暗褐色 (2~10) 6層: 石灰岩岩盤	○	×	1層: 本土産染付、磁器、沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、焼土 2層: 中国産青磁、本土産白磁、沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器	耕作土: 2層 (近代以降) 3層 (時期不明)*遺物なし		
			30612.000	25932.000										
			30610.000	25932.000										
			30610.000	25934.000										
喜友名前原 第二遺跡	7724 - C10 - 7	○	30640.000	25930.000	60.249	北・東	1.3	1層: 表土・黒褐色砂質シルト (3~8) 2層: 造成土・暗付?褐色・やや粘質 (21~27) 3層: 耕作土・褐色砂質シルト (32~53) 4層: 耕作土・黒褐色砂質シルト (15~36) 5層: マーヅ層・明褐色砂質シルト (0~23) 6層: マーヅ層・褐色粘質シルト (2~10) 7層: 琉球石灰岩岩盤	○	×	3層: 本土産青磁、沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、陶質土器、瓦、釘、鉄製品、焼土、獣骨	耕作土: 3層 (近世以降) 4層 (時期不明)		
			30640.000	25928.000										
			30638.000	25928.000										
			30638.000	25930.000										
遺跡なし	7724 - D4 - 7	○	30610.000	26110.000	63.209	北・東	1.7	1層: 暗褐色・腐植土 (6~8) 2層: 褐色 (8~67) 3層: 褐色・泥質 (12~72) 4層: 黄褐色・砂質 (22~82) 5層: 褐色・粘質 (0~30) 6層: 石灰岩岩盤	○	×	×	×		
			30610.000	26108.000										
			30608.000	26108.000										
			30608.000	26110.000										
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7724 - D5 - 7	○	30610.000	26080.000	62.478	北・東	2.9	1層: 表土・腐植土・黒褐色・粘質 (4~6) 2層: 盛土・黄褐色砂質シルト (14~32) 3層: 耕作土・黄褐色砂質シルト (14~32) 4層: 黒褐色粘質シルト (0~7) 5層: 褐色粘質シルト (11~25) 6層: 暗褐色粘質シルト (19~41) 7層: 暗褐色粘質シルト (44~72) 8層: マーヅ層・褐色粘質シルト (8~32) 9層: マーヅ層・黄褐色砂質シルト (52~62) 10層: マーヅ層・黄褐色砂質シルト (20~30) 11層: マーヅ層・明黄褐色砂質シルト (6~8)	未検出	廃棄土坑 (3層上面)	2層: 本土産白磁、沖繩産無軸陶器 5層: 土器	耕作土: 2・3層 (近~現代)、4層 (時期不明、焼土片含む) 包含層: 5層より土器出土 不明: 6層 (焼土片含む)		
			30610.000	26078.000										
			30608.000	26078.000										
			30608.000	26080.000										
喜友名前原 第二遺跡	7724 - D6 - 7	○	30610.000	26050.000	61.968	北・東	2.3	1層: 表土・褐色砂質シルト (2~7) 2層: 耕作土・黄褐色砂質シルト (12~18) 3層: 耕作土・黄褐色 (20~38) 4層: 耕作土・にぶい黄褐色砂質シルト (0~18) 5層: 耕作土・オリーブ褐色粘質シルト (8~16) 6層: 耕作土・黒褐色粘質シルト (18~22) 7層: 耕作土・褐色・粘質 (7~14) 8層: 耕作土・暗褐色粘質シルト (10~20) 9層: 暗褐色粘質シルト (14~24) 10層: 暗褐色粘質シルト (22~52) 11層: 地山・明黄褐色粘質シルト (36~65)	未検出	耕具痕 (5層上面)	2層: 中国産染付、沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、土器、炭化物 5層: 土器、石器、焼土 6層: 石器、焼土 7層: 沖繩産無軸陶器、土器、袖陶器、石器、焼土 8層: 砂岩	耕作土: 2~8層 (中世~近代)		
			30610.000	26048.000										
			30608.000	26048.000										
			30608.000	26050.000										
喜友名前原 第二遺跡	7724 - D6 - ㊦	○	30610.000	26022.000	61.400	北・東・南	1.3	1層: 表土・黒褐色砂質シルト (1~4) 2層: 造成土・黄褐色粘質シルト (30~50) 3層: 黄褐色粘質シルト (14~32) 4層: 褐色粘質シルト (14~40) 5層: マーヅ層・明褐色粘質シルト (2~24) 6層: マーヅ層・褐色粘質シルト (1~4) 7層: 琉球石灰岩岩盤	○	石積み遺構 (近世~近代頃)	2層: 沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器 2層or3層: 釘 3層: 沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、炭化物	×		
			30610.000	26020.000										
			30608.000	26020.000										
			30608.000	26022.000										

遺跡名	グリッド名	座標 (m)		基準 杭高 (Z)	深度 (m)	層及び層厚 (cm)	出土基盤 石灰岩	遺構	遺物	備考		
		X	Y									
喜友名前原 第二遺跡	7724-D8-A	○	30610.000	25990.000	60.787	北・東	2.6	○	×	1層：表土・暗褐色・泥質 (2~9) 2層：耕作土・にぶい黄褐色・砂質 (49~65) 3層：耕作土・褐色・赤や粘質 (3~24) 4層：耕作土・褐色・赤や砂質 (18~31) 5層：褐色・砂質 (24~100) 6層：マーゾ層・黄褐色・砂質 (20~52) 7層：マーゾ層・明褐色・砂質 (12~43) 8層：マーゾ層・黄褐色・砂質 (13~50) 9層：マーゾ層・暗褐色・粘質 (2~12) 10層：岩盤	1層：中国産染付・沖繩産軸陶器、 陶質土器、ジーファー、葉ピン、釘、砂 岩、近・現代鉄製品 2層：本土産白磁、沖繩産軸陶器、 沖繩産無軸陶器、陶質土器、瓦、焼土 3層：沖繩無軸陶器、近・現代鉄製品 4層：本土産白磁	耕作土：2層 (近世 以降)、3・4層はゾ ヌクまで通るか?
			30610.000	25988.000								
			30608.000	25988.000								
			30608.000	25990.000								
			30608.000	25990.000								
遺跡なし	7724-D9-A	○	30610.000	25960.000	60.343	北・東	2.4	未検出	×	2層：沖繩産軸陶器、沖繩産無軸陶器、 陶質土器、青銅製品、瓦、焼土 5層：沖繩産軸陶器、焼土 7層：土器	耕作土：2層 (近世 ~近代頃)、3~7層 (時期不明)	
			30610.000	25958.000								
			30608.000	25958.000								
			30608.000	25960.000								
			30608.000	25960.000								
神山黒敷原 古墓群	7724-E2-B	○	30574.000	26170.000	65.767	北・東	1.1	○	×	1層：表土・暗褐色 (2~6) 2層：造成土・褐色・砂質 (4~47) 3層：地山・明褐色粘質シルト (0~28) 4層：地山・明褐色砂質シルト (0~26) 6層：地山・明褐色砂質シルト (0~14) 7層：地山・褐色砂質シルト (0~28) 8層：岩盤	×	×
			30574.000	26168.000								
			30572.000	26168.000								
			30572.000	26170.000								
			30572.000	26170.000								
遺跡なし	7724-E3-A	○	30580.000	26140.000	64.692	北・東	2.0	○	×	1層：表土・暗褐色・砂質 (6~21) 2層：マーゾ層・褐色・粘質 (0~40) 3層：マーゾ層・明褐色・粘質 (26~65) 4層：マーゾ層・黄褐色・赤や砂質 (8~35) 5層：マーゾ層・褐色・砂質 (13~60) 6層：マーゾ層・黄褐色・砂質 (10~66) 7層：岩盤	×	×
			30580.000	26138.000								
			30578.000	26138.000								
			30578.000	26140.000								
			30578.000	26140.000								
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-E4-A	○	30580.000	26110.000	63.967	北・東	2.0	○	×	1層：腐植土・暗褐色 (6~8) 2層：旧表土・褐色シルト (10~14) 3層：赤土・褐色砂質シルト (24~56) 4層：赤土・明褐色シルト (36~66) 5層：赤土・明褐色砂質シルト (6~42) 6層：赤土・褐色砂質シルト (16~42) 7層：赤土・明褐色砂質シルト (3~30) 8層：赤土・褐色砂質粘土質シルト (0~30) 9層：琉球石灰岩岩盤	2層：沖繩産軸陶器、沖繩産無軸陶器、 陶質土器、瓦、鉄製品	耕作土：2層 (近代以降)
			30580.000	26108.000								
			30578.000	26108.000								
			30578.000	26110.000								
			30578.000	26110.000								
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-E5-A	○	30580.000	26080.000	62.828	北・東	2.1	○	×	1層：腐植土・暗褐色 (4~8) 2層：褐色シルト (16~22) 3層：明褐色シルト (26~58) 4層：明褐色砂質シルト (9~48) 5層：褐色砂質シルト (17~42) 6層：明褐色砂質シルト (10~48) 7層：褐色砂質粘土シルト (1~83) 8層：琉球石灰岩岩盤	×	耕作土：2層 (近代以降)
			30580.000	26078.000								
			30578.000	26078.000								
			30578.000	26080.000								
			30578.000	26080.000								
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-E7-A	○	30580.000	26020.000	61.477	北・東	2.5	未検出	ビッド基 (8層)	2層：陶質土器、瓦質土器、本土産染付 10層：土器、鉄洋	耕作土：3・4層 (近 世~近代以降)、 4~8層 (時期不明、 遺物なし)	
			30580.000	26018.000								
			30578.000	26018.000								
			30578.000	26020.000								
			30578.000	26020.000								
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-E7-B	○	30580.000	25992.000	60.868	北・西	2.5	○	×	1層：表土・腐植土・黒褐色粘質シルト (4~8) 2層：旧表土及び耕作土・ にぶい黄褐色砂質シルト (25~52) 3層：マーゾ層・橙粘質シルト (24~140) 4層：マーゾ層・明褐色砂質粘質シルト (32~130) 5層：マーゾ層・黄褐色砂質シルト (8~62) 6層：マーゾ層・褐色粘質シルト (0~16) 7層：琉球石灰岩岩盤	×	耕作土：2層 (近代以降)
			30580.000	25990.000								
			30578.000	25990.000								
			30578.000	25992.000								
			30578.000	25992.000								
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-E9-A	○	30580.000	25960.000	60.706	北・東	1.9	○	×	1層：表土・暗褐色・赤や砂質 (2~6) 2層：耕作土・褐色・赤や砂質 (34~48) 3層：耕作土・褐色・赤や粘質 (5~11) 4層：マーゾ層・褐色・粘質 (8~38) 5層：マーゾ層・褐色・粘質 (12~54) 6層：マーゾ層・黄褐色・砂質 (34~66) 7層：マーゾ層・褐色・粘質 (0~32) 8層：岩盤	2層：中国産染付・沖繩産軸陶器、 沖繩産無軸陶器、貝、瓦	耕作土：2・3層 (近世~近代以 降)
			30580.000	25958.000								
			30578.000	25958.000								
			30578.000	25960.000								
			30578.000	25960.000								
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-E10-A	○	30580.000	25930.000	60.524	北・東	2.2	○	×	1層：表土・黒褐色砂質シルト (3~8) 2層：黄褐色砂質シルト (26~56) 3層：暗褐色砂質シルト (0~9) 4層：黒褐色粘質シルト (0~11) 5層：暗褐色砂質シルト (13~40) 6層：マーゾ層・黄褐色粘質シルト (42~62) 7層：マーゾ層・明褐色砂質シルト (16~46) 8層：マーゾ層・褐色粘質シルト (9~60) 9層：石灰岩岩盤	2層：中国産染付・沖繩産軸陶器、 沖繩産無軸陶器、陶質土器、円盤状製品、 鉄製品、ガラス製品、瓦、石器、焼土	耕作土：2~4層 (近世~近代以降)
			30580.000	25928.000								
			30578.000	25928.000								
			30578.000	25930.000								
			30578.000	25930.000								
神山黒敷原 古墓群	7724-F1-B	○	30550.000	26172.000	68.396	北・西	0.6	○	×	1層：腐植土・暗褐色砂質シルト (1~14) 2層：赤土・褐色砂質シルト (0~18) 3層：赤土・褐色砂質シルト (0~13) 4層：赤土・褐色粘質シルト (0~10) 5層：赤土・褐色粘質シルト (0~30) 6層：岩盤	1層：中国産染付	×
			30550.000	26170.000								
			30548.000	26170.000								
			30548.000	26172.000								
			30548.000	26172.000								
神山黒敷原 古墓群	7724-F2-B	○	30550.000	26142.000	66.080	北・ 東・ 西・南	0.7	○	石積み遺構 (近世~近 代)	2~8層：家形厨子片・沖繩産無軸陶器、 土器、石・鉄製品、炭化物 表探：家形厨子片	×	
			30550.000	26140.000								
			30548.000	26140.000								
			30548.000	26142.000								
			30548.000	26142.000								
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-F4-A	○	30550.000	26110.000	*64.391	北・東	1.3	○	×	1層：表土・暗褐色・粘質 (2~6) 2層：造成土・褐色・砂質 (9~19) 3層：耕作土・褐色粘質シルト (0~16) 4層：赤土・褐色砂質シルト (6~78) 5層：赤土・明褐色砂質シルト (7~25) 6層：赤土・暗褐色粘質シルト (0~7) 7層：琉球石灰岩岩盤	2層：沖繩産軸陶器、沖繩産無軸陶器、 鉄製品	耕作土：3層 (近代以降)
			30550.000	26108.000								
			30548.000	26108.000								
			30548.000	26110.000								
			30548.000	26110.000								

遺跡名	グリット名	縦横 (m)		座標 (m)		基準 植高 (Z)	方位	深度 (m)	層及び層厚 (cm)	検出基盤		遺構	遺物	備考
		4	2	X	Y					石灰 岩	泥岩			
遺跡なし	7724-F8-I	○	30550.000	25984.000	*62.286	北・東	1.6	1層：表土・腐植土・暗褐色砂質シルト (2~5)	○	×	×	×	×	
			30550.000	25982.000				2層：造成土・褐色 (3~24)						
			30548.000	25982.000				3層：旧表土・褐色砂質シルト (2~16)						
			30548.000	25984.000				4層：マーヅ層・黄褐色砂質シルト (29~54)						
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7724-F9-F	○	30550.000	25960.000	61.659	北・東	2.4	1層：表土・腐植土・暗褐色 (5)	○	×	2層：具	耕作土：2層 (近代以降)		
			30550.000	25958.000				2層：旧表土or耕作土・褐色 (11~31)						
			30548.000	25958.000				3層：マーヅ層・明褐色・粘質 (46~118)						
			30548.000	25960.000				4層：マーヅ層・褐色 (24~72)						
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7724-F10-F	○	30550.000	25930.000	62.145	北・東	1.9	1層：表土・腐植土・暗褐色 (3~5)	○	×	×	耕作土：2層 (近代以降)		
			30550.000	25928.000				2層：旧表土or耕作土・褐色 (24~53)						
			30548.000	25928.000				3層：マーヅ層・褐色・粘質 (0~26)						
			30548.000	25930.000				4層：マーヅ層・明褐色・粘質 (10~52)						
神山黒数原 古墓群	7724-G2-F	○	30520.000	26170.000	69.506	北・東	0.1	1層：表土・黒褐色・砂質 (0~10)	○			×		
			30520.000	26168.000				2層：地山・褐色 (0~11)						
			30518.000	26168.000				3層：琉球石灰岩岩盤						
			30518.000	26170.000										
神山黒数原 第一遺跡	7724-G3-F	○	30520.000	26140.000	68.594	北・東	0.6	1層：表土・腐植土・黒褐色 (0~6)	○	×	1層：沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器	5層 (岩盤) に南西 から北東にかけて フィッシャーあり		
			30520.000	26138.000				2層：褐色 (0~14)						
			30518.000	26138.000				3層：褐色 (0~26)						
			30518.000	26140.000				4層：暗褐色 (0~10)						
神山黒数原 古墓群	7724-G4-F	○	30520.000	26110.000	65.751	北・東	2.9	1層：表土 (2)	○	古墓	表土：瓦	×		
			30520.000	26108.000				2層：客土 (14~280)						
			30518.000	26108.000				3層：床面・石粉 (6)						
			30518.000	26110.000				4層：岩盤						
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7724-G9-F	○	30520.000	25960.000	*63.659	北・東	1.9	1層：表土・腐植土・暗褐色砂質シルト (3~7)	○	×	×	耕作土：3層 (近世~近代以降)		
			30520.000	25958.000				2層：造成土・褐色 (27~44)						
			30518.000	25958.000				3層：旧表土・褐色砂質シルト (5~24)						
			30518.000	25960.000				4層：マーヅ層・明褐色粘質シルト (8~52)						
神山黒数原 古墓群 (近世・近代の生産遺跡)	7724-G9-F	○	30502.000	25960.000	64.473	北・東	2.1	1層：表土・腐植土・黒色砂質シルト (4~38)	○	×	中国産白磁、沖縄産施軸陶器、陶質土器、 瓦 (2層)	耕作土：2層 (近世~近代以降)		
			30502.000	25958.000				2層：耕作土・にぶい黄褐色砂質シルト (2~36)						
			30500.000	25958.000				3層：マーヅ層・褐色粘質シルト (64~140)						
			30500.000	25960.000				4層：マーヅ層・明黄褐色砂質シルト (6~56)						
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7724-G10-F	○	30520.000	25930.000	62.937	北・東	2.6	1層：表土・腐植土・暗褐色砂質シルト (5~12)	未検出	×	×	耕作土：2層 (近世~近代以降)		
			30520.000	25928.000				2層：旧表土・褐色砂質シルト (16~21)						
			30518.000	25928.000				3層：マーヅ層・褐色粘質シルト (9~31)						
			30518.000	25930.000				4層：マーヅ層・黄褐色砂質粘質シルト (26~120)						
神山黒数原 古墓群 (近世・近代の生産遺跡)	7724-H2-I	○	30490.000	26164.000	68.529	北・東	0.7	1層：表土・褐色・砂質 (8~16)	○	×	1層：ウシ骨 (解体痕有)、沖縄産施軸陶器	耕作土：2層 (近代以降)		
			30490.000	26162.000				2層：耕作土?・黄褐色・砂質 (24~34)						
			30488.000	26162.000				3層：地山・明褐色・粘質 (4~29)						
			30488.000	26164.000				4層：岩盤						
神山黒数原 古墓群	7724-H3-F	○	30490.000	26140.000	66.291	北・東	0.5	1層：表土・黒褐色砂質シルト (2~8)	○	×	×	×		
			30490.000	26138.000				2層：暗褐色・砂質 (5~20)						
			30488.000	26138.000				3層：地山・褐色粘質シルト (12~30)						
			30488.000	26140.000				4層：岩盤						
神山黒数原 古墓群	7724-H3-F	○	30462.000	26134.000	66.746	北・南	2.2	1層：表土・腐植土・黒褐色 (7)	○	4層：礎敷き (コーラル 道?)	2層：沖縄産施軸陶器、円盤状製品、 ガラス製品、漆喰	×		
			30462.000	26132.000				2層：米軍造成土・にぶい赤褐色 (20~40)						
			30460.000	26132.000				3層：褐色・粘質 (18~45)						
			30460.000	26134.000				4層：褐色・粘質 (0~20)						
神山黒数原 古墓群	7724-H4-F	○	30490.000	26110.000	64.279	北・東	2.2	1層：褐色・砂質 (4~6)	未検出	×	2層：沖縄産施軸陶器、陶質土器	耕作土：2~4層 (近世~近代以降) *5~10層は旧地形 からの 流れ込み?		
			30490.000	26108.000				2層：褐色・砂質 (3~13)						
			30488.000	26108.000				3層：黄褐色・砂質 (30)						
			30488.000	26110.000				4層：黄褐色・砂質 (0~9)						

遺跡名	グリッド名	座標 (m)		基準 標高 (Z)	方位	深度 (m)	層及び層厚 (cm)	検出基盤		遺構	遺物	備考
		X	Y					石灰岩	泥岩			
神山黒数原 古墓群 (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-H4-イ	○	30490.000	26082.000	64.574	北・ 東・ 西・南	1.6	1層: 基地造成土・暗褐色・砂質 (24~54)	○	×	1層: 中国産青磁、沖縄産施軸陶器、 沖縄産無軸陶器、陶質土器	耕作土: 3~6層 (近世~近代以降)
			30490.000	26080.000				2層: 旧表土・暗褐色・粘質 (0~8)				
			30488.000	26080.000				3層: 戦前造成土・褐色・砂質 (0~16)				
			30488.000	26082.000				4層: 耕作土?・褐色・粘質 (8~28)				
神山黒数原 古墓群	7724-H4-ト	○	30468.000	26082.000	68.310	北・ 東・ 西・南	1.2	1層: 暗褐色・砂質 (6~28)	○	×	3層: 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、 陶質土器	× *3~5層は焼土 や灰を含み、雑の 混入も多いので耕作 土ではないと思われる。
			30468.000	26080.000				2層: 白~褐色・砂質 (0~20)				
			30466.000	26080.000				3層: 耕作土?・褐色・砂質 (0~32)				
			30466.000	26082.000				4層: 耕作土?・褐色・砂質 (8~40)				
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-H10-ア	○	30490.000	25930.000	64.132	北・東	2.7	1層: 表土・腐植土・褐色砂質シルト (4~7)	○	×	×	耕作土: 2層 (近代 以降)
			30490.000	25928.000				2層: 耕作土・にぶい黄褐色砂質シルト (12~20)				
			30488.000	25928.000				3層: マージ層・明褐色砂質シルト (18~44)				
			30488.000	25930.000				4層: マージ層・橙褐色粘質シルト (100~129)				
神山黒数原 第二遺跡	7724-H10-イ	○	30490.000	25902.000	64.198	北・西	1.3	1層: 表土・腐植土・黒褐色 (4~6)	○	ビット基 (3層中)	2層: 沖縄産無軸陶器、沖縄産施軸陶器、 陶質土器	耕作土: 2層 (近代 以降)
			30490.000	25900.000				2層: 耕作土・灰黄褐色砂質シルト (50~62)				
			30488.000	25900.000				3層: マージ層・黄褐色粘質シルト (18~36)				
			30488.000	25902.000				4層: マージ層・黄褐色砂質シルト (22~32)				
神山黒数原 古墓群 (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-I4-ア	○	30460.000	26110.000	67.476	北・東	0.5	1層: 表土・暗褐色・砂質 (2~12)	○	×	×	耕作土: 2層 (近代 以降)
			30460.000	26108.000				2層: 耕作土?・褐色・砂質 (0~30)				
			30458.000	26108.000				3層: マージ層・褐色・砂質 (0~32)				
			30458.000	26110.000				4層: 岩盤				
神山黒数原 古墓群	7724-I8-ノ	○	30432.000	25962.000	68.034	北・東	1.9	1層: 表土・腐植土・褐色砂質シルト (2~4)	○	×	×	×
			30432.000	25960.000				2層: 掘乱層・褐色~黄褐色 (68~182)				
			30430.000	25960.000				3層: 岩盤				
			30430.000	25962.000								
神山黒数原 古墓群	7724-I9-ア	○	30460.000	25960.000	*65.836	北・東	1.2	1層: 表土・腐植土・黒褐色 (2~4)	○	×	2層: 沖縄産施軸陶器、鉄製品	×
			30460.000	25958.000				2層: 造成土・暗褐色 (8~50)				
			30458.000	25958.000				3層: 造成土・褐色 (32~72)				
			30458.000	25960.000				4層: 褐色・砂質 (0~22)				
神山黒数原 古墓群 (近世・近 代の生産遺 跡)	7724-I10-ア	○	30460.000	25930.000	65.376	北・東	1.0	1層: 表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (2~6)	○	×	2層: 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、 瓦、瓦質土器	耕作土: 2層 (近代 以降)
			30460.000	25928.000				2層: 耕作土・褐色砂質シルト (19~27)				
			30458.000	25928.000				3層: マージ層・明褐色粘質シルト (30~50)				
			30458.000	25930.000				4層: マージ層・黄褐色粘質シルト (0~16)				
神山黒数原 古墓群	7724-I10-ナ	○	30432.000	25930.000	66.828	東・南	0.6	1層: 表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (2~10)	○	×	2層: 沖縄産無軸陶器	×
			30432.000	25928.000				2層: 旧表土・にぶい黄褐色砂質シルト (0~16)				
			30430.000	25928.000				3層: マージ層・黄褐色粘質シルト (2~38)				
			30430.000	25930.000				4層: マージ層・褐色粘質シルト (4~15)				
遺跡なし	7725-B2-ア	○	30670.000	25870.000	60.577	北・東	0.9	1層: 腐植土・表層・黒褐色 (2~6)	○	×	×	×
			30670.000	25868.000				2層: 褐色 (11~34)				
			30668.000	25868.000				3層: 褐色・粘質・マージ層 (8~60)				
			30668.000	25870.000				4層: 石灰岩岩盤				
遺跡なし	7725-B3-ア	○	30670.000	25840.000	60.271	北・東	0.8	1層: 腐植土・表土・黒褐色 (2~4)	○	×	2層: 本土産白磁、本土産染付、 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、 グスタ土器、陶質土器、石、近・現代染付	×
			30670.000	25838.000				2層: 盛土・褐色 (0~18)				
			30668.000	25838.000				3層: 盛土・黄褐色 (0~8)				
			30668.000	25840.000				4層: 旧表土?・黒褐色 (2~14)				
遺跡なし	7725-C1-ア	○	30640.000	25900.000	61.918	北・東	0.4	1層: 表土・腐植土・黒褐色 (2)	○	×	2層: 沖縄産施軸陶器、陶質土器	×
			30640.000	25898.000				2層: 旧表土・暗褐色 (6~32)				
			30638.000	25898.000				3層: 琉球石灰岩岩盤				
			30638.000	25900.000								
神山黒数原 古墓群 (近世・近 代の生産遺 跡)	7725-C2-ア	○	30640.000	25870.000	60.485	北・ 東・ 西・南	0.8	1層: 中国産染付、陶質土器、 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、 円盤状製品、鉄製品、瓦、貝	未検出	石敷き遺構 (近世~ 近代以降)	1層: 中国産染付、陶質土器、 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、 円盤状製品、鉄製品、瓦、貝、 沖縄産無軸陶器、緑色片岩、貝、 獣骨 2層 (3・4層直上): 陶質土器、 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、 円盤状製品、石英 3層: 陶質土器 3・4層: 本土産白磁、沖縄産施軸陶器、 沖縄産無軸陶器、陶質土器、貝、 獣骨 (ブタ?)	×
			30640.000	25868.000				1層: 表土・腐植土・暗褐色 (3~10)				
			30638.000	25868.000				2層: 暗褐色 (3~26)				
			30638.000	25870.000				3層: 暗褐色 (28~34)				

遺跡名	グリッド名	縦断 (m)		座標 (m)		基準 標高 (Z)	方位	深度 (m)	層及び層厚 (cm)	検出基盤		遺構	遺物	備考
		4	2	X	Y					石灰 岩	泥岩			
神山黒数原 古墓群 (近世・近代の生産遺跡)	7725-C2-ネ	○	30612.000	25852.000	60.624	東・南	1.9	1層：表土・腐植土・黒褐色 (4~7) 2層：造成土・褐色 (16~34) 3層：耕作土・褐色砂質シルト (0~12) 4層：マーヅ層・褐色砂質シルト (12~38) 5層：マーヅ層・黄褐色砂質粘質シルト (12~79) 6層：マーヅ層・黄褐色砂質粘質シルト (0~48) 7層：マーヅ層・褐色砂質シルト (8~19) 8層：マーヅ層・褐色砂質シルト (6~20) 9層：マーヅ層・黄褐色砂質シルト (0~28) 10層：マーヅ層・褐色粘質シルト (2~14) 11層：琉球石灰岩岩盤	○		耕具痕 (4層)	1層：沖縄産無軸陶器 2層：クロム青磁	耕作土：3層 (近代以降)	
			30612.000	25850.000										
			30610.000	25850.000										
			30610.000	25852.000										
遺跡なし (近世・近代の遺物散布地)	7725-C3-7	○	30640.000	25840.000	59.984	北・東	2.5	1層：表土・腐植土・黒褐色 (4~16) 2層：造成土・褐色 (26~46) 3層：マーヅ層・褐色 (23~46) 4層：マーヅ層・褐色 (7~86) 5層：マーヅ層・黄褐色 (5~24) 6層：マーヅ層・黄褐色 (15~39) 7層：マーヅ層・暗褐色 (2~14) 8層：琉球石灰岩岩盤	○		×	2層：本土産色絵、本土産磁器、 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、 陶質土器、丹壺状製品、貝 3層：中国産青磁、沖縄産施軸陶器	×	
			30640.000	25838.000										
			30638.000	25838.000										
			30638.000	25840.000										
遺跡なし (近世・近代の遺物散布地)	7725-D1-7	○	30610.000	25900.000	60.822	北・東	2.5	1層：表土・暗褐色・やや砂質 (0~7) 2層：造成土・リブ褐色・砂質 (16~44) 3層：マーヅ層・褐色・粘質 (0~30) 4層：マーヅ層・黄褐色・砂質 (16~56) 5層：マーヅ層・暗褐色・粘質 (0~16) 6層：岩盤	○		×	2層：沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、 グスク土器、陶質土器、貝、瓦	×	
			30610.000	25898.000										
			30608.000	25898.000										
			30608.000	25900.000										
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7725-D2-7	○	30610.000	25870.000	60.473	北・東	2.5	1層：表土・暗褐色・やや砂質 (0~8) 2層：耕作土? にぶい黄褐色・やや粘質 (16~34) 3層：マーヅ層・褐色・砂質 (40~98) 4層：マーヅ層・明褐色・粘質 (87~176) 5層：マーヅ層・黄褐色・砂質 (3~82)	未検出		×	耕作土：2層 (近代以降)		
			30610.000	25868.000										
			30608.000	25868.000										
			30608.000	25870.000										
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7725-E1-7	○	30580.000	25900.000	61.438	北・東	1.3	1層：表土・腐植土・暗褐色 (4) 2層：旧表土・褐色 (0~8) 3層：耕作土・褐色 (24~52) 4層：マーヅ層・褐色・粘質 (0~38) 5層：マーヅ層・褐色・砂質 (12~31) 6層：マーヅ層・褐色・砂質 (0~22) 7層：マーヅ層・褐色・砂質 (0~26) 8層：石灰岩岩盤	○		×	耕作土：3層 (近世~近代以降)		
			30580.000	25898.000										
			30578.000	25898.000										
			30578.000	25900.000										
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7725-E2-7	○	30580.000	25870.000	61.482	北・東	2.6	1層：表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (4~6) 2層：旧表土? にぶい黄褐色砂質シルト (14~20) 3層：マーヅ層・明褐色砂質シルト (26~68) 4層：マーヅ層・褐色粘質シルト (78~136) 5層：マーヅ層・黄褐色砂質粘質シルト (10~48) 6層：マーヅ層・明黄褐色砂質シルト (17~53) 7層：マーヅ層・黄褐色粘質シルト (1~7) 8層：琉球石灰岩岩盤	○		×	耕作土：2層 (近世~近代以降)		
			30580.000	25868.000										
			30578.000	25868.000										
			30578.000	25870.000										
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7725-F1-7	○	30550.000	25900.000	62.549	北・東	1.7	1層：表土・暗褐色・やや粘質 (3~7) 2層：耕作土? 褐色・やや砂質 (0~15) 3層：耕作土? 褐色・砂質 (22~45) 4層：マーヅ層・明褐色・砂質 (0~50) 5層：マーヅ層・褐色・粘質 (24~60) 6層：マーヅ層・褐色・粘質 (2~76) 7層：岩盤	○		×	耕作土：3層 (近世~近代以降)		
			30550.000	25898.000										
			30548.000	25898.000										
			30548.000	25900.000										
遺跡なし	7725-F2-7	○	30550.000	25870.000	62.410	北・東	1.1	1層：表土・腐植土・黒褐色 (3~8) 2層：造成土・暗褐色 (5~32) 3層：マーヅ層・褐色砂質シルト (5~62) 4層：マーヅ層・明褐色砂質粘質シルト (9~54) 5層：マーヅ層・褐色粘質シルト (2~36) 6層：琉球石灰岩岩盤	○		×	耕作土：2~6層 (時期不明) *7層 (土器出土より包含層か)		
			30550.000	25868.000										
			30548.000	25868.000										
			30548.000	25870.000										
神山黒数原 第二遺跡	7725-G1-7	○	30520.000	25900.000	*63.326	北・東	2.5	1層：表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (2~10) 2層：耕作土・黄褐色砂質シルト (11~32) 3層：耕作土・黄褐色砂質シルト (15~27) 4層：耕作土・黒褐色砂質シルト (3~8) 5層：耕作土・にぶい黄褐色粘質シルト (10~23) 6層：耕作土・黒褐色粘質シルト (11~14) 7層：暗褐色粘質シルト (12~19) 8層：暗褐色粘質シルト (21~34) 9層：黄褐色砂質粘質シルト (100~122) 10層：褐色粘質シルト (2~15) 11層：岩盤	○		×	7層：土器、焼土	耕作土：2~6層 (時期不明) *7層 (土器出土より包含層か)	
			30520.000	25898.000										
			30518.000	25898.000										
			30518.000	25900.000										
遺跡なし	7725-G1-オ	○	30520.000	25872.000	63.530	北・西	0.8	1層：表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (3) 2層：造成土・褐色・砂質粘質土 (17~40) 3層：褐色粘質シルト (2~16) 4層：石灰岩岩盤	○		×	耕作土：2層 (近代以降)		
			30520.000	25870.000										
			30518.000	25870.000										
			30518.000	25872.000										
遺跡なし	7725-H2-7	○	30490.000	25870.000	63.319	北・東	0.2	1層：表土・暗褐色砂質シルト (0~5) 2層：耕作土? 褐色砂質シルト (3~17) 3層：耕作土? 褐色砂質シルト (2~14) 4層：岩盤	○		×	耕作土：2層 (近代以降)		
			30490.000	25868.000										
			30488.000	25868.000										
			30488.000	25870.000										
神山黒数原 古墓群 (近世・近代の生産遺跡)	7725-I1-7	○	30460.000	25900.000	64.926	北・東	1.4	1層：表土・腐植土・黒褐色 (2~12) 2層：旧表土・耕作土・褐色 (16~33) 3層：マーヅ層・明褐色 (32~86) 4層：マーヅ層・褐色 (2~30) 5層：琉球石灰岩岩盤	○		×	耕作土：2層 (近世~近代以降)		
			30460.000	25898.000										
			30458.000	25898.000										
			30458.000	25900.000										
遺跡なし (近世・近代の生産遺跡)	7725-I1-ノ	○	30432.000	25872.000	65.273	西・南	1.6	1層：表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (0~6) 2層：旧表土・にぶい黄褐色砂質シルト (5~17) 3層：黄褐色砂質粘質シルト (0~77) 4層：マーヅ層・黄褐色粘質シルト (0~61) 5層：マーヅ層・明黄褐色砂質シルト (0~30) 6層：マーヅ層・褐色粘質シルト (24~46) 7層：琉球石灰岩岩盤	○		土坑 (3層、 近代以降)	耕作土：2層 (近代以降)		
			30432.000	25870.000										
			30430.000	25870.000										
			30430.000	25872.000										

遺跡名	グリッド名	座標 (m)		座標 (m)		基準 植高 (Z)	深度 (m)	層及び層厚 (c m)	検出基礎		遺構	遺物	備考
		4	2	X	Y				石灰 岩	泥岩			
神山黒数原 古墓群	7725 - I2 - 7	○	30460.000	25870.000	65.952	北・東	0.5	1層：表土・腐植土・黒褐色 (1~6) 2層：旧表土・黒褐色 (4~18) 3層：マーヅ層・褐色・砂質 (7~22) 4層：マーヅ層・褐色・粘質 (3~16) 5層：石灰岩岩盤	○		×	×	×
			30460.000	25868.000									
			30458.000	25868.000									
			30458.000	25870.000									
神山黒数原 古墓群 (近世・近 代の生産遺 跡)	7725 - J1 - 8	○	30424.000	25900.000	66.259	北・東	1.4	1層：暗褐色・やや砂質 (3~12) 2層：褐色・やや砂質 (24~45) 3a層：マーヅ層・明褐色砂質シルト (0~14) 3b層：マーヅ層・明褐色砂質シルト (0~4) 3c層：マーヅ層・褐色砂質シルト (0~16) 4a層：マーヅ層・黄褐色粘質シルト (0~40) 4b層：マーヅ層・黄褐色粘質シルト (0~16) 4c層：マーヅ層・黄褐色粘質シルト (0~31) 5層：マーヅ層・褐色粘質シルト (8~47) 6層：マーヅ層・黄褐色・やや砂質 (4~48) 7層：マーヅ層・暗褐色・粘質 (1~13) 8層：岩盤	○		×	×	耕作土：2層 (近世~近代以降)
			30424.000	25898.000									
			30422.000	25898.000									
			30422.000	25900.000									
神山黒数原 古墓群	7735 - A10 - 7	○	30400.000	25930.000	68.586	北・東	0.7	1層：表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (2~14) 2層：造成土・暗褐色 (0~28) 3層：旧表土・褐色・やや砂質 (0~41) 4層：マーヅ層・明褐色砂質シルト (5~34) 5層：マーヅ層・黄褐色粘質シルト (2~14)	○		×	廃土：近・現代換付	×
			30400.000	25928.000									
			30398.000	25928.000									
			30398.000	25930.000									
神山黒数原 古墓群	7735 - A10 - 8	○	30374.000	25930.000	69.931	北・東	0.4	1層：表土・腐植土・黒褐色 (2~5) 2層：旧表土・褐色 (3~26) 3層：マーヅ層・褐色・砂質 (2~25) 4層：石灰岩岩盤	○		×	×	×
			30374.000	25928.000									
			30372.000	25928.000									
			30372.000	25930.000									
神山黒数原 古墓群	7736 - A1 - 7	○	30400.000	25900.000	67.048	北・東	0.6	1層：表土・腐植土・黒褐色 (3) 2層：褐色 (4~21) 3層：マーヅ層・暗褐色・砂質 (11~39) 4層：マーヅ層・暗褐色 (1~4) 5層：石灰岩岩盤	○			×	×
			30400.000	25898.000									
			30398.000	25898.000									
			30398.000	25900.000									
神山黒数原 古墓群	7736 - A1 - 7	○	30372.000	25872.000	67.520	西・南	1.6	1層：表土・腐植土・暗褐色 (2~4) 2層：マーヅ層・黄褐色 (20~40) 3層：マーヅ層・明褐色 (4~76) 4層：マーヅ層・暗褐色 (2~60) 5層：琉球石灰岩岩盤	○		×	×	×
			30372.000	25870.000									
			30370.000	25870.000									
			30370.000	25872.000									
神山黒数原 古墓群 (近世・近 代の生産遺 跡)	7736 - A2 - 7	○	30400.000	25870.000	65.961	北・東	1.2	1層：表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (2~4) 2層：耕作土・にぶい黄褐色砂質シルト (26~38) 3層：マーヅ層・明黄褐色砂質シルト (8~38) 4層：マーヅ層・黄褐色砂質粘質シルト (27~ 60) 5層：マーヅ層・褐色粘質シルト (2~10) 6層：琉球石灰岩岩盤	○		×	×	耕作土：2層 (近世~近代以降)
			30400.000	25868.000									
			30398.000	25868.000									
			30398.000	25870.000									
なし	7736 - A2 - 8	○	30398.000	25842.000	65.961	北・西	0.1	1層：表土・腐植土・黒褐色砂質シルト (4~9) 2層：琉球石灰岩岩盤	○		×	×	×
			30398.000	25840.000									
			30396.000	25840.000									
			30396.000	25842.000									
神山黒数原 古墓群	7736 - B1 - 7	○	30370.000	25900.000	68.296	東・西	1.6	1層：表土・褐色 (2~13) 2a層：攪乱・造成土・灰白色 (4~12) 2b層：攪乱・造成土・褐色 (8~24) 3層：攪乱・にぶい黄褐色 (14~128)	未検出		古墓	×	×
			30370.000	25898.000									
			30368.000	25898.000									
			30368.000	25900.000									
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7736 - B3 - 7	○	30370.000	25840.000	65.968	北・東	0.8	1層：表土・腐植土・黒褐色 (2~6) 2層：造成土・褐色 (13~34) 3層：造成土・攪乱・黄褐色 (0~21) 4層：耕作土・褐色 (2~26) 5層：マーヅ層・褐色・砂質 (2~28) 6層：マーヅ層・褐色 (2~16) 7層：石灰岩岩盤	○		×	4層：沖縄産施軸陶器、本土産白磁、タイル	耕作土：4層 (近代以降)
			30370.000	25838.000									
			30368.000	25838.000									
			30368.000	25840.000									
遺跡なし (近世・近 代の生産遺 跡)	7736 - B4 - 7	○	30370.000	25810.000	65.621	北・東	2.1	1層：表土・腐植土・褐色砂質シルト (2~6) 2層：造成土・攪乱・にぶい黄褐色 (34~177) 3層：旧表土or耕作土・黄褐色砂質シルト (14~22) 4層：マーヅ層・褐色粘質シルト (7~10) 5層：マーヅ層・黄褐色 (0~90) 6層：マーヅ層・明黄褐色 (16~42) 7層：マーヅ層・褐色 (1~18) 8層：琉球石灰岩岩盤	○		×	×	旧表土又は耕作土： 3層 (近世~近代以降)
			30370.000	25808.000									
			30368.000	25808.000									
			30368.000	25810.000									

(平成 19 年度)

遺跡名	グリット名	縦横 (m)		座標 (m)		基準 杭高(乙)	方位	深度 (m)	層及び層厚 (cm)	検出基礎		遺構	遺物	備考
		4	2	X	Y					石灰 岩	泥岩			
神山黒教原 古墓群	7735-C8-7	○	30340.000	25990.000	72.473	北・東・西	1.9	1層: 攪乱・造成土・褐色〜明黄褐色・砂質シルト〜粘質土 (57~125)	未検出	×	1層: 中国産青磁、本土産陶器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、瓦質土器、鉄製品、葉灰、瓦、石 2層: 沖縄産無軸陶器、陶質土器	2層 (近世〜近代以降)		
			30340.000	25988.000										
			30338.000	25988.000										
			30338.000	25990.000										
神山黒教原 古墓群	7735-C9-7	○	30340.000	25960.000	70.678	北・東・西	1.5	1層: 造成土・明黄褐色〜にぶい黄褐色・砂質粘質シルト (6~100)	○	×	1層: 沖縄産施釉陶器、沖縄産無軸陶器、青銅製品、石製品、本土産磁器 (近・現代)、コンクリート 層なし: 沖縄産施釉陶器、沖縄産無軸陶器、 寛永通宝	×		
			30340.000	25958.000										
			30338.000	25958.000										
			30338.000	25960.000										
神山黒教原 古墓群	7735-C10-7	○	30340.000	25930.000	68.788	北・東	2.4	1層: 表土・暗褐色砂質シルト (18~34)	○	×	層なし: 砂岩製磨製石器	1・2層 (近世〜近代以降)		
			30340.000	25928.000										
			30338.000	25928.000										
			30338.000	25930.000										
神山黒教原 古墓群	7736-C1-7	○	30340.000	25900.000	68.633	北・東	2.6	1層: 耕作土・にぶい黄褐色砂質シルト (30~40)	○	×	×	1・2層 (近世〜近代以降)		
			30340.000	25898.000										
			30338.000	25898.000										
			30338.000	25900.000										
神山黒教原 古墓群	7736-C2-7	○	30340.000	25870.000	68.666	北・東	0.4	1層: 表土・腐植土・暗褐色砂質シルト (6~18)	○	×	×	×		
			30340.000	25868.000										
			30338.000	25868.000										
			30338.000	25870.000										
神山黒教原 古墓群	7736-C3-7	○	30340.000	25840.000	66.616	北・東	0.6	1層: 旧表土及び造成土?・にぶい黄褐色〜明褐色・砂質土 (37~60)	○	×	1層: 沖縄産施釉陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、鉄製品、焼土、罫子	×		
			30340.000	25838.000										
			30338.000	25838.000										
			30338.000	25840.000										
遺跡なし	7736-C3-7	○	30340.000	25812.000	65.712	北・西	2.4	1層: 表土・腐植土・褐色砂質土 (2~14)	○	×	2層: 中国産染付、沖縄産施釉陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、青銅製品、ガラス製品、焼土	2層 (近世〜近代以降)		
			30340.000	25810.000										
			30338.000	25810.000										
			30338.000	25812.000										
遺跡なし	7736-C4-7	○	30312.000	25810.000	66.186	北・東	1.8	1層: 褐色砂質シルト (17~28)	○	×	1層: 沖縄産施釉陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、鉄製品、瓦、焼土	1層 (近代以降)		
			30312.000	25808.000										
			30310.000	25808.000										
			30310.000	25810.000										
遺跡なし	7736-C5-7	○	30340.000	25780.000	65.483	北・東	2.6	1層: 表土・腐植土・暗褐色砂質シルト (3~7)	未検出	×	3層: 沖縄産施釉陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、鉄製品、瓦、瓶、砂岩 4層: 中国産青磁、中国産染付、 沖縄産施釉陶器、沖縄産無軸陶器、	3・4層 (近世〜近代以降)		
			30340.000	25778.000										
			30338.000	25778.000										
			30338.000	25780.000										
神山黒教原 古墓群	7736-D1-7	○	30310.000	25900.000	71.046	北・東	0.3	1層: 表土・暗褐色砂質シルト (4~13)	○	×	1層: 寛永通宝	×		
			30310.000	25898.000										
			30308.000	25898.000										
			30308.000	25900.000										
神山黒教原 古墓群	7736-D2-7	○	30310.000	25870.000	70.365	北・東	0.3	1層: 表土・暗褐色〜褐色・砂質土 (4~18)	○	×	×	×		
			30310.000	25868.000										
			30308.000	25868.000										
			30308.000	25870.000										
神山黒教原 古墓群	7736-D3-7	○	30310.000	25840.000	68.421	北・東	0.4	1層: 表土・腐植土・褐色砂質シルト (5~10)	○	×	1層: 中国産染付、沖縄産施釉陶器、 沖縄産無軸陶器、陶質土器、炭化物	×		
			30310.000	25838.000										
			30308.000	25838.000										
			30308.000	25840.000										
なし	7736-D5-7	○	30308.000	25780.000	65.412	北・東	2.3	1層: 表土・褐色 (3~6)	○	×	1層: 本土産青磁、沖縄産施釉陶器、 沖縄産無軸陶器	2層 (近世〜近代以降)		
			30308.000	25778.000										
			30306.000	25778.000										
			30306.000	25780.000										
なし	7736-D6-7	○	30310.000	25750.000	65.053	北・東	2.2	1層: 表土・腐植土・褐色砂質シルト (5~10)	○	×	1層: 中国産青磁、本土産白磁、 本土産陶器、沖縄産施釉陶器、 沖縄産無軸陶器、陶質土器、 円盤状製品、瓦?、 石、プラスチック? 2層: 中国産染付、沖縄産施釉陶器、 沖縄産無軸陶器、円盤状製品、葉 灰、 焼土 3層: 沖縄産施釉陶器	×		
			30310.000	25748.000										
			30308.000	25748.000										
			30308.000	25750.000										

遺跡名	グリッド名	座標 (m)		基準 杭高 (Z)	深度 (m)	層及び層厚 (c m)	検出基盤		遺構	遺物	備考	
		X	Y				石灰 岩	泥岩				
大山加良当原第四遺跡	7736-F8-7	○	30250.000	25690.000	64.792	北・東・西・南	2.5	未検出		北東側に埋設管 (ヒューム管) あり	1層: 本土産陶器、沖繩産施軸陶器、陶質土器、瓦、炭化物 2層: 本土産青磁、沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、陶質土器、プラスチック 10層: 炭化物	2層 (近代以降)
			30250.000	25688.000								
			30248.000	25688.000								
			30248.000	25690.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-F8-7	○	30222.000	25662.000	64.234	西・南	2.6	未検出	×		1層: 焼土 4層: 土器	×
			30222.000	25660.000								
			30220.000	25660.000								
			30220.000	25662.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-F9-7	○	30250.000	25660.000	64.631	北・東	2.4	未検出	×		1層: 本土産白磁、本土産染付、沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、陶質土器、瓦、本土産陶器 (近・現代)	×
			30250.000	25658.000								
			30248.000	25658.000								
			30248.000	25660.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-F10-7	○	30250.000	25930.000	64.404	北・東	2.5	未検出	×		1層: 沖繩産施軸陶器、瓦、本土産磁器 (近・現代)	×
			30250.000	25928.000								
			30248.000	25928.000								
			30248.000	25930.000								
神山黒敷原古墓群	7736-G4-7	○	30220.000	25810.000	67.462	北・東	2.7	○	×		1層: 沖繩産施軸陶器	2層 (近世～近代以降)
			30220.000	25808.000								
			30218.000	25808.000								
			30218.000	25810.000								
なし	7736-G5-7	○	30220.000	25780.000	66.171	北・東	1.6	○	×		3層: 沖繩産施軸陶器、陶質土器、石、焼土、炭化物	2・3層 (近世～近代以降)
			30220.000	25778.000								
			30218.000	25778.000								
			30218.000	25780.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-G6-7	○	30220.000	25750.000	65.519	北・東	2.6	未検出	×		1層: 中国産染付、沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器 2層: 沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器 3層: 焼土	2・3層 (近世～近代以降)
			30220.000	25748.000								
			30218.000	25748.000								
			30218.000	25750.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-G7-7	○	30220.000	25720.000	65.433	南・西	2.1	未検出	ビッド基 (3層上面)		1層: 沖繩産無軸陶器 2層: 沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、陶質土器	2層 (近世～近代以降)
			30220.000	25718.000								
			30218.000	25718.000								
			30218.000	25720.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-G8-7	○	30220.000	25690.000	64.741	北・東	1.7	○	×		1層: 沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、瓦 3層: 土器 層なし: 沖繩産施軸陶器	不明: 2層?
			30220.000	25688.000								
			30218.000	25688.000								
			30218.000	25690.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-G10-7	○	30220.000	25630.000	65.949	北・東	1.2	○	×		2層: 沖繩産施軸陶器、宮古式土器?、陶質土器、葉夾、鉄製品	×
			30220.000	25628.000								
			30218.000	25628.000								
			30218.000	25630.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-H6-7	○	30190.000	25750.000	66.093	西・南	2.5	未検出	×		1層: 鉄製品、木片 2層: 中国産青磁、本土産白磁、本土産磁器、沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、土器、砂岩、焼土、本土産染付 (近・現代) 層なし: 焼土	2・3層 (近世～近代以降)、不明: 4・5層
			30190.000	25748.000								
			30188.000	25748.000								
			30188.000	25750.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-H7-7	○	30190.000	25720.000	66.140	南・西	0.7	○	ビッド基 (3層)		1層: 沖繩産施軸陶器、沖繩産無軸陶器、陶質土器、葉夾、瓦、焼土	×
			30190.000	25718.000								
			30188.000	25718.000								
			30188.000	25720.000								
大山加良当原第四遺跡	7736-H8-7	○	30190.000	25690.000	67.520	北・東	0.4	○	×		1層: 瓦	×
			30190.000	25688.000								
			30188.000	25688.000								
			30188.000	25690.000								
大山加良当原第四遺跡 大山東方丘陵古墓群	7736-H8-7	○	30162.000	25690.000	68.277	東・南	1.1	○	×		2層: 沖繩産施軸陶器、瓦、焼土	2層 (近代以降)
			30162.000	25688.000								
			30160.000	25688.000								
			30160.000	25690.000								

遺跡名	グリッド名	規格 (m)		座標 (m)		基準 杭高 (Z)	方位	深度 (m)	層及び層厚 (cm)	検出基礎		遺構	遺物	備考
		4	2	X	Y					石炭	泥岩			
大山加良当原第四遺跡	7736-H9-7	○	30190.000	25660.000	65.914	北・東	2.1	1層: 表土・腐植土・暗褐色 (4~16)	○	○	○	○	1層: 葉灰、焼土 2層: 沖縄産施軸陶器 3層: 陶質土器、焼土 4層: 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器 5層: 沖縄産施軸陶器、グスク土器、土器、焼土 6層: グスク土器	4層 (近世~近代)
			30190.000	25658.000				2層: 褐色・砂質 (0~20)						
			30188.000	25658.000				3層: 暗褐色・粘質 (8~18)						
			30188.000	25660.000				4層: 旧耕作土?・褐色・砂質 (16~44)						
大山加良当原第四遺跡	7736-H10-7	○	30190.000	25628.000	66.153	北・東	2.2	1層: 擾乱・褐色粘質砂質シルト (116~140)	○	○	○	×	1層: 中国産青磁、中国産白磁、中国産褐色、沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、土器、陶質土器、円盤状製品、鉄製品、瓦、焼土、炭化材、本土産染付 (近・現代)	×
			30190.000	25626.000				2層: 黄褐色粘質シルト (13~42)						
			30188.000	25626.000				3層: 褐色砂質シルト (19~54)						
			30188.000	25628.000				4層: 琉球石灰岩岩盤						
大山加良当原第四遺跡 大山東方丘陵古墓群	7736-I7-7	○	30160.000	25720.000	68.720	北・東	0.4	1層: 表土・腐植土・黒褐色粘質シルト (2~14)	○	○	○	×	1層: 沖縄産無軸陶器	×
			30160.000	25718.000				2層: 地山・黄褐色粘質シルト (4~32)						
			30158.000	25718.000				3層: 岩盤						
			30158.000	25720.000										
大山加良当原第四遺跡 大山東方丘陵古墓群	7736-I9-7	○	30160.000	25660.000	66.397	北・東	2.5	1層: 表土・腐植土・黒褐色粘質シルト (4~8)	○	○	○	×	1層: 本土産白磁、沖縄産無軸陶器 2層: 本土産青磁、本土産白磁、本土産陶器?、沖縄産施軸陶器、石 2層上面: 陶質土器 4層5層6層: 沖縄産施軸陶器	2層 (近世~近代以降)
			30160.000	25658.000				2層: 耕作土・明黄褐色砂質シルト (18~32)						
			30158.000	25658.000				3層: 赤土・黄褐色粘質シルト (0~40)						
			30158.000	25660.000				4層: 赤土・明黄褐色粘質シルト (15~65)						
大山加良当原第四遺跡 大山東方丘陵古墓群	7736-I10-7	○	30160.000	25630.000	65.354	北・東	2.8	1層: 表土・暗褐色砂質シルト (1~6)	○	○	○	○	2層: 沖縄産施軸陶器、陶質土器、釘、葉灰、鉄製品 3層: 沖縄産無軸陶器、陶質土器 4層: グスク土器、焼土 層なし: 本土産陶器?、沖縄産施軸陶器、陶質土器	×
			30160.000	25628.000				2層: 造成土・黄褐色砂質シルト (17~35)						
			30158.000	25628.000				3層: 黄褐色砂質シルト (31~60)						
			30158.000	25630.000				4層: 暗褐色砂質シルト (0~7)						
大山東方丘陵古墓群	7736-J9-7	○	30130.000	25660.000	66.365	北・東	1.7	1層: 表土・腐植土・黒褐色 (4~12)	○	○	○	○	1層: 本土産白磁、沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、本土産染付 (近・現代) 2層: 本土産白磁、沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器 3層: 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、焼土 3層上面: 沖縄産施軸陶器、陶質土器 5層上面: 沖縄産施軸陶器、陶質土器 5層直上: 沖縄産施軸陶器、陶質土器	×
			30130.000	25658.000				2層: 擾乱・黄褐色粘質シルト (0~54)						
			30128.000	25658.000				3層: 赤土・褐色粘質シルト (7~71)						
			30128.000	25660.000				4層: 黄褐色粘質シルト (0~44)						
大山東方丘陵古墓群	7736-J10-7	○	30130.000	25630.000	66.273	北・東	2.7	1層: 表土・造成土・暗褐色砂質シルト (18~36)	○	○	○	×	1層: 沖縄産施軸陶器、焼土、本土産染付 (近・現代) 層なし: 沖縄産施軸陶器、陶質土器?	2~4層 (近世~近代以降)
			30130.000	25628.000				2層: 耕作土・黄褐色砂質シルト (11~28)						
			30128.000	25628.000				3層: 耕作土・褐色粘質シルト (17~26)						
			30128.000	25630.000				4層: 耕作土・褐色粘質シルト (8~20)						
大山加良当原第四遺跡	7736-J10-7	○	30102.000	25630.000	69.187	東・南	2.9	1層: 表土・腐植土・暗褐色砂質シルト (4~13)	○	○	○	×	1層: 沖縄産無軸陶器	不明・2層 (近代以降)
			30102.000	25628.000				2層: 旧耕作土?・褐色砂質シルト (0~10)						
			30100.000	25628.000				3層: 地山・明褐色砂質シルト (43~94)						
			30100.000	25630.000				4層: 地山・褐色粘質シルト (87~126)						
なし	7737-G1-7	○	30216.000	25600.000	66.523	北・東	0.4	1層: 表土・暗褐色 (3~10)	○	○	○	×	1層: 沖縄産施軸陶器	×
			30214.000	25598.000				2層: 造成土・褐色粘質シルト (28~64)						
			30214.000	25600.000				3層: 造成土・にぶい黄褐色砂礫・コーラル						
			30190.000	25600.000										
大山東方丘陵古墓群	7737-H1-7	○	30190.000	25598.000	67.519	北・東	0.5	1層: 表土・暗褐色粘質シルト (2)	○	○	○	×	1層: 沖縄産施軸陶器	×
			30188.000	25598.000				2層: 赤土・褐色粘質シルト (5~45)						
			30188.000	25600.000				3層: 琉球石灰岩岩盤						
			30190.000	25570.000										
大山東方丘陵古墓群	7737-H2-7	○	30190.000	25568.000	67.612 (変更)	北・東	0.9	1層: 暗褐色砂質シルト (5~11)	○	○	○	○	1層: 沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、瓦 2層: 中国産染付、沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、円盤状製品	×
			30188.000	25568.000				2層: 褐色砂質シルト (5~48)						
			30188.000	25570.000				3層: 赤土・褐色粘質シルト (9~38)						
			30188.000	25570.000				4層: 琉球石灰岩岩盤						
大山東方丘陵古墓群	7737-H2-7	○	30190.000	25544.000	64.203	北・東	0.5	1層: 表土・褐色砂質シルト (6~12)	○	○	○	×	1層: 瓦 2層: 中国産青磁、沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、煙管、瓦、石、焼土、本土産染付 (近・現代)、陶質土器 (近・現代)	×
			30188.000	25542.000				2層: 造成土・褐色粘質シルト (19~47)						
			30188.000	25544.000				3層: 石灰岩岩盤						
			30160.000	25600.000										
大山東方丘陵古墓群	7737-I1-7	○	30160.000	25598.000	68.680	北・東	0.5	1層: 造成土・褐色~黄褐色・砂質シルト (16~41)	○	○	○	×	1層: 本土産青磁、沖縄産施軸陶器、沖縄産無軸陶器、陶質土器、葉灰	×
			30158.000	25598.000				2層: 石灰岩岩盤						
			30158.000	25600.000										
			30130.000	25600.000										
なし	7737-J1-7	○	30130.000	25598.000	68.195に 変更 *杭打ち直し	北・東	1.6	1層: 造成土・明黄褐色砂質シルト (24~38)	○	○	○	×	×	×
			30128.000	25598.000				2層: 地山・褐色粘質シルト (2~110)						
			30128.000	25598.000				3層: 琉球石灰岩岩盤						
			30128.000	25600.000										

(平成 20 年度)

遺跡名	グリッド名	規模 (m)		座標 (m)		基準 杭高 (Z)	方位	深度 (m)	層及び層厚 (c m)	検出基盤		遺構	遺物	備考
		4	2	X	Y					石灰 岩	泥岩			
大山東方丘 陵古墓群	フテ37-12-ア	○	30160.000	25770.000	65.797	北・東	0.6	1層：造成土(0~20) 2層：風化岩盤(15~55) 3層：琉球石灰岩岩盤	○		×		×	×
			30160.000	25666.000										
			30156.000	25666.000										
			30156.000	25770.000										
大山東方丘 陵古墓群	フテ37-13-ア	○	30160.000	25540.000	64.907	北・東	0.8	1層：造成土(15~30) 2層：岩盤・コーラル状(35~60) 3層：岩盤	○		×		×	×
			30160.000	25536.000										
			30156.000	25536.000										
			30156.000	25540.000										
大山東方丘 陵古墓群	フテ37-14-ア	○	30160.000	25510.000	64.384	北・東	0.4	1層：造成土(15~50) 2層：岩盤	○		×		×	×
			30160.000	25506.000										
			30156.000	25506.000										
			30156.000	25510.000										
なし	フテ37-12-ア	○	30130.000	25570.000	66.679	北・東	0.8	1層：造成土(15~30) 2層：岩盤・コーラル状(15~70) 3層：岩盤	○		×		×	×
			30130.000	25566.000										
			30126.000	25566.000										
			30126.000	25570.000										
大山東方丘 陵古墓群	フテ37-13-ア	○	30130.000	25540.000	66.251	北・東	1.3	1層：造成土(10~40) 2層：岩盤・コーラル状(50~60) 3層：岩盤(10~90)	○		×		×	×
			30130.000	25536.000										
			30126.000	25536.000										
			30126.000	25540.000										
大山東方丘 陵古墓群	フテ37-14-ア	○	30130.000	25510.000	65.851	北・東	0.6	1層：造成土(10~60) 2層：マーヅ・褐色粘質シルト(0~25) 3層：マーヅ・褐色~黄褐色粘質シルト(10~40) 4層：岩盤	○		×		×	×
			30130.000	25506.000										
			30126.000	25506.000										
			30126.000	25510.000										
大山東方丘 陵古墓群	フテ37-15-ア	○	30130.000	25480.000	65.510	北・東	0.3	1層：造成土(20~35)2層：岩盤	○		×		×	×
			30130.000	25476.000										
			30126.000	25476.000										
			30126.000	25480.000										
なし	フテ46-A1-ア	○	30100.000	25600.000	68.442	北・東	2.4	1層：造成土(10~40) 2層：覆乱(10~50) 3層：岩盤・コーラル状(155~230) 4層：岩盤	○		×		×	×
			30100.000	25596.000										
			30096.000	25596.000										
			30096.000	25600.000										
なし	フテ46-A2-ア	○	30100.000	25570.000	66.982	北・東	2.5	1層：造成土・覆乱(0~180) 2層：岩盤・コーラル状(30~200) 3層：岩盤	○		×		×	×
			30100.000	25566.000										
			30096.000	25596.000										
			30096.000	25570.000										
なし	フテ46-A2-タ	○	30082.000	25570.000	67.046	北・東	0.8	1層：造成土(5~15) 2層：風化岩盤(30~75) 3層：岩盤	○		×		×	×
			30082.000	25566.000										
			30078.000	25566.000										
			30078.000	25570.000										
なし	フテ46-A3-ア	○	30100.000	25540.000	66.360	北・東	2.0	1層：造成土(10~50) 2層：岩盤・コーラル状(80~200) 3層：岩盤(0~45)	○		×		×	×
			30100.000	25536.000										
			30096.000	25536.000										
			30096.000	25540.000										
大山東方丘 陵古墓群	フテ46-A4-ア	○	30100.000	25510.000	66.476	北・東	2.0	1層：造成土(25~75) 2層：岩盤・コーラル状(0~85)	○		×		×	×
			30100.000	25506.000										
			30096.000	25506.000										
			30096.000	25510.000										
大山東方丘 陵古墓群	フテ46-A5-ア	○	30100.000	25490.000	66.522	北・東	0.4	1層：造成土(5~25) 2層：琉球石灰岩岩盤(0~35)	○		×		×	×
			30100.000	25476.000										
			30096.000	25476.000										
			30096.000	25490.000										
大山東方丘 陵古墓群	フテ46-A6-ア	○	30100.000	25450.000	65.975	北・東	2.9	1層：造成土(15~115) 2層：岩盤・コーラル状(80~200)	○		×		×	×
			30100.000	25446.000										
			30096.000	25446.000										
			30096.000	25450.000										
なし	フテ46-B3-ア	○	30070.000	25540.000	66.181	北・東	2.7	1層：造成土(90~110) 2層：マーヅ・褐色粘質シルト(0~30) 3層：マーヅ・黄褐色粘質シルト(0~40) 4層：マーヅ・褐色粘質シルト(10~45) 5層：岩盤(0~70)	○		×	2層直上：瓦	×	
			30070.000	25536.000										
			30066.000	25536.000										
			30066.000	25540.000										
なし	フテ46-B4-ア	○	30070.000	25510.000	65.887	北・東	1.9	1層：造成土(60~145) 2層：岩盤・コーラル状(10~60) 3層：岩盤(30~50)	○		×		×	×
			30070.000	25506.000										
			30066.000	25506.000										
			30066.000	25510.000										

遺跡名	グリッド名	規格(m)		座標(m)		基準 杭高(7)	記録壁 面	深度 (m)	層及び層厚(cm)	検出基盤		遺構	遺物	備考
		4	2	X	Y					石灰 岩	泥 岩			
大山東方 丘陵古墓 群	フテ46- B4-ナ	○	30044.000	25510.000	66.213	東・南	2.8	1層:造成土(100~200) 2層:風化岩盤(70~140)	○		×	沖繩産無釉陶器(1層)		
			30044.000	25506.000										
			30040.000	25506.000										
			30040.000	25510.000										
大山東方 丘陵古墓 群	フテ46- B5-ア	○	30070.000	25480.000	65.844	北・東	2.3	1層:造成土(85~235) 2層:風化岩盤	○		×	×		
			30070.000	25476.000										
			30066.000	25476.000										
			30066.000	25480.000										
大山東方 丘陵古墓 群	フテ46- B6-ア	○	30070.000	25450.000	65.323	北・東	3.1	1層:造成土(100~150) 2層:旧耕作土・黄褐色砂質シルト(20~ 30) 3層:褐色砂質シルト(5~20) 4層:褐色砂質シルト(10~30) 5層:褐色砂質シルト(10~50) 6層:暗灰黄色砂質シルト(10~30) 7層:琉球石灰岩岩盤	○		×	陶質土器、瓦(4層)		
			30070.000	25446.000										
			30066.000	25446.000										
			30066.000	25450.000										
大山東方 丘陵古墓 群	フテ46- B6-オ	○	30070.000	25424.000	65.237	北・西	3.2	1層:造成土(20~220) 2層:オリブ褐色粘土(0~60) 3層:オリブ褐色粘質シルト(0~50) 4層:褐色砂質シルト(0~90) 5層:褐色砂質シルト(0~30) 6層:暗灰黄色砂質シルト(0~15) 7層:黄褐色粘土(0~25) 8層:オリブ褐色砂質シルト(10~40) 9層:暗灰黄色砂質シルト(10~40) 10層:黒褐色粘質シルト(10~50) 11層:マーヅ・暗褐色粘質シルト(10~ 30) 12層:琉球石灰岩岩盤	○		溝状遺構? (10層)	×		
			30070.000	25420.000										
			30066.000	25420.000										
			30066.000	25424.000										
なし (近世・近 代の生産 遺跡)	フテ46- C5-ア	○	30040.000	25480.000	65.236	北・東	3.0	1層:造成土(75~180) 2層:オリブ褐色砂質シルト(15~35) 3層:褐色砂質シルト(10~85) 4層:にぶい黄褐色砂質シルト(40~70) 5層:灰黄褐色砂質シルト(25~35) 6層:褐色粘質シルト(10~55)	未検出		×	沖繩産無釉陶器・瓦(3層)	耕作土(2・3層)	
			30040.000	25476.000										
			30036.000	25476.000										
			30036.000	25480.000										
なし	フテ46- C5-タ	○	30022.000	25480.000	65.748	北・東	2.4	1層:造成土(40~90) 2層:旧表土・褐色砂質シルト(0~30) 3層:堆積土・褐色砂質シルト(0~20) 4層:マーヅ・褐色粘質シルト(0~50) 5層:琉球石灰岩岩盤(0~90)	○		×	×		
			30022.000	25476.000										
			30018.000	25476.000										
			30018.000	25480.000										
なし	フテ46- C6-カ	○	30034.000	25450.000	65.219	北・東	3.1	1層:造成土(75~200) 2層:褐色粘質シルト(0~30) 3層:オリブ褐色砂質シルト(5~30) 4層:オリブ褐色砂質シルト(20~25) 5層:黄褐色粘質シルト(30~45) 6層:黄褐色砂質シルト(25~35) 7層:オリブ褐色粘質シルト(20~25) 8層:にぶい黄褐色砂質シルト(10~20) 9層:灰黄褐色粘質シルト(20~30) 10層:灰黄褐色砂質シルト(20~30)	未検出		×	本土産陶器、沖繩産施釉 陶器(4層) 沖繩産施釉陶器(5層)		
			30034.000	25446.000										
			30030.000	25446.000										
			30030.000	25450.000										
なし (近世・近 代の性格 不明遺跡)	フテ46- C7-ア	○	30040.000	25420.000	65.122	北・東	3.0	1層:造成土(40~180) 2層:旧表土?・オリブ黒色粘土(0~ 15) 3層:オリブ褐色粘質シルト(0~10) 4層:オリブ褐色砂質シルト(5~25) 5層:暗オリブ褐色砂質シルト(0~ 6) 6層:明赤褐色粘質シルト(15~35) 7層:褐色砂質シルト(0~10) 8層:オリブ褐色砂質シルト(0~15) 9層:オリブ褐色砂質シルト(5~30) 10層:褐色粘質シルト(10~30) 11層:遺構面・褐色砂質シルト(10~ 12) 12層:褐色砂質シルト(10~25) 13層:褐色砂質シルト(0~20) 14層:オリブ褐色粘質シルト(40~ 15) 15層:オリブ褐色砂質シルト(10~ 16) 16層:暗オリブ褐色粘質シルト(20~ 50) 17層:マーヅ(30) 18層:マーヅ(45~50)	未検出		礫敷き(暗 渠?)(11 層)	革製品(8層)		
			30040.000	25416.000										
			30036.000	25416.000										
			30036.000	25420.000										
なし	フテ46- C8-カ	○	30034.000	25390.000	65.462	北・東	2.9	1層:造成土(70~235) 2層:褐色砂質シルト(60~80) 3層:褐色砂質シルト(25~45) 4層:褐色砂質シルト(15~20) 5層:にぶい黄褐色砂質シルト(5~25) 6層:にぶい黄褐色砂質シルト(10~20) 7層:褐色砂質シルト(0~10) 8層:岩盤	○		×	瓦(1層)		
			30034.000	25386.000										
			30030.000	25386.000										
			30030.000	25390.000										
なし	フテ46- D6-ア	○	30010.000	25450.000	65.135	北・東	2.5	1層:造成土(70~90) 2層:褐色粘質シルト(15~30) 3層:褐色砂質シルト(0~30) 4層:にぶい黄褐色砂質シルト(15~30) 5層:褐色砂質シルト(15~35) 6層:褐色粘質シルト(0~35) 7層:褐色砂質シルト(0~25) 8層:褐色砂質シルト(5~50) 9層:マーヅ・褐色砂質シルト(0~30) 10層:琉球石灰岩岩盤	○		×	×		
			30010.000	25446.000										
			30006.000	25446.000										
			30006.000	25450.000										
なし	フテ46- D7-ア	○	30010.000	25420.000	65.178	北・東	2.8	1層:造成土(90~105) 2層:褐色砂質シルト(0~30) 3層:オリブ褐色砂質シルト(0~30) 4層:褐色砂質シルト(0~40) 5層:褐色粘質シルト(0~35) 6層:岩盤・コーラル状(10~180)	○		×	沖繩産無釉陶器(3層)		
			30010.000	25416.000										
			30006.000	25416.000										
			30006.000	25420.000										
なし	フテ46- D7-ナ	○	29984.000	25420.000	65.859	東・南	2.3	1層:造成土(10~70) 2層:褐色砂質シルト(5~15) 3層:褐色砂質シルト(3~15) 4層:黄褐色粘質シルト(3~40) 5層:岩盤・コーラル状(15~185)	○		×	×		
			29984.000	25416.000										
			29980.000	25416.000										
			29980.000	25420.000										
なし (近世・近 代の生産 遺跡)	フテ46- D8-ア	○	30010.000	25390.000	65.475	北・東	2.4	1層:造成土(100~115) 2層:褐色砂質シルト(5~25) 3層:にぶい黄褐色砂質シルト(5~20) 4層:褐色砂質シルト(15~30) 5層:褐色粘質シルト(0~30) 6層:褐色粘質シルト(10) 7層:岩盤・コーラル状?(0~60)	○		×	瓦(4or5層)	耕作土(2~4層)、5層東 壁に焼け跡とそれに伴う 金属片を確認	
			30010.000	25386.000										
			30006.000	25386.000										
			30006.000	25390.000										

遺跡名	グリッド名	規模 (m)		座標 (m)		基準 杭蓋 (Z)	方位	深度 (m)	層及び層厚 (c m)	掘出基盤		遺構	遺物	備考	
		4	2	X	Y					石灰 岩	泥岩				
なし	フデ46-D9-ア	○		30010.000	25360.000	65.843	北・東	3.0	1層: 造成土(150~230) 2層: 褐色砂質シルト(20~40) 3層: 褐色砂質シルト(15~30) 4層: にぶい黄褐色砂質シルト(10~40) 5層: オリーブ褐色砂質シルト(20~45) 6層: 褐色砂質シルト(25~40) 7層: オリーブ褐色砂質シルト(10~25) 8層: 暗オリーブ褐色砂質シルト(20~25) 9層: オリーブ褐色砂質シルト(15) 10層: オリーブ褐色砂質シルト(15) 11層: マージ(60)	未検出	○	×	層なし: 沖縄産施軸陶器	×	
				30010.000	25356.000										
				30006.000	25356.000										
				30006.000	25360.000										
なし	フデ46-E8-ア	○		29980.000	25390.000	66.043	北・東	2.8	1層: 造成土(10~185) 2層: 岩盤・コーラル状(115~135)	○	○	×	1層: 沖縄産無軸陶器、グスク土器	×	
				29980.000	25386.000										
				29976.000	25386.000										
				29976.000	25390.000										
なし (近世・近代の生産遺跡)	フデ46-E8-オ	○		29980.000	25364.000	66.143	北・西	2.9	1層: 造成土(15~275) 2層: 黄褐色泥砂質シルト(0~35) 3層: 褐色砂質シルト(0~55) 4層: 褐色砂質シルト(0~25) 5層: 岩盤・コーラル状(50~130)	○	○	溝状遺構 (4層)	3層: 沖縄産施軸陶器	×	
				29980.000	25360.000										
				29976.000	25360.000										
				29976.000	25364.000										
なし (縄文の遺跡?)	フデ46-E8-タ	○		29962.000	25390.000	66.043	北・東	2.6	1層: 造成土(10~205) 2層: 褐色砂質シルト(0~10) 3層: 暗褐色砂質シルト(10~20) 4層: 暗褐色砂質シルト(0~20) 5層: 褐色砂質シルト(0~25) 6層: 黄褐色粘質シルト(5~25) 7層: 岩盤(10~80)	○	○	×	1層: 沖縄産施軸陶器、瓦 3層: 土器	耕作土(2層)	
				29962.000	25386.000										
				25358.000	25386.000										
				25358.000	25390.000										
なし	フデ46-E9-オ	○		29980.000	25334.000	65.991	北・西	2.8	1層: 造成土(40~150) 2層: 褐色砂質シルト(0~80) 3層: にぶい黄褐色粘質シルト(5~130) 4層: 風化岩盤(10~60)	○	○	×	×	×	×
				29980.000	25330.000										
				29976.000	25330.000										
				29976.000	25334.000										
なし	フデ46-F9-ア	○		29950.000	25360.000	66.743	北・東	1.5	1層: 造成土(20~100) 2層: 褐色粘質シルト(0~25) 3層: 岩盤・コーラル状(55~100)	○	○	×	×	×	×
				29950.000	25356.000										
				29946.000	25356.000										
				29946.000	25360.000										
なし	フデ46-F10-ア	○		29950.000	25330.000	66.625	北・東	3.1	1層: 造成土(15~110) 2層: 褐色砂質シルト(5~15) 3層: 褐色砂質シルト(5~55) 4層: 明褐色粘質シルト(5~65) 5層: 褐色砂質シルト(0~60) 6層: にぶい黄褐色粘土(25~160) 7層: 琉球石灰岩岩盤(0~40)	○	○	×	×	×	×
				29950.000	25326.000										
				29946.000	25326.000										
				29946.000	25330.000										
なし	フデ46-F10-ソ	○		29938.000	25304.000	66.586	北・西	3.0	1層: 造成土(5~190) 2層: オリーブ褐色砂質シルト(0~45) 3層: オリーブ褐色砂質シルト(0~30) 4層: オリーブ褐色砂質シルト(0~10) 5層: 暗オリーブ褐色砂質シルト(0~25) 6層: 暗オリーブ褐色砂質シルト(5~15) 7層: 黒褐色砂質シルト(0~20) 8層: 暗褐色砂質シルト(0~10) 9層: 暗褐色砂質シルト(40~65) 10層: 黒褐色粘質シルト(65~160)	未検出	○	×	×	×	×
				29938.000	25300.000										
				29934.000	25300.000										
				29934.000	25304.000										
なし	フデ46-G10-ア	○		29920.000	25330.000	66.720	北・東	1.9	1層: 造成土(10~140) 2層: 褐色粘質シルト(0~90) 3層: 岩盤(0~40)	○	○	×	×	×	×
				29920.000	25326.000										
				29916.000	25326.000										
				29916.000	25330.000										
なし (近世・近代の生産遺跡)	フデ47-G1-ア	○		29920.000	25300.000	66.785	北・東	2.6	1層: 造成土(20~100) 2層: 耕作土・褐色砂質シルト(30~60) 3層: 耕作土・暗褐色砂質シルト(0~20) 4層: 褐色砂質シルト(0~20) 5層: 褐色粘質シルト(50~140) 6層: 風化岩盤・琉球石灰岩(15~115)	○	○	耕具痕 (5層)	2層: 沖縄産無軸陶器	×	
				29920.000	25296.000										
				29916.000	25296.000										
				29916.000	25300.000										
なし (近世・近代の生産遺跡)	フデ47-G1-ナ	○		29896.000	25300.000	66.798	北・東	2.7	1層: 造成土(50~60) 2層: 黄褐色砂質シルト(20~40) 3層: 褐色砂質シルト(15~35) 4層: 暗褐色砂質シルト(0~25) 5層: 明褐色砂質シルト(15~100) 6層: にぶい黄褐色粘質シルト(0~185) 7層: 岩盤(0~60)	○	○	×	2層: 沖縄産無軸陶器 3層: 中国産青磁・染付	耕作土(2~4層)	
				29896.000	25296.000										
				29892.000	25296.000										
				29892.000	25300.000										
なし	フデ47-G2-ア	○		29920.000	25270.000	66.680	北・東	3.0	1層: 造成土(20~70) 2層: 旧耕作土・褐色砂質シルト(10~30) 3層: 明褐色砂質シルト(0~40) 4層: 明褐色砂質シルト(25~70) 5層: 褐色砂質シルト(25~170) 6層: 明黄褐色へにぶい黄褐色へにぶい黄褐色・粘質シルト(0~100) 7層: 岩盤	○	○	×	×	×	×
				29920.000	25266.000										
				29916.000	25266.000										
				29916.000	25270.000										
なし (グスク時代?の生産遺跡)	フデ47-G3-オ	○		29894.000	25240.000	67.154	東・南	1.2	1層: 造成土(15~90) 2層: 耕作土・褐色砂質シルト(15~30) 3層: 耕作土・黄褐色砂質シルト(5~30) 4層: 暗褐色砂質シルト(0~20) 5層: 褐色砂質シルト(0~10)	未検出	○	溝状遺構(4層・近世?)、 住穴・植栽痕 (5層・グスク?)	2層: 円盤状製品 3層: 沖縄産無軸陶器、本土産染付	耕作土(2・3層)	
				29894.000	25236.000										
				29890.000	25236.000										
				29890.000	25240.000										
なし (近世・近代の生産遺跡)	フデ47-H1-オ	○		29890.000	25274.000	66.645	北・西	3.0	1層: 造成土・覆土(20~155) 2層: 褐色砂質シルト(0~35) 3層: 褐色粘質シルト(0~45) 4層: 明褐色砂質シルト(0~105) 5層: 明褐色粘質シルト(25~130) 6層: 明褐色砂質シルト(0~120) 7層: 暗褐色粘質シルト(35~105)	未検出	○	×	2層: 沖縄産施軸陶器・無軸陶器、 陶質土器、瓦質土器	耕作土(2層)	
				29890.000	25270.000										
				29886.000	25270.000										
				29886.000	25274.000										
なし (近世・近代の生産遺跡)	フデ47-H2-サ	○		29878.000	25270.000	66.806	北・東・南	1.3	1層: 造成土(30~50) 2層: 黄褐色砂質シルト(20~95) 3層: 褐色砂質シルト(0~55) 4層: 黄褐色粘質シルト(土坑部分のみ)	未検出	○	溝状遺構 (3層)、 土坑・石列 (4層)	2層: 鉄滓	耕作土(2層)	
				29878.000	25266.000										
				29874.000	25266.000										
				29874.000	25270.000										

遺跡名	グリット名	規格 (m)		座標 (m)		基準 杭高 (Z)	方位	深度 (m)	層及び層厚 (cm)	掘出基盤		遺構	遺物	備考
		4	2	X	Y					石灰 岩	泥岩			
なし (近世・近 代の生産遺 跡)	ブテ47-12-コ	○	29854.000	25244.000	66.875	北・ 西・南	2.8	1層：造成土・擾乱(20～225) 2層：黄褐色砂質シルト(0～30) 3層：褐色砂質シルト(0～40) 4層：暗褐色砂質シルト(0～40) 5層：明褐色砂質シルト(0～150) 6層：明褐色粘質シルト(0～135)	未検出	×	1層：沖縄産施釉陶器・無釉陶器、土器 5層上面：沖縄産無釉陶器	耕作土(2層)		
			29854.000	25240.000										
			29850.000	25240.000										
			29850.000	25244.000										
なし (近世・近 代の生産遺 跡)	ブテ47-13-ツ	○	29842.000	25228.000	67.293	北・東	2.0	1層：造成土・擾乱(35～175) 2層：オリーブ褐色砂質シルト(0～25) 3層：オリーブ褐色砂質シルト(0～30) 4層：褐色砂質シルト(0～75) 5層：褐色粘質シルト(35～85) 6層：琉球石灰岩岩盤	未検出	植栽痕 (4層)	×	耕作土(3層・ 近世?)		
			29842.000	25224.000										
			29838.000	25224.000										
			29838.000	25228.000										
なし	ブテ47-J4-ア	○	29830.000	25210.000	67.518	北・東	2.0	1層：造成土(10～170) 2層：旧耕作土・褐色砂質シルト(0～50) 3層：旧耕作土・褐色砂質シルト(0～30) 4層：オーブ・明褐色砂質シルト(0～35) 5層：明黄褐色～黄褐色～褐色・粘質シルト (20～105) 6層：岩盤・コーラル状(0～15)	○	×	1層：本土産染付(近代) 2層：沖縄産無釉陶器、瓦	×		
			29830.000	25206.000										
			29826.000	25206.000										
			29826.000	25210.000										
なし (近世・近 代の生産遺 跡)	ブテ47-J4-ス	○	29818.000	25196.000	67.470	北・西	0.9	1層：造成土(50～110) 2層：褐色砂質シルト(0～25) 3層：褐色砂質シルト(0～35) 4層：明褐色砂質シルト(0～10)	未検出	ピット・ 耕具痕 (4層)	×	×		
			29818.000	25191.750										
			29814.000	25191.750										
			29814.000	25196.000										
なし (縄文の遺 跡?)	ブテ47-J4-ト	○	29812.000	25184.000	67.396	北・ 西・南	2.5	1層：造成土(20～210) 2層：旧耕作土か・オリーブ褐色砂質シルト (0～40) 3層：暗褐色砂質シルト(0～20) 4層：暗褐色砂質シルト(10～20) 5層：暗褐色砂質シルト(0～20) 6層：黒褐色砂質シルト(0～15) 7層：遺構面・暗褐色砂質シルト(0～5) 8層：暗褐色砂質シルト(0～45) 9層：褐色砂質シルト(50～125) 10層：褐色粘質シルト(10～60)	未検出	植栽痕 (7層)	8層：土器	×		
			29812.000	25180.000										
			29808.000	25180.000										
			29808.000	25184.000										

第7章 放射性炭素年代測定と黒曜石の産地同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

喜友名前原第二遺跡は沖縄県宜野湾市喜友名の米国海兵隊普天間飛行場内に位置する。これまでの調査により、現代の表土層、戦後の造成土層、近世・近代の耕作土層、グスク時代の層、縄文時代の層が確認されている。近世・近代では石積遺構と掘方、工具痕が検出されている。また縄文時代からはピットのほか、多数の土器、本分析の対象でもある黒曜石製を含む石器や石器石材が出土している。

本報告では喜友名前原第二遺跡内の試掘坑より出土した炭化材の年代測定と黒曜石の産地同定を行う。

1. 試料

試料は試掘坑フテ 24-C6- サ 6 層より検出された炭化物の放射性炭素年代測定と試掘坑フテ 24-C6- サ 6 層から出土した黒曜石 2 点、試掘坑フテ 24-D6- ア 5 層から出土した黒曜石製石器 1 点の原産地の同定を行う。黒曜石は 35 と 48 という番号が付されていたが、試料番号 35 とされたサンプル袋に 2 点の黒曜石が収められていたことから、ここでは便宜上試料番号 35-1、35-2 として区別した。黒曜石の外観については図版 1-1 を参照されたい。また、各試料の出土地点名、層位などは一覧にして表 36 に示す。

表 36 試料一覧

試料番号	調査年度	出土地点名	層位名	備考	分析番号
15839-1	—	フテ24-C6-サ	6層	—	—
15839-2	—	フテ24-C6-サ	6層	—	—
35-1	2006年度	フテ24-C6-サ	6層	—	120578
35-2	2006年度	フテ24-C6-サ	6層	—	120579
48	2006年度	フテ24-D6-ア	5層	打製石鏃基部	120580

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HC 1 により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC 1 によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0.1(Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5,730±40年）を較正することである。

暦年較正は、CALIB REV7.0のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

(2) 黒曜石の産地同定

a) 試料の測定

本分析では、エネルギー分散型蛍光X線分析装置（セイコーインスツルメンツ社製SEA2110Lシリーズ卓上型蛍光X線分析計）を用いて元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの

12元素である。試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それらを産地の特定のための指標とした。ここでは、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zr、Al/K、Si/Kの値を求め、産地を区別する指標として用いる。

なお、黒曜石製遺物の蛍光X線分析においては、試料の表面の風化程度、試料の厚さおよび試料の形状によって分析値に影響が及ぶ。表面が曇っているほどの風化程度の場合は、カリウムの分析値が大きくなるため、Ca/K、Ti/Kの両軽元素比を除いて産地判定をする。試料の厚さが1.5mm以下の場合は、重い元素は小さく測定されるため、分析値に実験で求めた厚さ補正値を乗じて産地判定をする。厚さ0.3mm以下の試料については補正困難なため、産地判定はできない。試料の形状については、厚さの薄い部分を含んでいたり、極端な曲面しかないものなどを測定した場合に、分析値は変動し、産地判定結果は一定しない。そのような場合には、分析場所を変えて多数の分析値により産地判定をし、最も多く判定された産地を選択する。

b) 産地判定

・黒曜石原石の分析

黒曜石の原産地は、北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布している。調査を終えている原産地の一部を図1に示す。これら原石について、上述した測定を行い、上記の元素比を求め、分類した。ここでは分類の単位を「群」とよび、例えばその地名を付して「和田峠第1群」などとする。現時点では、日本および近隣国（ロシア、北朝鮮、台湾など）の原石群と、原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると、合計331個の原石群・遺物群を得ている。産地判定は、試料の元素比とこれら331群の元素比とを比較し、必要条件と十分条件を求めて行う。

・産地の判定

上述した各元素比を変数とし、それらの相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2乗検定を、試料と331個の原石群・遺物群との間で行い、各群に帰属する確率を求めて産地を判定する（東村, 1976; 1990）。ただし、低い確率（0.1%未満）で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略する。なお、本分析では、低い確率の原産地も確認しているということが重要である。すなわち、低い確率とされた原産地の原石が使用された可能性を考える必要がないという結果でもあるからである。

次に、ホテリングのT2乗検定の定量的な同定結果から、石材の成分組成以外の各産地特有の原石の特徴を考慮して遺物の原石産地を判定する。石材の成分組成以外の特徴としては、肉眼観察においてキラキラ光る鉱物が多いか少ないか、また光る鉱物は輝石か雲母か、さらに表面の光沢の状況や角礫あるいは円礫の特徴が認められるなどがあげられる。

なお、本分析は、遺物材料研究所の協力を得て行ったものである。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表37に、暦年較正結果を表38に示す。試料は2点とも6層から検出されたもので、測定年代（補正年代）はそれぞれ、 $1,110 \pm 20\text{BP}$ と $1,130 \pm 20\text{BP}$ の値を示す。測定

誤差を σ として計算させた暦年較正年代の結果は、calAD 897-972、calAD 891-965で、9世紀末から10世紀後半の近接した年代を示す。その年代は沖縄貝塚時代後期後半に比定される。これは調査による層の年代観とは概ね合致する。

表 37 放射性炭素年代測定結果

試料番号	出土層位	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
15839-1	6層	炭化物	1,110±20	-26.58±0.46	1,140±20	IAAA-132320
15839-2	6層	炭化物	1,130±20	-24.39±0.53	1,120±20	IAAA-132321

- 1)年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
- 2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3)付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表 38 暦年較正結果

試料番号	出土層位	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)				相対比	Code No.
			σ	cal AD	cal AD	cal BP		
15839-1	6層	1,110±20	σ	cal AD 897 - cal AD 926	cal BP 1,053 - 1,024	0.491	IAAA-132320	
				cal AD 943 - cal AD 972	cal BP 1,007 - 978	0.509		
			2 σ	cal AD 890 - cal AD 986	cal BP 1,060 - 964	1.000		
15839-2	6層	1,130±20	σ	cal AD 891 - cal AD 903	cal BP 1,059 - 1,047	0.216	IAAA-132321	
				cal AD 918 - cal AD 965	cal BP 1,032 - 985	0.784		
			2 σ	cal AD 780 - cal AD 787	cal BP 1,170 - 1,163	0.009		
				cal AD 875 - cal AD 985	cal BP 1,075 - 965	0.991		

- 1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0.1 (Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer)を使用
- 2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4)統計的に真の値が入る確率は σ は68%、2 σ は95%である。
- 5)相対比は、 σ 、2 σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

(2) 黒曜石の産地同定

各試料の元素比分析結果を表 39 に示し、ホテリングの T2 乗検定結果による原産地とその帰属確率および検定結果に成分組成以外の特徴などを加えて判定した産地を表 40 に示す。3 点の試料は、ともに腰岳群、古里第 1 群、松浦第 1 群（試料番号 35-1 は松浦第 2 群も）の複数の群に同定された。これらの産地は、いずれも九州北西部の腰岳系産地という範疇に入ることから、産地判定では腰岳とした。なお、露頭がある腰岳産地では、原石は角礫状の自然面を持つが、他の九州北西部腰岳系産地では、原石は転石であることから、多くは円礫である。このことにより、遺物に自然の礫面が認められる場合、角礫か円礫かの状態により、腰岳の露頭原石か、他の場所の転石原石かを同定することができる。しかし、今回分析した遺物では、自然面が認められなかったことから、この判定ができなかった。したがって、現時点では、今回の遺物の原石産地については複数の地点を考慮する必要がある。

表 39 黒曜石試料の元素比分析結果

試料番号	分析番号	元 素 比									
		Ca/ K	Ti/ K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/ K	Si/ K
35-1	120578	0.207	0.032	0.075	2.561	1.639	0.420	0.298	0.203	0.029	0.340
35-2	120579	0.211	0.032	0.083	2.709	1.626	0.423	0.304	0.208	0.024	0.330
48	120580	0.216	0.040	0.076	2.621	1.633	0.412	0.313	0.254	0.024	0.331
JG-1		0.780	0.208	0.072	4.113	0.969	1.260	0.310	0.047	0.031	0.317

JG-1: 標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192

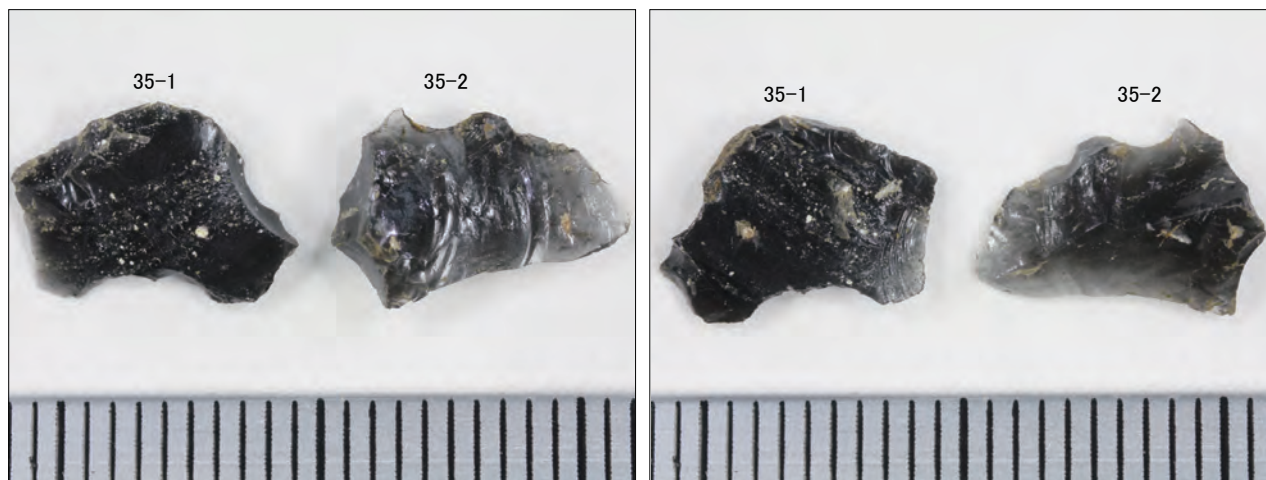
引用文献

- 東村武信, 1976, 産地推定における統計的手法. 考古学と自然科学, 9, 77-90.
 東村武信, 1990, 考古学と物理化学. 学生社, 212p.

表 40 黒曜石試料の産地分析結果

試料番号	出土地点	層位	分析番号	ホテリングのT ² 検定結果	判定
35-1	フテ24-C6-サ	6層	120578	古里第1群(98%),松浦第1群(45%), 腰岳(12%),松浦第2群(0.9%)	腰岳
35-2	フテ24-C6-サ	6層	120579	腰岳(51%),古里第1群(45%), 松浦第1群(19%)	腰岳
48	フテ24-D6-ア	5層	120580	腰岳(92%),松浦第1群(62%), 古里第1群(31%)	腰岳

図版 190 黒曜石試料



1.試料番号35-1・2 2006年 フテ24-C6-サ 6層 (1)

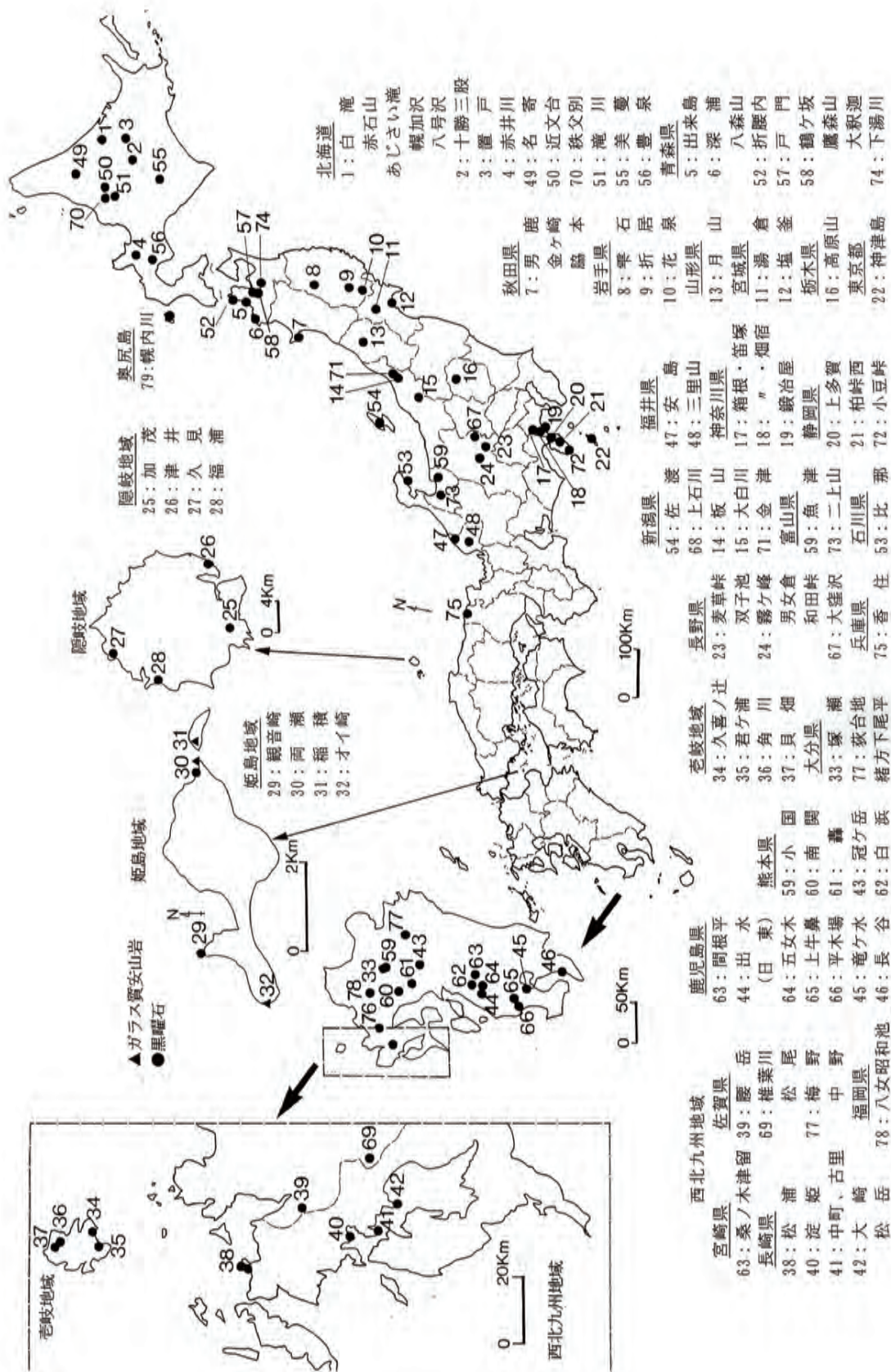
2.試料番号35-1・2 2006年 フテ24-C6-サ 6層 (2)
5mm



3.試料番号48 2006年 フテ24-D6-ア 5層 (1)



4.試料番号48 2006年 フテ24-D6-ア 5層 (2)
5mm



第73図 黒曜石の原産地

第8章 総括

ここまでは平成17から20年度までの試掘調査について、遺構や先史時代の遺物が出土した箇所を中心に述べてきた。本章ではこれらの成果についてまとめるとともに、現時点における評価を提示する。

第1節 時期と層位

今次調査の成果による各時期の堆積層は以下のようにまとめられる。なおこれまでの普天間飛行場内の試掘・確認調査の結果を反映した統一層序については、細部検討を経た上で次巻以降に改めて掲載する見込みであるため、本誌では暫定的に「～期層」と呼称する。

第Ⅰ期層 戦後から現代：現在の表土及び米軍造成土層が該当する。表土は黒色の腐植土、米軍造成土層は地点ごとで様々である。

第Ⅱ期層 近代から戦前～戦後直後：一部の遺構面を除くと、この時期に比定される層は概ね褐色から灰褐色で炭化物、焼土粒が多量に含まれる砂質シルトである。この土質から耕作土であると判断される。

第Ⅲ期層 近世期：褐色から灰褐色の砂質シルトで、炭化物、焼土粒が多量に含まれるなど、土質は第Ⅱ期層とほとんど同質であるため、第Ⅱ期層との区別はそれぞれの時期の旧表土のレベル差に委ねられる。

第Ⅳ期層 グスク時代：暗褐色でしまりの強い特徴をもつシルト層である。今次調査ではフテ46・47でこの土質の地層が確認されているが、それを除くと、上記のように第Ⅱ・Ⅲ期層中よりこの時期の遺物は稀に出土することから、後世の攪乱を受けて消滅し、ピットなどの遺構覆土のみで確認される場合も多い。

第Ⅴ期層 縄文時代後晩期：この時期の遺物が包含する層には2種が確認される。1つは暗褐色から黒褐色の粘質シルトで、この層は特に土壌化したマンガンやクラックによるとみられる筋が縦方向に縞状に入る特徴がある。またほぼ同質であるが、赤土層に近づくと無包含層となるようであるほか、この層が検出された試掘坑は岩盤が確認されないため、谷状の地形に堆積するようである。第2には黄褐色からオリーブ褐色で土壌化したマンガン粒を多量に含む粘質シルト層で、今次調査ではフテ36の大山加良当原第四遺跡で特徴的に検出された。この層は部分的に砂質シルトや粘土層も確認される。同質の事例には上原濡原遺跡の同時期層が挙げられ、これも谷状の旧地形に堆積するようである。

第Ⅵ期層 赤土層：いわゆるマージ層で、概ね上から明黄褐色の粘質シルト→明褐色砂質シルト→黄褐色砂質シルト→砂質粘土質シルト→暗褐色粘土質シルトの順で堆積するようである。比較的台地上では、赤土層上面に第Ⅱ期から第Ⅴ期の遺構が掘り込まれている場合がある。

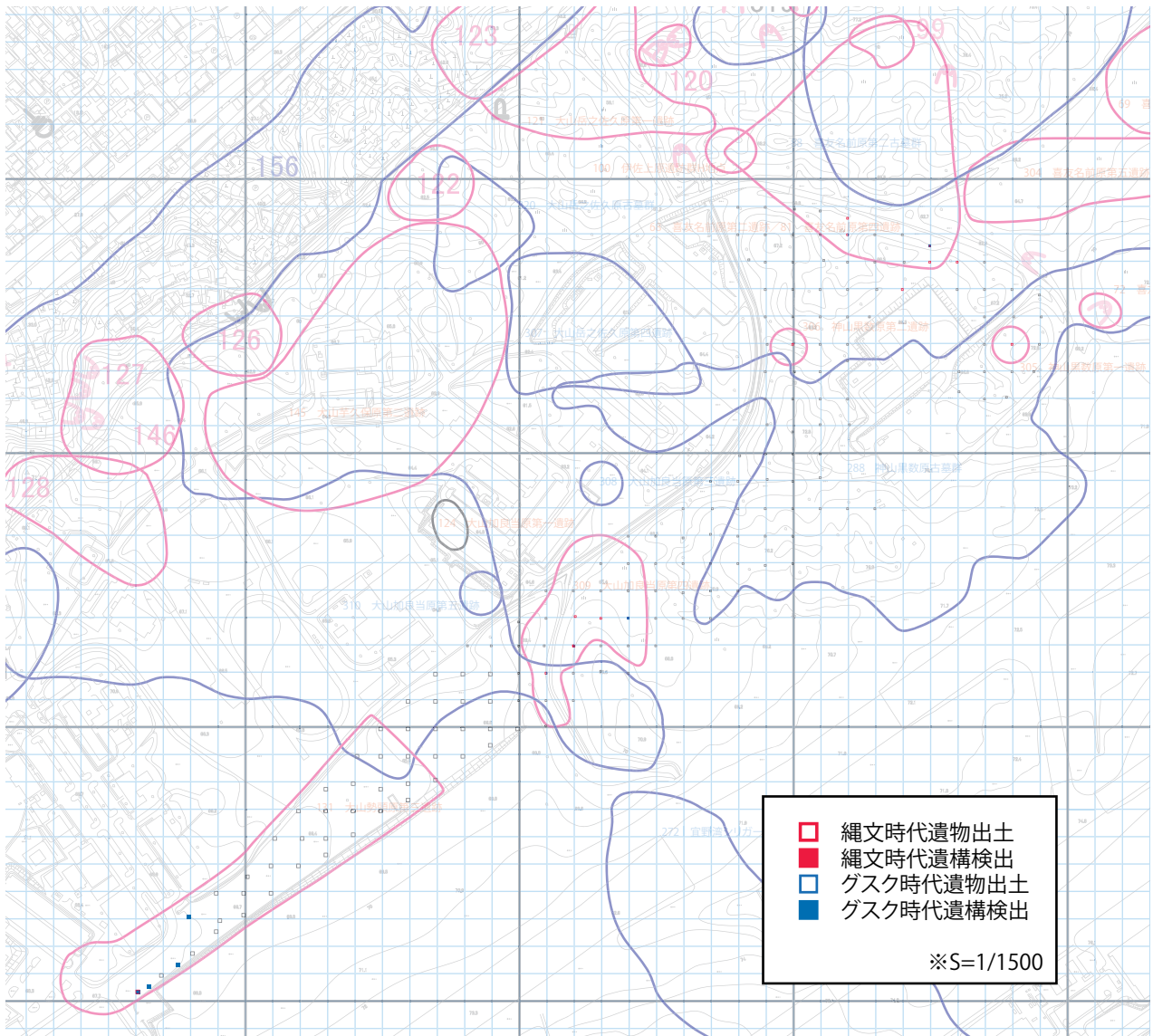
第2節 各時代における遺構・遺物

近世・近代 この時期の遺構が最も多く検出された。古墓はフテ24-G4-ア、フテ36-B1-アの2地点で、これらは埋没していたが、分布調査では地表に今なお残されている古墓も多数確認されているため、低地にあった墓は造成によって埋められたとみられる。また道跡とみられる礫敷はフテ24-H3-ニで検出されている。溝状遺構もフテ25-C2-ア、フテ36-I10-ア、フテ36-J9-ア、フテ46-E8-オ、フテ46-G3-ナ、フテ46-C7-ア、フテ47-H2-サで検出されている。そのうちフテ36-J9-アとフテ47-H2-サは片側側面付近に土止めとみられる石積みを伴う。またフテ25-C2-アは溝底面及び側面に石が敷き詰められるほか、フテ46-C7-アは溝を石で埋めて暗渠状になっている。集石遺構はフテ36-F4-アでも検出されるが、試掘坑の角際であったため性格は不明。琉球石灰岩を素材として、加工により面をもった石で構築された石積遺構は、フテ24-B10-ア、フテ24-D6-オ、フテ24-F2-オ、フテ37-H2-アで検出されている。耕具痕が検出された箇所も、フテ24-C6-サ、フテ24-D6-ア、フテ25-C2-ネ、フテ46-G1-アと多い。土坑はフテ24-D5-ア、フテ25-I1-ノ、フテ47-H2-サで検出され、フテ24-D5-アは遺物で土坑が埋まる廃棄土坑である。遺物は沖縄産陶器がほとんどを占めるが、一部中国産染付や本土産染付・白磁の小碗・杯が出土することもある。また円盤状製品は稀に確認

されるが、煙管や簀などは確認されなかった。神山黒数原古墓群の遺跡範囲内では、家形厨子の破片なども出土しており、うち1点には銘書も残されている。米軍撮影の昭和20年航空写真では本次調査箇所は古墓群と耕作地帯であることが確認されるが、本時調査でもこれを追証する結果となっている。

グスク時代 遺構はフテ 36-G7-ア、フテ 47-G3-ナで検出された性格不明のピット群のみである。また年代不明のピット群であるフテ 36-F7-オは、覆土が上記2地点と同様の黒褐色であることから、この時代に該当する可能性がある。遺物はグスク土器や中国産青磁などで、フテ 24-C6-サ、同 C9-ア、フテ 36-H9-ア、同 I10-アで出土しているが、各地点で1点程度と極めて少ないことが挙げられる。また明確な当該期の文化層や遺物包含層は少なく、近世・近代の耕作土層中からの出土であった。このように掘立柱建物の柱穴の可能性もあるピット群は検出されたが、遺構内遺物はなく、調査面積が少ないため遺構配置も判然とせず、その評価については確認調査の成果に委ねたい。

縄文時代 この時期に比定される遺構は、フテ 24-C6-サ、フテ 36-H9-アで検出されたピットのみである。そのうち、前者からは黒曜石片が出土しているが、遺構の性格については不明である。遺物は、フテ 24-B9-サ、同 C6-サ、同 C9-ア、同 D5-ア、同 D6-ア、同 E7-ア、同 G3-ア、フテ 25-G1-サ、フテ 36-F8-ノ、同 G8-ア、同 H9-ア、同 I10-アの全12箇所出土している。その過半は縄文時代晩期ごろと目される無文でやや泥質な胎土のものである。その中で、フテ 24-C6-サ出土の土器は口縁部が舌状の仲原式であったが、この資料は内面に種子圧痕の可能性のある痕跡を残す点で注目される。また、石器は敲石類の破片やチャート製のUFなどがほとんどであるが、フテ 24-C6-サと同 D6-アでは腰岳産の同定結果が得られた黒曜石が出土している。



第 74 図 縄文・グスク時代の遺構・遺物を検出した試掘坑

県内の黒曜石は、そのほとんどが腰岳産で、かつ縄文時代後期末から晩期にかけて出土する傾向がある（小畑ほか 2004）。従って今回の黒曜石の産地及び年代観は、概ね県内のこれまでの状況通りであり、出土土器の年代観とも概ね符合する。一方でこの時期の主要な石器器種である磨製石斧が 1 点も出土していない点は注目される。以上のような遺構の状況や土器の年代、石器組成を踏まえると、今次調査は拠点的な生活空間ではなかったと考えるのが妥当だろう。

第 3 節 小結

今次調査における調査地点である普天間飛行場の中心付近では、第 V 期層の堆積によって旧地形が谷状と推定される地点では、縄文時代後晩期頃のピットや遺物包含層が確認された一方で、竪穴住居址などの集落跡と目される痕跡はみられなかった。竪穴住居址が検出されたフテ 15・16・48・58 は、前面に海を臨む台地状という立地にあり、旧地形に即した場の利用が窺える。一方でグスク時代の痕跡は乏しかったが、ピット群が検出された場所は旧地形が比較的高い場所であった。掘立柱建物の柱穴の可能性もあり、今後確認調査による検証が求められる。

近世・近代の遺構は様々な地形で確認されるが、検出された土質や溝状遺構、鋤痕などは概ね昭和 20 年米軍航空写真の通り、畑地利用を示している。ただし神山黒数原古墓群の範囲においては古墓や道跡とみられる遺構などが確認され、ほかの地点と異なる様相を示している。

いずれにせよ、現評価は試掘による極めて断片的な成果によるものであり、今後の確認調査をはじめ、積極的な調査・研究を行うことで往時の様相を検討するとともに、その成果を埋蔵文化財の保護・活用に資することが求められよう。

参考文献

- 伊藤慎二 2008 「琉球縄文土器（前期）」『総覧 縄文土器』814—821 頁 アムプロモーション
沖縄県教育委員会 1998 『基地内文化財 I』
沖縄県教育委員会・宜野湾市教育委員会 2010 『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』
沖縄県立埋蔵文化財センター 2002 『基地内埋蔵文化財 II』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 11 集
2004 『基地内埋蔵文化財 III』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 24 集
2006 『基地内埋蔵文化財 IV』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 38 集
2011 『基地内埋蔵文化財 5』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 61 集
(財) 沖縄県文化振興会 2003 『沖縄県史 各論編 2 考古』
2006 『沖縄県史図 説編 県土のすがた』
小畑弘己・角張進・盛本勲 2004 琉球列島出土の黒曜石製石器の科学分析による産地推定とその意義 『Stone Sources』
No. 4 101-136 頁 石器原産地研究会
加藤祐三 1985 『奄美・沖縄岩石鉱物図鑑』新星図書出版
宜野湾市教育委員会 1984 『洞穴』宜野湾市文化財調査報告書第 6 集
1989 『土に埋もれた宜野湾』宜野湾市文化財調査報告書第 10 集
2005 『基地内埋蔵文化財 I』宜野湾市文化財調査報告書第 36 集
2006 『基地内埋蔵文化財 II』宜野湾市文化財調査報告書第 38 集
2007 『基地内埋蔵文化財 III』宜野湾市文化財調査報告書第 39 集
2008 『基地内埋蔵文化財 IV』宜野湾市文化財調査報告書第 41 集
2009 『基地内埋蔵文化財 V』宜野湾市文化財調査報告書第 44 集
2009 『宜野湾市の文化財情報図』宜野湾市文化財保護資料 68 集
2010 『市内埋蔵文化財発掘調査報告書』宜野湾市文化財調査報告書第 46 集
2011 『市内埋蔵文化財発掘調査報告書 2』宜野湾市文化財調査報告書第 47 集
新里貴之 2008 「琉球縄文土器（後期）」『総覧 縄文土器』822—829 頁 アムプロモーション
竹岡俊樹 2003 『石器の見方』勉誠出版
文化庁文化財部記念物課（編）2010 『発掘調査のてびき一整理・報告書編一』
M. -L. Inizan, H. Roche, J. Tixier（大沼克彦、西秋良宏、鈴木美穂訳）1998 『石器研究入門』クバプロ

報 告 書 抄 録

ふりがな	きちないぶんかざい							
書名	基地内文化財 6							
副書名	平成18・19・20年度 普天間飛行場内試掘調査							
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第71集							
編著者名	大堀皓平、宮城淳一、パリオサーベイ株式会社							
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原193-7 TEL 098-835-8752 FAX 098-835-8754							
発行年月日	2014年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
きちないまいづらぶんかざい 基地内埋蔵文化財 （平成18年度）	おきなわけんぎのわんし 沖縄県宜野湾市 あざきゆな かみやま 字喜友名・神山	47205		26°	127°	20061002	304 ㎡	試掘確認調査
				16′	45′	～		
				43.8″	30.5″	20070330		
きちないまいづらぶんかざい 基地内埋蔵文化財 （平成19年度）	おきなわけんぎのわんし 沖縄県宜野湾市 あざかみやま おおやま 字神山・大山	47205		26°	127°	20070801	224 ㎡	試掘確認調査
				16′	45′	～		
				36″	23.7″	20071228		
きちないまいづらぶんかざい 基地内埋蔵文化財 （平成20年度）	おきなわけんぎのわんし 沖縄県宜野湾市 あざおおやま 字大山	47205		26°	127°	20080801	784 ㎡	試掘確認調査
				16′	45′	～		
				26.7″	6.7″	20080909		
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
喜友名前原 第二遺跡	散布地	縄文時代 後晩期	ピット	縄文時代後晩期土器、黒曜石製石器、石材		ピット覆土より黒曜 石製石器が出土。 また土器口縁部に 種子圧痕の可能 性のある資料を確 認。		
	耕作地	グスク時代～ 近世・近代	石積遺構、廃棄土坑	沖縄産陶器				
神山黒数原 第一遺跡	散布地	縄文時代 後晩期		縄文後晩期土器、石器片				
神山黒数原 第二遺跡	散布地	縄文時代 後晩期	ピット	縄文時代後晩期土器				
	耕作地	近世・近代		沖縄産陶器				
神山黒数原 古墓群	墓	近世・近代	墓、石積遺構、礫敷遺構	家型厨子、沖縄産陶器、中国産染付、本土 産染付・白磁、獣骨、貝		近世墓が造成土 中に埋没。		
大山加良当原 第四遺跡	散布地	縄文時代 後晩期	ピット	縄文時代後晩期土器				
	生産遺跡	グスク時代～ 近世・近代	ピット、溝状遺構	グスク土器、沖縄産陶器				
大山東方丘陵 古墓群	墓	近世・近代	石積遺構、石列を伴う溝 状遺構	中国産染付、沖縄産陶器				
大山勢頭原 第三遺跡	集落跡	グスク時代	柱穴、ピット					
	生産遺跡	グスク時代 ～近世・近代	石積遺構、溝状遺構、石 敷遺構	沖縄産陶器				
要 約	<p>在沖米軍基地である普天間飛行場内の喜友名地区(フテ24・25)、神山地区(フテ24・36)、大山地区(フテ36・37・47・48)の試掘調査を実施した。調査は、人力もしくは重機を用いた。</p> <p>調査の結果、喜友名前原第二遺跡、大山東方丘陵古墓群の遺跡範囲が拡大、また神山黒数原第一遺跡、同第二遺跡、神山黒数原古墓群、大山加良当原第四遺跡、大山勢頭原第三遺跡を発見した。</p> <p>また、遺跡分布及び土層堆積の特徴として、縄文時代後晩期の包含層は旧地形が谷状に落ち込む箇所において検出される傾向がみられる。またグスク時代は遺構や遺物を検出するため往時は集落跡が所在していた可能性があるものの、その多くは後世の攪乱を受けていること、そして神山地区に古墓群が残されていること、近世・近代の生産関連遺構や旧耕作土層は今次調査区一帯で確認されることが把握された。</p>							

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第 71 集

基地内文化財 6

平成 18・19・20 年度 普天間飛行場内試掘調査

発行年月日 2014 年 3 月 31 日

編 集 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原 193-7

TEL 098-835-8751・8752

印 刷 (合) 精印堂印刷
